

**2025年度
日本語学校ブリッジ
プログラム科目
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

【発行日：2025/5/1】最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈カ〉：サティフィケートプログラム_カーボンニュートラル

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】 憲法Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring.....	1
【A0002】 憲法Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall.....	2
【A0003】 憲法Ⅰ [高橋 正明] 春学期授業/Spring.....	3
【A0004】 憲法Ⅱ [高橋 正明] 秋学期授業/Fall.....	4
【A0031】 民法法総論 [大澤 彩] 秋学期授業/Fall.....	5
【A0032】 契約法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring.....	7
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	9
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall.....	10
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall.....	11
【A0079】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸] 秋学期授業/Fall.....	12
【A0089】 概説刑事法 [今井 猛嘉] 春学期授業/Spring.....	13
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall.....	14
【A0140】 法学入門 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring.....	15
【A0141】 法学入門 [中田 裕子] 春学期授業/Spring.....	16
【A0197】 概説刑事法 [今井 猛嘉] 春学期授業/Spring.....	17
【A0445】 国際政治学入門 [大野 知之] 春学期授業/Spring.....	18
【A0446】 国際政治の理論と現実 [川名 晋史] 秋学期授業/Fall.....	19
【A0512】 政治学入門Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring.....	20
【A0513】 政治学入門Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall.....	21
【A0644】 外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall.....	22
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ [木村 正俊] 春学期授業/Spring.....	23
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall.....	24
【A0724】 中国の政治と社会Ⅱ [熊倉 潤] 秋学期授業/Fall.....	25
【A0757】 東南アジアの政治と社会Ⅰ [松野 明久] 春学期授業/Spring.....	26
【A0758】 東南アジアの政治と社会Ⅱ [田中 李歩] 秋学期授業/Fall.....	28
【A0771】 朝鮮半島の政治と社会Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring.....	29
【A0772】 朝鮮半島の政治と社会Ⅱ [権 鎬淵] 秋学期授業/Fall.....	30
【A0773】 台湾の政治と社会Ⅰ [塚本 元] 春学期授業/Spring.....	31
【A0774】 台湾の政治と社会Ⅱ [塚本 元] 秋学期授業/Fall.....	32
【A0848】 ロシアの政治と外交Ⅰ [西山 美久] 春学期授業/Spring.....	34
【A0849】 ロシアの政治と外交Ⅱ [西山 美久] 秋学期授業/Fall.....	35
【A0904】 北アメリカの政治と社会Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring.....	36
【A0905】 北アメリカの政治と社会Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall.....	37
【A0985】 法学入門 [中田 裕子] 春学期授業/Spring.....	38
【A0986】 法学入門 [大野 達司] 春学期授業/Spring.....	39
【A2665】 日本文芸研究特講 (3) 中世A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring.....	40
【A2666】 日本文芸研究特講 (3) 中世B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall.....	41
【A2669】 日本文芸研究特講 (4) 近世A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring.....	42
【A2703】 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring.....	43
【A2704】 日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall.....	44
【A2907】 英米文学講義ⅠA [波戸岡 景太] 春学期授業/Spring.....	45
【A2908】 英米文学講義ⅠB [波戸岡 景太] 秋学期授業/Fall.....	46
【A3401】 地理学概論 (1) [前空 英明] 春学期授業/Spring.....	47
【A3402】 地理学概論 (2) [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall.....	48

専門入門科目 100 番台 【A4001】 組織論入門 [戎谷 梓] 春学期授業/Spring	49
専門入門科目 100 番台 【A4002】 組織論入門 [中西 善信] 秋学期授業/Fall	50
専門入門科目 100 番台 【A4003】 組織論入門 [橋本 論] 春学期授業/Spring	51
専門入門科目 100 番台 【A4004】 組織論入門 [橋本 論] 秋学期授業/Fall	52
専門入門科目 100 番台 【A4005】 戦略論入門 [安藤 直紀] 春学期授業/Spring	53
専門入門科目 100 番台 【A4006】 戦略論入門 [吉田 健二] 春学期授業/Spring	54
専門入門科目 100 番台 【A4007】 戦略論入門 [福島 英史] 秋学期授業/Fall	55
専門入門科目 100 番台 【A4008】 戦略論入門 [吉田 健二] 秋学期授業/Fall	56
専門入門科目 100 番台 【A4024】 簿記入門Ⅰ [藤井 誠] 春学期授業/Spring	57
専門入門科目 100 番台 【A4025】 簿記入門Ⅱ [藤井 誠] 秋学期授業/Fall	58
専門入門科目 100 番台 【A4026】 簿記入門Ⅰ [福田 淳児] 春学期授業/Spring	59
専門入門科目 100 番台 【A4027】 簿記入門Ⅱ [福田 淳児] 秋学期授業/Fall	60
専門入門科目 100 番台 【A4028】 簿記入門Ⅰ [神谷 健司] 春学期授業/Spring	61
専門入門科目 100 番台 【A4029】 簿記入門Ⅱ [神谷 健司] 秋学期授業/Fall	62
専門入門科目 100 番台 【A4030】 簿記入門Ⅰ [近藤 大輔] 春学期授業/Spring	63
専門入門科目 100 番台 【A4031】 簿記入門Ⅱ [近藤 大輔] 秋学期授業/Fall	64
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	65
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 【B1010】 開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史] 秋学期授業/Fall	67
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	68
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1018】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	69
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野 【B1019】 環境とエネルギー [下田 昭郎] 春学期授業/Spring	70
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	71
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	73
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1066】 日本文化論 [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	75
建築学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	77
都市環境デザイン工学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	78
システムデザイン学科_基盤科目_留学生科目 【B1067】 日本の工業技術 [田村 広子] 春学期授業/Spring	79
システムデザイン学科_専門科目_導入科目 【B2342】 システムデザイン入門 [土屋 雅人、大西 景太、岩月 正見、山田 泰之、坂本 和子、安積 伸、田中 豊、西岡 靖之、姜 理恵、SEONG YOUNG AH、都丸 孝之、坂間 清子] 春学期前半/Spring(1st half)	80
【C0210】 統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	82
【C0211】 システム論 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	83
【C0212】 デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	84
【C0213】 文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	85
【C0214】 情報産業論 [今和泉 仁] 春学期授業/Spring	87
【C0215】 ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	89
【C0220】 表象文化概論 [稲垣 立男、島田 雅彦、森村 修、LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	91
【C0221】 メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	93
【C0222】 社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	95
【C0224】 身体表象論 [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	98
【C0230】 比較文化 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	99
【C0231】 言語文化概論 [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	100
【C0232】 現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	101
【C0233】 ジェンダー論 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	102
【C0234】 異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	104
【C0235】 国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	106
【C0236】 国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	108
【C0241】 国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	110
【C0242】 国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	111
【C0243】 平和学 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	112
【C0244】 宗教と社会 [佐々木 一恵] 春学期授業/Spring	113
【C0942】 フランス語圏の文化Ⅰ (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	115
【C1001】 異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	118
【C1046】 地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	119
【C2008】 国際関係論 [岡松 暁子] 春学期授業/Spring	121

【C2104】 現代企業論 [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	122
【C2106】 経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	124
【C2110】 環境経済論Ⅰ [杉野 誠] 春学期授業/Spring	125
【C2111】 環境経済論Ⅱ [杉野 誠] 秋学期授業/Fall	126
【C2112】 環境経営論Ⅰ [金藤 正直] 春学期授業/Spring	127
【C2113】 環境経営論Ⅱ [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	129
【C2116】 CSR論Ⅰ [長谷川 直哉] 春学期授業/Spring	131
【C2117】 CSR論Ⅱ [長谷川 直哉] 秋学期授業/Fall	133
【C2200】 現代社会論Ⅰ [三原 さやか] 春学期授業/Spring	135
【C2201】 現代社会論Ⅱ [島袋 海理] 春学期授業/Spring	136
【C2210】 地域形成論 [小島 聡] 秋学期授業/Fall	138
【C2217】 環境社会論Ⅰ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	140
【C2218】 環境社会論Ⅱ [藤田 研二郎] 秋学期授業/Fall	142
【C2219】 環境社会論Ⅲ [藤田 研二郎] 春学期授業/Spring	144
【C2220】 労働環境論Ⅰ [櫻井 洋介] 春学期授業/Spring	146
【C2221】 労働環境論Ⅱ [櫻井 洋介] 秋学期授業/Fall	148
【C2312】 日本環境史論Ⅰ [芳賀 和樹] 春学期授業/Spring	150
【C2313】 日本環境史論Ⅱ [芳賀 和樹] 秋学期授業/Fall	152
【C2316】 環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	154
【C2317】 環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	155
【C2322】 環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	156
【C2323】 環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	158
【C2401】 サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	160
【C2403】 自然環境論Ⅰ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	161
【C2404】 自然環境論Ⅱ [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	162
【C2405】 自然環境論Ⅲ [杉戸 信彦] 春学期授業/Spring	163
【C2406】 エネルギー論Ⅰ [北川 徹哉] 春学期授業/Spring	164
【C2409】 環境健康論Ⅰ [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	165
【C2410】 環境健康論Ⅱ [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	167
【C2411】 気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	169
【C2416】 環境科学Ⅰ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	170
【C2417】 環境科学Ⅱ [藤倉 良] 秋学期授業/Fall	171
【C2418】 環境科学Ⅲ [藤倉 良] 春学期授業/Spring	172
【C2419】 衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	173
【C2420】 衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	174
【C2421】 衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	175
【C2422】 エネルギー論Ⅱ [北川 徹哉] 秋学期授業/Fall	176
【C2429】 サイエンスカフェⅣ [渡邊 誠] 春学期授業/Spring	177
基幹科目_選択必修(領域別)_発達・教育【C5018】 発達・教育キャリア入門A [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall	179
【C5025】 キャリアと経済学 [小前 和智] 秋学期授業/Fall	181
【C5029】 キャリアとコミュニティ論 [森屋 雅幸] 春学期授業/Spring	183
基幹科目_選択【C5030】 ファシリテーション論 [徳田 太郎] 秋学期授業/Fall	184
【C5031】 若者と自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	186
基幹科目_選択【C5036】 キャリアモデル・ケーススタディ [なかむら アサミ] 春学期授業/Spring	187
【C5084】 コミュニティ心理学 [安田 節之] 春学期授業/Spring	188
展開科目_選択必修(体験型)【C7134】 多文化教育Ⅰ [村田 晶子] 春学期授業/Spring	189
展開科目_選択必修(体験型)【C7135】 多文化教育Ⅱ [村田 晶子] 秋学期授業/Fall	191
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2327】 経済学ⅠA [小峯 敦] 春学期授業/Spring	193
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2328】 経済学ⅠB [小峯 敦] 秋学期授業/Fall	195
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2372】 政治学ⅠB [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	196

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法 I**金子 匡良**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法の土台を成す立憲主義とそれが成立した歴史的経緯を概観した上で、国民主権などの日本国憲法の基本原理、および人権の分類や主体などの人権に関わる総論的な事項について学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①立憲主義の内容およびその歴史的背景について理解する。
- ②日本国憲法の基本原理、特に国民主権の規範内容について理解する。
- ③人権の分類と個々の権利の特質について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントを教材にして、対面の講義形式で行う。質問に対する回答やアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	立憲主義の意義	法体系における憲法の意義と機能、および立憲主義の意義について学ぶ。
第3回	憲法の内容と特質	憲法を構成する規範内容と憲法の特質および憲法の類型について学ぶ。
第4回	憲法の歴史①：近代憲法の成立	近代国家と近代憲法の成立過程について学ぶ。
第5回	憲法の歴史②：現代憲法の成立	近代国家から現代国家への変容と、それに伴う現代憲法の成立について学ぶ。
第6回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法の対比、および日本国憲法成立の法理について学ぶ。
第7回	天皇制	象徴天皇制の意義および天皇の国事行為について学ぶ。
第8回	国民主権	国民主権の意義とその規範的意味について学ぶ。
第9回	平和主義	平和主義の内容と戦力不保持規定の意義について学ぶ。
第10回	人権の類型	人権の類型と個々の人権の特質、および新しい人権について学ぶ。
第11回	人権の享有主体	人権の享有主体、特に外国人の人権享有主体性について学ぶ。
第12回	人権の限界	人権の限界、特に公共の福祉の規範的意味について学ぶ。
第13回	人権の私人間効力	人権の私人間効力に関する学説と判例について学ぶ。

第14回 人権の国際的保障 国際人権条約の意義と人権条約の国内適用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法 I・II 〔第2版〕』（日評ベーシックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法 I・II』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選 I・II』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度向上のために、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, we first learn about the contents of constitutionalism, which is the foundation of the constitutional law, and the historical background of the establishment of constitutionalism. Next, we learn about the history and the fundamental principles of the Constitution of Japan. Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting. Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB (法学 / law 100)

憲法Ⅱ**金子 匡良**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）
 その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日本国憲法に規定された個々の人権について、保障内容と特質を明らかにした上で、その権利に関する学説・判例を学んでいく。この授業は法律学科のすべてのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①日本国憲法が保障する人権の体系について理解する。
- ②個々の人権の保障内容について理解する。
- ③個々の人権に関する論点と、その論点に関する学説・判例を理解する。
- ④現代社会の様々な人権問題について、憲法学的な視点から分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は学習支援システム（WebClass）を通じて配布するプリントに沿って、対面形式の講義で行う。質問に対する回答やリアクションペーパーに対するコメントなどは、適宜授業中に行うことによってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方や学び方について説明する。
第2回	人権の類型	日本国憲法が保障する人権の体系と類型について学ぶ。
第3回	法の下での平等（平等権）	法の下での平等の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第4回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第5回	信教の自由	信教の自由の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第6回	政教分離原則	政教分離原則の内容、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第7回	表現の自由①：表現の自由の内容	表現の自由およびそこから派生する権利の内容について学ぶ。
第8回	表現の自由②：表現の自由の限界	表現の自由の限界について、それに関する学説・判例を中心に学ぶ。
第9回	経済的自由権	経済的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第10回	身体的自由権	身体的自由権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

第11回	社会権①：生存権	生存権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第12回	社会権②：教育を受ける権利・労働基本権	教育を受ける権利と労働基本権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第13回	参政権	参政権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。
第14回	国務請求権	国務請求権の内容と特質、およびそれをめぐる論点に関する学説・判例について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業前にプリントをよく読み、疑問点や課題を明らかにしておくこと。また、必要に応じて、下記の参考書の該当ページに目を通しておくこと。授業終了後に、復習として、授業内容を振り返り、授業前に抱いた疑問や課題が解消されたか確認すること。必要に応じて参考書の該当ページに目を通すこと。なお、本授業の準備・復習に要する時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定しない。授業はWebClassを通じて配布するプリントに沿って行う。

【参考書】

入門レベルのテキストとして、中村睦男ほか編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）、標準レベルのテキストとして、新井誠ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ〔第2版〕』（日評ベリックシリーズ）（日本評論社、2021年）、発展レベルのテキストとして、毛利透ほか著『憲法Ⅰ・Ⅱ』（LEGAL QUEST）（有斐閣、2022年・2023年）を推薦する。また、判例集としては、入門レベルのものとして、小泉良幸ほか編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）、標準レベルのものとして、長谷部恭男ほか編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、2019年）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に行う定期試験の点数によって成績を評価する（100％）。なお、学期中に中間テストを行う場合は、その点数を適宜加味する。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を高めるため、なるべく平易な解説を心がけるようにしたい。

【その他の重要事項】**【実務経験のある教員による授業】**

授業担当者は、国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。授業では、その経験を活かし、憲法と現実政治との関係についても論及する。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the content and characteristics of the individual human rights guaranteed by the Constitution of Japan, and then study theories and judicial precedents concerning these rights.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by WebClass. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法 I

高橋 正明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法総論及び人権総論について学び、これらの分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
- ②憲法が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 憲法を学ぶ上での前提知識	授業の全体像、授業の進め方、参考書について説明する。 憲法と法律の違い、法解釈の方法について学ぶ。
第2回	憲法の意味 判例の意味 統治機構・権力分立	学習上、最初に理解しておくべき憲法の基本概念・用語（憲法の意味、判例の意味、統治機構の概要）について学ぶ。
第3回	日本憲法史	明治憲法と日本国憲法それぞれの制定・運用過程について検討し、その違い・特徴を学ぶ。
第4回	平和主義	憲法9条の解釈、自衛隊を巡る問題などについて学ぶ。
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意味や、象徴天皇制に関する諸論点について学ぶ。
第6回	違憲審査制 人権の分類・歴史	憲法判例を分析する上で前提となる違憲審査制の概要について学ぶ。 人権の分類とそれぞれの特徴、人権の歴史的展開について学ぶ。
第7回	人権の限界 人権の主体（1）	公共の福祉、違憲審査の基準について学ぶ。 天皇・皇族、法人の人権について学ぶ。
第8回	人権の主体（2）	こども、外国人の人権（総論・在留制度）について学ぶ。
第9回	人権の主体（3）	外国人の参政権、外国人に認められるその他の人権について学ぶ。

第10回	人権の私人間適用	私人間効力の基本的考え方、判例や具体的な適用方法について学ぶ。
第11回	幸福追求権（1）	幸福追求権の基本的な考え方、自己決定権（医療行為関係）について学ぶ。
第12回	幸福追求権（2）	自己決定権（生殖、ライフスタイル、家族形成）について学ぶ。
第13回	幸福追求権（3）	プライバシー権（個人情報保護）について学ぶ。
第14回	平等－総論	平等問題についての基本的な考え方や判例の判断枠組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）。

【参考書】**【基本書】**

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

【判例集】

〈入門的なもの〉

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

〈標準的なもの〉

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
- ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn the general theories of constitutional law and human rights, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific constitutional issues logically, to know the role of constitution in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

憲法Ⅱ**高橋 正明**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、憲法に規定された個別の人権規定について学び、人権各論分野の基本的知識を習得するとともに、憲法問題に関する洞察力を深め、憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。この授業は全てのコースに配置されている。

【到達目標】

- ①人権各論分野に関する基本的知識を習得した上で、具体的な憲法上の課題を論理的に解決する力を養う。
 ②憲法、とりわけ個別の人権規定が日々の生活において果たす機能・役割を知るとともに、市民の間で価値観や利害の対立が生じる背景について洞察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

基本的事項に関する講義を行った後、講義内容を復習するための演習問題を解き、解説を行うという流れで進行する。授業はレジュメに沿って進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 前期授業の振り返り 平等（2）－家族形成	秋学期授業の進め方について説明する。 憲法訴訟の基本枠組みと、人権論の基本的考え方について確認をする。 平等の各論的問題として家族形成に関する判例について学ぶ。
第2回	思想・良心の自由	思想・良心の自由に関する基本的な考え方と、判例の展開（君が代伴奏・起立斉唱）について学ぶ。
第3回	信教の自由と政教分離（1）	信教の自由に関する判例について学ぶ。
第4回	信教の自由と政教分離（2）	政教分離に関する判例について学ぶ。
第5回	表現の自由（1）	表現の自由の特徴（優越的地位、二重の基準）について説明した上で、判例を素材に内容規制・内容中立規制について学ぶ。
第6回	表現の自由（2）	表現の自由とプライバシー・名誉毀損との調整問題について判例を素材に学ぶ。
第7回	表現の自由（3） 学問の自由	集会の自由に関する判例について学ぶ。 学問の自由の意味や現代的課題について学ぶ。
第8回	経済的自由権（1）	職業選択の自由の意義や関連する判例について学ぶ。
第9回	経済的自由権（2）	財産権に関する基本的考え方、判例の展開について学ぶ。

第10回	生存権	生存権の法的性格や、判例理論について学ぶ。
第11回	教育を受ける権利 労働基本権	教育を受ける権利の法的性格について学ぶ。 労働基本権の法的性格、関連する判例について学ぶ。
第12回	公務員の労働基本権 及び政治活動の自由	公務員の労働基本権、政治活動の自由に対してどのような制約があるかを確認し、関連する判例の展開について学ぶ。
第13回	人身の自由	憲法31条の適正法定手続の内容と、関連する判例について学ぶ。
第14回	参政権 国務請求権	参政権の性質及び関連する判例について学ぶ。 国務請求権の性格・種類について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、授業に関連する参考書や事前に配布されるレジュメを読む。

授業後は、レジュメやノートを基に授業の内容を振り返りつつ、レジュメの文章題の回答を作成すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

六法（特に出版社の指定はない）

【参考書】**【基本書】**

〈入門的なもの〉

中村 睦男・佐々木 雅寿・寺島 壽一 編『はじめての憲法学』第4版（三省堂、2021年）

〈標準的なもの〉

新井誠・曾我部真裕・佐々木くみ・横大道聡『憲法1 総論・統治』『憲法2 人権』（日評ベーシックシリーズ）第2版（日本評論社、2021年）

〈発展的なもの〉

毛利透・小泉良幸・浅野博宣・松本哲治『憲法I 総論・統治』『憲法II 人権』（LEGAL QUESTシリーズ）第3版（有斐閣、2022年）

【判例集】

〈入門的なもの〉

小泉良幸・松本哲治・横大道聡編『憲法判例コレクション』（有斐閣、2021年）

〈標準的なもの〉

長谷部恭男・石川健治・穴戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

- ①私語などの迷惑行為については厳しく対処するので、注意すること。
 ②レジュメは、学習支援システムにアップするので、各自で印刷し、持参するか、パソコンで見られる状態にすること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this course, students will learn about constitutional rights guaranteed by individual constitutional provisions, gaining insight into constitutional issues, developing ability to solve them logically.

< Learning Objectives >

The objective of this course is to cultivate ability to solve the specific human rights issues logically, to know the role of constitutional rights in our daily life, and to cultivate insight into backgrounds of those issues.

< Learning activities outside of classroom >

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated based on term-end examination (100%).

LAW100AB（法学 / law 100）

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。

以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。

また、民法は私たちの生活にとって身近かつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日はWebexまたはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexまたはZOOMでの解説は同時録音・録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。WebexまたはZOOMでもチャットで質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	民法とは何か・民法上の基本概念（物とは何か）	民法とは何か、民法の「物」概念および関連規定についての講義
第2回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第3回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析

第4回	権利の主体・発展問題①民法における外観法理	民法94条2項と110条をめぐる判例の解説
第5回	権利の主体・発展問題②法人	法人とは何か、法人の設立についての講義
第6回	権利の主体・発展問題③法人	法人の対外関係についての講義
第7回	無効と取消しについて	無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義
第8回	時効①	時効とは何か、時効の援用についての講義
第9回	時効②	時効の完成猶予、更新についての講義
第10回	時効③	消滅時効についての講義
第11回	時効④	時効の起算点をめぐる判例の分析
第12回	現代における民法の役割①消費者問題と民法	消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明
第13回	現代における民法の役割②高齢者問題と民法	高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義
第14回	条件・期限その他、民事法総論のまとめ	条件・期限など補足。2年生以降の民法科目について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日にWebexまたはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。本授業の予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。
潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I（第9版）』（有斐閣、2023年）以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。
六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1 総則（第2版）』（有斐閣、2019年）。
滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第5版）』（弘文堂、2023年）
その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。このテストによる評価を20～30%とする。
また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を70～80%とする。
つまり、小テストと定期試験の合計（100%）で評価する。
以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの疲労軽減のための工夫や、小テストを行う時間が授業終了後、次の時限にかからないようにするなどの工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。
大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。
少なくとも「契約法Ⅰ」を受講した上でこの科目を受講すること。
学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(20%) and term-end examination(80%).

LAW100AB（法学 / law 100）

契約法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。

大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。

また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。具体的には、①授業日2日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日はWebexあるいはZOOMで解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。WebexあるいはZOOMでの解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。WebexあるいはZOOMでもチャットで質問を受け付ける。また、隔週になると思われるが、対面での質問受付の機会を設けるので、進路相談や学習相談に活用して欲しい。事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	契約とは何か（ガイダンスも兼ねて）	民法とは何か、契約法とは何か
第2回	契約の成立	民法における契約の成立に関する規定
第3回	契約の解釈・契約の内容	契約の解釈、公序良俗規定
第4回	契約の有効要件①意思表示総論、意思の不存在	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示①
第5回	契約の有効要件②意思の不存在	虚偽表示②、錯誤
第6回	契約の有効要件③意思表示の瑕疵	詐欺、強迫

第7回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告
第8回	契約の主体②自然人	意思能力、行為能力①行為能力とは何か、未成年者
第9回	契約の主体③自然人	行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護
第10回	代理①	代理とは何か、代理の種類、代理人の義務
第11回	代理②	代理権の濫用、代理行為、無権代理①
第12回	代理③	無権代理②、無権代理と相続
第13回	代理④	表見代理①民法109条、110条
第14回	代理⑤	表見代理②民法112条、109条と110条の重畳適用、110条と112条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業2日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例百選の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしていることを前提に授業日にWebexあるいはZOOMでの解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例百選の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に民法判例百選に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。

本授業の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎1 総則（第5版）』（有斐閣、2020年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選I（第9版）』（有斐閣、2023年）以上2点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法1 総則（第2版）』（有斐閣、2019年）

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第5版）』（弘文堂、2023年）

その他、詳しくは開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。このテストによる評価を20～30%とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）を行う。この学期末試験による評価を70～80%とする。

つまり、小テストと定期試験の合計（100%）で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインでの疲労軽減のための工夫や、小テストが授業終了後、次の時限にかからないようにするなどの工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答はWebexまたはZOOMで行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before /after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process

Mini-examination (20 – 30%) and term-end examination(70 – 80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年A-G・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB (法学 / law 200)

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律2年H・N・法律1,3,4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もある）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第2回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第3回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第4回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第5回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第6回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第7回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第8回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714条）
第9回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第10回	基本型不法行為の効果論②	損害事実の金銭評価処理
第11回	基本型不法行為の効果論③	減額調整——過失相殺と損益相殺
第12回	基本型不法行為の効果論④	損害賠償請求権者の範囲・間接損害
第13回	複合型不法行為	使用者責任（715条）と共同不法行為（719条）
第14回	その他の法定債権	事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第4版、2021年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第5版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第4版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第2版）、大村敦志『新基本民法6 不法行為編』（第2版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第9版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について学習支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW100AB（法学 / law 100）

刑法総論 I**佐藤 輝幸**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくにより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくといい。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023、有斐閣）及び六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである。それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW200AB（法学 / law 200）

刑法総論 I**佐藤 輝幸**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N・法律2～4年（他学科他学部はクラス指定なし）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論Ⅰと刑法総論Ⅱが設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論Ⅰでは、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論Ⅱで学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。

開高時限の異なるクラスが別途設定されているので、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・刑法総論とは	授業の進め方、教材等の説明。 刑法総論の意義
第2回	刑法の基本原則	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第3回	構成要件	構成要件の意義と機能・因果関係
第4回	違法性Ⅰ	刑法における違法の意義
第5回	違法性Ⅱ	緊急避難
第6回	違法性Ⅲ	正当防衛
第7回	違法性Ⅳ	その他の違法性阻却事由
第8回	責任Ⅰ	刑法における責任の意義・故意前半
第9回	責任Ⅱ	故意後半
第10回	責任Ⅲ	過失、責任能力
第11回	責任Ⅳ	その他責任要素
第12回	不作為犯論	不作為犯の意義と作為義務
第13回	未遂犯論	実行の着手、不能犯、中止犯
第14回	共犯	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3時間程度でも復習しておくにより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に3時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくが良い。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20時間程度かけて全体の復習をしておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

山口厚ほか『判例刑法総論〔第8版〕』（2023，有斐閣）及び六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

授業内での抜き打ちの小テスト20%、期末試験80%の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、過年度のレポートや試験の質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものである。それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。
分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the in-class test (20%) and term-end exam (80%).

LAW100AB (法学 / law 100)

概説刑事法**今井 猛嘉**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-G（他学科はクラスの指定なし/他学部は学年・クラスの指定なし）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とかく理屈っぽく、とっつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽいものの面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第1の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐる最新の問題についても、比較法的な視点から紹介し、検討の仕方を共有することを目指す。講義内容はオンデマンドで配信する（学習支援システムを利用する）。授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、犯罪白書の読み方
第2回	犯罪とその原因	犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第3回	民事責任との違い、 刑罰理論	刑法の機能と目的 応報刑論と目的刑論
第4回	刑罰の種類、刑法学	刑罰と保安処分 わが国の死刑制度 刑法の解釈 第1回レポート提出
第5回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、 名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第6回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第7回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力
第8回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第2回レポートの提出

第9回	未遂犯と共犯、刑の 量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第10回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第11回	刑事訴訟法（公判・ 上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審
第12回	各種犯罪の特徴と対 策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第3回レポートの提出
第13回	犯罪者の処遇、少年 法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続
第14回	比較法	日本の刑法学の歴史的背景 英米法型の刑法理論 大陸法型の刑法理論 条約による犯罪の新設 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備と復習に要する時間は、各2時間を想定している。授業前の予習として教科書の担当部分を読むこと。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。分からない部分は読み飛ばしても構わない。

授業の理解度は、レポートにて確認する。

質問は、Hoppiiの機能を利用して行う。

【テキスト（教科書）】

令和6年版犯罪白書

https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00134.html

最新の六法（出版社は問わない）。

【参考書】

参考図書

ベッカーリーア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）

ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫2006年）

【成績評価の方法と基準】

レポート提出（全体の30%）と期末試験（全体の70%）で評価する。

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドで教材を配布する形式を取る。同様の方法で、これまでも多くの講義を担当したが、学生の皆さんからの質問等は、学習支援システムを通じて提出可能である。

【学生が準備すべき機器他】

連絡事項は、学習支援システムを利用してする。

【その他の重要事項】

刑事立法の動向、国際的な刑事政策の動向についても、随時、触れる予定である

【Outline (in English)】

In this course, you can learn the basic knowledge for the criminal law, the criminal procedure law and the criminology. Through the study of the course, you are supposed to acquire the necessary information and the way of thinking for the further study of the above mentioned subjects deeper.

The time required for the preparation and review of this class is assumed to be 2 hours each.

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

Attendance will be confirmed on the reaction paper.

LAW100AB (法学 / law 100)

法思想史**大野 達司**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。
 近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうちの、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。授業各回のあとで、内容確認のため、オンラインクイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	際2章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第3章公と知識人	明治期の「市民社会」＝公共圏のありか
第五回	第4章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第5章初期明治憲法理論 第12章天皇機関説事件の法思想	穂積八東・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第6章明治民法学	日本とドイツの法典論争
第八回	第7章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第8章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第9章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第10章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第11章国粹主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第13章総動員体制（新体制）の構築と法思想 第14章戦時体制下の法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第15章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について
 森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016年
 西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017年
 中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019年
 西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020年
 戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020年

日本思想史について、山口種臣／福家崇洋篇『思想史講義』明治1、大正、戦前昭和篇、ちくま新書、2022年（明治2は2023年刊予定とのこと）。

授業では触れられないかもしれないが、
 オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002年

小嶋祐馬『中国思想史』KKベストセラーズ、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)とオンラインクイズ(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

学習支援システムが使えるように。またgoogle classroomも使えるように。

【その他の重要事項】

授業で話しきれない部分は、オンデマンドで提供します。必要に応じて視聴してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.

(Learning Objectives) To understand origins and backgrounds of modern legal thoughts and their historical importance and reality in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant capitals by themselves.

(Grading Criteria/Policy) Grade evaluation is based on answers to quizzes after each lesson (30%) and term-end reports (70%).

BSP100AB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

法学入門

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉この授業は、これから法学を学ぶ学生のための入門科目です。「法学入門演習」と同時に履修することを強く推奨します。この授業は、全てのコースに属しています。

〈目的〉この授業は、次の3つのことを目的とします

- ①歴史的順序に沿って、憲法や民法、刑法など4年間で学ぶ法学の全体像を概観します。専門的・体系的知識の基礎を習得することを目指す。
- ②法体系の多様性を学ぶための初歩的トピックを学びます。文化や社会・経済システムなどの多角的視点から法を考える能力を養う第一歩として、トピックを2つ以上の観点から説明できることを目指します。
- ③条文・判例などの法技術に関する初等的知識を学びます。「法的な問題の妥当な解決」とは何か、具体的な意味を説明できることを目指します。

【到達目標】

- ・法体系の全体像について、歴史的なプロセスにそって基礎的な説明ができる（DP2）。
- ・初等的なトピックについて、多角的な観点から法的問題をいちおう説明できる（DP3）。
- ・法技術的な基礎知識を理解して、法的問題の解決のための道筋をいちおう説明できる（DP1・DP4）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・レジュメ（参考資料・参考文献含む）を配布し、スライドを板書代わりにして説明します。
- ・原則として対面授業で実施します。ただし、必要に応じて、オンライン授業を適宜導入することがあります。
- ・進捗／評価方法は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム（Hoppii）で必要に応じて示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・第13回のみ、アクティブラーニングの可能性がります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・シラバス、授業の受け方について ・法の概念
第2回	前近代（1）	・不法行為法・刑事法の源流 ・前近代国制の全体像
第3回	前近代（2）	・訴訟法の源流 ・当事者主義と糾問主義の変遷
第4回	近代（1）	・法思想史の土壌と国際法の源流 ・自然法思想と社会契約（ロック、ルソー、モンテスキュー）
第5回	近代（2）	・近代立憲主義の登場 ・統治：国民主権と議会制

第6回	近代（3）	・国家による「人」権保障 ・「人」権保障の内在的制約
第7回	近代（4）	・近代憲法と経済秩序 ・近代民法の登場 ・物権法の原則：一物一権主義 ・契約法の原則：契約自由の原則
第8回	現代（1）	・現代法の経済的基礎 ・社会法の登場と契約自由の修正
第9回	現代（2）	・企業関連法（商法・会社法、経済法）の登場 ・政治学と現代国家の役割
第10回	レポートの書き方	・要約とは何か ・レポートの目的と書き方
第11回	日本法（1）	・法の文化と法意識 ・大陸法と英米法 ・法曹養成の仕組み
第12回	日本法（2）	・日本法と西欧法 ・日本における法継受
第13回	日本法（3）	・日本における法源と裁判 ・法「解釈」の手法
第14回	日本法（4）	・法「解釈」論争 ・社会科学と社会政策にかかわる認識の客観性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習は1時間、復習時間は3時間を標準とします。
- ・事前レジュメの確認や数回出題される宿題の事前学習、事後的な小テストの受講、授業中に提示する参考文献の積極的な読書が求められます。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・緒方桂子ほか『日本の法 [第2版]』日本評論社（2020年）
- ・勝田有恒／森征一／山内進編著『概説西洋法制史』ミネルヴァ書房（2004年）
- ・その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・ウェブ小テスト（40点）
- ・期末レポート（60点）

【学生の意見等からの気づき】

- ・授業資料については比較的评价が良かった一方で、情報量を絞ってほしいという声もありましたので、取り上げる内容を絞ります。
- ・毎回の授業の参考資料を明記することについて比較的评价が良かったので、今年も継続します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。
- ・必要に応じ、オンライン授業となる場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

This class is an introductory course for students who will be studying jurisprudence.

Learning Objectives

It provides students with a systematic understanding of the legal system as a whole.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Web quiz: 40%(to be taken at any given time in class)

Final report: 60%(to confirm class content)

BSP100AB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

法学入門

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年A-D

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法学部生として身につけておくべき法学一般についての知識、基礎的な法律用語を学ぶための導入科目です。本講義では、次のステップにつなげるための法律学一般、裁判制度、法の歴史、法文化など幅広い知識を身につけてもらうことを目的としています。

【到達目標】

本講義の到達目標に、以下の4点を掲げます。

- ①基礎的な法律用語を理解した上で、説明できる。
- ②裁判制度に関する基本的な概念を説明できる。
- ③法系について説明できる。
- ④法の歴史について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1) 授業の形態

原則として対面の講義形式で授業を行います。数回オンライン授業を実施する可能性もあります。オンライン授業を実施する場合、日程や実施方法については授業と学習支援システム等で周知する予定です。

2) 授業の進め方

予習すべき範囲については、講義前に指定します。アップロードされた資料を確認の上、必ず予習して授業に出席してください。また、授業においては学生の挙手や発言を求めることがあるので、積極的な参加を期待しています。

受講者は各回の受講後に、講義内で指示された復習ワードを中心に復習し、学習支援システム上で確認テストを受け、提出することが求められます。テストの解説は各回冒頭で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	法とはなにかについて考えます。
第2回	法源：裁判の基準となるもの	制定法、慣習法、判例、学説、条理について学習します。
第3回	条文の読み方	法規の構造と読み方について学習します。
第4回	法の解釈	解釈方法について学習します。
第5回	法の体系と形式	法の分類、各法についての概説を行います。
第6回	法の機能と強制	司法に期待されている機能と法的強制について学習します。
第7回	裁判所と裁判手続	各裁判所、裁判手続について学習します。
第8回	裁判の機能	裁判に期待される機能とその強制力について考えます。
第9回	法の担い手	法曹三者やその他の法律家について学習します。
第10回	判決の読み方	判決の読み方について学習します。
第11回	法と法学の歴史、発展	法の発展の歴史について学習します。

第12回	法と道徳	法と道徳、法と正義という観点から学習します。
第13回	法学教育とリーガルマインド	日本の法教育とリーガルマインドについて考えてみましょう。
第14回	法とは何か（再考）	第1回で学習した「法とは何か」を改めて考え直します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予め提示している箇所について教科書を読んで予習し、復習ワードや確認テストを中心に復習します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業で教科書の紹介をするので、自分に合った入門書を一冊購入することを強く推奨します。なお、本講義全ての内容をカバーしている1冊の教科書があるわけではありませんのでご注意ください。
田中成明『法学入門』（有斐閣、第3版、2023年）
五十嵐清『法学入門』（日本評論社、第4版、新装版、2017年）
南野森『ブリッジブック法学入門』（信山社、第3版、2022年）

【参考書】

森田果『法学を学ぶのはなぜ？ 気づいたら法学部、にならないための法学入門』（有斐閣、2020年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のウェブ小テスト 40%

期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

今年度初回のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回条文を確認するので、六法を必ず持参してください。学習支援システムを利用して小テストなどを実施するため、インターネット環境と、パソコン、タブレットや、スマートフォン等の機器の準備が必要です。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

This course is an introduction to Japanese Law to provide students with knowledge of general jurisprudence and basic legal term that they should acquire as law students. The aim of this course is to provide students with a broad knowledge of general legal issues, the court system, the history of law and legal culture.

(Learning objectives)

The following four points are set out in the achievement objectives of this course.

- (1) To understand and explain basic legal term.
- (2) To explain basic concepts related to the court system.
- (3) To explain the legal system.
- (4) To explain the history of law.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session and to read through the material uploaded beforehand. They are also encouraged to complete quiz on website and submit it. Students will be expected to spend for at least four hours to complete the above tasks.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on following:

Quiz 40%

Term-end examination 60%

LAW100AB (法学 / law 100)

概説刑事法**今井 猛嘉**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年H-N（他学科はクラスの指定なし/他学部は学年・クラスの指定なし）

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

各コースに共通の選択必修科目である。法律学科で学ぶ刑事法の分野としては、刑法（総論・各論）のほか、刑事訴訟法、犯罪学、刑事政策などがある。この授業は、これらの各分野を関連付けながら個々の学問領域のおおよその内容と基本的な考え方を紹介するものであり、この授業を終えた学生が興味を持ったそのうちの科目の本格的な勉強に取り組もうとするときに役立つ刑事法入門であるとともに、刑事実用法学を習得する前提として必要となるリベラル・アーツ科目でもある。

【到達目標】

刑事法をめぐるさまざまな社会事象（犯罪現象）について幅広い視点で自分なりに分析検討できるようになることを到達目標とするが、まずは、あまり普段の生活に縁がなく、とかく理屈っぽく、とっつきにくいと思われがちな刑事法への親しみを感じてもらい、理屈っぽいなどの面白さを発見したり、犯罪というもののイメージを新たに、刑事法という学問分野を身近に感じてもらうことが第1の目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では刑事法の各分野を総合的に紹介するとともに、わが国及び世界の刑事法をめぐるアップ・ツー・デートな問題についても、比較法的な視点を加えつつ幅広くその要点を紹介する。それにより実用法学ないし法解釈学の領域を超えたりベラル・アーツ教育としての色彩が加わることとなるが、このように視野を広げることが法学に本格的に取り組んでいく上で必ず役に立つと思われる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、授業の受け方、教員自己紹介 本論「刑事法とは」
第2回	犯罪とその原因	犯罪原因論、わが国の犯罪現象
第3回	民事責任との違い、 刑罰理論	刑法の機能と目的 応報理論と目的刑論
第4回	刑罰の種類、刑法学	刑罰と保安処分 わが国の死刑制度 刑法の解釈 第1回レポート提出
第5回	刑法各論	個人的法益の罪（殺人、窃盗、 名誉棄損） 社会的法益の罪 国家的法益の罪
第6回	犯罪論、構成要件	実体法、手続法、処遇法 法的要件と法的効果
第7回	犯罪論、違法性と責任	正当業務行為 正当防衛、緊急避難 責任能力

第8回	故意と過失	故意犯と過失犯 錯誤 第2回レポートの提出
第9回	未遂犯と共犯、刑の 量定	正犯と共犯 共同正犯、教唆と幫助 共謀罪 量刑、罪数論
第10回	刑事訴訟法（捜査）	刑事訴訟法の目的 憲法の人権規定と捜査
第11回	刑事訴訟法（公判・ 上訴・再審）	公訴の提起 公判手続 証拠能力と証明力 確定判決と再審
第12回	各種犯罪の特徴と対 策	暴力団犯罪 ホワイトカラー犯罪 高齢者犯罪 ヘイト・スピーチ 第3回レポートの提出
第13回	犯罪者の処遇、少年 法	施設内処遇 社会内処遇 非行少年の処遇手続
第14回	比較法	米国刑法 陪審制と裁判員裁判 死刑存廃論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備と復習に要する時間は、各2時間を想定している。授業前の予習として教科書の担当部分を読むこと。分からない用語は法律学辞典で調べるとよい。分からない部分は読み飛ばしても構わない。

授業の理解度は、レポートにて確認する。

質問は、Hoppii の機能を利用して行う。

【テキスト（教科書）】

令和6年版犯罪白書

https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00134.html

最新の六法（出版社は問わない）。

【参考書】

参考図書

ベッカー・ア著『犯罪と刑罰』（岩波文庫）

ミル著山崎洋一訳『自由論』（光文社文庫 2006年）

【成績評価の方法と基準】

レポート提出（全体の30%）と期末試験（全体の70%）で評価する。

Report submission (30% of total) and final exam

trials (70% of the total).

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドで教材を配布する形式を取る。同様の方法で、これまでも多くの講義を担当したが、学生の皆さんからの質問等は、学習支援システムを通じて提出可能である。

【学生が準備すべき機器他】

連絡事項は、学習支援システムを利用してする。

【その他の重要事項】

刑事立法の動向、国際的な刑事政策の動向についても、随時、触れる予定である。

【Outline (in English)】

In this department of law, you can learn as criminal law in a broad sense Criminal Law, Criminal Procedure, Criminology, Criminal Justice Policy. This is an introducing subject of Japanese criminal law in a broad sense.

The time required for the preparation and review of this class is assumed to be 2 hours each.

Report submission (30% of total) and final exam trials (70% of the total).

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際政治学入門

大野 知之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学とは何か、その概要を解説するのが本講義の目的です。ロシアのウクライナ軍事侵攻や中国の台頭などによって第二次世界大戦後の国際秩序が大きく動揺していると言われます。今こそ国際関係を冷静に見る目が必要な時代はありません。入門論としての本講義では、国際政治を理解する上での基本的諸概念を学びます。

【到達目標】

本講義では、以下を到達目標とします。

1. 国際政治学の基本的概念を理解することによって、国際情勢を客観的に把握できるようにする。
2. 他人の意見の受け売りではなく、自分の知力で国際政治について意見を主張できるようにする。
3. 偏見、思い込み、固定観念を打破し、公平かつ価値中立的な国際政治に対する見方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本として、講義形式で行います。この科目は3つのパートで構成されています。まず前半部は国際政治学の基本的な概念や基礎理論について学びます。その後、中間部では国際政治学の代表的なテーマについて前半部で学んだことを踏まえながら考えます。そして、後半部では、昨今の国際情勢についてこれまでの議論を踏まえながら考えます。また授業では、定期的にリアクションペーパーを提出してもらうほか、授業期間中に1回小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～国際政治学入門の入門	国際政治学（国際関係論）とは何か、学問分野の基本的概念を解説します。
2	国際政治の誕生：「主権国家体制」の成立	国際政治の基本単位である「主権国家」の誕生と近代ヨーロッパを中心とした国際政治史について概観します。
3	20世紀の国際政治	現代の国際政治と深くつながっている20世紀の国際政治について重要な出来事を中心に引き上げ、第4回以降の基礎とします。
4	リアリズム	国際政治学的主要理論のうち、リアリズムと呼ばれる理論について扱います。
5	リベラリズム	リベラリズムと呼ばれる国際政治理論について、経済的相互依存、国際制度、民主主義の3つの柱という観点から考えます。
6	国際政治における価値の役割	国際社会における規範の形成を中心に国際政治における価値の役割を考えます。

7	対外政策決定過程	外交政策はどのように決定されるのか？ 政策決定の理論のうち、アリソンモデルとバットナムの2層ゲームモデルを中心に考えます。
8	安全保障	安全保障について、同盟と抑止の2つの概念を取り上げて議論します。
9	国際政治経済	国際経済の政治的側面について、前半部で扱ったリアリズムとリベラリズムの視点から考えます。
10	国際機構の役割	国際連合を中心に国際機構の機能と役割について考えます。
11	戦後日本外交の展開	現在の日本外交について議論する際に欠かせない、戦後日本外交の歴史的展開について概観します。
12	冷戦後の東アジア国際関係	冷戦後の東アジアの国際政治について、朝鮮半島情勢と中国の台頭の2つを中心に検討します。
13	理論からみた現代の国際紛争	合理的選択論など近年、日本でも取り上げられるようになってきた理論を中心にウクライナや中東での戦争について検討します。
14	学習のまとめ	半期の学習を振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義のレジュメを事前に予習するのに1時間、講義終了後に内容を復習するのに2時間、合計3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

講義の中で毎回必ず使用する教科書は指定しません。

【参考書】

講義全体の参考書として、いくつか揭示します。さらに詳細な文献リストは講義内で紹介します。

○国際政治学の入門書・教科書

・鶴岡路人『はじめての戦争と平和』（ちくまプリマー新書 2024年）
・村田晃嗣、君塚直隆、石川卓、栗栖薫子、秋山信将著『国際政治学をつかむ（第3版）』（有斐閣 2023年）

・佐渡友哲、信夫隆司、柑本英雄著『国際関係論（第3版）』（弘文堂 2018年）

・草野大希、小川裕子、藤田泰昌『国際関係論入門』（ミネルヴァ書房 2023年）

・宮岡勲『入門講義 安全保障論（第2版）』（慶應義塾大学出版会 2023年）

○国際政治史・外交史

国際政治学を履修する際は、高校の世界史や大学の国際政治史、外交史の知識が役立ちます。参考文献としては、下記のものを挙げておきます。

・小川浩之、板橋拓己、青野利彦『国際政治史-主権国家体系のあゆみ（第二版）』（有斐閣 2024年）

・添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』（慶應義塾大学出版会 2023年）
・森聡、福田円編『入門講義 戦後国際政治史』（慶應義塾大学出版会 2022年）

【成績評価の方法と基準】

授業中に1回小テストを行います。（30%）

また最後に学期末試験を行います。（70%）

この両者を合計した100点満点で成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to explain an outline of international politics /international relations. The impact of Russian aggression against Ukraine and the rise of china is very heavily, but we must study the basic concepts of international affairs based upon academic discipline now.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

国際政治の理論と現実

川名 晋史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際政治を捉える基本的な理論枠組であるリアリズム、リベラリズム、コンストラクティビズムについて考察していく。そしてそれらを第二次世界大戦後の具体的な事象の説明に適用し、理論の射程と限界を明らかにすることで、国際政治の構造と多元性を炙り出そうとする。そのねらいは、第一に、複雑な国際政治を理解するための相対的な視点を養うことにあり、第二に、理論と実際の反復作業をつうじて、応用範囲の広い問題解決型の思考を形成することにある。

【到達目標】

本講義を履修することで次の能力を修得する。1) 個別の国際政治現象を、一般的な国際関係理論の枠組みを用いて理解できるようになる。2) 理論と実際の相互作用を意識することで、国際関係に対するバランス感覚を養うとともに、個別の問題解決のための手立てを得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、対面での講義を中心に進める。状況次第では、少人数グループと教員との間のディスカッション・セッションを設ける。詳細は、学習支援システムを通じて告知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	現代の国際政治を理解するために理論を学ぶ意義を理解する。
2	社会科学のなかの国際政治学	国際政治学は「科学」か。その目的を理解する。
3	リアリズム—自然状態とアナキー、クラシカルリアリズム	リアリズムの思想的基盤と初期のリアリズムの特徴を理解する。
4	リアリズム—ネオリアリズム	合理的アクターたる国家が織りなす国際政治力学を理解する。
5	リアリズム—ネオクラシカルリアリズム、リアリスト・コンストラクティビズム	国際政治と国内政治の再接近を理解する。
6	リベラリズム—自然調和	リベラリズムの思想的基盤を理解する。
7	リベラリズム—相互依存とレジーム	リベラリズムの新潮流と70年代国際関係の諸相を理解する。
8	リベラリズム—制度とネオ・リベラリズム	「原因」としての制度とはなにか。ゲーム理論の援用とともに理解する。
9	コンストラクティビズム—合理主義の陥穽	主要理論はなぜ冷戦の終結を予見できなかったか。その陥穽を理解する。
10	コンストラクティビズム—間主観性、規範、適切性の論理	国際関係を規定する非物質的な要因とはなにか。理論の新展開を理解する。
11	応用—対外政策決定論①	キューバ危機の事例を用い、国際政治理論の妥当性を考察する。

12	応用—対外政策決定論②	同盟の形成と運用を手がかりに、国際政治理論の妥当性を考える。
13	応用—対外政策決定論③	米国の海外基地政策と国際政治理論の平仄を考える。
14	総括	国際政治学の理論は「現実」と、どう折り合いをつけるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心を持ったトピックについて、新聞記事や図書で関連用語を調べてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回レジュメを配布する。

【参考書】

以下を購入する義務はないが、必要に応じて適宜参照されたい。
・川名晋史『在日米軍基地—米軍と国連軍、「2つの顔」の80年史』（中公新書、2024年）

【成績評価の方法と基準】

成績は、授業の出席を前提条件に、レポート課題（100%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】**【Outline (in English)】**

In this course, we will consider Realism, Liberalism and Constructivism, which are the basic theoretical frameworks that understand international relations. Then, by applying them to the explanation of specific events after World War II, clarifying the range and the limit of the theory. Through it we try to understand the structure and pluralism of international relations. Its objective is to cultivate relative and problem-solving thinking to understand complex international relations.

BSP100AC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

政治学入門 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は政治について考えるための「ものの見方」を身につけ、社会を自由でありながらまとまりのある空間として作っていく政治の働きを考えることを目的とします。

【到達目標】

高校での「政治経済」や「世界史」、「日本史」の授業で学んだことと、政治学の専門科目との橋渡しをすることをめざします。
また、市民として政治とどのように関わるべきかを考える材料を身につけることもめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式でおこないます。

授業についてのコメント・疑問・意見などがあればHOPPIIにアップしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	政治学とはなにか	「政治学」の始まり
2	政治と政治学	古典古代における政治の観念と 近代における政治の観念
3	政治とはなにか	身近な政治と遠い政治
4	権力と公共性1	権力について考えてみよう
5	権力と公共性2	公共性について考えてみよう
6	政治社会の成立1	はじまりには「力」あり
7	政治社会の成立2	公と私
8	政治社会の成立3	自治と統治
9	自由と統合	なぜ人間は自由であることを望みながら、権力を求めるのか。
10	統合の論理	権力の論理
11	統合の正統性	自由の論理
12	近代国家の政治原理1	統治から自治へ
13	近代国家の政治原理2	自治から統治へ
14	政治と非政治	政治の可能性と政治の限界を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：講義の内容に関連する新聞雑誌記事、授業中に紹介した著作・映画・テレビ番組などを読み、見て、政治について考える練習をしてください。

一回の授業につき4時間の学習を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト100%

【学生の意見等からの気づき】

政治学と現実の政治の結びつきを説明し、学生の知的好奇心を刺激したい。

【Outline (in English)】

This course aims to have your own perspective of politics by acquiring basic conceptions and knowledge about it.

.

2 Obligation

Students are required to read assigned articles after the lecture, and try to adapt various concepts and tools explained in the lecture to actual politics.

3 Grading

Grading will be based on term-end examination(100%).

BSP100AC（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

政治学入門Ⅱ**新川 敏光**授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後日本の政党政治と政策を、「55年体制」期を中心に、戦後から安倍政権まで概観する。

【到達目標】

戦後日本政治の特徴と変化について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	民主化	憲法制定、農地解放などの戦後 占領改革など
第2回	逆コース	政治家田中角栄誕生 東西冷戦下での保守支配体制の 確立
第3回	55年体制の形成	左右社会党の統一と保守合同
第4回	自由民主党	派閥と保守本流 田中角栄の台頭
第5回	日本社会党：抵抗政 党への道	護憲平和主義とマルクス主義
第6回	高度経済成長の政治	生産第一主義、所得倍増、補助 金行政、過疎化、公害 利益誘導・田中型政治
第7回	日本型福祉社会	保守支配体制の危機から日本型 福祉社会へ 田中角栄の指導力
第8回	行政改革の時代	福祉見直しと民営化 田中角栄の影
第9回	日本社会党の現実主 義化	マルクス主義との訣別
第10回	政治改革の時代	自民党単独支配体制の終焉と政 党再編
第11回	新自由主義的改革	労働市場の規制緩和、少子高齢 化と女性の労働緑化、
第12回	二大政党制の夢	民主党の政権党としての失敗 大衆迎合の政治
第13回	小泉構造改革からア ベノミクスへ	自公連立政権とは何か 新自由主義から新国家主義へ
第14回	フィードバック	これまでの授業について簡単に まとめ、全体に関する質疑応答 を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】授業前にアップロードされる教材に事前に目を通し、講義の後にはわからない点や疑問点について調べ、ノートをまとめる。
本授業の準備・復習時間は、各々二時間を標準とします。**【テキスト（教科書）】**

石川真澄・山口二郎『戦後政治史 第四版』岩波新書

【参考書】中北浩爾『自公政権とは何か』ちくま新書
新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』ミネルヴァ書房。**【成績評価の方法と基準】**

平常点と筆記試験により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義の最後に質問時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course surveys party politics and policy development in Postwar Japan.

POL200AD (政治学 / Politics 200)

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートとの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本が多様なアクターと協働してどのように取り組んでいるのかについて理解を深めることにある。各回の授業には、政府や国際機関で活躍する実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業やNGOからの有識者に登壇していただき、質疑応答も活発に行うことによって、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではない広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）
 毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppiiを通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	日本の対アジア太平洋政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	日本の対ヨーロッパ政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際NGO/NPOと日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には2時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に学習システムで配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出状況と内容（60%）から総合的に判断する。なお、4回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はない。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究

<研究テーマ>

国際社会による平和のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障

<主要研究業績>

主な近著として、「経済制裁は平和のために有効か」石田淳ほか編著『国際平和論—脅威の認識と対応の模索』（有斐閣、2024年）121-141頁；"Japan: COVID-19 and the Vulnerable," M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds.), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022) pp.136-156；『非伝統的安全保障』によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021年）；Miki Honda, "Smart Sanctions' by the UN and financial sanctions," Sachiko Yoshimura ed., United Nations Financial Sanctions(Routledge, 2021)pp. 18-33；「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して」『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』』（明石書店、2016年）などがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn about the current status and challenges of diplomatic relations between Japan and its major counterparts in the international community, and to deepen understanding of how Japan works with diverse actors to tackle transnational/global issues that the international community faces, such as disarmament, migration, development, and environmental issues. Each class invites a guest speaker from Japanese ministries, international institutions, the media, think tanks, NGOs, and businesses. A Q&A session is held every after each lecture to have a better understanding of "diplomacy" in a broader sense than is possible from an intergovernmental perspective.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティニアヌスのペスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとペスト	ペスト／疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのペストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD (政治学 / Politics 100)

中東の政治と社会 II

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。
中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。
中東地域と他の地域に関する理解。
国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	USと中東	UAの中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

講義形式で行う。

対面授業は最低7回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中間レポート 50% 学期末テスト 50%

The final grade will be calculated based on the midterm report and the final exam.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であればZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

中国の政治と社会Ⅱ

熊倉 潤

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「中国の政治と社会Ⅰ」に引き続き、中国政治の基礎について学ぶ。本学では党の誕生から現代に至る中国共産党政治の歴史過程に焦点をあてる。「中国の政治と社会Ⅰ」および「中国の政治と社会Ⅱ」を通じて、中国政治についての基礎的な理解を養うことを目的とする。

【到達目標】

「中国の政治と社会Ⅰ」に引き続き、中国政治についての基礎的な理解を養い、今後中国に関するニュースに接した時に自己の見解を持てるようにすること、また将来中国への赴任など中国と関わる機会を想定し、現代中国政治の概要を説明できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業形式は、対面授業を想定している。講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	初回ガイダンス、中国共産党成立前夜の中国	本授業概要、参考文献紹介、清末民初の中国を取り巻く状況、ロシア革命の勃発、五四運動
第2回	中国共産党の誕生と国民党	初期の党、国共合作、コミンテルンの指導
第3回	中国共産党の戦い	剿匪、長征、抗日、延安整風
第4回	中華人民共和国の成立	建国前後の政治と社会、新民主主義、統一戦線、抗美援朝、反革命鎮圧、三反五反、過渡期総路線、集団化
第5回	反右派闘争と大躍進運動	百花齊放・百家争鳴、整風、大躍進、人民公社、廬山会議
第6回	プロレタリア文化大革命と毛沢東時代の終焉	海瑞罷官、紅衛兵、武闘、革命委員会の成立、軍の台頭、林彪事件、批林批孔、毛の死
第7回	華国鋒と鄧小平	「二つのすべて」、「四つの近代化」、「四つの基本原則」、鄧小平の台頭、歴史決議
第8回	改革開放と政治・社会	人民公社解体、経済特区、地方保護主義、企業自主権の拡大、社会主義初級段階論、政治改革、天安門事件
第9回	江沢民時代の政治・社会（1）	社会主義市場経済、愛国主義教育、制度改革、軍ビジネスの禁止
第10回	江沢民時代の政治・社会（2）	メディアの市場化、法輪功取り締まり、単位の解体、社区の建設、「三つの代表」、西部大開発
第11回	胡錦濤時代の政治・社会（1）	胡錦濤政権の成立、和諧社会と科学的発展観、県レベル人代選挙の変容、限定的な「民主」の試み

第12回	胡錦濤時代の政治・社会（2）	インターネット統制、宗教事務条例、北京オリンピックと上海万博、リーマンショックと景気対策
第13回	習近平時代の政治・社会	習近平政権の成立、軍制改革、反腐敗運動と社会統制の強化、新常態とイノベーション
第14回	期末試験	期末試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、教科書・参考書をよく読んで、地域についての理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川島真、小嶋華津子編著『よくわかる現代中国政治』ミネルヴァ書房、2020年。

【参考書】

授業で適宜参考書を紹介するが、以下の岩波新書3冊は準備学習として一読しておくといよい。

* 石川禎浩（2010）『シリーズ中国近現代史3 革命とナショナリズム 1925-1945』岩波新書

* 久保亨（2011）『シリーズ中国近現代史4 社会主義への挑戦 1945-1971』岩波新書

* 高原明生・前田宏子（2014）『シリーズ中国近現代史5 開発主義の時代へ 1972-2014』岩波新書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

中国のドラマ、ドキュメンタリー番組など、動画を多く紹介するようにしている

【学生が準備すべき機器他】

対面教室授業が実施できない場合のオンライン授業に備えるべく、Wi-Fi 環境等の準備を進めておくこと。

【その他の重要事項】

本講義参加に際しては、高校の世界史で習ったような基礎的な知識があることが望ましいが、必ずしも必須のものではない。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 中国、旧ソ連の政治

<研究テーマ> 中国、旧ソ連の民族政策

<主要研究業績>

①『新疆ウイグル自治区——中国共産党支配の70年』中央公論新社、2022年。

②『民族自決と民族団結——ソ連と中国の民族エリート』東京大学出版会、2020年。
など

【Outline (in English)】

In this course, we will study the basics of Chinese politics. Especially we will focus on the historical process of Chinese politics since the formation of the Chinese Communist Party (1921). Our goal is to deepen understandings of the politics of China.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

東南アジアの政治と社会 I

松野 明久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアの政治と社会についての基礎知識をえることを目的とする。東南アジアの地理的、民族的、宗教的多様性を知り、世界史の中で受けてきた影響、そして国民国家建設、民主主義、人権、紛争などの課題を理解する。地域の人口も今や7億人近くなり、日本との政治的・経済的関係の深い東南アジアを理解することは日本の立ち位置、未来を考える上で重要なことである。

【到達目標】

1. 東南アジアが歩んだ歴史の流れを把握し、それを述べるができる。
2. 東南アジア各国の歴史の特徴を把握し、それを述べるができる。
3. 東南アジア各国の現代の課題を理解し、それを議論することができる。
4. 東南アジアと日本の関係について基礎的事項を知り、それを述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を用い、講義形式で行います。必要に応じてレジュメを配布します。時々簡単な課題を出しますので、レポートを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	東南アジア事始め～なぜ、私は東南アジアを研究しているのか	講師個人が研究を志した動機や問題意識、当時の時代背景、またその後の時代の移り変わりなど、東南アジアの魅力、研究する意義を解説する。
第2回	教科書第1章：国民国家以前の東南アジア	古代インド化の時代から、イスラーム伝播の波、植民地支配、反植民地主義とナショナリズムの勃興までを解説する。
第3回	教科書第2章：マレーシア、シンガポール、ブルネイ	東南アジア大陸部・島嶼部にまたがる大英帝国植民地（英領マレー）から独立した国々の成立過程と現状を概観する。
第4回	教科書第3章：フィリピン	スペイン植民地支配の遺産（大土地所有制やカトリックの普及）、米国統治の遺産（英語の普及、議会制度、米国への依存）、日本占領のインパクトの上に戦後政治が築かれた。現在でもエリート支配が根強いフィリピンの基礎を学ぶ。
第5回	教科書第4章：(1) インドネシア	多様性の中の統一を求める国民形成が独立闘争、冷戦、民主化の各時代に変化してきた激動の軌跡をたどる。
第6回	教科書第4章：(2) 東ティモール	21世紀で最初の独立国となった小国の苦難の闘争とそれをめぐる国際政治を理解する。

第7回	教科書第5章：タイ	東南アジアでは唯一植民地にならなかった王国として独自の近代化を遂げたタイの政治体制、今日の争点を学ぶ。
第8回	教科書第6章：ミャンマー	多様な少数民族の存在と中央集権化をめざす政府の確執が続き、1962年以降軍事政権が上からの「安定」を押しつける時代が続いた。民政移管が行われたが、今また軍事政権に戻っている。ミャンマーにとっていかなる体制が安定的・平和的なのかを考える。
第9回	教科書第7章：ベトナム、ラオス、カンボジア	フランス植民地支配を受け「インドシナ3国」と呼ばれた国々のそれぞれの発展、対立、共存の歴史を学ぶ。とくにベトナム戦争がもたらしたインパクトについて理解する。
第10回	教科書第8章：国民国家建設	ここからは比較政治学の観点から、地域を横断的に見ていく。国民国家建設は地域の主要な課題であり、各国の事情に応じてさまざまなテーマと歴史があることを学ぶ。
第11回	教科書第9章：政治体制と体制変動	冷戦期、東南アジアは分断され、一党支配や独裁政権、あるいは権威主義体制が地域の特徴となった。それには伝統的政治体制や植民地支配も背景要因としてある。歴史的文脈と関係させながら政治体制について学ぶ。
第12回	教科書第11章：模索する民主主義	東南アジアでは1980年代後半から1990年代にかけて民主主義が進展した。今なお課題は多いが、民主主義は大きな論争点の一つになっている。各地でいかなる民主化運動が展開し、いかなる問題を解決しようとしてきたのかを学ぶ。
第13回	教科書第12章：国際政治の中の東南アジア	古来より東南アジアは域外の勢力の影響を受けてきたが、冷戦下では米ソの対立、現代では米中の対立の中で、バランスを取ろうとしてきた。それは具体的にどういうことかを学ぶ。
第14回	教科書終章：日本と東南アジア	東南アジアと日本の関係史を学ぶ。東南アジアは日本に近く、経済的には資源供給源、投資先、製品市場などとなってきた。近年は日本への移住労働者も多い。一方で、太平洋戦争中日本は東南アジア各地を侵略し、大きな傷痕を残した。そうした複雑な現代史の関係を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 予習として教科書の該当箇所を読んでおく。
 2. 予習または復習として、NHKニュースサイト（日本語）、BBCニュースサイト（英語）など主要なニュースサイトで該当する国やテーマについてのニュース記事をさがし、読む。
 3. 復習として教科書の各章の最後にある「読書案内」や「reference」の中から関心あるテーマのものを読むか、それらの著者の書いた短い論考・エッセーを読む。
- （本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

増原綾子・鈴木綾女・片岡樹・宮脇聡史・古屋博子著『はじめての東南アジア政治』有斐閣、2018年。定価2,420円、本体2,200円、ISBN 978-4-641-15058-4。

【参考書】

概論的な参考書は多くあり、また教科書にも紹介されている。以下は、ストーリー性をもったモノグラフで、東南アジアや世界を考える上で参考になる本である。

アンダーソン, B. / 白石隆・白石さや訳 (2007) 『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』 書籍工房早山。

倉沢愛子 (2013) 『9・30 世界を震撼させた日—インドネシア政変の真相と波紋』 岩波書店。

倉沢愛子・松村高夫 (2023) 『ワクチン開発と戦争犯罪—インドネシア破傷風事件の真相』 岩波書店。

後藤乾一 (1995) 『近代日本と東南アジア—南進の「衝撃」と「遺産」』 岩波書店。

根本敬 (2015) 『アウンサンソーチーのビルマ—民主化と国民和解の道』 岩波書店。

松野明久 (2002) 『東ティモール独立史』 早稲田大学出版部。

【成績評価の方法と基準】

1. レポート課題 20%

評価基準：引用が適切にできており、趣旨が明確かどうか。

2. 期末テスト 80%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

担当教員は、国際連合が東ティモールに展開した住民投票ミッション「国連東ティモール派遣団 (UNAMET)」(1999年)の選挙管理官を務め、国連暫定行政下東ティモールで設置された「東ティモール受容真実和解委員会 (CAVR)」の上級歴史アドバイザー (2003-2004年)を務め、国際協力事業団 (JICA) の東ティモール政府に対する短期専門家 (2007年)を務めた。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of politics and societies of Southeast Asia. Students will learn geographical, ethnical, and religious diversity of Southeast Asia, and will deepen understanding of the influences from the world history and challenges such as the nation building, democracy, human rights, and conflict. The region's population is now about 700 millions, and Japan has very deep political and economic relations with the region. The understanding of Southeast Asia is important when we think about our own position in the world and the future of our country.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

東南アジアの政治と社会Ⅱ**田中 李歩**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東南アジアは、地理環境・社会・政治経済の多様性に富み、各国が独自の魅力を有する反面、統一的に理解することは難しい地域だと考えられます。本講義では、受講生が東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を習得すること、ならびにその修得の前提となる地理、文化、歴史等の基礎的な知識を身につけること、またそれらのトピックに関連した問題についての理解の手がかりを得ることをねらいとします。

【到達目標】

・東南アジア地域および各国の政治経済や社会に関する知識を修得していること、またその前提となる地理、文化、歴史等の知識を修得していること。
 ・東南アジア地域および各国が直面している問題について理解する手がかりを得ていること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義を中心としますが、毎回授業後に提出のミニ課題への受講生のコメントに適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・イントロダクション	オリエンテーションでは授業の進め方・評価方法について理解します。イントロダクションでは東南アジアの概要を把握します。
2	東南アジアの基礎知識①地理と環境	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、地理・環境について学びます。
3	東南アジアの基礎知識②民族と宗教	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、民族・宗教について学びます。
4	東南アジアの基礎知識③言語と文化	東南アジアの政治経済や社会について学ぶための基礎知識として、言語・文化について学びます。
5	植民地期までの東南アジア	植民地期までの東南アジアの歴史について学びます。
6	第2次世界大戦と東南アジア	第2次大戦期の東南アジアの状況について学びます。
7	ASEAN4+シンガポールにおける工業化	ASEAN4+シンガポールにおける工業化の展開について学びます。
8	ASEAN4+シンガポールの経済発展過程と政治体制	東南アジア、特にASEAN4+シンガポールの経済発展過程における政治体制について学びます。
9	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイの政治・経済	第2次大戦後のCLMV諸国とブルネイがどのような政治・経済状況にあったかを学びます。

10	東南アジアの社会変容	東南アジアにおける人口の変化や都市化とそのもたらした影響について学びます。
11	東南アジアにおける社会階層・格差と教育	東南アジアにおける社会階層や格差の状況、またそれらと教育のかかわりについて、具体例とともに学びます。
12	現代東南アジア各国の政治	現代東南アジア各国の政治体制や政情について把握します。
13	東南アジアが直面する政治関連の問題とASEAN	東南アジアが直面している人権や領土に関する問題について把握し、ASEANの機能についても学びます。
14	現代東南アジアの経済、東南アジアと日本	東南アジアの現在の経済状況について把握し、日本とのつながりについても学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・東南アジア全体あるいは各国に関連するニュース等に関心を持ち、積極的に情報を収集します。特に関心を持った内容について、学期中に1度ミニ課題で報告します。
 ・毎授業後、授業資料を確認しながらミニ課題に取り組むことで、各回授業内容の復習を行います。
 ※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配布します。

【参考書】

古田元夫（2021）『東南アジア史10講』（岩波新書）、岩波書店。
 増原綾子他（2018）『はじめての東南アジア政治』（有斐閣ストゥディア）、有斐閣。
 岩崎育夫（2017）『入門東南アジア近現代史』（講談社現代新書）、講談社。

【成績評価の方法と基準】

・毎授業後のミニ課題の提出（30%）。
 ・期末試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ミニ課題に取り組む際の生成AIを使用は基本的に禁止します。

【Outline (in English)】

Southeast Asia is a region of great geographical, social and political-economic diversity, and while each country has its own unique attractiveness, it is difficult to understand the region in a unified way. In this course, students will be provided with knowledge of the political economy and society of Southeast Asia as a region and the countries within it, as well as the geography, culture and history that underpin this knowledge, and clues to understanding issues related to these topics.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会 I**権 鎬淵**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島における政治史および政治システムを主なテーマとして取り上げ、韓国及び北朝鮮政治に関する基本知識を身につける。

【到達目標】

朝鮮半島の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、南北分断の背景、朝鮮戦争の状況、冷戦構造の確立、南北それぞれの政治体制・経済体制・国際関係の成立過程、日韓関係の主要争点の概要と歴史を講義する。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	戦後東アジアの始り	戦争の終戦状況：中国、ソ連、朝鮮半島
第2回	朝鮮半島の分断	38度線の由来 分断の状況、分断の責任
第3回	南北権力の特徴	李承晩、金日成
第4回	朝鮮戦争	戦争の背景 戦争の展開過程と終わり方
第5回	東アジアの冷戦構造	朝鮮戦争の国際・国内政治構造
第6回	4・19学生革命と 5・16軍事クーデター	4・19学生革命と5・16軍事クーデターを解説
第7回	朴正熙政権とその政策	朴正熙の経歴と政策内容
第8回	日韓国交正常化	その過程、内容と問題点
第9回	全斗煥政権	1979-88年
第10回	民主化運動とその実現	1987年新憲法成立
第11回	金泳三、盧泰愚政権	主な政策を中心に
第12回	金大中、盧武鉉政権	その政策を中心に
第13回	李明博、朴槿恵、 文在寅、尹錫悦政権	その政策を中心に
第14回	対日政策	日本との関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードーフアー、ロバート・カーリン『二つのコリア（第三版）—国際政治の中の朝鮮半島』共同通信社、2015年

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（10～20％）、課題（10～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the post-war political histories of Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course is to help students understand the political system and its situations of South Korea and North Korea, and the relations of them and Japan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

朝鮮半島の政治と社会Ⅱ

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は主に1945年以後の朝鮮半島の経済制度や社会文化システムを主なテーマとして取り上げ、専門知識を身につける。韓国だけでなく、北朝鮮についても説明する。

【到達目標】

南北朝鮮の政治・経済・社会を理解し、日本との関係を考えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、朝鮮半島の経済制度・社会システム・文化を分析する。主に講義による説明によって授業を行うが、映像（Youtube、映画など）や書物の感想文の提出や特定テーマに関する意見交換を行うこともある。

授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり /Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	韓国の対北政策	北風政策 vs 太陽政策
第2回	北朝鮮の対南政策	統一戦線戦略、敵対国家論
第3回	北朝鮮の核兵器や弾道ミサイル問題	核兵器、ミサイル能力
第4回	南北の兵役制度	徴兵制の詳細説明
第5回	大統領制度	選挙システム・権限・役割
第6回	国会、憲法裁判所、司法システム	機関の役割
第7回	韓国の経済制度 1	財閥、不動産
第8回	韓国の経済制度 2	税金、福祉、雇用
第9回	北朝鮮の経済システム	どこが問題か
第10回	教育制度	受験戦争、就職難
第11回	韓国の社会問題 1	地域対立、格差問題
第12回	韓国の社会問題 2	女性関連
第13回	日韓の主要争点	歴史認識の問題 領土問題、慰安婦問題
第14回	統一の可能性について	吸収合併論、急変事態論、漸進的統一論などを点検

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各2時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

1. 孔 義植, 鄭 俊坤他『韓国現代政治の理解』芦書房、2020年
2. ドン・オーバードファー、ロバート・カーリン『二つのコリア（第三版）—国際政治の中の朝鮮半島—』共同通信社、2015年

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20％）、課題（0～20％）、試験（60～80％）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Projectorを使って映像物を見ることがある。

【Outline (in English)】

This course introduces the economic, social and culture system of post-war Korean peninsular (South Korea and North Korea).

The aim of this course to help students understand Korea's basic system and consider the more desirable relations with Japan and Korea.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

台湾の政治と社会 I

塚本 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1945年から現在に至るまで台湾は「中華民国政府」の実効支配下にある。1950年代から80年代に至るまでその統治は「権威主義体制」（リンズ）であった。この台湾における権威主義体制の在り方を解き明かすことを目指す。

【到達目標】

台湾という政治社会の在り方を、「権威主義体制」という角度から明らかにする。同時に世界各地に存在した、また存在する「権威主義体制」を理解していく足掛かりを見い出す。

The goal of this course is to reflect the transition process: Taiwan has changed from "Authoritarian Regime" to democracy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前年度のリアクションペーパーを参考に授業中に講評する。授業中口頭で、授業外にメールで学生からの質問うけ回答する。春学期の全期間リアルタイムのオンラインで授業を基本とする。具体的には学習支援システムでその都度提示する。変更ある場合にも学習支援システムで提示する。

「権威主義体制」は世界各地に存在するが、台湾における権威主義体制は以下のような特徴を持つ。中華民国政府・国民党とともに1949年前後に中国本土から台湾に移り住んできた少数派の「外省人」が1945年以前から台湾に居住する圧倒的多数を占める「本省人」に対し政治的優位に立つ外部支配の性格を持つ。エスニシティ（ethnicity）の問題がある。国共内戦が1950年以降東西冷戦と結合した、分裂国家であり、内戦体制を維持していた。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第1回	台湾とは	地理的台湾と政治的台湾
第2回	分裂国家台湾	正統な中国中央政府と自己主張する中華民国政府の立場と台湾に限定される実効支配という現実の乖離・分裂
第3回	歴史的背景	先住民の生活、鄭氏政權、清朝支配
第4回	日本植民地	初期の武力鎮圧、「漢人」「先住民」、日本化、産業インフラの整備
第5回	中華民国への編入	第二次大戦における日本の敗戦、カイロ会談
第6回	二二八事件 1947年	劣悪な中華民国統治、自然発生的暴動、弾圧、多数の死者
第7回	省籍矛盾	少数の「外省人」による圧倒的多数の「本省人」への政治的優位
第8回	「農地改革」と「公営企業」の払い下げ	農民への利益の配分、本省人上層との連合
第9回	東西冷戦と中国国共内戦の結合	アメリカによる「中華民国政府」への支援、朝鮮戦争（1950～53）

第10回	台湾式の「権威主義体制」①	内戦体制、「法統」、「万年国会」、長期戒厳令、国民党の大きな役割、アメリカという「外部正統性」、ストロングマン蒋介石・蔣経国父子
第11回	台湾式の「権威主義体制」②	「地方政治エリート」の存在、地方公職選挙の定期実施、地方派閥の存在。選挙クライアンティズム（恩顧・庇護関係）。無所属（党外）の存在、アメリカの影響（民主主義のウィンドー）
第12回	「大陸反攻」の挫折	1950年代の中国沿岸島嶼をめぐる武力衝突、1958年金門島砲撃事件
第13回	アメリカの台湾支持の限定性	中国内戦には関与せず、「中国包囲網」の拠点台湾
第14回	1960年代経済開発への志向	アメリカの政策変化、暴力的性格の減少

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献・書籍・マスメディア・インターネット等で現代台湾政治に関する知識を収集すること。前記につき授業期間全体で10時間程度行うことが望ましい。

Students will be expected to get the knowledge about the Politics of modern Taiwan by many kinds of information.

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない

【参考書】

野嶋剛『台湾とは何か』（ちくま新書、2016年）860円。

【成績評価の方法と基準】

基本的にオンラインでの開講となったことにともない、学習支援システムを通じてのレポート提出となる可能性が高い。詳しくは学習支援システムを通して連絡する。

Grading will be decided based on term-end paper (85%) ,and in-class contribution (15%) .

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【Outline (in English)】

The regime of "The Republic of China" on Taiwan from 1945 till 1980s was "Authoritarian Regime". The class indicate the characteristics of Authoritarian Regime on Taiwan.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

台湾の政治と社会 II

塚本 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台湾における「権威主義体制」が1980年代から90年代にかけて「民主化」していく過程を明らかにする。そして、「ボリアーキー」としての民主主義が定着していく過程も射程にいれる。

【到達目標】

台湾における民主化過程を明らかにするとともに、世界各地における民主化とその定着の過程を明らかにする足掛かりとする。

The goal of this course is to reflect the transition process : Taiwan has changed from "Authoritarian Regime " to democracy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前年度のリアクションペーパーを参考に授業中に講評する。授業中口頭で、授業外にメールで学生からの質問を受け、これに回答する。秋学期の全期間リアルタイムのオンライン授業を基本とする。具体的には学習支援システムで提示する。変更がある場合に学習支援システムで提示する。

1970年代以降台湾はアメリカ・日本などの主要国との外交関係を失い、国際的な孤立に直面する。分裂国家中国の片割れとして特殊な状況の中で台湾は民主化の過程を歩むことになった。そして、民主化過程は、「本土化（台湾化）」＝民主化という形で、エスニシティの問題と密接に関係することになる。すなわち、民主化の結果、住民の大多数を占める本省人が政権の主導権をにぎることになった。そして、「外省人」対「本省人」との対立の図式に代わって、「閩南」・「客家」・「先住民」・「外省人」という「四大エスニシティ」の図式が立ち現われてきた。このようなエスニシティを前提とした民主主義政治が展開されることになる。また、80年代までの台湾の権威主義体制が「国共内戦」によって正当化されたことから、民主化は同時に脱内戦化を意味する。台湾における民主化を可能にした前提条件は、その経済成長であった。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	蔣経国改革	対外的危機の到来、1970年代の蔣経国による体制手直し：個別的本省人の登用（李登輝を含む）、国会の部分改選
第2回	「党外勢力」の形成	70年代地方選挙で「党外」は無視できない議席を獲得
第3回	「高雄事件」（1979年）	対米断交という決定的対外的危機、体制・「党外勢力」ともに危機感、高雄市における武力弾圧
第4回	「民主化」過程の開始・体制の強硬な弾圧路線の失敗	高雄事件弁護団の活躍、アメリカの圧力による裁判の公開、被告への重刑、翌年以降の選挙での高雄事件関係者の当選、体制及びその周辺によるテロ事件への批判

第5回	社会運動の展開	非政治的な様々な社会運動の展開：高度経済成長による諸矛盾への抗議。民主化運動への新たな人材の供給
第6回	制度的な民主化の具体化（80年代後半）	民主化の実行か・再度強硬な弾圧かの二社択一が権威主義体制に迫られる 「ストロングマン」蔣経国は民主化を選択、自由化の先行：野党民進党結成・長期戒厳令解除・マスコミへの規制の撤廃・独立や二二八事件を含む「タブーの解消」
第7回	初めての本省人総統李登輝の就任	1988年就任時には極めて脆弱な権力基盤、特に国民党内
第8回	「静かな革命」	李登輝その他の国民党本省人と野党民進党との暗黙の共闘、台湾における「一個半の党主席」
第9回	国民党内での権力闘争	「二月政争」：李登輝が自前の総統に就任。国民党主席としての権力（総統より、ある意味で強力）
第10回	憲政改革：政治参加の問題の解決	民主化の決定的転換点、憲法の実質改正（形式的には、増修条文の付加という部分改正）、内戦体制の法廷解消（反乱鎮定動員時期の終結、同臨時条項の廃止）、対中国本土関係の破綻防止のため「国家統一綱領」の制定
第11回	一連の「出発選挙」	1991年「国民大会選挙」（台湾のみ、全員改選）、1992年「立法委員選挙」（実質的国会）全員改選
第12回	初めての総統直接選挙1996年	国民党候補李登輝の圧勝、第三次台湾海峡危機と呼ばれる中国からの政治的・軍事的圧力
第13回	両義的な中国との関係	「台湾統一」を目指す中華人民共和国政府・台湾の中国への経済的依存関係の深化・台湾（「中華民国」）としての独自性、台湾にとっての狭い選択肢
第14回	民主化の定着？	国民党から民進党への政権交代（2000年陳水扁総統）、民進党から国民党への政権交代（馬英九総統）、再度の政権交代（民進党、蔡英文総統、議会多数）、地方選挙の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献・書籍・マスメディア・インターネット等で現代台湾政治に関する知識を収集すること。前記につき授業全体で10時間程度行うことが望ましい。

Student will be expected to get the knowledge about modern Taiwan by many kinds of information.

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない

【参考書】

野嶋剛『台湾とは何か』（ちくま新書、2016年）860円

【成績評価の方法と基準】

基本的にオンラインでの開講となったことに伴い、学習支援システムを通じてのレポート提出となる可能性が高い。詳しくは学習支援システムを通じて連絡する。

Grading will be decided based on term-end paper (85%) ,and in-class contribution (15%) .

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

。

【Outline (in English)】

The regime of "the Republic of China" on Taiwan has changed from "Authoritarian Regime" to democracy(Polyarcy) " in 1980s and 1990s.The class reflect this transition process.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

ロシアの政治と外交 I

西山 美久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアはソ連崩壊後の混乱を乗り越え、2000年代に始まった原油高に支えられて経済成長を遂げました。国力を回復したロシアはプーチンという強力な指導者の下で国際政治の舞台で独自に振る舞い、注目を集めています。本講義では、ソ連解体後のロシア、とりわけプーチン時代の政治情勢に焦点を当てることにします。

本講義を通じて、受講者は、プーチン時代のロシア政治について理解することを目指します。

【到達目標】

1. ソ連解体後のロシア政治の変遷について簡単に説明できる。
2. 国際的にも注目を集めるプーチン時代のロシア政治に関する特徴を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義の冒頭にレジュメを配布します。講義は配布レジュメに基づいて進められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画、参考文献リストの配布、ロシアの概要
2	ソ連の解体	ソ連政治史について学びます
3	エリツィン政権の誕生	ソ連解体後の新生ロシアでの政治改革等について学びます
4	チェチェン紛争の勃発	多民族国家ロシアにおける民族問題を取り上げ、国内紛争に至った経緯などについて学びます
5	1996年大統領選挙と新興財閥	エリツィン政権と新興財閥の関係について学びます
6	プーチン政権の誕生と制度改革	国内を統一するプーチン政権の諸改革について学びます
7	新興財閥の排除とメディア統制	エリツィン時代に影響力を有した新興財閥を排除するプーチン政権の意図などについて学びます
8	愛国主義による国民統合	多民族からなるロシア国民を統合するプーチン政権の政策について学びます
9	愛国教育の推進	近年の歴史教科書について取り上げ、プーチン政権下における愛国教育の特徴を学びます
10	歴史認識問題	ロシア国内の歴史認識問題に対するプーチン政権の取組について学びます
11	市民運動の規制強化	反政権運動を規制するプーチン政権の取組について学びます
12	ウクライナ侵攻	ウクライナ侵攻後のロシアの社会情勢などについて学びます
13	日本とロシア	ロシアの対日意識について学びます

14 総括

今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけていただきたいと思います。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

溝口修平・油本真理編『現代ロシア政治』法律文化社、2023年。
西山美久『ロシアの愛国主義：プーチンが進める国民統合』法政大学出版局、2018年。

横手慎二『現代ロシア政治入門（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年。

その他の参考文献は開講時などにお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>政治学、現代ロシア政治外交

<研究テーマ>

ロシアの歴史認識、愛国主義政策等

<主要研究業績>

『ロシア極東・シベリアを知るための70章』明石書店、2024年（共著）。
『ユーラシアの自画像：「米中対立／新冷戦」論の死角』PHP研究所、2023年（共著）。

『ロシアの愛国主義：プーチンが進める国民統合』法政大学出版局、2018年（単著）。

など

【Outline (in English)】

Russia has achieved economic growth supported by high oil prices that began in the 2000s. Having regained its national strength, Russia has been attracting attention for its own behavior in the international political arena under the President Vladimir Putin. This lecture will focus on the domestic politics in Russia after the collapse of the Soviet Union, especially during the Putin era. Students will be required to pass a final exam.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

ロシアの政治と外交Ⅱ

西山 美久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

後期の授業では、ソ連解体後のロシア外交がどのように展開してきたかを考えます。また、後半では、ロシアとウクライナの関係に焦点をあて、ロシア・ウクライナ戦争がなぜ生じたかを国際的文脈から考えます。

この講義を通じて、受講者は、ソ連解体後に国力が低下した時期を経て、ロシアが再び国際社会でいかに存在感を強めていったのか、そして現在ロシアは国際社会においてどのような立場にあるかを学びます。

【到達目標】

1. 冷戦後の新たな国際環境の中で、ロシア外交がどのように変化してきたかを説明できる。
2. ウクライナ危機およびロシア・ウクライナ戦争について、多様な観点から説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義の冒頭にレジュメを配布します。講義は配布レジュメに基づいて進められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献リストの配布
2	ソ連解体と国際環境の変化	ソ連解体後のロシアの国内政治情勢と国際環境の変化について学びます
3	1990年代のロシア外交（1）	旧ソ連諸国との関係と「近い外国」という概念について学びます
4	1990年代のロシア外交（2）	欧米諸国との接近と対立について学びます
5	2000年代のロシア外交（1）	プーチン登場後のロシアの対欧米諸国との関係について学びます
6	2000年代のロシア外交（2）	プーチン登場後のロシアの「近い外国」への政策について学びます
7	ロシア外交と歴史認識問題	歴史認識問題がロシア外交のイシューとして重要視される経緯などについて学びます
8	ウクライナ危機（1）	ユーロマイダン革命の原因について学びます
9	ウクライナ危機（2）	ロシアによるクリミア併合とドンバス紛争について学びます
10	ウクライナ危機（3）	ウクライナ危機後のロシアとウクライナについて学びます
11	NATOの東方拡大とロシア	NATOの東方拡大に対するプーチン政権の反応などについて学びます
12	ロシア・ウクライナ戦争（1）	戦争の原因について学びます

13	ロシア・ウクライナ戦争（2）	戦争の影響と今後について学びます
14	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけていただきたいと思います。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

溝口修平・油本真理編『現代ロシア政治』法律文化社、2023年。
横手慎二『現代ロシア政治入門（第2版）』慶應義塾大学出版会、2016年。

その他の参考文献は開講時などにお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞政治学、現代ロシア政治外交

＜研究テーマ＞

ロシアの歴史認識、愛国主義政策等

＜主要研究業績＞

『ロシア極東・シベリアを知るための70章』明石書店、2024年（共著）。

『ユーラシアの自画像：「米中対立／新冷戦」論の死角』PHP研究所、2023年（共著）。

『ロシアの愛国主義：プーチンが進める国民統合』法政大学出版局、2018年（単著）。

など

【Outline (in English)】

This course is aimed at understanding sources of change and continuity in Soviet/Russian foreign policy. What factors, whether domestic or international, have developed Soviet/Russian foreign policy? What role has the Soviet Union/Russia played in the international arena? In the autumn semester, we will explore the topics of Russian foreign policy in the post-Cold War period, such as the NATO enlargement, the Ukraine Crisis, and the territorial disputes with Japan. Students will be required to write a mid-term paper and pass a final exam.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

北アメリカの政治と社会 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画鑑賞を通して、アメリカ社会の特質を考察します。
本学は、アメリカと日本の映画を比較しながら、家族像の変化をたどります。

【到達目標】

アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。

The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、（１）映画（DVD）の鑑賞、（２）それについての講義、というやり方で、アメリカ社会について理解するための視点を形成していくことをめざします。

本学におけるテーマは、「家族像」です。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	映画を利用してアメリカ社会の特質を考察する長所と問題点を解説します。
第2回	1940年代のアメリカの家族像	映画鑑賞と講義
第3回	1940年代の日本の家族像	映画鑑賞と講義
第4回	1950年代のアメリカの家族像	映画鑑賞と講義
第5回	1950年代の日本の家族像	映画鑑賞と講義
第6回	1960年代のアメリカの家族像	映画鑑賞と講義
第7回	1960年代の日本の家族像	映画鑑賞と講義
第8回	1970年代のアメリカの家族像	映画鑑賞と講義
第9回	1970年代の日本の家族像	映画鑑賞と講義
第10回	1980年代のアメリカの家族像	映画鑑賞と講義
第11回	1980年代の日本の家族像	映画鑑賞と講義
第12回	日米の家族像比較1	アメリカと日本の家族の描き方を考察する1
第13回	日米の家族像比較2	アメリカと日本の家族の描き方を考察する2
第14回	日米の家族像比較3	アメリカと日本の家族の描き方を考察する3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で鑑賞する映画とは別に、参考資料として映画・文献を紹介します。それらを観て読んで、理解を深めていってください。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）

Grading will be determined on the final examination(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「北アメリカの政治と社会」Ⅱは、この授業の続編です。テーマは、「母親像」の国際比較です。本授業と併せて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This class examines the basic characteristics of American society.

POL300AD (政治学 / Politics 300)

北アメリカの政治と社会 II**中野 勝郎**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2単位

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画鑑賞を通して、アメリカ人の目に映る日本人・日本社会について考察をめぐらします。

【到達目標】

多民族社会アメリカ合衆国についての理解を深めるための視点の構築をめざします。

The goal of this course is to enhance your understanding of the social and political life of the U.S.A.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、（１）映画（DVD）の鑑賞、（２）それについての討論（受講者が多い場合にはグループに分かれての討論）というやり方で、アメリカ社会について理解するための視点を形成していくことをめざします。

本学期におけるテーマは、「母親像」国際比較です。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	家族のなかの母親 1	フランス映画 1
第2回	家族のなかの母親 2	フランス映画 2
第3回	家族のなかの母親 3	イタリア映画 1
第4回	家族のなかの母親 4	イタリア映画 2
第5回	家族のなかの母親 5	スペイン映画 1
第6回	家族のなかの母親 6	スペイン映画 2
第7回	家族のなかの母親 7	韓国映画 1
第8回	家族のなかの母親 8	韓国映画 2
第9回	家族のなかの母親 9	日本映画 1
第10回	家族のなかの母親 1	日本映画 2
第11回	家族のなかの母親 1	アメリカ映画 1
第12回	家族のなかの母親 1	アメリカ映画 2
第13回	「母親像」の国際比較 1	家族像の模索 1
第14回	「母親像」の国際比較 2	家族像の模索 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当部分を授業開始前に読んでおくこと。また、授業中に紹介する資料を復習として参照すること。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

参考文献・資料については、授業中、適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(100%)

Grading will be determined on the final examination(100%)

【学生の意見等からの気づき】

適宜ディベートの時間を設けて、理解度を確認する作業をおこないます。

【その他の重要事項】

「北アメリカの政治と社会 I」（日米の家族族の比較）とセットになっている授業なので、両方を併せて履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This class examines the basic characteristics of American society.

BSP100AB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

法学入門

中田 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年L-N

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法学部生として身につけておくべき法学一般についての知識、基礎的な法律用語を学ぶための導入科目です。本講義では、次のステップにつなげるための法律学一般、裁判制度、法の歴史、法文化など幅広い知識を身につけてもらうことを目的としています。

【到達目標】

本講義の到達目標に、以下の4点を掲げます。

- ①基礎的な法律用語を理解した上で、説明できる。
- ②裁判制度に関する基本的な概念を説明できる。
- ③法系について説明できる。
- ④法の歴史について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1) 授業の形態

原則として対面の講義形式で授業を行います。数回オンライン授業を実施する可能性もあります。オンライン授業を実施する場合、日程や実施方法については授業と学習支援システム等で周知する予定です。

2) 授業の進め方

予習すべき範囲については、講義前に指定します。アップロードされた資料を確認の上、必ず予習して授業に出席してください。また、授業においては学生の挙手や発言を求めることがあるので、積極的な参加を期待しています。

受講者は各回の受講後に、講義内で指示された復習ワードを中心に復習し、学習支援システム上で確認テストを受け、提出することが求められます。テストの解説は各回冒頭で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	法とはなにかについて考えます。
第2回	法源：裁判の基準となるもの	制定法、慣習法、判例、学説、条理について学習します。
第3回	条文の読み方	法規の構造と読み方について学習します。
第4回	法の解釈	解釈方法について学習します。
第5回	法の体系と形式	法の分類、各法についての概説を行います。
第6回	法の機能と強制	司法に期待されている機能と法的強制について学習します。
第7回	裁判所と裁判手続	各裁判所、裁判手続について学習します。
第8回	裁判の機能	裁判に期待される機能とその強制力について考えます。
第9回	法の担い手	法曹三者やその他の法律家について学習します。
第10回	判決の読み方	判決の読み方について学習します。
第11回	法と法学の歴史、発展	法の発展の歴史について学習します。

第12回	法と道徳	法と道徳、法と正義という観点から学習します。
第13回	法学教育とリーガルマインド	日本の法教育とリーガルマインドについて考えてみましょう。
第14回	法とは何か（再考）	第1回で学習した「法とは何か」を改めて考え直します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予め提示している箇所について教科書を読んで予習し、復習ワードや確認テストを中心に復習します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業で教科書の紹介をするので、自分に合った入門書を一冊購入することを強く推奨します。なお、本講義全ての内容をカバーしている1冊の教科書があるわけではありませんのでご注意ください。
田中成明『法学入門』（有斐閣、第3版、2023年）
五十嵐清『法学入門』（日本評論社、第4版、新装版、2017年）
南野森『ブリッジブック法学入門』（信山社、第3版、2022年）

【参考書】

森田果『法学を学ぶのはなぜ？ 気づいたら法学部、にならないための法学入門』（有斐閣、2020年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のウェブ小テスト 40%

期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

今年度初回のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では毎回条文を確認するので、六法を必ず持参してください。学習支援システムを利用して小テストなどを実施するため、インターネット環境と、パソコン、タブレットや、スマートフォン等の機器の準備が必要です。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

This course is an introduction to Japanese Law to provide students with knowledge of general jurisprudence and basic legal term that they should acquire as law students. The aim of this course is to provide students with a broad knowledge of general legal issues, the court system, the history of law and legal culture.

(Learning objectives)

The following four points are set out in the achievement objectives of this course.

- (1) To understand and explain basic legal term.
- (2) To explain basic concepts related to the court system.
- (3) To explain the legal system.
- (4) To explain the history of law.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to review the key words which will be presented as 'review words' at the end of each session and to read through the material uploaded beforehand. They are also encouraged to complete quiz on website and submit it. Students will be expected to spend for at least four hours to complete the above tasks.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on following:

Quiz 40%

Term-end examination 60%

BSP100AB（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

法学入門**大野 達司**

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律1年E-G

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学入門は、法律学科で設けられている入門的な科目のひとつである。全てのコースに配置されている。本授業では、法律学を学ぶための導入科目として、法律学、裁判、裁判員制度などについての基礎的な内容を学ぶ。

【到達目標】

受講者が、法律学、裁判、裁判員制度などについて基本的な知識・理解を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面を予定していますが、オンラインと対面授業を組み合わせる可能性もあります（各回の「予定」は暫定です）。なお、初回はZOOMでの授業です。各回の授業形態に変更がある場合やZOOMのURL等は、学習支援システムで提示しますので、定期的に確認して下さい。各自、教科書を手当て下さい。①各回の課題として解説を付して指定する箇所および配付資料を、各自学習する、②ZOOMまたは対面の授業を受ける、③テストやアンケートを行う、という方法を予定しています。

法律学の導入として、教科書に基づく講義を行う。法とは何か、法と道徳、法と裁判などの基礎的な知識および考え方を学ぶ上で、読みやすく、理解しやすい教科書を指定し、その理解を助ける授業を行います。

数回に一度、授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「法」とは何か
第2回	法の特徴	法の技術性
第3回	法と秩序の関係	秩序と法
第4回	法と道徳の関係・理論	法と道徳の共通点と相違点
第5回	法と道徳の関係・具体例	法と道徳の関係の具体例
第6回	権利と義務	権利と義務の種類
第7回	法と実力	法と実力の関係
第8回	法と論理	解釈とは
第9回	法の解釈	解釈理念と解釈技術
第10回	法の目的	正義と法的安定性
第11回	法の成立、形式	法の成立、形式の種類
第12回	法の形式・制定法と慣習法	制定法と慣習法とは
第13回	法の形式・判例法	判例法とは
第14回	裁判	裁判制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業及び教科書に基づく学習。教科書等の指定箇所を読み、疑問点を整理してくる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

澤木敬郎、荒木伸怡、南部篤『ホーンブック 法学原理』（北樹出版）各自、この本の最新版を手し、講義の際には持参すること。

【参考書】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』、法律文化社、2016年（なお同書は『法思想史』でも教科書としています）。その他は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はテストによります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行スピードや説明の方法などについて、学生の声を反映させていく予定で。特に、導入科目であることを意識して、より理解しやすい授業になるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるように。

【その他の重要事項】

初回（4月7日）は、対面としながら、すでにシラバスで「オンライン」と連絡済みでもあるので、教室よりzoom発信もします。教室に来ることのできない方はそちらを利用してください。なお、zoomのアドレス、レジュメなどは学習支援システムで連絡しますので、確認してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a basic subject introducing the legal study. In this course, students will learn basic materials regarding the legal study, the judicial system and so on.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge and skills to study law.

(Learning activities outside of classroom) Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare and understand the course content.

(Grading Criteria/Policy) Final grade will be calculated according to Term-end examination (100%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立の問題を解説した後、代表的和歌について講義します。今年度は天皇・上皇の和歌を取り上げ、各歌の解釈のほか、当該歌をめぐる問題や『百人一首』の古注釈ではどのように解釈されているか等について解説します。そして、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、現代の注釈書のほか、適宜、歌学書や古注釈を参照しながら、解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第3回	『百人一首』の謎	二条派歌人の動向
第4回	『百人一首』古注釈	中世・近世の古注釈について
第5回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌(1)解説
第6回	『百人一首』講読	天智天皇「秋の田の」歌(1)古注釈
第7回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌(2)解説
第8回	『百人一首』講読	持統天皇「春さぎて」歌(2)古注釈
第9回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)解説
第10回	『百人一首』講読	藤原定家と後鳥羽院の関係
第11回	『百人一首』講読	後鳥羽院「人もをし」歌(99)古注釈
第12回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌(100)解説
第13回	『百人一首』解説	順徳院「もしきや」歌(100)古注釈
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

・講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
・角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999年）
・角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010年）
その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70％）、平常点（30％）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文学研究特講 (3) 中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

当科目では中世日記文学『とはずがたり』を取りあげます。作者は後深草院に仕えた二条という女性です。若く美しい作者は後深草院の寵愛を受けることになりますが、それが彼女の苦悩の始まりでした。

この作品には、両統迭立期の院御所の有様がつぶさに記され、後深草院と亀山院の対立関係、公卿たちの動向、そしてそうした場で繰り広げられる男女の愛憎劇が描写されており、きわめて複雑な作品構造をしています。混沌とした中で一つの軸として見えてくるのは作者自身と後深草院の関係性という問題です。

当授業では、作者が後深草院をどのように描写しているか、院と自分との関係をどのように認識し表現しているのかに注目しながら、読解を進めます。表現・人物造型の方法、政治的動向を描く際の手法等を分析しながら、日記文学の特質や面白さ、また文学史的位置づけについて考察していきます。

【到達目標】

- ①日記文学に関する基本的な知識を習得する。
- ②中世の歴史的文化的背景を理解した上で作品を解釈する。
- ③和歌や物語の享受の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントに、できるかぎり回答していきます。授業を進めます。また状況に応じてクリッカーを用い、理解度を確認したり、アンケートをとったりします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし /No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『とはずがたり』概説	作品の概要、研究史など
第3回	『とはずがたり』巻一	後深草院との新枕
第4回	『とはずがたり』巻一	後深草院と「雪の曙」
第5回	『とはずがたり』巻一	東二条院へのとりなし
第6回	『とはずがたり』巻二	粥杖事件
第7回	『とはずがたり』巻二	「有明の月」との関係
第8回	『とはずがたり』巻二	六条院の女楽事件
第9回	『とはずがたり』巻三	「有明の月」への仲介
第10回	『とはずがたり』巻三	院御所からの追放
第11回	『とはずがたり』巻四	伏見での邂逅
第12回	『とはずがたり』巻五	熊野での夢想
第13回	『とはずがたり』巻五	後深草院の葬送
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにしてください。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、学習支援システムに毎回提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

現代語訳付きプリントを配布する等、古典文学に苦手意識がある人にも理解しやすい、また復習しやすい教材作りに努めます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with *The Confessions of Lady Nijō* (とはずがたり *Towazugatari*).

Learning Objectives: The goal of this course is to help students acquire an understanding of works of courtly literature of the Kamakura period.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC (文学 / Literature 200)

日本文芸研究特講（４）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火2/Tue.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【近世文学と古典文学】

江戸時代には、出版文化を背景に中世までのさまざまな古典をふまえた作品が作られました。それら現代でいう二次創作の作品は、原作にたいして、ちやかしたり、オマージュを捧げたり、態度はさまざまですが、それぞれ原作を当世（現代）＝江戸時代化することで成りたっています。『源氏物語』『平家物語』をはじめ、さまざまな古典文学に親しみつつ、江戸時代的特徴を考える一挙両得の講義です。

【到達目標】

1. 江戸文芸に表れた近世的特徴を理解する。
2. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
3. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

2～3回で1ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成、作品の作り方を追体験してもらうべく、創作にも挑戦する。

発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	江戸時代の特徴を知る。
第2回	パロディ文芸のはじまり①	江戸時代初期のパロディ文芸のなかから『吉原徒然草』を読む
第3回	パロディ文芸のはじまり②	『吉原徒然草』にならってパロディに挑戦する
第4回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』①	西鶴の『好色一代男』巻一～の設定から光源氏のやつしとしての世之介を考える
第5回	近世的『源氏物語』としての『好色一代男』②	『好色一代男』巻四～二形見の水櫛において『伊勢物語』『源氏物語』がどう活かされているかを考える
第6回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ①	狂歌というジャンルと江戸狂歌について知る
第7回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ②	歌麿描く江戸狂歌の名作『画本虫撰』を読んで創作にチャレンジする
第8回	和歌ではなく狂歌で遊ぶ③	狂歌とことば遊びの見立絵本『絵本見立仮響尽』を読み、創作にチャレンジする
第9回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙①	「源平の戦いも面倒なので」打たれる真似をして茶番で済ませる!?という設定の恋川春町画作『万歳集著微来歴』前半をよむ
第10回	『平家物語』のストーリーをちやかす-黄表紙②	「万歳集著微来歴」後半を読む
第11回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬が『平家物語』敦盛最期をちやかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む
第12回	『平家物語』を言葉でちやかす-滑稽本②	『大千世界楽屋探』を分析し、創作にチャレンジする
第13回	『源氏物語』を近世化する-合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学び、『修紫田舎源氏』の大枠を知る
第14回	『源氏物語』を近世化する-合巻②	『修紫田舎源氏』の『源氏物語』夕顔巻に該当する部分の前半を読む
第15回	『源氏物語』を近世化する-合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む
まとめ		最後にこの時代の文芸の特質を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに小課題を出します。

本授業の準備学習は30分・復習時間は平均して3時間程度を標準に考えます。

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべきURLを提示します。

【参考書】

長島弘明編『〈奇〉と〈妙〉の江戸文学事典』（文学通信 2019）・小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』（集英社インターナショナル［インターナショナル新書］、2019）ほか

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー（20％）、単元ごとの課題の得点（80％）を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と（予習も含めた）個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください！

【学生が準備すべき機器他】

デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も（スマホでもいいのですが）、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意すると便利です。図書館のデータベースのうちジャパナレッジは随時使えるようにしておきましょう。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes and Review for **Course Outline:** Reading and analyzing literature from the Tokugawa period based on the canons such as the tale of Genji or the tale of Heike etc.

Learning Objectives: The main goal of this course is to learn the features of the works from the Tokugawa period compared with the canons from earlier times.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation for 30 minutes, review for 2hours for each class. It will be about 4 hours, including the time for writing 4 short reports/semester.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (20%), short reports (80%).

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金2/Fri.2
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート プレゼンテーション担当の調整
第2回	「(国際) 日本学」とは	世界の中の日本 文化圏の存在 プレゼンテーションの準備
第3回	日本意識の芽生えと発展	「中華思想」との接触 中世の日本意識 プレゼンテーションの準備（続）
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究
第5回	討論会① 内村鑑三著 『代表的日本人』をめぐる	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japanの設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造 『武士道』をめぐる	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の大出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐる	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからバウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。
第6回 参考書 pp. 10-17
第7回 参考書 pp. 18-23
第8回 参考書 pp. 64-69、70-77
第14回 参考書 pp. 104-111
その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。
プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。

【参考書】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（ISBN4-12-100832-4）
その他、授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分でないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC (文学 / Literature 300)

日本文芸研究特講 (15) 国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金2/Fri.2
秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた*The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀、1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた*The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会 (授業第5・9・12回) で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保 (『日本文化論』の変容) の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章 “Debtor to the Ages and the World” と第6章 “Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま (極論も含めて)
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章 “The Repayment Hardest to Bear” と第8章 “Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧 (イ・オリョン)、ハルミ・ベフ、青木保、ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章 “The Dilemma of Virtue” と第12章 “The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化の恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 参考書① pp. 182-187

第4回 参考書② pp. 31-55

第6回 参考書① pp. 214-219、266-271

第7回 参考書① pp. 248-253

第11回 参考書① pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書を使用しない。

【参考書】

①佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』(中央公論社、1987) 中公文庫 832 (ISBN4-12-100832-4)

②青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』(中央公論社、1990) 中公文庫 533、1999 (ISBN4-12-203399-3)

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー (35%)、プレゼンテーションと議論への参加度 (25%)、期末レポート (プレゼンテーションを文章化したもの、40%)。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

以前、各自のプレゼンテーションが長くなり、時間内に終わらなかったり、討論が十分できないことがあったりしたので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict’s *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict’s book, students participate in one of three presentations on Benedict’s discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict’s book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of reference works are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I A

波戸岡 景太

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしうるかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代文学とカルチャー
第2回	第二次世界大戦の記憶	ホロコースト以後の文学
第3回	体制とカルチャー	1950年代の若者たち
第4回	超大国の挫折	1960-70年代のアメリカ（教科書 1-1）
第5回	スター・ウォーズの時代	「帝国」への抵抗（教科書 1-2）
第6回	経済成長の限界	ノスタルジア・ブーム（教科書 1-3）
第7回	「るつば」の先へ	移民とフェミニズム（教科書 1-4）
第8回	ファンタジーランド	陰謀論の台頭（教科書 1-5）
第9回	暴力の表象	ダークな想像力（教科書 1-6）
第10回	新しいファシズム	ナチス表象の再来
第11回	表象と倫理	ソントグの批評を読む
第12回	1980年代を考える	大統領と文学（教科書 2-1）
第13回	ノスタルジア再び	再男性化するヒーロー像（教科書 2-2）
第14回	まとめ／期末試験	ポストモダン文学の可能性／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Pynchon, Thomas. *Gravity's Rainbow*. Viking, 1973.
 -. *Slow Learner*. Brown, Little, 1984.
 Sontag, Susan. *Against Interpretation*. Picador, 2001.
 -. *Under the Sign of Saturn: Essays*. Farrar Straus & Giroux, 1980.
 -. *Illness as Metaphor and Aids and Its Metaphors*. Picador, 2001.
 Vonnegut, Kurt. *Slaughterhouse-Five*. Delacorte, 1969.

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに向き合ってきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

LIT200BD (文学 / Literature 200)

英米文学講義 I B

波戸岡 景太

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代アメリカ文学についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説を行います。授業では、主に1960年代以降の文学作品ならびに批評書を具体的に分析することで、現代の国際社会におけるさまざまな課題について、文学とその批評がいかなる貢献を果たしているかを学びます。

【到達目標】

- (1) 現代アメリカ文学作品に描かれる国の歴史と文化について概略を理解する。
- (2) ポストモダン文学ならびに文化についての知識を獲得する。
- (3) 英語圏文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で現代アメリカ文学の特性について考察するとともに、文学研究／批評の方法論に精通できるよう実践的な解説を行う。また、各回の最初に小テストを実施するため、前回授業で指定された課題文をよく読んでおくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	嘘とフィクションの違い
第2回	文学における「若さ」	ビート世代からZ世代まで
第3回	1980年代のマイノリティ	文化の盗用について（教科書2-3）
第4回	ニュー・ロストジェネレーション	ハイパー資本主義（教科書2-4）
第5回	ポスト冷戦	新しいヒーロー像（教科書3-1）
第6回	ジェネレーションX	クープランド作品を読む（教科書3-2）
第7回	マトリックスの時代	情報化社会の文芸（教科書3-3）
第8回	大きな物語の終焉	パルプ・フィクションの新しさ（教科書3-4）
第9回	9・11と文学	フォアとピンチョン
第10回	デリーロの新しさ	ホワイト・ノイズ再読
第11回	ハルキの文学	日本とアメリカの「戦後」（教科書第4-1）
第12回	記憶と文学	ディックの予見（教科書4-2）
第13回	非暴力の力	ソローからバトラーへ
第14回	まとめ／期末試験	世界的課題と文学の役割について／筆記試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料の予習・復習、および授業内で示される課題対応を実施してください。

【テキスト（教科書）】

丸山俊一他『世界サブカルチャー史 欲望の系譜 アメリカ70～90s「超大国」の憂鬱』（祥伝社、2022年）

【参考書】

Butler, Judith. *The Force of Nonviolence: An Ethico-Political Bind*. Verso Books, 2020.

Davis, Lydia. *Almost No Memory*. Picador, 2001.

DeLillo, Don. *White Noise*. Viking, 1985.

-. *Point Omega*. Scribner, 2010.

Foer, Jonathan Safran. *Extremely Loud and Incredibly Close*. Penguin, 2006.

Haraway, Donna. *Simians, Cyborgs and Women: the Reinvention of Nature*. Routledge, 1991.

-. *Companion Species Manifesto: Dogs, People, and Significant Otherness*. Prickly Paradigm, 2003.

Kakutani, Michiko. *The Death of Truth: Notes on Falsehood in the Age of Trump*. William Collins, 2018.

Pynchon, Thomas. *Vineland*. Little, Brown, 1990.

-. *Bleeding Edge*. Penguin, 2013.

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストの結果（50％）、最終回に実施する期末試験（50％）を合計し、60％以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学が現代の諸問題にいかに関与してきたかを、本授業を通じて初めて知ったという声が多かったため、今年度はより具体的なケースを分析することで作品解説を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about American literature, especially in the era of Postmodern. By learning historical and geographical backgrounds of the literary and critical texts since 1960s, students will understand how literary imagination contributes to solving global matters.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

There will be small tests at the beginning of each class. Grading shall be as follows:

1. Quizzes in class: 50%.
2. Final exam: 50%.

地理学概論（1）

前 杵 英明

授業コード：A3401 | 曜日・時限：木1/Thu.1
春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「『地理』から『地理学』へ」と移行するための基礎的知識を学ぶことを目的とする。この講義を受講すれば、1. 高校の地歴科地理で学習する地理的知識を再確認でき、2. 高校の教科である「地理」と学問の一分野である「地理学」との違いを理解でき、3. 自然地理学の導入部分を学ぶことができる。科目名を自然地理学概論と読み替えてもよい。

【到達目標】

高校の地歴科「地理」で学習する地理の知識を再確認し、高校の教科としての地理と学問の一分野である地理学の違いを理解する。また、自然地理学を構成する地形、気候、陸水・海洋、植生などの自然環境や自然災害に関する基礎的な知識を身に付け、今後の学年進捗に伴う専門教育を受けるための基礎を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週プレゼンファイルを使い、それを解説する形式である。プリントを配布するとともに、予習・復習に必要なプレゼンファイルの圧縮版および解説文を学習支援システムに上げる。課題（質問事項）等を課した場合は学習支援システムにて回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地理学と自然地理学	地理学と自然地理学について説明する。本学期のシラバスについて確認する。地球惑星科学の一分野としての自然地理学や自然史について説明する。
第2回	気候①＜大気大循環と気候要素・因子＞	地球の熱収支、大気大循環、気候要素、気候因子について講義する
第3回	気候②＜世界の気候区分と日本の気候区分＞	ケッペンをはじめとした様々な気候区分、日本の気候の特色や気候区分、局地風や都市気候などについて講義する。
第4回	気候③＜最終氷期以降の気候変動＞	最終氷期以降の気候変動、自然環境の変化について講義する。
第5回	地形①＜世界と日本の大地形＞	大地形、地帯構造、プレートテクトニクスなどについて講義する。
第6回	地形②＜平野と海岸の地形＞	平野と海岸、台地と扇状地、沖積低地の微地形について講義する。
第7回	地形③＜変動地形＞	内作用に起因する変動地形や火山地形について講義する。
第8回	地形④＜第四紀と氷期＞	第四紀、気候変動と地形、氷河・周氷河地形等について講義する。
第9回	水文①＜水循環と流域、陸水＞	水循環と水収支、流域の水循環と物質循環、水文学のベースである地下水学の基礎と陸水学の起源である湖沼学の基礎について講義する。
第10回	水文②水循環と流域、海洋＞	水循環と水収支、海洋循環と気候変動などについて講義する。
第11回	土壌と植生＜土壌の基礎・植生景観・文化＞	土壌学の基礎を植生景観や文化景観と関連させながら講義する。
第12回	自然災害	さまざまな自然災害について、自然地理学との関連で講義する。
第13回	環境問題	地球環境史のふり返りとこれからの地球環境について講義する。
第14回	本学期の講義内容の振り返り	本学期の講義内容の振り返りとして確認試験などを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で使用した地図帳があれば、授業理解に役立つ。プレゼンファイルの圧縮版を学習支援システムに上げておくので、予習・復習に役立てて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。プリントもしくはスライドのPDFを配布する。

【参考書】

高橋日出男・小泉武栄（2008）：地理学基礎シリーズ2「自然地理学概論」、朝倉書店。

小野映介・吉田圭一郎（2021）：みわたす・つなげる自然地理学、古今書院。

【成績評価の方法と基準】

試験90%、平常点10%で総合的に評価する。平常点は出席状況や積極的な質問等で判断する。全回出席を原則とする。公欠等でやむを得ず休む場合でも開講回数の2/3以上出席していないと評価しない。初回からカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

初回授業で、本科目の主旨と講義の概要を説明するので、必ず出席すること。また、毎年の本講義の授業評価結果を踏まえて講義の改善に努める。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、Power Point、および理解に有効な映像を適宜、用いて受講生の理解の一助に努めながら講義を構成する。資料は、学習支援システムでダウンロードした上で、予習・復習をする必要がある。

【その他の重要事項】

地理学科の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞

自然地理学、（変動）地形学、第四紀学

＜研究テーマ＞

プレート沈み込み帯における地震性地殻変動に関する地形・地質学的研究、新生代氷床変動に関する地形・地質学的研究、環境変化と人間社会に関する自然地理学的研究

＜主要研究業績＞

前杵英明ほか（2005）：沈み込み帯沿岸の地殻変動を記録する古潮位計としての完新世暖温帯石灰岩に関する予察的研究。地理科学, vol.60-3, pp.136-142.
Maemoku, H. et.al. (1997) : Stratigraphy of the Late Quaternary raised beach deposits in the northern part of Langhovde, Lutzow-Holm Bay, East Antarctica. The Proceedings of NIPR Symposium Antarctic Geoscience, 10, 178-186.
Maemoku, H. et.al. (2012) Geomorphological constraints on the Ghaggar River regime during the Mature Harappan period, in Climates, Landscapes, and Civilizations, Geophys. Monogr. Ser., vol. 198, edited by L. Giosan et al., 97– 106, AGU, Washington, D. C.

【Outline (in English)】

The theme of this lecture is to confirm the foundation for shifting from "chiri" to "geography". The goal of this lecture is: 1. Reaffirming or reviewing geographical knowledge learned through the high school subject, 2. Understanding the differences Geography as a high school subject from Geography as a scientific discipline, 3. And learning the introductory part of Physical geography.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.getting knowledge on natural environments and natural hazards
- B.getting ability to step up to the special education in the following grade.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (90%), and in-class contribution(10%).

GEO100BF（地理学 / Geography 100）

地理学概論（2）

伊藤 達也

授業コード：A3402 | 曜日・時限：木3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学でも特に人文地理学分野のテーマを中心にした全体的な概要把握が授業概要と目的です。

【到達目標】

授業で行う一つ一つのテーマ、内容が人文地理学細分野の入門となっており、今後、学生が地理学を学んでいく上での基礎となることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	人文地理学とは何か	人文地理学とは何かについて、系統地理と地誌の関係、細分野の詳細などを中心に説明します。
第2回	多様な国家	古典国家、現代国家の違い、現代国家の役割などについて説明します。
第3回	国境を超える政治経済	経済のグローバル化、政治のブロック化の中での社会変容について説明します。
第4回	アジアの経済発展（1）	アジアの特徴、多様性について説明します。
第5回	アジアの経済発展（2）	アジアの経済発展について説明します。
第6回	地域経済の論理（1）	地域を構成する3要素について説明します。
第7回	地域経済の論理（2）	地域経済の発展について説明します。
第8回	都市とは何か	都市の歴史と制度的特徴について説明します。
第9回	山村の過疎化と地域振興（1）	熊本県五木村のダム問題について説明します。
第10回	山村の過疎化と地域振興（2）	山村の地域振興策について説明します。
第11回	カッパの地理学（1）	カッパの特徴と地域分布について説明します。
第12回	カッパの地理学（2）	カッパを使った地域振興について説明します。
第13回	人文地理学の可能性	人文地理学の課題について説明します。
第14回	まとめ	講義全体のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。地域をよく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ありません。

【参考書】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編著（2020）『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房

山崎 朗ほか（2022）『地域政策（第二版）』中央経済社

藤井 正・神谷浩夫編（2014）『よくわかる都市地理学』ミネルヴァ書房

浮田典良（2010）『地理学入門改訂版－マルチ・スケール・ジオグラフィー』原書房

R.J. ジョンストン著／立岡裕士訳（1997、1999）『現代地理学の潮流（上・下）』地人書房

【成績評価の方法と基準】

定期試験100%。授業への出席は単位修得の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline) The outline and purpose of the course is to grasp the overall outline centered on the theme of human geography.(Learning Objectives) Each theme and content of the class is an introduction to the subfield of human geography, and the goal is to serve as a foundation for students to study geography. (Learning activities outside of classroom) Connect content of the class to the events in real life. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy) Regular Exam 100%

組織論入門

戎谷 梓

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組織の仕組みや人々の行動原理を理解し、現代社会の複雑な組織環境において効果的に意思決定を行う力を身につけるのに必要な点を学びます。また、リーダーシップやコミュニケーションのスキルを高め、多様性や文化的差異を尊重しながらチームや組織全体を効率的かつ円滑に運営する方法についても考えます。さらには、環境の変化に対応した柔軟な戦略立案や、組織の成長・変革を支えるためのアプローチについてディスカッションします。これらを通じて、組織の成功やその社会的価値について理解を深めることを目指します。

【到達目標】

本授業を履修することにより、受講学生には以下の達成が期待されます：
(1) 組織の構造や文化の基本理論を理解し、実在の組織の特徴を説明できるようになる。
(2) ケーススタディを通じて、特定の組織課題に対する解決策を理論的に提案できるようになる。
(3) リーダーシップの基本的な理論を学び、自身のリーダーシップスタイルをどのように発展させられるか考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は、講義とディスカッションにより進めます。受講学生には、グループディスカッションやクラスディスカッションに積極的に参加することが求められます。また、学期末にはリフレクションエッセイを執筆します。

なお、受講者からの質問・相談は授業の前後に随時受け付け、フィードバックを行います。その他にも、メールのやり取りやオフィスアワーを通して対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要や参加要件について知る。
第2回	組織の定義	・組織の目的や組織の役割について理解する。
第3回	組織構造	組織内の役割や権限、責任の分配について知る。また、具体的な組織構造の例を理解する。
第4回	権限と責任	意思決定権や行動力の範囲、行動やその結果への説明責任について理解する。
第5回	組織文化	組織内で共有される価値観、信念、慣行、ルールについて理解する。また、それらが組織行動やパフォーマンスに与える影響について考える。
第6回	組織行動	個人やグループが組織内で行動する際の傾向やその条件・要因について考える。
第7回	組織の目標	組織が達成しようとする成果や目的と、短期目標と長期目標との関連について考える。
第8回	組織の環境適応	外部環境の変化（競争、技術革新、規制など）に対して組織がどのように対応すべきを考える。
第9回	リーダーシップ	様々なリーダーシップスタイルを知り、組織を目標達成に導くための指導力や意思決定力について考える。
第10回	モチベーション	個人やグループが目標に向けて努力する際の内的・外的要因について理解する。
第11回	意思決定	問題解決や戦略策定のために選択肢を評価・決定するプロセスについて理解する。
第12回	コミュニケーション	垂直的・水平的・非公式のコミュニケーションなど、組織内外の情報交換プロセスについて理解する。
第13回	組織のライフサイクル	組織の誕生・成長・成熟・衰退・再生のプロセスについて理解し、各ステージでの課題や戦略について考える。
第14回	リフレクション	学期を通して学んだ点をレビューし、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の受講学生は、毎回の授業で行われるディスカッションに十分参加できるよう、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有される授業資料に目を通し、内容を十分把握しておく必要があります。事前準備や復習に必要な授業時間外の時間として、週に平均4時間ほど必要になります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業資料は教員が準備し、事前に学習支援システム（Hoppii）上で共有します。

【参考書】

授業中または学習支援システム（Hoppii）上で適宜お知らせします。

【成績評価の方法と基準】

グループディスカッション：30%
クラスディスカッション：30%
リフレクションエッセイ：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際に学習支援システム（Hoppii）を利用するため、受講者は毎回の授業に個人のパソコンを持参する必要があります。

【その他の重要事項】

特になし。

【関連科目】

経営管理論、経営組織論、組織行動論等

【Outline (in English)】

In this course, you will learn the points necessary to understand the mechanisms of organizations and the principles of human behavior, and to acquire the ability to make effective decisions in the complex organizational environment of modern society. You will also consider how to improve leadership and communication skills, and how to efficiently and smoothly manage teams and organizations as a whole while respecting diversity and cultural differences. Furthermore, you will discuss flexible strategic planning in response to environmental changes, and approaches to supporting the growth and transformation of organizations. Through these activities, you will aim to deepen your understanding of organizational success and its social value.

By taking this course, you are expected to achieve the following:
(1) Understand the basic theories of organizational structure and culture, and be able to explain the characteristics of real organizations.
(2) Be able to propose theoretical solutions to specific organizational issues through case studies.
(3) Learn the basic theories of leadership and consider how to develop their own leadership style.

Students taking this course need to read the class materials shared on the learning support system (Hoppii) in advance and understand the content so that they can fully participate in the discussions that take place in each class. On average, you will need to spend about 4 hours per week outside of class time for preparation and review.

Grades for this class will be assessed using the following criteria: Group discussion (30%), Class discussion (30%), Reflection essay (40%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

組織論入門

中西 善信

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 F～K

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織の仕組みや行動には、何らかの理由や意図がある。このような組織の行動の理由や意図は、組織論の各理論によって説明することが可能である。それらを理解することは、社会を生きる上で有用であろう。

そこでこの講義では、組織論の基本的な考え方、すなわち、組織の仕組みや行動の背景は何か、そして組織を構成する個人を動かすものは何か、学ぶ。そして、現在および将来において、組織論を実際に適用できるようになることを目指す。

その際、可能な限り学生の日常生活（ゼミ活動、サークル、アルバイトなど）を参照する形で説明する。

なお、本授業は、必ずしも組織論の内容を「広く薄く」網羅するものではない。組織論を中心に、経営学の特徴や魅力を知ってもらえるようなトピックを中心に選んでいる。

【到達目標】

1. 経営学の中での、組織論の位置付けと他領域との関係を説明できる。
2. 組織論の基本的な概念について、説明することができる。
3. 組織の仕組みと行動、並びにそれらの意図・機能を、理論に関連付けて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

対面講義による（ただし、内容により、一部の回をオンラインに変更することがある）。

また、毎授業終了時に小レポートの提出を課す（解答の概要を、次回講義冒頭においてフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義概要・履修要件など
第2回	経営学と組織論	組織論とはどのような学問領域か
第3回	組織とは何か	組織はなぜ成り立つのか
第4回	官僚制組織と逆機能	規則の体系としての組織とその副作用
第5回	組織におけるコミュニケーション	コミュニケーション・ミスをなくすために
第6回	組織形態	仕事を分割する、間を取り持つ
第7回	組織間関係	組織の間の関係性のさまざまなタイプ
第8回	戦略的提携	企業はなぜつるむのか
第9回	社会ネットワーク	組織や人のつながりのカタチ
第10回	組織文化と制度	組織の個性と没個性
第11回	組織学習	組織学習とは何か、なぜそれが困難なのか
第12回	企業制度とガバナンス	企業を動かすしくみ
第13回	キャリアと人的資源管理	仕事からみた人の生涯とそのマネジメント
第14回	まとめ	講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
適宜資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

各回提出の小レポート（100%）。
ただし、各回のウエイトを変えることがある。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用した資料配布や課題提出のため、これに対応可能な情報機器（パソコン等）が必要。

【関連科目】

経営管理論 I/II, 経営組織論, 組織行動論等

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, we will learn the fundamental knowledge on organizational management.

[Learning objectives] Students can explain essential concepts of organizational management.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy] Evaluated by papers submitted at each session (100%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 L～Q

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する
内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます

2) 経営学のモノの見方を学ぶ

現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます

3) 今後の学習へのガイド

多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる

2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる

3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

・対面授業として実施します(授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります)。

・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。

・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。

・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻く ステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義(ゲスト講義1)	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義(ゲスト講義2)	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018)『人事管理』有斐閣。

2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010)『組織論 補訂版』有斐閣。

その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

期末試験：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型(zoomを利用)のオンライン授業形式を取り入れることがあります。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course Outline

This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.

Learning Objectives

- 1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.
- 2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.
- 3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.

Learning Activities Outside of Class

- Review sessions for each class

- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

- End-of-Term Examination: 40%

- Sub-report: 60%

MAN100FA (経営学 / Management 100)

組織論入門

橋本 諭

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 R～U

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論入門は、3 つの特徴があります。

1) 経営学における組織論に関する基礎的な内容を広く学習する
経営学が対象とする分野は多岐にわたります。中でも組織や人が関係する
内容について初学者に向けて基礎的な内容から全体像を把握できるように体系的に学びます

2) 経営学のモノの見方を学ぶ

現実の諸現象(たとえば企業を取り巻く諸現象)を経営学ではどのように捉えるのかについて、事例を元に学びます

3) 今後の学習へのガイド

多様な分野がある経営学の中で専門とすべき内容を選択するためのガイドとなるよう、学習内容に沿って今後のキャリアを意識した情報提供を行います

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 3 点です。

1) 組織論の基礎的な内容について、主要なキーワード、概念について説明することができる

2) 経営学としてのモノの見方を意識し、日常生活の現象を経営学の観点から説明することができる

3) その後の発展的な内容の学習につながる学習プランを作成することができる

また、これらを通じて主体的に考えるというマインドを身に付けることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

・対面授業として実施します（授業内容に沿って事前に告知した上でオンラインで実施することもあります）。

・授業内容に沿って小レポートおよびリアクションペーパーの提出を求めます。

・各回の詳細は、学習支援システムに記載します。

・小レポートおよびリアクションペーパーについては、授業の中で解説を行い、また点数を個別にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	経営学とは何か (1)	企業経営とは何か： 株式会社とは何か、企業を取り巻く ステークホルダー
第3回	経営学とは何か (2)	現代の働き方： 採用、キャリア、転職に関する課題
第4回	組織マネジメント (1-1)	組織マネジメントとは： 組織をマネジメントするとはどういうことか
第5回	組織マネジメント (1-2)	組織マネジメントの現代的課題： 現代の企業を取り巻く課題
第6回	事例講義（ゲスト講義1）	現在の組織課題に関連する事例学習
第7回	組織マネジメント (2-1)	組織文化： 組織文化は変革できるのか
第8回	組織マネジメント (2-2)	組織開発： 組織開発の光と闇
第9回	人材マネジメント (1-1)	人材マネジメント概要： 人材マネジメントの範囲と内容
第10回	人材マネジメント (1-2)	人材マネジメントの現代的課題： 人材マネジメント上の問題点とは何か
第11回	事例講義（ゲスト講義2）	現在の組織課題に関連する事例学習
第12回	人材マネジメント (2-1)	リクルーティング： 就職活動と採用活動
第13回	人材マネジメント (2-2)	人材育成： 人材育成の現代的課題と論点
第14回	ラップアップ	授業の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業項目、授業内容を確認して授業に参加すること。また、授業後に該当分野に関連する事例を生活の中で探すこと、そしてそれをきっかけとした学びを深めることを期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルにて配布します。

【参考書】

1) 平野 光俊 江夏 幾多郎 (2018)『人事管理』有斐閣。

2) 桑田耕太郎 田尾雅夫 (2010)『組織論 補訂版』有斐閣。

その他、授業と合わせて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の通りとします。

期末試験：40% 小レポート：60%

小レポートについては授業中に課題し、内容は授業内でのグループワークの振り返り、ゲスト講義への感想、授業項目に関連するトピックで行います。

【学生の意見等からの気づき】

身近なテーマをもとにした内容について好評を得た。このクラスについても、時事ネタを取り入れながら進めていく

【学生が準備すべき機器他】

対面授業に加えて、リアルタイム配信型（zoom を利用）のオンライン授業形式を取り入れることがある。

オンラインでの学習ができるように、インターネット環境、PC 環境、カメラオンで授業に参加できる環境を用意してほしい。

【その他の重要事項】

特になし

【関連科目】

なし

【Outline (in English)】

Course Outline

This introductory course is designed to provide students with a solid foundation in understanding organizations. It covers three main topics: the fundamentals of business management, organizational behavior, and human resource management. The course serves as a stepping stone for more advanced studies in these areas.

Learning Objectives

- 1) Explain key terms and concepts related to the fundamentals of organization theory.
- 2) Analyze everyday phenomena from the perspective of business administration.
- 3) Develop a study plan that prepares students for more advanced content.

Learning Activities Outside of Class

- Review sessions for each class
- The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

- End-of-Term Examination: 40%
- Sub-report: 60%

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門**安藤 直紀**専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

好業績の企業と、そうでない企業を分けるものは何でしょうか。様々な要素が考えられますが、経営戦略が 1 つの要因として挙げられます。この講義では、大学で経営戦略を学んでいくために必要とされる基礎的な事項を学びます。企業の経営戦略を理解し、分析するための理論的な基礎を習得することを目指します。

【到達目標】

1. 外部環境分析の基礎を習得します。
2. 経営資源分析の基礎を習得します。
3. 経営戦略の基本類型を理解します。
4. 多角化戦略の基礎を理解します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この講義の形態は、対面形式とします。一部、オンライン形式でも行います。授業方式の詳細は、学習支援システムの教材フォルダーの中に置きます。確認してください。

授業はパワーポイントのスライドを用いた講義形式をとります。講義で使用するスライド等の資料は、学習支援システムの教材フォルダーの中に置きます。理論の説明だけでなく、事例を交えて講義していきます。インタラクティブな講義にするために、講義中に意見等を求めます。また、授業の中で課題にも取り組んでもらいます。

課題の提出は学習支援システムを活用します。課題や質問へのフィードバックは、講義内や学習支援システムを通して適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関するオリエンテーション
第 2 回	経営戦略とは	経営戦略とは 競争優位とは
第 3 回	経営戦略の基本的な分析手法	SWOT 分析
第 4 回	外部環境分析（1）	外部環境とは
第 5 回	外部環境分析（2）	ファイブ・フォース・モデルとは
第 6 回	外部環境分析（3）	ファイブ・フォース・モデルからの示唆
第 7 回	内部環境分析（1）	経営資源とは
第 8 回	内部環境分析（2）	経営資源と競争優位
第 9 回	事業レベルの戦略（1）	戦略の類型
第 10 回	事業レベルの戦略（2）	コスト・リーダーシップ戦略とは
第 11 回	事業レベルの戦略（3）	差別化戦略とは
第 12 回	企業レベルの戦略（1）	多角化戦略とは
第 13 回	企業レベルの戦略（2）	多角化戦略と企業業績
第 14 回	まとめ	これまでの学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の後、次の授業までの間に、配布資料やノートの読み直し等、復習を行うことが求められます。

課題が出た場合は、課題を行うことが求められます。

講義のための準備・復習時間は、各 2 時間（合計 4 時間）を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。補助的な材料として、学習支援システムにパワーポイント資料を掲載します。

【参考書】

井上達彦・中川功一・川瀬真紀『経営戦略ベーシック+』中央経済社、2019 年
その他参考文献に関しては、講義内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

下記の比率で評価します。

定期試験：80%

講義内で出される課題：20%

講義内での発言等に対して、プラス点を加算します。プラス点が加算された場合、合計点が 100 点を超えることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

企業の事例を紹介する時間を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形態で行う回がありますので、オンライン講義を受講するための情報機器が必要です。

【関連科目】

関連科目は、経営戦略論 I/II、経営管理論 I/II、マーケティング論 I/II、戦略的意思決定論 I/II、技術管理論 I/II、製品開発論 I/II、グローバル経営戦略論 I/II、中小企業論 I/II、日本経営論 I/II、経営情報論 I/II などです。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

What determines firms' success? Among various factors, strategy is considered one of the fundamental factors for a firm's success. This course introduces students to key concepts and frameworks of strategic management. Students learn basic theoretical frameworks to understand and analyze firms' competitive strategies.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand the basics of strategic management, which includes external environment analysis, the resource-based view, business-level strategy, and corporate-level strategy.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are required to complete assignments, read assigned reading materials, and review the notes they took. More than four hours per week should be dedicated to preparation and review.

(Grading Criteria/Policies)

Students will be evaluated on a term-end examination (80%) and in-class assignments (20%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

吉田 健二

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]
営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式で行います。

講義を行います。また、ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念とドメイン	経営理念、ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕』有斐閣、2023年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。**【参考書】**

- ①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
- ②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
- ③伊丹敬之『経営戦略の論理（第4版）』日本経済新聞出版社、2012年。
- ④マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014年。
- ⑤デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
- ⑥M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。
- ⑦M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。

①～⑤は経営戦略論のテキストで、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。

他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

詳細は、第1回目の授業で説明します。

当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

「がっちりマンデー!!」（TBSテレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

経営戦略論

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(100%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

戦略論入門**福島 英史**専門入門科目 100 番台 1～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A～E

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略とは、「企業が実現したいと考える目標、およびそれを実現させるために何をどのように行っていくのか」という道筋を示す、基本的な構想や指針の「こと」を意味しています。この授業では、こうした経営戦略に関する基礎的な内容を、さまざまな業界の実際の事例を交えながら、なるべく分かりやすく説明していきます。

【到達目標】

経営戦略論の基礎的事項が習得できる
競争戦略の概念・理論の基礎を理解できる
企業戦略の概念・理論の基礎を理解できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。また、理解を助けるために、ビデオ教材を適宜取り入れます。オンライン開講へ変更になる場合は学習支援システムでお知らせします。授業中に、トピックスに関連したエクササイズ（経営学クイズ）を解く課題があります。その際、発言を求められることがあります。教員のコメントや良答を紹介する等します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、導入ストーリー
第2回	経営戦略論では何を学ぶか	経営学の中での経営戦略論の位置づけ、経営戦略の定義
第3回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅰ）	PEST分析および3C分析と、その考え方
第4回	経営戦略の基本的な考え方と分析手法（Ⅱ）	SWOT分析の考え方
第5回	業界構造分析	5 Forces分析と、その考え方
第6回	競争戦略の類型	三つの基本戦略の考え方
第7回	資源ベース論	VRIO分析と、その考え方
第8回	競争戦略の事例	事例による競争戦略の理解と確認
第9回	成長戦略と海外展開	成長ベクトルとグローバル経営の二軸
第10回	企業戦略（Ⅰ）	企業の境界、事業の多角化
第11回	企業戦略（Ⅱ）	事業ドメインとPPM分析
第12回	知識のマネジメント	知識とイノベーション過程
第13回	ベンチャー企業と戦略	新興企業の戦略
第14回	まとめ、試験	学習のまとめ・成果の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回講義について復習するとともに、身近な事例についてその意味を考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。担当教員が作成した教材を配布します。

【参考書】

- ・沼上幹(2008)『わかりやすいマーケティング戦略（新版）』有斐閣。
- ・浅羽茂・牛島辰男(2010)『経営戦略をつかむ』有斐閣。
- ・M.E.ポーター(1995)『競争の戦略(新訂)』ダイヤモンド社。
- ・網倉久永・新宅純二郎(2011)『経営戦略入門』日本経済新聞出版。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（86％）と各回の課題（14％）の合計（100％）で評価します。期末試験を受けなかった場合、E評価になりますのでご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズ課題の時間をしっかりと、企業等の事例を引き続き充実させていきます

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに、急なお知らせや関連資料が掲載されることがあります。受講者は、予め使用方法を理解しておくようにして下さい。

【その他の重要事項】

授業中の私語や、携帯電話の音声・撮影は、他の学生に迷惑がかかるので厳禁です。注意しても直らない場合、教室からご退位いただきます。授業中の迷惑行為が目にする場合、本授業の単位を付与しません。
関連科目は、戦略的意思決定論や経営戦略論、日本経営論、技術管理論、国際経営戦略論、マーケティング等です。

【Outline (in English)】

This course deals with introductory knowledge on strategic management, which is one of the core subjects in business administration. The goal of this course is to learn basic concepts and theories related to corporate strategy and business strategy as preparation for studying after the second grade. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and understand the course content. Grading will be decided based on semester-end examination (86%), and each class assignments (14%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

戦略論入門

吉田 健二

専門入門科目 100 番台 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営戦略についての様々な概念や理論を理解するとともに、企業が実際にとっている経営戦略を学ぶ。

【到達目標】

経営戦略論の基礎を身につけ、経営戦略とはどのようなものであり、企業は経営戦略をどのように策定し、実行しているのかを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

この授業は、対面授業形式で行います。

講義を行います。また、ときどきビデオを使って、なるべく分かりやすいようにするつもりです。

板書されないことでも自分が重要だと思ったことは、ノートに書くようにして下さい。

授業に対するコメント等は授業内で紹介し、次回以降の授業に活かすようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コースの説明	コースの概要と進め方等の説明
第2回	経営戦略の概念	経営戦略とは何か
第3回	経営戦略の策定プロセス	経営戦略の策定プロセス
第4回	経営理念とドメイン	経営理念、ドメイン
第5回	外部環境分析（1）	顧客分析、競争業者分析
第6回	外部環境分析（2）	業界分析、マクロ環境分析
第7回	自社能力分析	自社能力分析
第8回	事業戦略（1）	3つの基本戦略
第9回	事業戦略（2）	競争地位別の戦略
第10回	事業戦略（3）	製品のライフサイクル
第11回	企業戦略（1）	製品・市場マトリックス
第12回	企業戦略（2）	垂直統合戦略
第13回	企業戦略（3）	PPM
第14回	経営戦略の実行	経営戦略の実行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の復習とテキストの指定された部分を事前に読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沼上幹『わかりやすいマーケティング戦略〔第3版〕』有斐閣、2023年。
より良いテキストが見つかった場合には、変更する可能性があります。

【参考書】

- ①網倉久永・新宅純二郎『経営戦略入門』日本経済新聞出版社、2011年。
- ②清水勝彦『戦略の原点』日経BP社、2007年。
- ③伊丹敬之『経営戦略の論理（第4版）』日本経済新聞出版社、2012年。
- ④マイケル・ヒット、デュエーン・アイルランド、ロバート・ホスキソン『戦略経営論 <改訂新版>』センゲージラーニング、2014年。
- ⑤デービッド・アーカー『戦略立案ハンドブック』東洋経済新報社、2002年。
- ⑥M. E. ポーター『競争の戦略（新訂版）』ダイヤモンド社、1995年。
- ⑦M. E. ポーター『競争優位の戦略』ダイヤモンド社、1985年。

①～⑤は経営戦略論のテキストで、⑥と⑦は経営戦略論の古典と言われる本です。

他は、授業時にその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（100%）

詳細は、第1回目の授業で説明します。

当たり前のことですが、真面目に授業に出席しないと、単位が取れないようです。

【学生の意見等からの気づき】

経営戦略論の基礎を身につけるために、分かりやすい授業にするつもりです。また、見やすいように板書することに努めます。

【その他の重要事項】

「がっちりマンデー!!」（TBSテレビ、日曜日）、「カンブリア宮殿」（テレビ東京、木曜日）、「ガイアの夜明け」（テレビ東京、金曜日）のテレビ番組は、企業や経営者などを理解するのに役立ちますので、それらの番組を見ることをお勧めします。

【担当教員の専門分野等】

経営戦略論

【Outline (in English)】

This course deals with concepts and theories of strategic management and their applications to companies.

At the end of the course, students are expected to develop their perspective on what is a strategy and to gain insight into the ways in which organizations develop and implement strategies.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end examination(100%).

簿記入門 I

藤井 誠

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。

この授業における簿記のレベルについて、春学期は、日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分の前半を扱う。

大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つである。

日商簿記検定 3 級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。

会社における財産管理の技術を習得する。

日商簿記検定 3 級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリットについて学習する。
第 2 回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係について学習する。
第 3 回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引 8 要素と結合関係について学習する。
第 4 回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記について学習する。
第 5 回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記について学習する。
第 6 回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成について学習する。
第 7 回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表について学習する。
第 8 回	現金と預金（1）	現金、現金過不足の会計処理について学習する。
第 9 回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金について学習する。
第 10 回	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛と返品について学習する。
第 11 回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高帳について学習する。
第 12 回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、元帳、明細表について学習する。
第 13 回	売掛金と買掛金（2）と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金と春学期の内容の確認を行う。
第 14 回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。

復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧める。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義 3 級（最新版）中央経済社。

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC またはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4 サイズの PDF をスクロールなしで表示可能な端末が望ましい。）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第 1 回授業の際に説明する。

この科目は、経営学部の 1 年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容である。また、2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and since it is the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting.

In terms of the level of bookkeeping in this class, in the spring, we will cover the first half of the basic part of the scope of the Nissho Bookkeeping Certification Level 3.

For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting."

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

藤井 誠

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 L～Q

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業において、学生は、ビジネスの共通言語である「簿記」の基本的内容を習得することができる。簿記は「帳簿記入」の略とも言われ、会計データの基礎となることから、簿記を学ぶことは、会計学を理解するうえでも必須の知識となる。

この授業における簿記のレベルについて、秋学期は、日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分の後半を扱う。

大学において最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとっても、この「簿記入門」は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つである。

日商簿記検定 3 級の試験を目指して学習することも有用であるため、資格取得にも積極的に挑戦して欲しい。

【到達目標】

基本的な取引の内容を理解し、それを記帳し、さらに情報を編集して財務諸表を作成する理論と技術を習得する。

会社における財産管理の技術を習得する。

日商簿記検定 3 級に合格できる知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面形式とオンデマンド形式を併用して行う。まず、説明を行い、その後で例題等の問題を解くことにより、受講生の理解度を確認するとともに、理解の定着を目指す。毎回の授業終了後、各自で十分な復習を行うことが必要となる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務について学習する。
第 2 回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する。
第 3 回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理について学習する。
第 4 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒の意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上について学習する。
第 5 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理について学習する。
第 6 回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理について学習する。
第 7 回	税金	利益額に基づいて課される税金と利益以外の金額に基づいて貸される税金の会計処理について学習する。
第 8 回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法について学習する。
第 9 回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する。
第 10 回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する。
第 11 回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する。
第 12 回	問題演習	秋学期に学習した内容と 3 級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う。
第 13 回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する。
第 14 回	試験・まとめ解説	定期試験およびまとめ解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、当該回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておく。

復習として、当該回の関連するワークブックの問題を解く（わからない問題、間違えた問題は反復練習することが望ましい）。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とするが、予習より復習に重点を置くことを勧める。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社。

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社。

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30%）と定期試験（70%）の合計により成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義を聴いているだけでは集中力が持たないという声があるため、理論を実践する足掛かりとする意味も含め、講義中に実践的な演習課題に取り組む機会を設ける。そのため、電卓（スマートフォンの計算機アプリでも可）を持参すること。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業動画を視聴するための PC またはタブレット端末（スマホでは画面が小さく、十分な学習効果が見込めないため、A4 サイズの PDF をスクロールなしで表示可能な端末が望ましい）。

【その他の重要事項】

本授業は対面形式の授業回とオンデマンド形式（動画配信）の授業回によって構成する。ただしハイフレック形式ではない点に留意すること（対面形式の授業回に教室からの配信はしない）。具体的な日程や受講方法の詳細は、学事日程や国家試験の日程等を考慮しつつ、第 1 回授業の際に説明する。

この科目は、経営学部の 1 年生の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容である。また、2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「税務会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる。

【関連科目】

この授業は、2 年次以降の会計関連科目を学習する際の基礎となる科目である。

【Outline (in English)】

In this class, students will be able to acquire the basics of bookkeeping, the common language of business. Bookkeeping is also an abbreviation for "bookkeeping," and as it forms the basis of accounting data, learning bookkeeping is essential knowledge for understanding accounting.

In terms of the level of bookkeeping covered in this fall class, the second half of the basic scope of the Level 3 Nissho Bookkeeping Certification Examination will be covered.

For students who ultimately intend to specialize in accounting at university, as well as other students, this "Introduction to Bookkeeping" is one of the most important subjects, along with "Introduction to Accounting."

The standard time for preparation and review for this class is two hours each, but it is recommended that you place more emphasis on review than preparation.

Grades will be determined based on the combined total of in-class quizzes (30%) and regular exams (70%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門 I

福田 淳児

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記入門 I では、簿記の初学者を対象に、簿記の一連の手続きについて学習します。企業は、投資家や債権者をはじめとする外部の利害関係者に損益計算書や貸借対照表といった財務諸表を公表します。この授業では、それらの財務諸表を作成するための一連の手続きを理解すること、それらに示された情報の意味をできるようになることを目的とします。

【到達目標】

簿記入門 I では、簿記の目的の理解、商品売買の三分法による仕訳を含む基本的な取引の仕訳、総勘定元帳への転記また試算表の作成が行なえるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

簿記入門 I では、対面授業とオンデマンド方式での授業を併用して行います。簿記の一連の手続き、およびその意味について説明をし、その説明に基づいて例題を解くということを繰り返します。簿記は単に方法やその背後にある理論を学ぶだけではなく、自分で実際に、問題を解くことで理解が深まります。講義においても時間の許す限り練習問題を取り入れます。課題も課しますので、必ず解いて授業に臨むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簿記の意義と貸借対照表および損益計算書	簿記入門 I の講義の概略を紹介するとともに、簿記の基本的な目的や前提条件、さらに貸借対照表や損益計算書について説明する。
2	簿記上の取引および仕訳の基礎	簿記上の取引について明確にした上で、基本的な取引の仕訳の方法について学習する。
3	仕訳および総勘定元帳への転記	基本的な取引の仕訳と、それらの総勘定元帳への転記の方法について説明する。
4	仕訳・総勘定元帳への転記の練習	取引の仕訳から総勘定元帳への転記までの練習問題を解き、理解を深める。
5	商品売買の三分法による処理	商品売買の三分法による仕訳を中心に学習する。
6	商品売買に関連した補助簿の記録	売掛金元帳、買掛金元帳、さらに商品有高帳の記入方法について学習する。
7	商品売買に関連した問題演習	商品売買に関連した演習問題を解く。
8	現金・預金	現金および預金に関する処理について学習する。
9	クレジット売掛金および手形取引	クレジット売掛金、および約束手形について学習する。
10	その他の取引について	貸付金や借入金などを中心にその処理について学習する。
11	復習と計算演習	現金・預金およびその他の取引についての復習と計算演習を行う。
12	試算表の作成	試算表の機能およびその作成方法を学習する。
13	試算表の作成に関する問題演習	試算表の作成に関わる問題演習を行う。
14	問題演習	ここまで学習した内容について問題演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画で示された内容について、事前にテキストの該当箇所また授業支援システムを通じて事前配布する予定のプリントの内容を読み、できる範囲で理解した上で、対面授業に参加またオンデマンド授業を視聴すること。テキストの例題については、必ず自分で一度解いてみる。どこがわからないのかを自分なりに明確にして講義にのぞむこと。適宜、授業の終了時点で、確認のための問題を提示するので、授業支援システムなどを通じて提出すること。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各 2 時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

TAC 株式会社『合格テキスト 日商簿記 3 級』 TAC 株式会社出版事業部。2000 円

最新版を入手してください。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各期末に実施される定期試験に、講義の際に出した課題の提出状況を加味して評価します。成績評価の配分は期末に行われる試験結果が 70 %、課題の提出が 30 % です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックがありません。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布プリントについては授業支援システムを通じて配布を行います。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、より専門的に会計関連科目を学習する上での基礎となります。2 年次に受講する「会計学入門 I / II」、3 年次からの財務会計論 I / II、管理会計論 I / II および原価計算論 I / II といった会計専門科目が関連科目としてあげられます。

【Outline (in English)】

Introduction to Bookkeeping I is designed for students who are beginning their study of bookkeeping. The course covers the foundational procedures involved in preparing key financial statements, such as income statements and balance sheets, which companies use to communicate their financial position to external stakeholders, including investors and creditors. The primary aim of this course is to help students understand the series of steps involved in preparing these financial statements and to develop the ability to interpret and analyze the information presented in them. Especially in this module, students aim to understand the purpose of bookkeeping, journalise basic transactions, including the trichotomy of goods sold and bought, post to the general ledger and prepare trial balances.

Students are expected to complete all assigned readings from the textbook and any additional materials provided via the class support system prior to attending each session. Students should also engage with practice problems to reinforce their understanding of the course content.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated based on (1)Final Examinations (70%) and (2)Regular assignments (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

福田 淳児

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 F～K

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記入門Ⅱでは、企業が投資家や債権者をはじめとする外部の利害関係者に公表する損益計算書や貸借対照表といった財務諸表の一連の作成方法を理解すること、それらに示された情報の意味をできるようにすることを目的とします。損益計算書や貸借対照表は、企業が行った経済活動を簿記の一連のルールに基づいて、分析・記録することを通じて作成されますが、本講義ではこの簿記の一連の手続きを理解することを目的とします。

【到達目標】

簿記入門Ⅱでは、その他の様々な商企業の取引を仕訳するとともに、決算の予備手続きおよび本手続きについて理解し、それを自分で行なえるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

簿記入門Ⅱでは、対面授業とオンデマンド方式での授業を併用して行います。簿記の一連の手続き、およびその意味について説明をし、その説明に基づいて例題を解くということを繰り返します。簿記は単に方法やその背後にある理論を学ぶだけでなく、自分で実際に、問題を解くことで理解が深まります。講義においても時間の許す限り練習問題を取り入れます。課題も課しますので、必ず解いて授業に臨むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと簿記入門Ⅰでの学習内容の振り返り	授業のスケジュールを紹介すると共に、簿記入門Ⅰで学習した内容を振り返る。
2	決算および決算整理	決算の意味およびその手続きについて説明する。
3	売上原価の計算および貸し倒れの処理	売上原価の計算方法並びに貸し倒れの処理方法について説明する。
4	減価償却の方法と処理	減価償却の意味とその計算方法を説明する。
5	問題演習	ここまでの復習と問題演習を中心に行う。
6	経過勘定項目の種類と処理	経過勘定項目について、その内容と処理方法について説明する。
7	問題演習	経過勘定項目を中心に演習問題に取り組む。
8	決算整理後残高試算表	決算整理後残高試算表の作成について学習する。
9	精算表の作成	精算表の作成手順について学習する。
10	問題演習	精算表の作成に関する問題演習を中心に行う。
11	帳簿の締切と財務諸表の作成	帳簿の締切と貸借対照表および損益計算書の作成方法を学習する。
12	問題演習	小口現金の処理および小口現金出納帳の記録方法について学習する。
13	株式会社社会計	株式会社とは何かについて説明したのちに、剰余金の配当とその処分の処理について学習する。
14	証ひょうと伝票	証ひょうと伝票の種類およびその処理方法について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画で示された内容について、事前にテキストの該当箇所また授業支援システムを通じて事前配布する予定のプリントの内容を読み、できる範囲で理解した上で、対面授業に参加またオンデマンド授業を視聴すること。テキストの例題については、必ず自分で一度解いてみる。どこがわからないのかを自分なりに明確にして講義にのぞむこと。適宜、授業の終了時点で、確認のための問題を提示するので、授業支援システムなどを通じて提出すること。なお、本授業の準備・復習のための学習時間は、各2時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

TAC株式会社『合格テキスト 日商簿記3級』 TAC株式会社出版事業部。2000円

最新版を入手してください。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各期末に実施される定期試験に、講義の際に出した課題の提出状況を加味して評価します。成績評価の配分は期末に行われる試験結果が70%、課題の提出が30%です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当変更により、フィードバックがありません。

【学生が準備すべき機器他】

事前配布プリントについては授業支援システムを通じて配布を行います。

【その他の重要事項】

【関連科目】

この講義は、より専門的に会計関連科目を学習する上での基礎となります。2年次に受講する「会計学入門Ⅰ/Ⅱ」、3年次からの財務会計論Ⅰ/Ⅱ、管理会計論Ⅰ/Ⅱおよび原価計算論Ⅰ/Ⅱといった会計専門科目が関連科目としてあげられます。

【Outline (in English)】

Introduction to Bookkeeping II aims to provide students with a comprehensive understanding of how to prepare and interpret key financial statements, including income statements and balance sheets, which are essential for communicating a company's financial position to external stakeholders such as investors and creditors. Through the analysis and recording of economic activities based on established bookkeeping principles, students will learn the procedures involved in the preparation of these statements. The course will equip students with the skills necessary to interpret and evaluate the information presented in financial statements. The aim of this module is to provide students with knowledge and skills necessary to independently perform both the preliminary and main procedures involved in the closing of accounts.

Students are expected to complete all assigned readings from the textbook and any additional materials provided via the class support system prior to attending each session. Students should also engage with practice problems to reinforce their understanding of the course content.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated based on (1)Final Examinations (70%) and (2)Regular assignments (30%).

MAN100FA (経営学 / Management 100)

簿記入門 I**神谷 健司**

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学びます。簿記のレベルとしては、春学期は日商簿記検定 3 級の範囲のうちの基礎的な部分を扱います。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部学生は早い段階でマスターすべき内容であると思います。大学で最終的に会計関係を専門としようとする学生はもちろん、それ以外の学生にとってもこの科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門 I・II の授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面授業で行うことを予定しています。まず説明を行って、例題等の問題を解いて受講生の皆さんの理解を確認します。毎回の授業終了後、各自、復習を十分に行っておくことが必要です

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験の紹介、会計情報が読めるメリット
第 2 回	簿記の意義と仕組み	簿記の意義、簿記の基礎、貸借対照表、損益計算書、貸借対照表と損益計算書の関係
第 3 回	仕訳と転記（1）	勘定、取引の意義と種類、取引 8 要素と結合関係
第 4 回	仕訳と転記（2）	仕訳と転記
第 5 回	仕訳帳と元帳	帳簿の種類、仕訳帳から元帳への転記
第 6 回	今までの範囲の問題演習	仕訳と転記の部分を中心とした演習を行う
第 7 回	決算（1）	決算の意義と手続、試算表の作成
第 8 回	決算（2）	帳簿の締切りと財務諸表の作成、決算手続と精算表
第 9 回	現金と預金（1）	現金、現金過不足の会計処理
第 10 回	現金と預金（2）	当座預金と当座借越、小口現金
第 11 回	繰越商品・仕入・売上（1）	3 分法、諸掛と返品
第 12 回	繰越商品・仕入・売上（2）	仕入帳と売上帳、商品有高帳
第 13 回	売掛金と買掛金（1）	売掛金と買掛金、売掛金・買掛金元帳、売掛金・買掛金明細表
第 14 回	売掛金と買掛金（2）と春学期の総括	クレジット売掛金、前払金、前受金、および春学期でやった内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連するワークブックの問題を解くことが必要です。3 級レベルではそれだけの繰り返しで十分マスターできます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社

【参考書】

渡辺裕巨、片山覚、北村敬子編『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に行われる小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

対面で授業を行う予定であるので、特にありません。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be decided based on mid-term examination(30%), and term-end examination(70%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

神谷 健司

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

営 1 年 R～U

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日商簿記検定試験 3 級の範囲の後半部分の各勘定科目各論と、決算、財務諸表の作成を中心とした部分を学習します。この授業までの範囲が理解できるようになれば、簿記の基礎が修得でき、3 級の検定試験の問題も解けるようになります。

【到達目標】

この授業の内容が理解できれば、簿記会計の基本的事項全体が理解できるようになり、3 級の検定試験にも合格できる力が身につきます。また 2 年次以降の会計分野の学習をするための基礎も身に着けることもできます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

各回、重要項目を説明したのち、例題を解き、受講生の理解度を確認しながら進めていきたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	その他の債権債務	売掛金と買掛金以外の債権債務を学習する
第 2 回	受取手形と支払手形	手形の種類としくみについて学習する
第 3 回	有形固定資産と減価償却	有形固定資産の購入時、決算時、売却時の会計処理を学習する
第 4 回	貸倒損失と貸倒引当金	貸倒れの意義、貸倒損失、貸倒引当金の計上を学習する
第 5 回	資本	株式会社の設立と株式の発行、繰越利益剰余金の計上、配当の決議と支払に関する会計処理を学習する
第 6 回	収益と費用	収益・費用の意義、経過勘定項目、消耗品費と貯蔵品の会計処理を学習する
第 7 回	税金	利益額に基づいて課される税金と利益以外の金額に基づいて課される税金の会計処理を学習する
第 8 回	伝票	伝票を利用して取引の内容を記入する方法を学習する
第 9 回	財務諸表（1）	決算と手続、試算表の作成、精算表の作成について学習する
第 10 回	財務諸表（2）	精算表の作成について学習する
第 11 回	財務諸表（3）	財務諸表の作成について学習する
第 12 回	問題演習	秋学期に学習した内容と 3 級の検定試験に出題された内容について問題演習を行う
第 13 回	基本的な財務諸表を読む	実際の企業の財務諸表を読んで、そこから何が理解できるかを学習する
第 14 回	秋学期の総括と問題演習	秋学期に学習した内容の総復習とその中の重要問題についての演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめ今回の授業では何をやるのかを確認しておき、講義を聞いた後は重要事項の確認をしたのち、ワークブックの基本的な問題を解きなおすことが効率的にマスターするやり方である。1 時間の講義を聞いた後、同じ時間で問題を解くことの繰り返しで、3 級はマスターできます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記講義 3 級（最新版）』中央経済社

【参考書】

渡辺裕亘、片山覚、北村敬子編著『検定簿記ワークブック 3 級（最新版）』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業中に行われる 3 回の小テスト（30 点）と定期試験（70 点）の合計で最終的な評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習の時間をもう少し多くして欲しいという要望があった。100 分授業であるので、説明した後に毎回練習問題を解く時間を設けたい。

【学生が準備すべき機器他】

この科目は、経営学部 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に着けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【その他の重要事項】

授業においてわからない点があれば、その都度質問して確認して欲しい。また授業終了後の講義内容の復習と、関連するワークブックの問題を解くことは、簿記 3 級の内容を理解する上で最も効率的な学習のやり方です

【関連科目】

この授業は、2 年次以降の会計関連科目を学習する際の小曾となる科目である。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transaction. The objective of This class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading will be decided based on mid-term examination(30%),and term-end examination(70%).

簿記入門Ⅰ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部（の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	【講義】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第 3 回	【議論・発表・表彰】 ・簿記の必要性 ・記帳のルール	・貸借対照表/損益計算書 ・仕訳と勘定記入
第 4 回	【講義】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第 5 回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅰ ・商品売買Ⅱ	・掛け取引 ・手付金/内金
第 6 回	【講義】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第 7 回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅲ ・商品売買Ⅳ	・商品券/返品 ・諸掛り/有高帳
第 8 回	【講義】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第 9 回	【議論・発表・表彰】 ・商品売買Ⅴ ・現金/預金Ⅰ ・現金/預金Ⅱ	・有高帳/現金 ・当座預金
第 10 回	【講義】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第 11 回	【議論・発表・表彰】 ・現金/預金Ⅲ ・現金/預金Ⅳ	・当座借越 ・小口現金
第 12 回	【講義】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形
第 13 回	【議論・発表・表彰】 ・売掛金Ⅰ ・手形取引Ⅰ ・手形取引Ⅱ	・小口現金 ・クレジット売掛金/手形 ・手形

第 14 回 ゲストスピーカー講演 ビジネスパーソン（の）講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解くことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級－ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級－ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30 %）
- ②対面授業の平常点（10 %）
- ③対面授業時の質問・発言（10 %）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10 %）
- ⑤確認テスト（10 %）
- ⑥定期試験（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

MAN100FA（経営学 / Management 100）

簿記入門Ⅱ

近藤 大輔

専門入門科目 100 番台専門基礎科目 A 群 1～4 年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]
営 1 年 A～E

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスの言語と言われている「簿記」の基本的事項を学ぶ。簿記の学習は、将来、会計の分野を学習するときの基礎となるもので、経営学部の学生は早い段階でマスターすべき内容である。この科目は、「会計学入門」と並んでもっとも重要な科目の 1 つです。簿記の 3 級の試験を目指して学習することも 1 つのやり方です。

【到達目標】

簿記入門Ⅰ・Ⅱの授業内容を理解することによって、日商簿記検定の 3 級の出題範囲の内容が理解できるようになります。到達目標はその検定試験に合格できる力、会計および関連するビジネスに関する論点を議論する力を身に着けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP1-4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

対面とオンデマンドの併用で行うことを予定しています。まずオンデマンド授業で説明を行い、例題等の問題も解いてもらいます。さらに簿記および会計に関する論点を共有し、課題を対面講義までに検討してきてもらいます。対面講義ではグループごとに課題を検討し、課題を提出してもらいます。そして、最も優秀な課題答案を表彰し、成績評価で加点します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、簿記の意義、会計学を学ぶ意義、会計に関する国家試験その資格案内、会計情報が読めるメリット
第 2 回	【講義】 ・様々な取引Ⅰ ・様々な取引Ⅱ	・電子記録債権/債務、貸付金/借入金 ・利息、役員貸付金/借入金、手形貸付金/借入金
第 3 回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅰ ・様々な取引Ⅱ	・電子記録債権/債務、貸付金/借入金 ・利息、役員貸付金/借入金、手形貸付金/借入金
第 4 回	【講義】 ・様々な取引Ⅲ ・様々な取引Ⅳ	・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金 ・給与、さまざまな帳簿
第 5 回	【議論・発表・表彰】 ・様々な取引Ⅲ ・様々な取引Ⅳ	・有形固定資産、未収入金・未払金、仮払金/仮受金 ・給与、さまざまな帳簿
第 6 回	【講義】 ・試算表 ・決算整理Ⅰ	・残高試算表 ・現金過不足、売上原価
第 7 回	【議論・発表・表彰】 ・試算表 ・決算整理Ⅰ	・残高試算表 ・現金過不足、売上原価
第 8 回	【講義】 ・決算整理Ⅱ ・決算整理Ⅲ	・貸倒① ・貸倒②
第 9 回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅱ ・決算整理Ⅲ	・貸倒① ・貸倒②
第 10 回	【講義】 ・決算整理Ⅳ ・決算整理Ⅴ	・減価償却 ・貯蔵品、当座借越
第 11 回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅳ ・決算整理Ⅴ	・減価償却 ・貯蔵品、当座借越
第 12 回	【講義】 ・決算整理Ⅵ ・決算整理Ⅶ	・経過勘定項目① ・経過勘定項目②
第 13 回	【議論・発表・表彰】 ・決算整理Ⅵ ・決算整理Ⅶ	・経過勘定項目① ・経過勘定項目②
第 14 回	ゲストスピーカー講演	ビジネスパーソンの講演、質疑応答、議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習としては、その回の授業で何を学ぶかをあらかじめ確認しておき、授業を聞いた後は関連する問題を解く必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 3 級 - ver15.0』2025 年

【成績評価の方法と基準】

- ①対面授業時の課題提出・発表・表彰（30％）
- ②対面授業の平常点（10％）
- ③対面授業時の質問・発言（10％）
- ④ゲストスピーカーへの事前質問・当日質問・感想（10％）
- ⑤確認テスト（10％）
- ⑥定期試験（30％）

【学生の意見等からの気づき】

グループごとに学生間で教え合い、議論するエッセンスを対面講義で実施することで、簿記・会計に関する理解を深めるだけでなく、ビジネスで不可欠であるコミュニケーション能力を身に付けて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業の際は電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

この科目は、経営学部の 1 年の科目の中でも重要な科目であり、すべての学生に身に付けて欲しい内容です。また 2 年次に学ぶ「会計学入門」や「財務会計論」「国際会計論」、「管理会計論」等のすべての会計専門科目を学ぶ上での基礎となる部分です。簿記の基礎をマスターすることによって、2 年次、3 年次以降の各会計科目がより学びやすくなります。

【Outline (in English)】

Bookkeeping is the process of recording daily transactions. The objective of this class is to understand fundamental bookkeeping technique for students who are going to study accounting and/or corporate finance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content. Grading will be decided based on ① Assignment submission/presentation/awards during face-to-face classes (30%), ② Attitude score for face-to-face classes (10%), ③ Questions and comments during face-to-face classes (10%), ④ Questions to guest speakers, questions on the day, and impressions (10%), ⑤ Confirmation test (10%), ⑥ Regular exam (30%).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | 45% |
| (B) 技術者倫理 | 30% |
| (C) 工学基礎学力 | |
| (D) 専門基礎学力 | |
| (E) 専門知識の活用・応用力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | 25% |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。

第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
2. Understand the reality of studying abroad.
3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.

4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.

Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.

Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

POL100NA（政治学 / Politics 100）

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人、宮川 聖史

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力（1）	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグルー分けを行う。
第二回	我が国の国際協力	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明（1）	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明（2）	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明（3）	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明（4）	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明（5）	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャパシティ・デベロップメントについて考える。

第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。
第十一回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20％。課題パワーポイント作成と発表課題50％、課題レポート：30％。
欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。
随時、電子メールで質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japan's involvement in international cooperation with developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by examining cultural differences. The focus is on official development assistance (ODA) carried out by the Japanese government. A group project that reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required in addition to regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her global perspective.

1. Understand the current situation of developing countries and the activities of the Japan International Cooperation Agency (JICA), which is the implementing agency for Japan's Official Development Assistance (ODA), and learn about career development in the case of working overseas in the future.
 2. Understand the reality of studying abroad.
 3. Form groups of 6 to 8 students to investigate the JICA report and present its contents and opinions. Through this group work, students will improve three basic abilities of working adults (the ability to step forward, to think things through, and to work in a team), as well as deepen our understanding of ODA, improve the ability to write reports, create power points, and make presentations.
 4. After group work, by summarising their thoughts on international cooperation in the assigned report, students will develop the ability to look abroad broadly and utilize the results of their studies from a global perspective after graduation.
- Investigation of JICA reports and preparation of PowerPoint and reports.
The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

In class performance: 20%. The assignment PowerPoint and presentation are 50%, and the assignment report is 30%.
Students absent four or more times will not be allowed to earn credits (rating D).

SES100NA（環境創成学 / Sustainable and environmental system development 100）

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA（国際エネルギー機構）のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インパ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通しての先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取り組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていることを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に20世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は21世紀にはいっても継続している。人間活動を増徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりの歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	45%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用能力	
(F) 総合デザイン能力	25%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGsなどの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及びIEA(国際エネルギー機構)のWEBサイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80％）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20％）により評価します。
欠席4回以上は単位取得を認めない(評価D)。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。また随時、電子メールでも質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use. Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Attitude toward the class(80%) and class attendance(20%).More than 4 absences are not acceptable.

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないと考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見逃している。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつかの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。
4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

- ②その日のテーマに関する講義

- ③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

- | | | |
|---|--|--|
| ⑪ | みえない特権とは何か
(学生の文献紹介を含む) | 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える |
| ⑫ | マジョリティ/マイノリティの非対称性
(学生の文献紹介を含む) | マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える |
| ⑬ | 「心のバリアフリー」
概念の批判的検討
(学生の文献紹介を含む) | 「思いやり」による「差別解消」
アプローチを批判的に検討する |
| ⑭ | 自由発表（文献紹介
またはレポートの構
想発表） | 安楽死または障害者差別に関す
る文献紹介またはレポートの構
想を発表する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』
岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないと考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見逃している。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつかの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。
4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

- | | | |
|---|--|--|
| ⑪ | みえない特権とは何か
(学生の文献紹介を含む) | 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える |
| ⑫ | マジョリティ/マイノリティの非対称性
(学生の文献紹介を含む) | マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える |
| ⑬ | 「心のバリアフリー」
概念の批判的検討
(学生の文献紹介を含む) | 「思いやり」による「差別解消」
アプローチを批判的に検討する |
| ⑭ | 自由発表（文献紹介
またはレポートの構
想発表） | 安楽死または障害者差別に関す
る文献紹介またはレポートの構
想を発表する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』
岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

日本文化論

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の名前から、日本文化・社会の概説を期待した人もいるかもしれない。そこで期待されていたのは、ある意味「標準的な」日本（文化ないし社会）の姿や、日本において「普通」とされる考え方や価値観なのかもしれない。だが、本授業が目指すのは、そのような「普通」を問い直し、「普通」と表裏一体である「普通ではない（とされる）もの」に対する構造的な排除や差別（日本社会のあり方や、多くの人が共有する考え方に由来する排除や差別）を検討することである。端的に言えば、日本における「普通」を問うことを通して、「日本の文化と社会」に対する理解を深めることである。

具体的には、本授業は、①安楽死、②障害者差別という2つの観点から「日本の文化と社会」を検討する。

【①安楽死】近年、海外において「安楽死を遂げた日本人」がメディアによりしばしば取り上げられている。現在、日本では安楽死は合法ではないが、メディアによる報道の影響もあり、合法化に賛成する声は小さくない。ところで、通常、「（自分あるいは他者を）死なせる」ことは許されないと考えるのだろうか。それは、安楽死を求める人々の状況が「通常」とは異なる（つまり「普通ではない」）と考えられているからだろう（例えば、彼・彼女らは「不治」の病により、「余命」僅かであるにもかかわらず、「無意味な」処置を施され、「耐え難い苦痛」に苦しんでいる、等）。だが、このような見方は非常に一面的である。また、「普通ではない」生であるなら「終わらせてもよい」と見なすことは、多様であるはずの生に序列を持ち込み、「生きる価値のある生」とそのような価値をもたない生との間に線を引くことにならないだろうか。そして、そのことによって、生き続ける可能性を奪われかねない人々がいることを、安楽死肯定論は見逃している。また、そのような問題がメディアで取り上げられることは稀である。本授業では安楽死肯定論の主張を検討したうえで、その問題点を指摘する。また、実際に安楽死が合法化されている国の現状も紹介する。

【②障害者差別】「多様性」あるいは「ダイバーシティ」は（いい意味でも悪い意味でも）日本社会においてすっかり定着した言葉となった。加えて、障害者差別解消法の施行・改正などにより、障害者福祉に一定の推進が見られるのは事実であろう。一方で、「障害」とは当事者本人の問題であり、障害者に対する配慮の根本は、健常者から障害者に対する「思いやり」であるとする考え（「普通」である私たちが、「普通ではない」彼・彼女らを思いやってあげる」と言った考え）が広く共有されているのではないだろうか。そのような考えに潜むいくつかの問題を、障害学や社会学の知見、及び障害当事者の声に基づき、考察する。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能である。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つである。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的のひとつである。ただし、ディスカッションと同じぐらい、授業後のコメント（学習支援システム利用）を重視するので、ディスカッションが苦手な人、ディスカッションで言いそびれたことがある人には、授業後に書くコメントを大いに活用していただきたい。コメントは次回の授業で紹介する。

【到達目標】

1. 安楽死の分類、歴史的背景について、基本的な知識を得ること。
2. 安楽死肯定論が拠って立つ根拠とその問題点について理解すること。
3. 日本における「安楽死・尊厳死」に関する議論の経緯と現在の状況について理解すること。
4. 「障害」の個人モデル（医療モデル）と社会モデルについて理解すること。

5. 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解すること。

6. マジョリティ／マイノリティの「非対称性」、「みえない特権」概念の基本的な考え方を理解すること。

7. 「差別解消」を「思いやり」に求める考え方（「思いやり」モデル）の問題点、及び「人権」モデルの必要性に関する議論について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン研究科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

①前回の授業の振り返り（コメントの紹介）

②その日のテーマに関する講義

③②に関するグループ・ディスカッション

授業後に学習支援システムよりコメントを入力する。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 安楽死について現段階にどう考えるか意見を共有する	授業の進め方を説明する。安楽死に関するそれぞれの考え方や興味関心を共有する。
②	安楽死の分類、歴史的背景、「安楽死」と「尊厳死」の違い	「安楽死」「尊厳死」についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死＝よい死」「延命治療→悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「権利」としての安楽死（学生による文献紹介を含む）	「権利」概念から安楽死を肯定する議論を検討する
⑥	「尊厳死法案」とその批判	「尊厳死法案」とその批判と批判に対する反論に関する資料を読み、「尊厳死」の法制化の是非について考える
⑦	社会的弱者にとっての安楽死（学生による文献紹介を含む）	安楽死が合法化された国における現状を踏まえ、社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
⑧	ここまでの授業内容の振り返り／障害者差別について事例から考える	障害者に対する「乗車拒否」の事例について考える
⑨	障害の個人モデル（医療モデル）と社会モデル	「障害」とは？「個人モデル（医療モデル）」と「社会モデル」について考える
⑩	障害者差別解消法と合理的配慮	障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める

- | | | |
|---|--|--|
| ⑪ | みえない特権とは何か
(学生の文献紹介を含む) | 「健常者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」概念に基づき考える |
| ⑫ | マジョリティ/マイノリティの非対称性
(学生の文献紹介を含む) | マジョリティ/マイノリティとはどのような存在か、「非対称性」概念から考える |
| ⑬ | 「心のバリアフリー」
概念の批判的検討
(学生の文献紹介を含む) | 「思いやり」による「差別解消」
アプローチを批判的に検討する |
| ⑭ | 自由発表（文献紹介
またはレポートの構
想発表） | 安楽死または障害者差別に関す
る文献紹介またはレポートの構
想を発表する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介しますが、まずは以下の2点を挙げておきたいと思います。

安藤泰至（2019）『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』
岩波書店

荒井祐樹（2020）『障害者差別を問いなおす』筑摩書房

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%

発表（文献紹介）：20%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

※ESOP生（交換留学生）は、日本語能力試験（JLPT）N1レベル以上の学生を対象とします。（希望者が多い場合は選考します。）

※ESOP Students are required JLPT N1 for registration.
(Selection will be made if there are too many applicants.)

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours
Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例）台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1）出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2）出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1）2）のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	1) 2) 3) 日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA（経済学 / Economics 100）

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	5%
(C) 工学基礎学力	10%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	30%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。

日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例）台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1）出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2）出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1）2）のまとめレポート提出 1）2）	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	3）日本の伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4）日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。

13	3）4）のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

ECN100NA (経済学 / Economics 100)

日本の工業技術

田村 広子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、日本独自の文化的背景に依拠する日本の工業技術、とくに建築などのデザインについて解説する。また、各国留学生に「その国らしさ」と「その国独自のデザイン」との関係について考察させる。

【到達目標】

日本の工業技術、とくに建築とデザインについて基本的な理解をする。

出身国におけるデザインと文化の関係について調査し発表する。さらに日本との比較をした上で小論文にまとめる。

Gain a basic understanding of Japanese industrial technology, especially architecture and design.

Research and present the relationship between design and culture in your country of origin. Furthermore, they will make a comparison with Japan and summarize it in an essay.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

画像や映像を使い、学生と会話しながら講義をおこなう。
日本語での発表とディスカッションをとおして、自身の考えをまとめる作業を習得する。

Use images and videos to conduct lectures while having conversations with students.

Through presentations and discussions in Japanese, students will learn how to summarize their own ideas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、課題の提出方法などについて説明します。
2	日本語に見る異文化受容の態度	外来の文化を受容し、自文化と融合させてきた日本独特の技術発展の背景
3	「日本らしい」建築とは	日本建築の要素を解説
4	大陸からやってきた文化の受容	6～7世紀に朝鮮半島、中国から導入した文化や技術
5	日本文化・技術の開花	鎌倉・室町期から江戸期にかけて発達した日本独特の技術と美
6	日本の現代建築に見られる「日本らしさ」	講義中にディスカッションしましょう。
7	レポート課題の決定 例)「台所に見られる伝統～出身国と日本の比較」	レポートで扱う対象を決定します 例) 台所 以下の内容は台所を例としています。
8	1) 出身国の伝統的な台所について調査（ネットなど利用）・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
9	2) 出身国の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
10	1) 2) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
11	1) 2) 3) 日本伝統的な台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
12	4) 日本の現代の台所について調査・報告	パワーポイントなどを用いて説明してもらい、質疑応答します。
13	3) 4) のまとめレポート提出	提出されたレポートを添削し、レポートの書き方を学習してもらいます。
14	レポート提出	13までに提出した内容を小論文形式にまとめて提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、日本語の専門用語についての質問を受け付けるので、前回わからなかった単語をチェックしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

I accept questions about Japanese terminology on time, so be sure to check any words you didn't understand last time.

The standard time for preparation and review for this class is two hours each.

Goog

【テキスト（教科書）】

基本的にはパワーポイントを利用して授業を進めます。授業に使用したパワーポイントはシステムを通じて配布します。

【参考書】

講義中に必要があれば紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 80%

講義中の質疑応答 20%

Report 80%

Q&A during the lecture 20%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

Nothing in particular

【その他の重要事項】

授業終了後に教室で質問を受け付ける。

【Outline (in English)】

This course will explore the relations between historical Japanese architecture and culture, and make students think about relations the design and culture in own country.

BSP100ND（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 100）

システムデザイン入門

土屋 雅人、大西 景太、岩月 正見、山田 泰之、坂本 和子、安積 伸、田中 豊、西岡 靖之、姜 理恵、SEONG YOUNG AH、都丸 孝之、坂間 清子

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：必修

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

“システムデザイン（SD）”という新しい分野をこれから学ぼうとする学生として、システムデザインとはいったいどのような学問分野であり、何を学びそこから何が得られ、そして未来に向けてこれから何をしなければならないかについて学ぶ。また、従来からある学問領域と異なり、この“システムデザイン”という新しい分野は、常に変化し進化し続けている。自分たちの意思で新たに“創る”という意識を持つためにも、まず、システムデザインを全体的に理解することを授業の到達目標とし、クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の各専門分野の概要を学ぶ。

【到達目標】

- ・システムデザインの概念を理解する。
- ・システムデザイン学科で行っている専門分野について、それぞれがシステムデザインという学問全体のどこに位置し、どのような関係によって成り立っているかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

システムデザイン学科の全専任教員が担当する。クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系の各専門分野の講義を聴き、各回、与えられたテーマに沿って期限内に小論を記述し、提出する。なお、講義の順番はゲストスピーカの都合等により入れ替わることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 授業支援システムの説明	この講義の概要説明 各回の小論テーマの取組み方、小論の記述の仕方、提出方法を説明する。また、授業支援システムの利用方法について説明する。
2	アントレプレナーシップデザインとは（姜教授）	社会に新しい価値や変革をもたらすアントレプレナーシップ（起業家精神）をコアとして、個人の創造性がイノベーションに変わるプロセス、イノベーションを実現する環境やマネジメントについて説明する。
3	インタフェースデザインとは（土屋教授）	操作の身体的・認知的負荷の軽減はもとより、使う楽しさや操作の魅力などの高度な感性価値実現に向けたインタフェースデザインについて説明する。
4	情報マネジメントデザインとは（西岡教授）	モノづくりにおけるモノと人と環境との総合的なデザインを生かすためのマネジメントについて、情報ソフトウェアの視点から講義を行う。

5	ビジュアライゼーションデザインとは（大西教授）	身の回りには五感で感じられる情報をはじめ、大量な統計データやものごとの仕組みなど、目に見えない多様な情報が存在する。それらから伝えるべき価値を発見し、何をどのように視覚化するかについて説明する。
6	ヒューマニティデザインとは（安積教授）	生活・文化に関する考察分析を起点とし、社会に新たな価値を問うデザインについて説明する。
7	メカニズムデザインとは（山田教授）	人間や周辺環境を含めたシステム全体の調和、多様性やロバスト性を生み出すメカニズムデザインについて説明する。
8	高機能メカトロデザインとは（田中教授）	環境と調和した高機能なメカトロシステムをデザインするための、人ともとのコンピュータの間のメカニズムやインタフェースについて説明する。
9	スマートマシンデザインとは（岩月教授）	機械に外部環境を認識させることにより、実世界と融合した高次の情報を提供するインタフェースや従来実現できなかった機能をもつデバイスについて説明する。
10	アフェクティブデザインとは（ソン教授）	人間の感情・情緒・感性に働きかけるインタフェースをデザインするために、関連する最新テクノロジーについて説明すると共に、複雑な人間感性を理解するための多面的な研究方法について紹介する。
11	ネオマーケティングデザインとは（坂本教授）	AIや自然言語処理などの先端技術を活用しつつ、デザイン学や認知科学などの学際的視点を取り入れ、新たな市場価値を創出するマーケティング手法について説明する。
12	ビジネスデザインとは（都丸教授）	顧客価値に基づく新たな製品やサービスを作り出しながらビジネスとして展開するためのプロセスや方法論について説明する。
13	エンジニアリングデザインとは（坂間助教）	製品やシステムを開発する際の、構想、アイデア創出、設計、試作、評価、検討、製品化の一連のプロセスについて説明する。
14	外部講師（OB・OG）およびキャリアガイダンス	SD学科出身のOB・OGを招き社会人実務について話を伺う。キャリアセンターより今後のキャリア形成についての講義を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

クリエイション系、テクノロジー系、マネジメント系分野野関係をよく理解し、ものづくりに関する様々な事柄について予備知識を身につけておく。
小論へのまとめ方について、自分の考えを適切に伝達できるよう文章力を高めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、必要に応じて配布

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

各回の小論テーマ記述：合計100点

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, students aspiring to study the new field known as "system design (SD)" are encouraged to ask questions of what exactly is system design, what is gained by studying it, and what should be done to prepare for the future. As a new subject different to previous academic fields, system design is continually changing and progressing. For the purpose of obtaining independent ideas of what it means to "create", in this course students will first understand the overall concept of system design, learning concepts from creative, technological and management backgrounds.

Grading will be decided based on each lab reports.

PRI200GA（情報学基礎 / Principles of informatics 200）

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。

また、自然言語処理技術の研究開発の実務に携わっている講師が、現在ブームとなっている生成AIに使われている確率統計の考え方を紹介したいと思います。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【到達目標】

- ・データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・データを解釈する方法を身につける
- ・基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価の対象ではありませんが、次の回以降の授業は宿題の理解を前提として進めますので、次の回までに必ず自分で解いてみて下さい。

中間試験・期末試験とその他の課題のフィードバックは、主に学習支援システムを通して行います。また、みなさんからの質問・コメントに対する解説・補足を授業内で随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスとデータの理解方法1	授業の進め方についての説明・数値データの可視化・度数分布表とヒストグラム
第2回	データの理解方法2	データの代表値とその性質
第3回	データの理解方法3	散布図と相関係数
第4回	データの理解方法4	回帰分析
第5回	確率1	確率の定義
第6回	確率2	確率の様々な計算方法
第7回	中間試験	中間試験
第8回	確率3	条件付き確率
	確率4	条件付き確率
		ベイズの定理
第9回	確率分布1	確率変数と確率分布
第10回	確率分布2	期待値と分散
第11回	確率分布3	二項分布
第12回	確率分布4	連続型確率変数と正規分布
第13回	確率分布5	確率分布の応用
第14回	期末試験	期末試験
	AIへの確率分布の応用	大規模言語モデルの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、本授業のそれぞれの回は前回までの宿題の内容の理解を前提として進めますので、自分の理解度に応じて必ず自習して下さい。また、わからない点をそのままにせず、自分で調べても不明な場合は教員に積極的に質問して下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。
"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う中間試験と期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、中間試験30%、期末試験70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評ですので、到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

また、授業で扱う数式の練習量が従来の宿題では足りないというアンケートの声を受けて、今年は宿題の練習問題の量を増やします。ただし宿題は成績評価には使用しませんが、自分の理解度に応じて必要なものに取り組んで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。電卓がないと計算できないような問題は演習内では扱いませんが、授業に電卓などの情報機器を持ち込んでも構いません。ただし試験（中間試験・期末試験）での情報機器の持ち込みは不可です。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術、とくに人工知能（Artificial Intelligence; AI）の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。

例えば、ChatGPT などのように人間と自然な対話ができるシステムの背後には、大規模言語モデル（Large Language Model; LLM）と呼ばれる機械学習の仕組みが動いており、LLMを理解するためには確率統計の知識が必須です。本授業では、LLMの中で使われている確率統計の考え方を学び、LLMにできることとそうでないことを理解します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

[Learning Objectives]

- Students should be able to do the followings at the end of this course:
- Master basics of data visualization (graphs)
 - Understand some ways of interpreting results of data analytics
 - Understand basic statistical values (mean, variance, correlation coefficient, etc.)
 - Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
 - Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

The lecturer has practical experience in research and development of generative AI, especially large language models (LLMs). He will introduce how probability and statistics are used in LLMs to generate natural language responses to queries by a human user.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

[Grading Criteria/Policies]

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA (人間情報学 / Human informatics 200)

システム論

甲 洋介

サブタイトル：人の営みと文化を捉える、システムという考え方
配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な『システム』たち

コンピュータやSNSばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの『システム』に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 『家族』もシステム？

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国籍関係にしても、うまく機能している間は人々は気づかない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、『家族』や『社会』も一種のシステムである。たとえば『家族』とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何がかわるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対するquestionsを整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらが発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

- ・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようになる。
- ・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
- ・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約15分）
 - (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65分）
 - (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20分）
- 講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭(1)で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義(2)につなぐ。各自の内容理解を小演習(3)で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	システムは難しい。本講義の狙いと、進め方
第2回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第3回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム

第4回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうなるを、要素の間の関係性として捉え直してみる
第5回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第6回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第7回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第8回	人と道具のシステム論 －文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第9回	社会というシステム ～個人から社会へ（パースンズの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第10回	社会のシステム論(1) －ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第11回	社会のシステム論(2) －コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや『分化』をどのように捉えるか
第12回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第13回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第14回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60％）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40％）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA (計算基盤 / Computing technologies 200)

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ITを過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとにITの本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。各回の講義はPowerPointと教科書を用いて行う。PowerPointの資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化
2回	情報の伝達	デジタルの利点と欠点 インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4回	安全な通信と暗号その1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要
5回	安全な通信と暗号その2	共通鍵暗号と公開鍵暗号 安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局
6回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTMLとXML

7回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12回	3次元CG、デジタルマップとGIS	3次元GC デジタルマップとGIS
13回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタスID
14回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するPowerPointの資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点10％、期末試験50％、レポート40％

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPointを使って資料を提示しながら授業を行う。

【その他の重要事項】

生成AIを補助的に利用することは認めるが、生成のみを利用したレポート課題の提出は認めない。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FR1200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：-

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

2025年度の本授業では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」というテーマで、現在の情報社会を〈ヴァーチャル社会〉として位置づけ、そこで生ずるさまざまな文化事象について哲学的に考察することから「文化情報学」にアプローチしていきます。

本授業で取り上げる〈ヴァーチャル社会〉は、哲学者・大黒岳彦氏（明治大学教授、1961-）の著書によって主題化されており、ここでは「ヴァーチャリティ（Virtuality）」をめぐって具体的なテーマが取り上げられています。例えば、「モード」、VR（Virtual Reality）、監視社会、メタヴァース、生成AIなどです。本授業では、これらに加えて、メタヴァースの議論から派生した「VTuber学」や「VTuberの哲学」まで視野に入れて〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学を考えていきます。

【授業の目的】

本科目では、「〈ヴァーチャル社会〉の文化哲学」に関する大黒氏のテキストを読むことを通じて、現在の情報社会で生じている文化事象について考えていきます。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、私たちが、「いかにして〈ヴァーチャリティ社会〉を生き抜くか」という実践的な問いについて、各自が自らの生き方を反省的に考察することにあります。

【到達目標】

- (1) 本科目の到達目標は、現代社会を〈ヴァーチャル社会〉として捉えることによって、現代の情報文化の中で、私たちがどのように〈ヴァーチャリティ〉と関わっていくかを考えるを身につけることを目指します。
- (2) 情報哲学のテキストを哲学的に読むことができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。

- (1) テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みます。
- (2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。
- (3) リアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(1)	0. はじめに a. 情報社会とは何か b. ヴァーチャル社会の変容

第3回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(2)	1. アマゾン・ロジスティクス革命と「物流」の終焉 a. アマゾンは何を変えたか b. 「流通」の社会哲学
第4回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(3)	2. 「モード」の終焉と記号の変容 a. モードの歴史的展開 b. モードから記号へ
第5回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(4)	3. 情報社会の〈こころ〉 a. 「引きこもり」から「コミュニケーション」へ b. 「社会幻想」と情報社会の〈こころ〉
第6回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(5)	4. 身体データとコントロール社会 a. 情報社会と監視 b. 身体と監視 c. 監視社会からコントロール社会へ
第7回	『ヴァーチャル社会の〈哲学〉』読解(6)	5. VR革命とリアリティの転換 a. VRの技術的次元 b. VRの社会的次元 c. VRの思想的次元
第8回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(1)	6. 〈情報的世界観〉とは何か
第9回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(2)	7. ウェーバー社会理論の深層構造と社会の〈自己記述〉 a. ウェーバー社会理論とは何か b. ウェーバーの社会構成プログラム
第10回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(3)	8. アクターネットワーク理論と社会システム論 ・ラトゥールのアクターネットワーク理論とは何か
第11回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(4)	9. メタヴァースと〈ヴァーチャル社会〉① a. メタヴァースとは何か b. 〈ヴァーチャル社会〉とは何か
第12回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(5)	10. メタヴァースとヴァーチャル社会② a. VTuber学とは何か b. VTuberの哲学
第13回	『〈情報的世界観〉の哲学』読解(6)	11. 生成AIによる〈情報的世界観〉の開示 a. 生成AIの社会的本質 b. 〈情報的世界観〉
第14回	まとめ	これまでの授業の総括——〈ヴァーチャル社会〉を生きるとはどういうことか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ① 大黒岳彦『ヴァーチャル社会の〈哲学〉——ビットコイン・VR・ポストトゥルース』、青土社、2018年
- ② 大黒岳彦『〈情報的世界観〉の哲学——量子コンピュータ・メタヴァース・生成AI』、青土社、2023年

【参考書】

- ① 金光秀和／吉永明弘編『3STEPシリーズ7 技術哲学』、昭和堂、2024年
- ② 岡本健 他編『VTuber学』、岩波書店、2024年
- ③ 山野弘樹『VTuberの哲学』、春秋社、2024年

【成績評価の方法と基準】

- (1) テキストの読解などを行うことで授業の理解度を確認する。
- (2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
- (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。

※ 両者の結果から総合的に判断する。

三者の配分は、下記の通り。

(1) 小テスト・リアクションペーパーによる平常点（30％）

(2) 期末試験（70％）

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

コンピュータやタブレット（可能な限りスマートフォン）は、授業時間中に授業担当者が許可しない限り、原則として使用不可です。

・情報哲学を学ぶこと、情報機器を用いることは異なります。大学で学ぶために必要なのは五感と〈ひらめき〉（＝直感・直観）であり、情報機器は「道具」（紙と筆記用具）の延長に過ぎません。

【その他の重要事項】

【注意点】

(1)「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学（informatics）」や「情報科学（information science）」ではありません。。

・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。

(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、今流行りのVtuberなどに言及するからと言って、興味本位だけの人は、なるべく参加をご遠慮ください。

・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティとは無関係に初回に選抜テストを実施します。受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。

・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course is an “introduction” to the study of “Informatics of culture” proposed by the Faculty of Intercultural communication. “Informatics of Culture” is the study of various cultural phenomena as cultural information.

In the 2025 academic year, under the theme of “Cultural Philosophy of Virtual Society,” we will position the current information society as a “virtual society” and approach “Informatics of Culture” by philosophically examining the various cultural phenomena that arise in this society.

The “virtual society” discussed in this class is the subject of a book written by philosopher Takehiko Daikoku (Professor at Meiji University, 1961-), in which he discusses specific themes related to “virtuality”. For example, “mode,” VR, surveillance society, metaverse, generative AI, and so on.

In this class, in addition to these, we will consider the cultural philosophy of “virtual society” with a view to “Theory of Vtubers” and “Philosophy of Vtuber,” which are derived from the discussion of metaverse.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、in class contribution: 30%

FRI200GA（情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200）

情報産業論

今和泉 仁

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

現代生活において、情報産業やメディア産業は非常に重要な役割を担っている。また情報産業は、高度に技術革新することにより、常に変化し続けている。これらの構造や課題、将来を理解することは、消費者やビジネスマンとして、技術や市場トレンドの動向に対応して、より良い判断をするために重要である。本講座では、メディアを中心とする情報産業における産業構造、ビジネスモデル、問題点、未来の展望などを理解することを目指す。授業の中では、業界トレンド、テクノロジーの進化、市場動向、企業戦略などについて学習することができる。

【授業の目的（何を学ぶか）】

- 1. メディア産業の変遷と現状：過去から現在までのメディア産業の変遷を追う、現在のメディア産業の状況を理解する。
- 2. メディア技術の変革：情報技術の進歩によって、メディア産業にもたらされた影響と、それによって変革されたメディア技術、その光と影について理解する。
- 3. メディアビジネスモデル：新たなメディア技術に伴い、メディアビジネスモデルが変革していることを理解する。また、有料・無料・広告収入などのメディアビジネスモデルの種類と特徴について学ぶ。
- 4. メディア業界のグローバル化：メディア産業はグローバルな市場を持つようになっており、欧米におけるメディア産業の状況と、国内市場に与える影響、各国間でのメディアの共有・流通に関連する課題について理解する。

【到達目標】

- 下記の各項目についてデジタル技術がもたらしたメディア産業全体への変化を理解する
- 4K/8K、HDR、VoIP、クラウド・プロダクションなどの放送を変革する技術動向への理解
 - CES、MWC、NAB、IBCなどの海外見本市からメディア関連産業がどのように変容しようとしているのかについての理解
 - OTT、SVOD、AVOD、FAST、D2Cなどの新しいメディアビジネスモデルの理解
 - NetflixやDisney+などの欧米のメジャープレイヤーとTVerやAbemaなど国内の事業者の現状への理解
 - 生成AIがメディア産業にもたらす変化と社会への影響についての理解
 - IoT、自動運転、Smart Cityなど、情報技術の革新がもたらす社会の変化についての理解
 - インターネットによるメディア産業への負の影響としての違法配信とその対策についての理解
 - 地球温暖化対策が求められる中でのメディア産業の対応の状況と将来の課題への理解
 - 放送事業者にとってのdigital-firstとは何か、放送の将来像への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業については対面授業を基本とし、基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介しします。ただし第1回講義は講師が米国ラスベガスで開催されるメディア関連見本市NAB2025参加のため対面授業ができないので、オンデマンド授業とします。講師はCES（米国ラスベガスで1月開催）、IES（スペイン・バルセロナで2月開催）Mobile World Congress（スペイン・バルセロナで3月開催）、NAB（米国ラスベガスで4月開催）、IBC（オランダ・アムステルダムで9月開催）、CEATEC（日本・幕張で10月開催）、InterBEE（日本・幕張で11月開催）などの国内外で開催されるメディア系見本市で取材した最新動向、海外のスタートアップ企業への取材結果など、他では得られない生の情報を紹介しします。一方的に情報を伝えるだけでなくできるだけアクティブな授業としたいので、毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されているNHK放送技術研究所（世田谷区砧）の一般公開に各自参加してもらい、持ち出し授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とメディアの変遷	自己紹介を兼ね、講師が担当した様々な放送・メディア関連事業からメディアの変遷やトレンドの全体像について触れ、講座全体を概観する（この回のみオンデマンド授業）
第2回	放送事業を変革する最新技術の理解	4K/8K、HDR、VoIP（Video over IP）、クラウド・プロダクション等、今日の放送事業に大きな影響を与えている技術動向を紹介
第3回	コンテンツ販売ビジネスについて知っておくべきこと	放送コンテンツの二次利用としてのコンテンツ販売における著作権処理、メディア素材の管理、デリバリー方法などについて知る
第4回	NetflixとVOD事業の構造	Netflix、Amazon Prime Video等のVOD事業の構造、変遷、トレンド、Netflixがメディア産業に与えたインパクトについて理解する
第5回	Connected TVとFASTチャンネル	Connected TVとは何か？ FASTとは何か？ メディア業界で始まっている新しいビジネスモデルと変わる広告マーケット
第6回	放送はこれからどう変わっていくのか	英国ではBBCなどの放送局が電波による伝送からネットオンリーの伝送へ移行しようとしている。放送事業はこれからどうなっていくのか
第7回	NHK技研公開持ち出し授業	5月下旬に開催されるNHK技研公開に各自参加し、そこで見たものについてレポートを提出
第8回	国内外のメディア関連見本市から①	最新エレクトロニクス展示のCES2025とモバイル技術展MWC2025、及びCEATEC2024から
第9回	IoTと自動運転、スマートシティ	モノのインターネット（IoT）技術や自動運転技術などで未来の都市はどう変わっていくのか
第10回	バーチャルプロダクションの世界	撮影時のCO ₂ 排出量削減に寄与するバーチャルプロダクションとは？ その背景技術とトレンドを紹介。
第11回	国内外のメディア関連見本市から②	欧州の放送機器展（IBC2024）と米国の放送機器展（NAB2025）およびInterBEE2024から
第12回	メディアビジネスとAI	ChatGPTやBard、DALL-EなどのAIがメディアビジネスに与える影響
第13回	メディア産業のネットゼロ対策	コンテンツ制作時における温暖化ガス排出量削減を図るための諸外国の取り組みと日本の現状について紹介
第14回	ストリーミングによる負の影響・違法配信の実態と対策	日本の放送が海外でも視聴できてしまう・著作権を無視した違法配信の実態と、それに対する対策について紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、国内の各メディア・サービスの状況について、実際に利用し、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。毎回パワーポイントのスライドや動画を活用します。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。TVer、Abema TVなど国内で提供されているメディア関連サービスを実際に体験しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（70％）、期末のレポート（30％）によって成績を評価します。レポート提出は必須です。期末レポートを提出しない場合は出席点があっても合格としません。期末レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成したと判断した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回講義終了後に、掲示板に授業の感想と質問を投稿してもらいます。講義から1週間以内に投稿があった場合、出席とみなします。感想や質問については、基本的に次の授業冒頭に取り上げ、質問内容に答えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、NetflixやAmazon Prime Videoなどの有料サービスに体験加入して見ることをオススメします。

【その他の重要事項】

実務家教員による授業

NHK及びNHK関連会社で放送・インターネット等のメディア業界で長年勤務してきた教員が実際に担当した業務や経験・知見からメディア産業の現状について解説する
パワーポイントのスライドや動画を多用し、出来るだけ分かり易くビジュアル化した授業とする予定

【Outline (in English)】

[Course outline]

The information and media industries play a very important role in modern life. In addition, the information industry is constantly changing due to high levels of technological innovation. Understanding their structure, challenges and future is important for making better decisions as consumers and business people in response to technological and market trends. This course aims to provide students with an understanding of the industrial structure, business models, issues and future prospects in the media and other information industries. During the course, students will learn about industry trends, technology evolution, market trends and corporate strategies.

Objectives of the class (what you will learn).

- 1.The evolution and current state of the media industry: to follow the evolution of the media industry from the past to the present and to understand the current state of the media industry.
- 2.Understanding the impact of advances in information technology on the media industry, and the ways in which media technology has been transformed by these advances, its lights and shadows.
- 3.Media business models: understand how media business models are being transformed by new media technologies. Also, learn about the types and characteristics of media business models such as paid, free and advertising revenue.
- 4.Globalisation of the media industry: the media industry has become a global marketplace, and students will understand the state of the media industry in Europe and the US, its impact on domestic markets, and issues related to the sharing and distribution of media between countries.

[Learning activities outside the classroom].

To deepen your understanding of the current development of media services on a daily basis by always being interested in newspaper, television and internet news sites. To deepen your understanding by revising the questions answered in class and the materials distributed. The standard study and revision time for each lesson is 2 hours.

[Grading Criteria /Guidelines]

Grades are determined by class attendance (40%), number of questions submitted per class session (10%), a short report on the NHK Science & Technology Lab Open House (10%), and an end-of-term report (40%).

FRI200GA (情報学フロンティア / Frontiers of informatics 200)

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常活動に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、対面で実施します。感染症の拡大などあった場合にはリアルタイムオンライン講義を実施することもあります。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介し、プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持って主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。

2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。
9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネット文化論のまとめ	12回までの講義のエッセンスをまとめて補足説明します。
14	ネットワーク時代の金融サービス	ネットワークやAIが金融サービスに与えた影響について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介し、各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関係するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介し、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポートの提出を単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。
2. 平常点：15%

講義への関心、参加度を評価し平常点とします。

3. ミニレポート 15%

毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。

この成績評価をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面講義としますが、感染症の拡大などによりリアルタイムオンライン講義で実施する場合があります。そのためZoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義は原則として対面で実施します。対面での参加ができない場合には各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of “information network society.”

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria /Policy

Submission of a final report is a condition for obtaining credits. The grading criteria will be based on the following ratios.

1. Final report: 70%

Please logically write your opinion on the topic of Internet culture theory throughout the lectures.

2. Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3. Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA (芸術学 / Art studies 200)

表象文化概論

稲垣 立男、島田 雅彦、森村 修、LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを指します。各講義では、演劇、音楽、非言語的コミュニケーション、建築などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4人の教員による4分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回は、四名の担当教員が各自の講義について詳しく解説します。第2回～第13回までは、各担当教員が3回ずつ講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。第14回は応用編として、四名の担当教員がそれぞれの研究分野について紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の4名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第2回	形式論 担当：島田雅彦	音楽、文学、哲学における形式について 起承転結、ソナタ形式と弁証法
第3回	空間論 担当：島田雅彦	想像上の空間についての考察 あの世、パラレルワールド ニッチ論
第4回	時間論 担当：島田雅彦	時制、多元宇宙論 1日はいつから始まるか？ 時間は存在しない？
第5回	食の表象（1） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	表象文化における家族の食卓 作る人/食べる人の関係性
第6回	食の表象（2） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	食と多様性 食からジェンダー・セクシュアリティやエスニシティーについて考える

第7回	食の表象（3） 担当：レティツィ ア・グアリーニ (Letizia GUARINI)	食べる/食べない 社会の眼差しと身体の表象
第8回	カメラを持って旅に出よう。 担当：稲垣立男	カメラやスマートフォンで記録。記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。
第9回	スケッチブックに記録しよう。 担当：稲垣立男	スケッチブックの使い方について。スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしています。
第10回	音や動きを拾うことから。 担当：稲垣立男	音や動きを追いかけることをきっかけとして、何かを始めてみます。お互いの行為や作品についてディスカッションしてみます。
第11回	現代視覚文化論①	・写真メディアの登場——視覚の変容
第12回	現代視覚文化論②	・「写真でみる」ことの様式 ・美術館という制度
第13回	現代視覚文化論③	・文化社会学からのアプローチ 1.「視覚論の転回」 2. デジタル写真の登場
第14回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の教員が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。
各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を25点満点で示し、合計で100点満点で成績をつける。
平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

・初回のガイダンスにかならず出席してください。初回の授業の課題提出が選抜試験を兼ねるので、受講希望者の初回授業の出席は必須です（受講者数上限は今年度授業実施教室の収容可能人数と同数）。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, music, nonverbal communication, and architecture. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

・ Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

・ Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

・ Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA (デザイン学/Design science 200)

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性和問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この科目は、各テーマにおいて、対面授業による説明や解説、質疑、受講生のコメント紹介、映像の鑑賞、簡易なグループワークなどを行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。
*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か	メディアとは何か？／何がメディアになるのか？／メディアの種類（タイプ）
第3回	コミュニケーションとは何か-1	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（1）：物理的環境／社会的制御など
第4回	コミュニケーションとは何か-2	「コミュニケーション」のさまざまなモデル、その規定要因（2）：多層性・文脈／交話など

第5回	情報（ニュース）	情報とは何か？／どんな要件を満たせばニュースになるのか？／社会におけるニュースの役割・機能／マス・メディアの報道
第6回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR）／近年の推奨コミュニケーションの問題
第7回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第10回	観光とメディア	メディアが観光の対象をつくる／「聖地巡礼」／大衆と対象物
第11回	メディアと感情	メディアとしての芸術作品と「ノスタルジー」
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	情報源＝メディアの識別利用／ファクトチェック／メディアと感情／メディアのはたらきへの補論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・稲増一憲『マスメディアとは何か 影響力の正体』中公新書、中央公論社、2022年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニュー『コミュニケーション学講義——メディア・テクノロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレットNo.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約40％）、ふりかえりレポート（2回：約60％）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60％以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8割以上の小課題の提出、2回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないことや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

さまざまなメディアやコンテンツに興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、授業内課題、ふりかえりレポートの3つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

(1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.

(2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.

(3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

(1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.

(2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).

(3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。
その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、普段接する機会の少ない、先進的な表現領域に対する理解を深めるための入門的な授業です。この講義では、特に21世紀以降に関心を集めている社会と芸術との関係に焦点を当て、パフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界の様々な事例を参照し、社会と芸術の接点や関係性について探求します。本授業は、「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」という2つのテーマで構成されており、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。
第一部 「近現代の芸術史と理論」では、18世紀以降から21世紀までの美術史と理論を包括的に学び、芸術表現の変遷とその背後にある思想や理論を探求します。
第二部 「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

近現代の美術史と現代社会と美術に関する課題の事例を紹介していきます。近現代美術史の基本を理解すること、各時代の社会的課題と芸術との関連を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド方式により授業を行います。
授業当日の流れ（重要）
1. 指定された公開日に、Google Classroomにその日の学習内容を掲載した資料（Google sites）のリンクを掲載する。
2. 資料を見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. サイト内に小テストや授業内レポートのリンク（Google Forms）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Formsに書き込んでおく回答します。

授業の方法

授業時間になるとGoogle Classroomを通じて受講に必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40～60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。
課題

受講後、Google Formsで課題（小テストと簡単なレポート）を提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。
質問・相談
一般的な質問や相談についてはGoogle Classroomのチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近代美術の誕生 古典主義、ロマン派、 写実主義、印象派	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が開けられました。この時期の重要な出来事や社会の変遷が、芸術にも深い影響を与えました。市民革命によって生まれた新しい社会秩序や価値観、そして産業革命による技術の進화가、芸術家たちに新たな表現の手段を提供しました。古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派などの芸術運動は、単なる美的表現にとどまらず、社会の変動や文化の転換を反映し、近代というコンセプトを徐々に体现していきます。授業では、これらの芸術運動を通して、近代社会の多様性や複雑性に迫り、芸術が社会と相互の作用について学んでいきます。印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。フォービズムは色彩や筆触を強調し、視覚的な効果を追求しました。表現主義は主観的な感情の表現に力点を置きました。また、キュビズムは立体的視点から物体を捉える手法についての実験をしました。ポスト印象派と呼ばれる画家のゴッガン、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降のこれらの20世紀の美術芸術運動に大きな影響を与え、新しい視点やアプローチを提示しました。授業ではこれらの芸術運動に関する理解を深め、背後に潜むアイディアや文化的な文脈にも焦点を当てて学んでいきます。
第3回	アバンギャルドの時代Ⅰ フォービズム、表現主義、キュビズム	
第4回	アバンギャルドの時代Ⅱ 未来派、ダダイズム シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて、またロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて学びます。この時代登場した芸術運動は、現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるような新しいアイディアが登場します。
第5回	ワークショップ1 単元の復習とワークショップ	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代Ⅰ、アバンギャルドの時代Ⅱの復習及びワークショップを行います。

第6回	第二次世界大戦と戦後アメリカ美術 抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート	第二次世界大戦により、ヨーロッパ各地は大きなダメージを受け、芸術の中心地としての地位をアメリカに譲ることとなりました。アメリカではその経済力を背景に、現代芸術の躍動的な拠点となり、さまざまな芸術運動が登場します。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・レアリズム、アルテ・ポーヴェラなどヨーロッパの動向についても学びます。	第11回	ジェンダーとアート	社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会的な枠組みを拡大し、偏見や差別に対抗するための意識を喚起する役割を担い、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。
第7回	1960年代の市民運動と新しい動向 フルクサス、パブリッシング、ビデオアートミニマリズム、コンセプチュアルアート、ランド・アート、アルテ・ポーヴェラ	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。1960年代の芸術シーンでは、伝統的な絵画や彫刻に留まらず、さまざまな新しい表現手法が登場しました。物質生よりも思想や概念に焦点を当てたミニマルアートやコンセプチュアルアート、ハプニングやパフォーマンスアートは身体や行為を介して会への関与をするなど、新しい芸術の動向が登場します。	第12回	環境とアート	私たちは古くから自然を観察し、芸術作品の主題としてきました。自然が提供する様々な風景や生態系は、画家や彫刻家などのアーティストにとって永遠のインスピレーション源となっています。また、19世紀の自然主義の考え方や、近年のランドアートの試みなど、自然は芸術において重要な役割を果たしてきました。しかし、近年では地球規模での環境問題が深刻化し、私たちは自然との関係性を再評価せざるを得なくなっています。地球の温暖化、生態系の破壊、資源の枯渇など、環境問題は私たちの生活に直接関わるものとして認識されるようになりました。地球温暖化と関連するエネルギー問題は、世界の大きな課題となっており、日本においては東日本大震災をきっかけとした自然災害と原発問題が今でも続いています。アートの世界では環境問題への関心を高め、作品を通じて社会に對話を呼びかけます。アートを通じた環境問題へのアプローチは、単なる美的な観点だけでなく、社会的な意識を喚起し、持続可能な社会を喚起します。
第8回	多文化の時代 ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート	1989年にベルリンの壁が崩壊して東西ドイツの境界線がなくなり、さらに東ヨーロッパ全体が消滅、冷戦構造が終焉を迎えます。東西対立の時代からアフリカやアジア、南米などを含んだ多文化の時代に移行します。アートの世界でも、1980年代以降アメリカやヨーロッパ中心からグローバルな考え方が一般的になります。アメリカのコマースアリズムにより生まれた新表現主義の時代を経て、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント、ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」(YBA) とリレーショナルアートについての理解を深めます。21世紀に入り、芸術はますます社会に関与する方向へと進化しています。ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスといった社会に関与する芸術運動が盛んになっています。	第13回	感染症の時代	2020年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症の拡大という未曾有の状況に直面しました。現在では、私たちにとってパンデミックはすでに少し以前にあった出来事のように感じています。過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症が引き起こす社会的課題は、その時代背景や科学技術の進歩によって異なる側面を持ちます。アートはその時代の複雑な感情や社会的な変化を反映してきました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。
第9回	ワークショップ2 ・単元の復習とワークショップ	戦後アメリカ美術、1960年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。	第14回	ワークショップ3 単元の復習、ワークショップ	14回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。
第10回	政治とアート 退廃芸術展と大ドイツ展、戦争画、東日本大震災とアート、表現の不自由展	第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることになります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争、文化政策の変化など、政治とアートについてプロパガンダ、社会主義リアリズム、ヨーゼフ・ボイスの社会彫刻、表現の不自由展などの具体的な事例を通じて、アートが政治的な状況にどのように対応し、影響を与えてきたのかについて理解します。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Google sitesで配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。 【テキスト（教科書）】 Google sitesを通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することをお勧めします。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。		

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年
 デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のためにGoogle classroomを使いますが、履修に関する情報については学習支援システムを併用しますので、よく確認しておいてください。

【その他の重要事項】

受講希望者が1000人を超えた場合、抽選を行います。抽選方法については学習支援システムを通じて連絡しますので、よく確認をしておいてください。

実務経験のある教員による授業

稲垣立男はコンテンポラリーアーティスト。フィールドワークによる作品制作と美術教育に関する実践と研究を国内外で実施しており、これらの現場での経験を毎回の講義に反映させています。

【Outline (in English)】**Course outline**

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.
2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA（芸術学 / Art studies 200）

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
人数制限・選抜・抽選：定員60名。それを超えたら選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどういうことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付けられよいか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業時間の最後ないし授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・興味深いリアクション・ペーパーを取り上げて授業内で紹介することにより、全員にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	基本概念・用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ポッティチェリ、ティツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フラנקなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象を鑑賞するのに必要な知識として、ショットとアングル、光と音の効果について確認する。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像化することについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	舞踊における身体（1）	クラシック・バレエの歴史を概観したあと、モダンバレエ、モダンダンスがその伝統からどう変化したかを考察する。マヤ・デレン、ピナ・バウシュなど。
12	舞踊における身体（2）	近代日本における舞踊の表象について、いくつかの映画作品をもとに考える。『ダンシング・チャップリン』など。
13	服飾における身体（1）	西洋における服飾の歴史的変遷を概観する。

14 服飾における身体（2） 日本における服飾の歴史的変遷を概観する。授業のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
諸川春樹他『彫刻の解剖学―ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
西村清和『視線の物語 写真の哲学』（講談社メチエ）
森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
蓮實重彦『監督 小津安二郎 〔増補決定版〕』（ちくま学芸文庫）
ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
矢田部英正『たたずまいの美学』（中公文庫）
スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
鷗田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO出版）
ダムタイプ『メモランダム 古橋樺二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点50%: 当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

学期末レポート50%: 身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができているかを評価。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により、扱うテーマや作品を変更することがあります。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.

・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

LIT200GA（文学 / Literature 200）

比較文化

岩下 弘史

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロニアリズム、オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」にも目くばせをしながら、比較文学・比較文化に必要な基礎を学ぶとともに、それらの理論を文学や映像作品など実際の芸術作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】

文化を比較するにあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。

授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、様々な「理論」を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。また「理論」は必ずしも文化を理解するのに万能ではありません。「理論」の限界とそれ以外の文化研究の手法についても学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業資料を元に講義をおこないます。事前に課題図書を読む必要がある回もあります。また講義の残り10分ほどで、講義についての課題を提出することにもなります。

フィードバックとして、学習支援システムに提出された課題に直接回答します。また授業冒頭では皆さんが提出した回答のなかで重要な論点につながるものをとりあげて、復習もします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。
2	比較文学・比較文化研究の歴史・概要	比較文学・比較文化研究の歴史・概要について理解する
3	比較文学研究と関わる「理論」について①	比較文学研究と関わる「理論」、主にポストコロニアリズムについて学ぶ
4	比較文学研究と関わる「理論」について②	比較文学研究と関わる「理論」、主にフェミニズムについて学ぶ
5	文学と思想のかかわり①——夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わり	夏目漱石の『こころ』と心霊研究との関わりについて学ぶ
6	文学と思想のかかわり②——夏目漱石の『三四郎』とフェミニズムとの関わり	夏目漱石の『三四郎』と同時代思想ならびにフェミニズムとの関わりについて学ぶ
7	国境を越える芸術作品——翻訳研究①（谷崎潤一郎『痴人の愛』、吉本ばなな『キッチン』などについて）	翻訳研究の実践から学ぶ
8	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（川端康成『雪国』の場合）	翻訳研究の実践から学ぶ
9	国境を越える芸術作品——翻訳研究②（『雪国』フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』と村上春樹らによる翻訳の検討）	翻訳研究の実践から学ぶ
10	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化①（『グレート・ギャツビー』の映画化についての背景）	アダプテーション研究や理論の概要を学ぶ

11	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化②（『グレート・ギャツビー』原作と映画の比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
12	アダプテーション研究——ジャンルを越境する文化③（英米テレビドラマの比較）	アダプテーション研究の実際の例を見て学ぶ
13	比較文化研究の紹介——比較文化研究の実践に学ぶ	比較文化研究の実際の例を見て学ぶ
14	まとめ	授業のまとめをおこないつつ、期末レポートの書き方を指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容に関する毎週の課題を Hoppii に提出する。
- ・4回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
- ・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にないですが、各回に用いる資料は Hoppii を通じて配布します。

【参考書】

松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1995）、佐々木英昭編『異文化への視線—新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996）、Ben Hutchinson, *Comparative Literature: A Very Short Introduction* (Oxford UP, 2018) など。その他適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎週の課題ならびに授業への参加（平常点）：50%
- ・期末レポート：50%
- ・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

もう少しコメントを書く時間をとりたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業内に Hoppii にて課題を提出してもらうので、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを持参してください。

【その他の重要事項】

受講者の人数や進度によって扱う題材に若干の変更があるかもしれません。あらかじめご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will learn the basics of the comparative literature and culture and finally how to analyze literary works and movies.

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze literary works and movies in various viewpoints.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and active participation in class discussion: 40%

Term paper: 60%

LIT200GA（文学 / Literature 200）

言語文化概論

衣笠 正晃

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20世紀以降さまざまな領域で展開された、言語（ことば）を手がかりとして文化や社会、そこに生きる人間のあり方を捉え直そうとした学問的営み（理論・概念）について学び、現代に生きる私たちが世界をどう見つめ、向き合うかを考えます。

【到達目標】

- 1) テキストや資料の誠実な読みにもとづいて、思想家たちの思想的背景や問題意識を捉え、その理論と基本概念を理解する。
- 2) 言語（ことば）と文化・社会との密接なかかわりについて「意味」「身体」「権力」「テクノロジー」などといった観点から検討し、理解を深める。
- 3) 学んだ理論を手がかりに、現代社会とそこに生きる自らのあり方についての問題意識をはぐくみ、自らのことばで表現・伝達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回とも、出席者がテキストおよび事前配付資料の指定箇所を読み、十分な予習をおこなっていることを前提として、ハンドアウトで授業の流れを示しながら講義を進めます。

授業形式は講義が中心となります。皆さんの主体的な取り組みを促し、その疑問の解決をはかるため、原則として毎回予習確認のためのクイズ（小テスト）を実施するとともに、リアクションペーパーのかたちで、感想や質問を提出してもらいます。リアクションペーパーのコメントや質問については次回授業で取り上げてフィードバックをおこないます。また復習を兼ねたミニレポートを提出してもらうことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／イントロダクション	授業計画の説明＋4つの「ポスト状況」と現代思想の問い（テキスト第1章）（リアルタイムオンラインで実施）
2	19世紀から20世紀への思想的転回	実証主義・歴史主義からの転換とその社会背景
3	言語学の再定義	ソシュールによる一般記号学の構想（テキスト第2章）
4	ことば・無意識・主体	フロイトと精神分析（テキスト第4章）
5	ことばとしての文化	構造主義革命と一般記号学（テキスト第5章）
6	ことば・権力・規律	フーコーの「知の考古学」（テキスト第7章）
7	象徴支配と階級	ブルデューの文化社会学（テキスト第8章）
8	メディア・テクノロジーと文化産業(1)	マクルーハンと「グーテンベルク革命」（テキスト第9章）
9	メディア・テクノロジーと文化産業(2)	想像力の産業化と「象徴的貧困」（テキスト第10章）
10	国語とナショナリズム	国民国家と伝統の発明（テキスト第13章）
11	アイデンティティと世界の変革	ジェンダー、エスニシティ、差異と同一性（テキスト第14章）

12	「人文知」のあり方の転換(1)	20世紀思想の問題圏（テキスト第15章）
13	「人文知」のあり方の転換(2)	ポスト・ヒューマニズムをめぐって
14	学期授業の総括	学期末試験・振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも教員の指示に従ってテキストや事前配付資料を授業までに精読し、質問ポイントを考えておくこと（授業のなかで小テストなどによって予習状況を確認します）。また課題としてミニレポートが課された場合は、期日までに作成し提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2010年）

※上記テキスト以外にも随時プリントを配付・使用します。

【参考書】

・岡本裕一郎『フランス現代思想史——構造主義からデリダ以後へ』（中央公論新社〈中公新書〉、2015年）

・石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』（筑摩書房〈ちくま学芸文庫〉、2020年）

※その他、授業で随時指示します。なお上記テキスト（教科書）末尾の「読書案内」も参照してください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50％：リアクションペーパー、小テストなどの提出物を含む）と学期末試験（50％）をあわせて評価します。評価にあたっては以下の4点の達成度にもとづいて判断します。

- 1) テキストや資料についての予習が十分におこなわれているか。
- 2) 思想家の思想的背景や問題意識のあり方、理論と基本概念が理解できているか。
- 3) 授業にもとづき現代の文化・社会について自らの問題意識を具体的にもてているか。
- 4) 授業をつうじて学び・考えたことを、主体的・説得的に表現できているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者による自発的・主体的な問題発見や取り組みをさらに促すように努めたい。またクラス規模を考慮したうえで、出席者による議論や意見交換の機会を取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料の配付や提出物の回収、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。小テスト等で利用することがありますので、指示があった場合は授業にデバイス端末（PCやタブレットなど）を持参してください。

【その他の重要事項】

・初回授業はリアルタイムオンラインで実施します（詳細は秋学期開始時に学習支援システムに掲示します）。万一受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづき選抜をおこないます。

・履修者数などに応じて授業の進め方に修正を加えることがあります。

【Outline (in English)】

This course outlines the development of cultural and social theories since the beginning of the 20th century, paying particular attention to the impact of the so-called "linguistic turn" on the humanities. The goals of this course are to obtain basic knowledge of 20th-century cultural and social theories and theorists, to understand the inextricable relationship between language and culture, and to have a critical awareness toward the issues of the contemporary world. Students are expected to come to class well prepared by completing the required assignments; the required study time is more than four hours per class. The overall grade will be decided based on class participation (50%) and the final examination (50%).

PHL200GA (哲学 / Philosophy 200)

現代思想

森村 修

サブタイトル：「生まれてこない方がよかった」とはどういうことか？ ——反出生主義入門

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2025年度は、デイヴィッド・ベネター（1966-）の『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』（2006/邦訳新訂版2024）を通じて、世界中にさまざまな影響を与えた思想としての「反出生主義」について哲学的に考察する。その際に、ベネターのテキストを十分に理解するために、ベネターのテキストを翻訳した小島和男氏（学習院大学教授）の『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか」（2024）を用いて授業を進める。

【到達目標】

- (1) 「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
- (2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行いながら、必要に応じて、学生との議論を行う。その際にテキストを読みながら、テキストの理解を深める。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー	・授業の概要説明 ・デヴィッド・ベネターとは誰か？
2	『反出生主義入門』①	I. 反出生主義にふみ込む前に① 1. なぜ倫理の問題を考えなければならぬのか？ 2. 中絶は不道徳か否か？
3	『反出生主義入門』②	I. 反出生主義にふみ込む前に② 3. 未来への責任はあるか？
4	『反出生主義入門』③	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ① 1. 『生まれてこないほうが良かった』全体の構成 2. 可能的存在についての価値判断
5	『反出生主義入門』④	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ② 3. 基本的非対称性とその説明力
6	『反出生主義入門』⑤	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ③ 4. 快が苦を打ち消せば良いのではないかという反論
7	『反出生主義入門』⑥	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ④ 5. 人生の質の評価と世界における苦痛
8	『反出生主義入門』⑦	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑤ 6. 子どもを作る権利について 7. 妊娠中絶賛成派

9	『反出生主義入門』⑧	II. 「生まれてこないほうが良かった」とはどのようなことか？ ⑥ 8. 段階的絶滅 9. 子どもを持たないことへの偏見とベネターの思い
10	『反出生主義入門』⑨	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと① 1. 『生まれてこないほうが良かった』がミソジニーである理由
11	『反出生主義入門』⑩	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと② 2. 自殺について
12	『反出生主義入門』⑪	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと③ 3. 親を責めても良いのか？
13	『反出生主義入門』⑫	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと④ 4. 子どもを作っては絶対にいけないのか？ 5. 「始める価値」と「続ける価値」の違いをベネターが強調しない理由
14	反出生主義とは何だったのか——総括	III. 反出生主義について考えるうえで重要なこと⑤ 6. パズル解きか実存的な自分の問題か？ 7. 反出生主義と教育、それと養子について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- (1) デイヴィッド・ベネター『生まれてこないほうが良かった——存在してしまうことの害悪』、すずさわ書店、2024年
- (2) 小島和男『反出生主義入門——「生まれてこないほうが良かった」とはどういうことか』、青土社、2024年

【参考書】

- (1) David Benatar, *Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence*, Harvard University Press, 2006.
- (2)

※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①期末試験・レポート（30％）、授業内レポート・レジュメ（30％）、平常点（40％）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

- 1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
- 2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
- 3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The purpose of this class is to philosophically examine "anti-natalism" through David Benatar's (1966-) "Better Never to Have Been: The Harm of Coming into Existence" (2006/New Revised Japanese Edition 2024).

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

GDR200GA (ジェンダー / Gender 200)

ジェンダー論

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーは重要な視点の一つです。この授業では、文化的・社会的な性の有様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築されまた変化してきたかを、言説という概念を軸に考えていきます。そこから、自文化ならびに異文化について、ジェンダーの視点を通じて、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指します。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 言説分析の基本的な方法論を習得し、ジェンダーに関連する諸問題について、基礎的な言説分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月9日（水）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（水）に学習支援システムでアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（金）の午前10時です。4月12日（土）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●ジェンダー研究において重要な諸概念（母性・身体・家族・セクシュアリティ・恋愛・マスキュリティなど）を、歴史的な視点と現代日本の日常生活における視点の双方から検討していきます。

●一次資料の簡単な分析を行ってもらいます。そこから、概念・方法論の理解と実践方法を学んでいきます。

●毎回の授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形で提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要について
2	「男らしさ」と男性学の視点	①役割理論から、「男らしさ」を一つの「役割モデル（role model）」として考察する。 ②1980年代以降の男性学の系譜について理解する。
3	「男らしさ」と相互行為論	①＜男らしさ＞を相互行為論（アーヴィング・ゴフマンのドラマトウルギーならびにイブ・セジュウィックのホモソーシャルティ）の概念から考察する。 ②ホモソーシャルティ（男同士の絆）と国民国家・近代スポーツ・軍隊について検討する。

4	「母性」イデオロギー	①日本における国民国家形成と「母親」への役割期待の関係性、並びにその変遷について検討する。 ②高度成長期における母性イデオロギーの形成について議論する。 ③今日の日本社会における母親・母性に関する問題と、その背景について検討する。
5	性役割と「母性」	母親や母性に関する言説が、法律や政策にどのような形で影響を与えているのかを、親権並びに代理出産を事例として検討する。
6	異性愛規範とゲイ・スタディーズの視点	①近現代日本における同性愛の系譜を辿りながら、異性愛規範について考察する。 ②セクシュアリティをアイデンティティ概念から捉え、クイア・スタディーズの新たな視点について検討する。
7	性の商品化と消費	①フェミニズムにおける重要なテーマである、「性と生殖に関する自己決定権」の背景としての、近代における性規範について考察する。 ②ポルノグラフィと買売春を事例に、セクシュアリティの問題を検討する。
8	ジェンダーと身体規範	①美容整形の系譜をたどり、近現代におけるジェンダー化された身体規範と整形美容の関係性について検討する。 ②「改造」できる身体という概念にもとづく美容整形をめぐる議論とその論点について検討する。
9	身体と自己アイデンティティ	「消費」という視点から、身体とアイデンティティの問題について検討する。
10	「ロマンティック・ラブ」イデオロギーと恋愛の物語性	①「恋愛」という概念がどのように日本に定着していったのかを議論する。 ②ロマンティック・ラブ・イデオロギーについて検討する。 ③「恋愛」の物語性について、ドラマなどの事例から検討する。
11	近代家族と「家庭」イデオロギー	①「近代家族」と国民国家形成との関係性について検討する。 ②「近代家族」の規範となった3つのイデオロギー（ロマンティック・ラブ、母性、家庭）について検討する。 ③「近代家族」の変容とその背景について議論する。
12	フェミニズムとジェンダー論	フェミニズムの思想的背景や展開の概略を理解し、今日におけるジェンダー論の視座を議論する。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

伊藤公雄『男性学入門』（作品社、1996年）。

伊藤公雄、牟田和恵編『ジェンダーで学ぶ社会学』（世界思想社、2025年）。
 千田有紀、中西祐子、青山薫『ジェンダー論をつかむ』（有斐閣、2013年）。
 江原由美子、山崎敬一編『ジェンダーと社会理論』（有斐閣、2006年）。
 高橋幸、永田夏来『恋愛社会学：多様化する親密な関係に接近する』（ナカニシヤ出版、2024年）。
 木村涼子、伊田久美子、熊安貴美江『よくわかるジェンダー・スタディーズ』（ミネルヴァ書房、2013年）。
 伊藤 公雄、樹村 みのり、國信 潤子『女性学・男性学 - ジェンダー論入門』（有斐閣、2019年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコン等情報機器が必要です。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月9日（水）までに学習支援システムでこの授業を登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月9日（水）に学習支援システムでアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月11日（金）の午前10時です。4月12日（土）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It introduces various issues related to gender and sexuality so that students become better able to analyze their own culture as well as other cultures in a multifaceted way from the standpoint of gender.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire basic methods of discourse analysis and conduct basic discourse analysis on various gender-related issues.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

The final grade will be decided by the reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA (言語学 / Linguistics 200)

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうことが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。学期末には、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていく。
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する 「文化とコミュニケーション」について
2	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
3	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦
4	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦
5	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦
6	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
7	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
8	事例研究⑥ 共文化に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
9	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相

10	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相
11	事例研究⑨ マスメディアの影響に関するケース	メディア報道における交流の諸相
12	受講生による事例報告①：受講生のうち半分が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、前半グループが報告する
13	受講生による事例報告②：残りの半分が発表	文化の体現者であるということ、異文化を理解するという点における問題点を考えながら報告するー受講生を半分に分け、後半グループが報告する
14	討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり）	これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披露できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元 (他) (2013) 『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション-多文化共生と平和構築に向けて』 有斐閣選書

久米昭元・長谷川典子 (2007) 『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』 有斐閣選書

八代京子 ほか (2001) 『異文化コミュニケーション・ワークブック』 三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %

提出物 20 %

事例報告 20 %

期末試験またはレポート 30 % で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations

3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 30%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 30%

SOS200GA（その他の社会科学 / Social science 200）

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈グ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるかを学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチを習得することで国際関係学を理解し、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 初回授業はオンラインライブで実施する予定である。受講を希望する学生には、初回授業（欠席する場合は、配布資料を読んで）のリアクションペーパーを定められた方法と期限（初回授業時及び Hoppii で通知）までに提出してもらう。受講者数を調整する必要が生じた場合は、初回授業のリアクションペーパー提出者から抽選する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係① 「つながる/つなげられる」	世界の一体化が進んだゆえの「分断」を学び、現代世界のグローバル化との関係を理解する。
6	帝国主義と国際関係② 「へだてる/へだてられる」	当時行われた「植民地」、「帝国主義」を対象とする研究やから、国際関係認識や分析の特徴を学び、現代世界でのそれらとの関係を考える。
7	帝国主義と国際関係③ 国際関係研究への視座	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
8	帝国主義と「民族」- 実態と概念①	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	人類初の「総力戦」がもたらした国際関係の変化を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に学ぶ。
11	第一次世界大戦と国際関係① 近代国際関係の再編	委任統治制度を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係② 国際組織と安全保障	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認。
13	第一次世界大戦と国際関係③ 植民地支配体制の再編	
14	春学期の授業の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍㈱、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 授業の2回目以後は対面授業を行うが、予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA (その他の社会科学 / Social science 200)

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるかを学び、現代世界に対する理解や諸課題へのアプローチを習得することで国際関係学を理解し、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学及び国際関係に関する諸情報の収集や批判的考察の仕方を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでいることを前提に進める。
3. 授業ではレジュメや資料を配布することを原則とする。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させえた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐって	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—米ソ関係及び東西両陣営内の変化	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	新冷戦から冷戦体制の崩壊過程を崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバルバージョン	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを取り上げ現代国際関係への理解を深める。
14	秋学期の授業の総括	授業の要点と国際関係学の視点と方法の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末の試験50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について指示した期限、提出先を守らない場合、また、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）によらない理由で提出しない場合は、未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに出された質問、その時々国際情勢を反映させた授業が好評であったため、これを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインライブで授業を行う場合は、パソコンやタブレットなどの通信機器、安定的な接続、通信容量に制限がない環境を各自で準備する。

【その他の重要事項】

1. テキストは常に手元に置き、予習・復習以外にも読み進めること。
2. 予告したうえでオンライン授業の回を設ける可能性もある。
3. Hoppiiの授業情報、通知などを随時、確認すること。教員と連絡をとる場合はTAを通じて行う。
4. リアクションペーパーを含む提出物において、他人や生成系AIが作成した文章をあたかも自分が作成したかのようにみせかけたり、あるいは、前後関係や語句を若干変更して用いたりすることは認めない。
5. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講者も受講可能であるが、「国際関係学概論Ⅰ」既習を前提に進める。未受講者はⅠのシラバスを参照し、テキストや参考書の関係箇所を読んで受講することを強く推奨する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人びとの自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのか考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第7回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第8回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第9回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第10回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光・国家・先住民	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	開発・国家・先住民	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

篠田謙一『日本人になった祖先たち—DNAが解明する多元主義』NHK出版、2021年。

丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013年。

ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013年。

ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007年。

小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムや動画閲覧サービス等を利用します。

【その他の重要事項】

- ・本授業では授業コメント（リアクションペーパー）や学期末レポートの提出を課しますが、生成AIツールは使用しないでください。
- ・学期末レポートにおいては、出典の明示を徹底してください（詳細についてはレポート作成要領において説明しますが、出典が明示されていない場合は評価対象外となることがあります）。
- ・本学では成績評価におけるSの割合を受講者の20%以内を目安とすることを定めており（ただし少人数授業等を除く）、本授業でもこれに従って評価を行います。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

HUM200GA（その他の人文学 / humanities 200）

国際文化協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位
旧科目名：
旧科目との重複履修：
毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい
その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力和文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 基本方針：対面で実施するが、学内業務の関係でオンデマンドを使用することもある。
- フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。
- 授業後課題：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー 国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトパワーについて考える
11	国際協力と想像力一期 末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関係している。各自入手すること。
松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点50%、期末レポート50%
- ・授業後課題は設問に200字～800字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褄が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けている。
- ・授業後課題はコロナ禍では毎回出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れ、教員がフィードバックをする。学生から学びが大きいと好評。

【学生が準備すべき機器他】

- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK記者や、開発協力分野のNGOとして実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation on cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to;

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

POL200GA（政治学 / Politics 200）

平和学

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈実〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では主に国際機構に着目して平和学を学ぶ。歴史、思想、組織、制度、文化などを通して平和や暴力について考え、国際社会コースの基幹科目として、各自がより深めたい専門領域を見つけるきっかけとなることを目指す。

【到達目標】

- （1）消極的平和、積極的平和、文化的平和の概念を使って事例を説明できる。
- （2）国際機構の特徴と平和との関係を具体的に説明できる。
- （3）基本的なアカデミックスキルと平和学で取り上げられる方法を理解し、実例に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：対面で実施する。学内業務などでやむを得ない場合はオンデマンド授業を行う場合もある。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：：2回に1回程度課す。基幹科目なのでアカデミックスキルを高

めることを目的とし、200字～800字程度で書いてもらう。提出期限は授業日から3日以内。授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「平和」「平和学」とは何か	「平和」の概念や「平和学」の発展について考える。
2	国際機構誕生前の平和と暴力	17c以降の平和思想をふまえ、「力」による平和の賛否について考える
3	国際連盟の意義と限界	戦争を違法化し制裁によって守らせようとするについて考える
4	国連憲章と自衛の武力	非暴力で戦争のない消極的平和を築くことができないのかを考える
5	2つの平和主義	「正しい戦争」という考え方の変遷と妥当性について考える
6	人道的介入の是非	暴力を止めるために暴力を使うことの是非について考える
7	紛争研究	解決した紛争に着目する
8	紛争解決学	紛争解決に関する学問的蓄積から平和学を学ぶ方法論を習得する。
9	積極的平和と国際開発機構（ユニセフ）	井戸掘りという「平和」的手段が暴力になる構造を考える。
10	積極的平和と国際開発機構（世界銀行）	開発協力が暴力になる構造を考える。
11	異議申し立てとオンブズマン	平和的手段が暴力にならないための仕組みについて考える。
12	文化と平和	「文化的平和」という概念を手がかりに、文化と平和（暴力）のつながりについて考える。
13	紛争と文化外交・平和教育	「何を」から「どのように」への転換と「平和」のつながりについて考える。
14	まとめ（権力と暴力）	「権力」という切り口から13回の授業を振り返り、授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後課題は、法政大学の図書館HPのデータベース等から文献を検索して論じるなど、大学生に必要な調査と思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

関連する文献を毎回の授業で示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内討論への参加度、授業後課題）50%、期末レポート50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生から提出された授業後課題の答案に対して、個々人へのフィードバックを求める声があるが、履修者が多いためそれは不可能。また、労力の割に、それを活かそうと考えている学生が多いわけではない。したがって、提出された答案をもとに次の授業の冒頭でフィードバックし、それを各自が自分の答案に当てはめて自己分析してもらっている。自己採点能力も重要な力である。
- ・学習支援システムの「掲示板」を使って常時質問を受け付けているが、ほとんど質問はない。
- ・授業後課題はコロナ禍では毎日出していたが、負担の大きさに鑑みて、現在では学期中に5～6回にしている。受講者からは、大学でのレポートの書き方やデータベースの使い方が身についたと好評である。
- ・学生から学びが大きいというフィードバックが多いので、毎回グループ討議と発表、それに対する教員のコメントを引き続き行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・国際開発協力NGOやNHK記者としての実務経験を有する教員が、直接関わった開発事例や取材経験を挙げながら講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on international organizations to explore "positive", "negative" and "cultural" peace in the Galtung's terms. It enables students to apply the Galtung's terms for explaining the conflicts and to analyze the functions of international organizations in "peace".

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the issues or events by using the concept of "positive", "negative", "cultural" peace.
- 2) explaining the functions of international organizations in avoiding certain type of the violence.
- 3) applying the basic academic skills and the analytical methods the peace studies use for actual cases of violence.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA (社会学 / Sociology 200)

宗教と社会

佐々木 一恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名 (超えた場合は、選抜の可能性あり)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈G〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

異文化理解において、宗教は重要な要素の一つです。この授業では、宗教というレンズを通して、過去そして現在における社会の諸問題を検討していきます。宗教と社会の関係を、格差・開発・ジェンダー・ナショナリズム・国民国家・消費・紛争などの問題から捉えることで、グローバル化の進む現代社会における多様な価値観との共生のあり方について考えていきます。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようになる。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要なお知らせ】 初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。受講を希望する人は4月10日(木)までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日(木)に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日(土)の午前10時です。4月13日(日)に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●歴史学・人類学・社会学・政治学において、宗教がどのように分析されてきたかを概観するとともに、具体的な諸事例から、宗教と社会の関係性とその多元性について議論していきます。

●毎回、授業の最後に出される問いに対する分析を、リアクションペーパーの形にまとめて提出してもらいます。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	宗教とはなにか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教を考えるためのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのような過程で体系化されていったかを検討する。
3	医療技術の進歩と死生観	昨今の臓器移植・延命治療・尊厳死法案・iPS細胞をめぐる議論から、死生観と宗教・医療・国家の間の問題を、公的領域・私的領域の視点を交えながら考察する。

4	所有・貧困と宗教	宗教において、格差や貧困の問題はどのように考えられてきたのか、また格差や貧困の問題の是正を目的として、近代に出現した公的な福祉制度は、宗教における所有や貧困に対する考えや対応と、どのように関連しているのかを議論する。
5	ジェンダー・セクシュアリティと宗教	ジェンダーの視点から宗教を捉えなおすことで、宗教によって維持され権威づけられてきた男女の性差に関する規範・慣習・観念について再検討する。
6	ジェンダー・フェミニズムと宗教	慣習や伝統文化とジェンダーの問題を、宗教に関する事例から考える。そこから、近代の人間観の基盤ともなっていた合理的思考と慣習・伝統文化の規範との間の問題が、単純に近代／伝統あるいは普遍主義／相対主義の二分法で片付けられないことをみていく。
7	政治・国家と宗教	政治や国家と宗教の問題を、宗教のもつ社会的統合機能を切り口に、いわゆる「世俗主義」国家におけるナショナリズムと市民宗教について議論する。
8	紛争・暴力と宗教	社会の安寧と平和の維持を願う宗教の名の下に、なぜ暴力を行使し、紛争が発生するのか。宗教と暴力・紛争の問題を、宗教儀礼(供犠)、ケガレと差別、世俗化とグローバリゼーションの視点から理解を試みる。
9	消費社会と宗教	スピリチュアル(霊的なもの)と宗教との関連を、歴史的に考察すると同時に、昨今のスピリチュアル・ブームを現代の消費社会との関連から検討する。
10	グローバル化と宗教	グローバル化する世界における宗教の動態について、公的領域と私的領域の双方の視点から検討する。
11	科学・世俗化と宗教	科学と宗教の関係を、キリスト教と科学の歴史から考えるとともに、昨今の科学と宗教の間の問題を、進化論と生殖医療に関する問題から検討する。
12	社会思想と宗教	ポスト・コロニアリズムの視点から宗教についてのアプローチを考える。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 井上順孝『宗教社会学を学ぶ人のために』(ミネルヴァ書房、2016年)。
- 伊藤雅之『現代スピリチュアリティ文化論：ヨーガ、マインドフルネスからポジティブ心理学まで』(明石書店、2021年)。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教社会学』(ミネルヴァ書房、2007年)。
- ロバート・D. パットナム、デイヴィッド・E. キャンベル『アメリカの恩寵—宗教はいかに社会を分かち、むすびつけるか』(柏書房、2019年)。
- 石井研士『メディアと宗教』(弘文堂、2024年)。

- 望月哲也『社会理論としての宗教社会学』（北樹出版、2009年）。
- 諸岡了介『世俗化論の生成：宗教という問いのゆくえ』（ミネルヴァ書房、2023年）。
- 棚次正和、山中弘編著『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福岡信吉、藤原聖子編著『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編著『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- タラル・アサド『世俗の形成：キリスト教、イスラム、近代』（みすず書房、2006年）。
- ユルゲン・ハーバマス『ポスト世俗化時代の哲学と宗教』（岩波書店、2007年）。
- ニコラス・ルーマン『宗教論：現代社会における宗教の可能性』（法政大学出版局、2009年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代的カテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。
- 『諸宗教の倫理学（全5巻）』（九州大学出版会、1992～2006年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40 %

期末試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器。

【その他の重要事項】

●初回の授業はオンデマンドで実施し、2週目以降は対面で授業を行います。

●受講を希望する人は4月10日（木）までに学習支援システムに登録してください。受講希望者が100名を超える場合は抽選を行います。受講を希望される方は、4月10日（木）に学習支援システムからアップロードされる希望登録Google Formを記入してください。締切は4月12日（土）の午前10時です。4月13日（日）に抽選結果を学習支援システムでお知らせします。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religion and society by taking up issues ranging from gender, nationalism, nation-states, consumer culture, to war and conflicts. It will discuss the possibilities of mutual understanding and coexistence of different religious values and practices in an era of global competition and interdependence.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

PHL200GA (哲学 / Philosophy 200)

フランス語圏の文化Ⅰ (思想)

大中 一彌

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈G〉〈未〉〈カ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の目的】この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が—よくも悪くも—西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。

【授業の概要】

※世界史を大学受験のさいに選ばなかった人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。
●デュビィ&マンドルー『フランス文化史』Ⅱによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。

●同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスにも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲慘な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。

●同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みに囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。

●同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の草に過ぎない、だがそれは考える草である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい肉体の弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性をもつ尊厳のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

●17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。

●ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。

●また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような対外的影響力も実際に有していた。

●イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】

1. 人が学び、成長し、より洗練された文化がかたちづくられていく際に、「古典」が果たしうる役割について、大学生にふさわしい建設的な意見を述べることができる。

2. 「オリエンタリズム」や「ヨーロッパ中心主義」のような、基本的にはヨーロッパの外側からする定型的な批判にとどまることなく、異文化としての17世紀フランスを、ある程度内側から見る、個別の作品に即した理解をもったうえで、みずからの考えをまとめることができる。

3. ヨーロッパの近世芸術におけるギリシア・ローマの神々のモチーフの重要性や、モンテーニュやデカルトに見られる、旅行を通じ、みずから生まれ育った文化(「自文化」)を相対化する視点に着目しながら、17世紀フランスにおける、さまざまな宗教や宗教批判のあり方について、「一神教は不寛容」「多神教は寛容」といったステレオタイプに陥らずに、論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この授業は基本的に「対面」です。

・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。

・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱い切れなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	シラバスと毎回進行表の説明	この授業での学び：古典と「古典主義」。チャールズ英国王のフランス語スピーチ
第2回	フランスにおけるルネサンス	16世紀：お手本としてのイタリアの芸術
第3回	国民性としての「古典主義」というストーリー	「フランス精神」の理想は、明晰(めいせき)・判明なデカルト的合理主義、と伝統的に主張されてきた。古典主義と合理主義の結びつきに関するフーコーとデリダの対比
第4回	デカルトと「悪しき霊」	私や世界は実在すると、ほんとうに言えるのか？ あなたは悪しき霊(an evil genius)にだまされて、夢やまぼろしを現実と取り違えているだけではないのか？
第5回	遠近法と劇のなかの劇	デカルトは『屈折光学』で動物実験から網膜には我々が見る対象と似た「絵」(画像)が観察されると確認していた。フランス式の庭園とは、「光学とだまし絵の新しい法則」が活かされる、スペクタクルの空間である。
第6回	コルネイユ『舞台は夢』	原題はイリュージョン・コミック。全ては幻影なのか、それともむしろ、フィクションこそが人生の学校なのか？
第7回	絵画における古典主義	ワインと血、ダンスにあふれる若きブッサンの絵画。晩年のブッサンの作品《春》で神はどちらを向いていたか？
第8回	《王は踊る》	沼地に囲まれた小さな城館に過ぎなかったヴェルサイユが、ダンス好きの君主ルイ14世により、権力と芸術のための一大装置と化しました。

第9回	宮廷社会の成立	日本にも「すまじきものは宮仕え」という表現がありますが、王様の恩顧を得ようと競うフランスの宮廷社会でも、洗練された貴族の作法を身につけていないと生き残れなかったようです。
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	シャンパーニュの絵画《ヴァニテ、あるいは人生の寓意》では、生命を象徴する赤い花のところに頭蓋骨と砂時計が置かれます。その意味とは？
第11回	モラリストと仮面	モラリストの「寓話」や「箴言（しんげん）」はしばしば挫折の経験を昇華したものです。子ども向けの寓話だからと、あなどるなかれ。
第12回	幾何学的な無限と「考える葦」	デカルトと並び、17世紀フランスを代表する思想家のパスカル。今でもヘクトパスカル（hPa）などの物理分野の単位に名を残しています。
第13回	パスカルの賭け	「私たちには、神が何であるかも、果たして存在するかどうか、知ることができない…だが賭けなければならない」。あなたなら、神の存在、神の不在、どちらに賭けますか？
第14回	サン・テグジュペリ『人間の大地』（1939年）	「1人の瘦せたパスカルを生み出すことは、金回りの良い月並みな人間を数名誕生させることよりよほど大きなことだ。」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（ア）毎回、授業にたいするコメントの執筆をお願いいたします。
 （イ）（ア）以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点いたします。指定するLMS（学習支援システム-Hoppiiの掲示板かGoogle Classroomのストリーム>コメント）に、文章やリンクを貼り付けてください。
 （ウ）この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記（ア）（イ）を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修する授業であるため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みした場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

・教科書を買う必要はありません。
 ・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。
 ・なお【授業計画】のより詳しい説明を、次のリンク先に置いてあります（Excelファイル）<https://x.gd/nmWv1>

【参考書】

参考となる映像作品：
 バトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
 ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
 エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
 ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
 参考となる音楽作品：
 夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

（ア）期末試験：実施しない（0%）
 （イ）期末レポート：実施しない（0%）
 （ウ）コメントシートの提出の有無および質（80%）
 ※各回10点満点、学習支援システム>テスト/アンケート機能から同じ週の土曜日午前09時00分00秒までに提出
 （エ）平常点（20%）
 ※授業参加者数によるが、座席表に記入してもらおうといった形を想定している。
 （オ）その他（学生による話題提供、授業運営への協力、講師のミスの指摘を想定）

※（ウ）と（エ）の合計100%の枠外で5～20%の加点を行う。
 ※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情により対面授業に参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。
 ※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
 ・わからないことは、気兼ねなく、お問合ください。
 ・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関係する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください（Wordファイル）<https://x.gd/cnNQC>

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppii等）で行ないます。そのため、スマートフォンやタブレット、できればノートパソコンのような、情報端末が必要です。

【その他の重要事項】

※国際文化学部をはじめとする法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部・スポーツ健康学部など多摩キャンパスの学生、情報科学部や生命科学部など小金井キャンパスの学生、外国人留学生や社会人学生の履修を歓迎します。
 ※千代田区キャンパスコンソの加盟校（大妻女子大学、大妻女子大学短期大学部、共立女子大学、共立女子短期大学、東京家政学院大学、二松学舎大学、専修大学）の学生の皆さんの履修を歓迎しています。
 ※この「フランス語圏の文化Ⅰ（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語の学習を主な目的とする科目に「時事フランス語Ⅰ」（<https://x.gd/pdJmh>）「時事フランス語Ⅱ」（<https://x.gd/Eqqfz>）があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。
 ※現代のヨーロッパ、特にその移民社会としての側面に、興味・関心のある方は、サマーセッションで開講される「教養ゼミⅠ『移民社会Ⅰ』入門～見える国境と見えない国境～（8月上旬）」（<https://x.gd/bp4JW>）やオータムセッションで開講される「教養ゼミⅡ『ポピュリズム』入門～トランプ氏が再登場した世界で～（9月中旬）」（<https://x.gd/benIb>）をぜひ履修しましょう。人物や映像作品を軸に、各学部・学科の専門課程で学ぶのとは異なる視点から、いわゆる社会人の教養として求められる、現代の政治・社会・文化にかんする学びを、初学者が体験できるコースになっています。
 ※国際文化学部の学生で、ヨーロッパの文化的な側面に関心がある方は、大学院国際文化研究科で水2限に開講されている「多言語社会論A」（<https://x.gd/RI11D>）「多言語社会論B」（<https://x.gd/IYbfj>）を履修できます。2025年度は「青の政治学」がテーマです。「青」という色を導きの糸として、言語だけでなく、美術やファッションをふくめた、ヨーロッパ地域における文化と社会のかかわりについて見ていきます。

【Outline (in English)】
 [Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

[Learning Objectives]

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) No preparation is required.
- (b) Students may be asked to write comments on the class.
- (c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppii's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
- (d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

[Grading Criteria]

- (a) Final Examination: Not conducted (0%)
- (b) Final Report: Not conducted (0%)
- (c) Submission and Quality of Comment Sheets (80%)

Each submission is graded on a 10-point scale per session. Comment sheets must be submitted via the Learning Support System > Test/Survey function by 9:00 a.m. on the Saturday of the same week.

- (d) Class Participation (20%)

The evaluation method may vary depending on the number of participants. For example, students may be asked to fill in a seating chart.

- (e) Others (e.g., student-led topic presentations, cooperation in class management, pointing out instructor's errors)

An additional 5 - 20% may be awarded beyond the combined total of (c) and (d), which accounts for 100% of the base grade.

PSY200GA (心理学 / Psychology 200)

異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化間理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えられる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じてZoom等によるオンライン授業や課題提示によるオンデマンド授業を実施する可能性もある。また教室定員（コロナ定員）200人を超えた場合は、受講者選抜を実施する。選抜を実施する場合は、第1回授業においてその方法等を指示する。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD等があれば適宜紹介する。

期末試験や課題等のフィードバックは、ポイントをまとめた文書を作成し、学習支援システムを用いて受講生に配布する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像がそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。

第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係の、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係の、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生息環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）、増田貴彦著『ボスだけを見る欧米人みんなの顔を見る日本人』（講談社＋α新書、2010年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

ARSa400GA（地域研究（ヨーロッパ） / Area studies(Europe) 400）

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介するショート動画をご覧ください <https://youtube.com/shorts/iaK97j-Q6ss> 学内には他にもヨーロッパ関連の科目がありますが、これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足を置きつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世の西ヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユマニスムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革がもたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、前年度までの一部学生の要望を受け、2025年度は全面オンラインで実施します。
- ・授業時間（100分）の前半80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料はGoogle Classroomや学習支援システム-Hoppiiをつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppiiを利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・基本的にリアルタイム・オンラインですが、授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明
2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出た「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化
4	考古学的定義	ギリシア世界
5	神話と政治	「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ

6	ヘレニズムと地中海世界	「ギリシア文明」の地理的拡大
7	古代ローマ	ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入
9	「周縁」としてのヨーロッパ	いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世の秩序の形成
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユマニスム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタンティズムの発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂
12	16世紀・17世紀のヨーロッパ政治史	ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンらに芽生えた統合の思想
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 小テストが宿題として出されます（ネット上で受験）
2. 本学学習基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom上でPDFファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 1. 期末テストは行いません 0%
 - 2. 出席はとりません 0%
 - 3. 小テストの受験【インターネット上において授業時間外に受験するため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます（※1）】 61%
 - 4. グループ・ディスカッションと学生間の共働【グループ・ディスカッションへの参加や、提出する文章の内容のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等（※2）】 25%
 - 5. この科目を履修している学生や履修を検討している学生に対する、この科目の授業内容に関連した動画の提供やプレゼンテーション【あくまで希望者のみ提出です】 14%
 - 6. 運営への協力【協力してくれた方に加点しています；たとえば配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。授業参加者間の連絡や情報共有に積極的に取り組んでくれたといった形の運営協力が加点の対象】（※3）
- （※1）小テストは授業の復習であり、授業で配るスライドやプリントをみれば、簡単に答えられるやさしい内容です。
- （※2）グループ・ディスカッションは、参加者数によりますが、このシラバスを執筆している時点では、Zoomを用いておこなうことを想定しています。Zoomに接続し、他の学生と共に議論に参加していたことがグループが提出した成果物に記載されていれば、確実に加点されます。小テストの得点に上乘せしたい、単位がどうしても必要という学生さんは、ぜひグループ・ディスカッションに継続的に参加しましょう。
- （※3）6. は、1. ～5. の合計100%には含めず、その外枠で5%程度まで加算する。

※なんらかの障がいや疾患、メンタルな面を含むハンディキャップなど、諸事情によりグループディスカッションに参加することが困難な方は、法政大学障がい学生支援室に「就学上の配慮」をできるだけ早い時期に求めてください。「就学上の配慮」が認められた場合は、障がい学生支援室から担当教員に連絡が来ますので、代わりとなる課題に取り組んでいただきます。

※この科目が開講されている期間中に「学校保健安全法に定める感染症」に感染した方は、所属する学部連絡し「感染症等に係る授業欠席等配慮願」を受け取ってください。そして、所属する学部が発行する「配慮願」を担当教員にご提出ください。学生側の都合による欠席とは異なる、感染拡大防止のための出席停止として扱います。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであつたほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。

- ・留学や大学院進学、就職などの相談もOKです。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください (Word ファイル) <https://x.gd/vqmNu>

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Based on the following grading methods, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class (C minus or better on a letter grade basis).

1. No final exam will be given. 0%.
2. Attendance will not be taken 0%.
3. Quiz Examination [All students, regardless of their campus affiliation, including athletics and job-seeking students, can take the quiz online because of the use of Hoppii] 61%.
4. Group discussion and collaboration among students [Participation in group discussions, group discussion on Google Classroom, and sending the results to instructors, etc.] 25%.
5. End-of-term report (to be submitted only by those who wish to do so): 14%.

POL100HA（政治学 / Politics 100）

国際関係論

岡松 暁子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コ：グ,サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における平和の構築について考察する。前半は、「戦争と平和」をテーマとし、世界史、冷戦期の国際関係、冷戦後の国際秩序、を中心に学ぶ。後半は、戦争がなくても平和ではない、という認識の下、よりよい国際社会の構築をめざした国際社会の取り組みについて学ぶ。

【到達目標】

国際社会の諸問題について、基本的な事象とそれらの主要な分析枠組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

国際社会における平和というものを考察するにあたり、まず、戦争と平和の歴史をたどり、特に第二次世界大戦後の超大国による国際秩序について分析する。さらに、冷戦後の国際社会における新たな紛争と秩序構築について、民族問題、環境問題、貧困問題等に焦点を当てて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論：平和とは何か	平和の概念について
第2回	戦争と平和の歴史	戦争と平和の歴史につき、特に近現代を中心に概観する。
第3回	冷戦期の国際関係（1）	国際関係の分析枠組としての理論と現実
第4回	冷戦期の国際関係（2）	軍拡競争と軍縮
第5回	冷戦期の国際関係（3）	核兵器・原子力を巡る諸問題
第6回	冷戦後の国際関係	冷戦後の新たな国際問題の特徴
第7回	民族自決と紛争	脱植民地化と民族自決、民族紛争
第8回	国際安全保障	集団安全保障と日本
第9回	人間の安全保障	新たな平和の概念
第10回	南北問題の歴史的変遷	南北問題と南南問題
第11回	貧困と開発	途上国問題
第12回	人権	国際人権保障の困難性
第13回	地球環境問題	地球環境問題の特質
第14回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業で行った範囲をよく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験100%。

期末試験以外の要素は考慮しない。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様に進めます。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

The course provides an introduction to international peace studies. The themes of this course are; “War and Peace”and “Human Security”.

【Learning Objectives】 Understand the events in the international societies based on the theory of international relations.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on term-end examination(100%).

MAN200HA (経営学 / Management 200)

現代企業論

長谷川 直哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：経

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGsやパリ協定の登場によって、化石燃料依存型経済から脱炭素経済への移行が求められています。企業はSDGsを達成する上で重要なパートナーと位置づけられており、企業が果たすべき役割はこれまで以上に拡がりをみせています。この授業では、大量生産・大量消費時代の終焉、地球温暖化問題の深刻化、企業の社会的責任に対する関心の高まり、サステナビリティ社会への移行という外部環境の変化を踏まえ、企業を取り巻く様々な現代的課題を取り上げつつ、企業経営のあり方を概観します。

【到達目標】

ヒト・モノ・カネ・情報等の各要素を効率的に機能させる株式会社に関する基礎的な知識を習得します。さらに、SDGsやカーボンニュートラルという事業環境の変化に立ち向かう企業の経営戦略を理解し、持続可能な社会における企業の役割に対する理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

株式会社の基本機能（経営管理、マーケティング、ファイナンス、人的資源管理）、株式会社の組織と戦略（経営組織、経営戦略、製品開発等）、現代企業が直面する諸課題（気候変動、SDGs、脱炭素等）に関する基本理論の説明と様々な業種の企業事例をケーススタディとして取り上げます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業経営は何か	講義の目的・進め方 株式会社の基本機能
第2回	製品・サービスの提供 ケーススタディ①サントリー	市場における優位性の獲得 ケーススタディ：スポーツドリンクの開発
第3回	株式会社の仕組みと課題 ケーススタディ②本田技研工業]	株式会社は誰のものか ケーススタディ：ステーションワゴンの開発
第4回	大企業の機能と専門経営者の誕生 ケーススタディ③キヤノン	所有と経営の分離 ケーススタディ：デジタルカメラの開発
第5回	企業規模の拡大と組織 ケーススタディ④スズキ	規模の利益と経営の効率化 ケーススタディ：原付自転車の開発
第6回	日本的経営の構造 ケーススタディ⑤黒川温泉（熊本県）	日本的経営の成果と課題 ケーススタディ：温泉リゾートの再生

第7回	経営戦略の基本 ケーススタディ⑥ミツカン	長期的な企業価値向上戦略とは ケーススタディ：納豆食品のマーケティング
第8回	企業による特別講義	企業担当者による講義（詳細内容が確定次第、学習支援システムに掲載します）
第9回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）と企業経営 ケーススタディ⑦日清食品	AI・IoTの活用と経営変革 ケーススタディ：カップ麺の開発
第10回	競争戦略とマネジメント ケーススタディ⑧ユニクロ	市場競争力の本質 ケーススタディ：ファストファッションの成功要因
第11回	株式市場と企業価値 ケーススタディ⑨ジブリ	企業価値の源泉とは何か ケーススタディ：創造力の源泉とは
第12回	製品開発戦略 ケーススタディ⑩ビール業界の企業間競争	製品開発のコンセプトとプロセス：アサヒが業界トップになった要因
第13回	シェアリングエコノミー	消費志向の変化「所有から使用へ」
第14回	SDGsと企業経営 日経ストックリーグへの挑戦	学生が選ぶサステナビリティ企業とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料や参考書を使用して必ず復習をして下さい。新聞等で報道される経済問題や企業動向のトピックを継続的にウォッチし、現代企業が生き残りをかけて、どのような戦略的行動をとろうとしているのか考えてみましょう。この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文真堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：70%

特別講義レポート：10%

平常点：20%（リアクションペーパー）

期末レポートは講義内容に関する理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

経営学の初学者を対象にケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特に準備する必要はありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスストーリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

With the advent of the SDGs and the Paris Agreement, there is a need to transition from an economy dependent on fossil fuels to a decarbonized economy.

Corporations have been positioned as important partners in achieving the SDGs, and the role they should play is expanding more than ever.

In this lecture, I will explain how corporate management should be in the 21st century, taking into account the changes in the external environment: the end of the era of mass production and mass consumption, the worsening of climate change, and the shift to a sustainable society.

This class aims to provide students with basic knowledge of international policy trends in sustainability and the ability to understand sustainability management in Japanese companies.

Students are required to learn about corporate efforts toward the SDGs and the Paris Agreement on their own by referring to integrated reports and sustainability reports issued by companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the special lecture report (15%) and the final report (85%).

MAN200HA（経営学 / Management 200）

経営学入門**金藤 正直**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業経営における理論的な内容だけではなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴や課題について、履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・授業または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、フィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 企業と経営－経営学とは何か－	講義の内容・進め方とともに、経営学を学ぶことの意義を説明する。
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業の種類とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（例えば、ゼミナール活動）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらう場合があります。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】**① Course Outline**

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Though this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論 I**杉野 誠**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済論を理解するのに必要なミクロ経済学などの事項を学び、具体的な環境政策、特に環境税や排出量取引などの経済的手段の仕組みや課題を志向できる力を涵養することを目標とする。

【到達目標】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。この授業では、経済学の枠組みを用いて環境問題を捉え、どのような政策が必要であるかを理論的に考える。具体的には、「市場の失敗」が発生するメカニズムおよびどのような対策があるのかを考える。またこの授業では、以下の2つを最終目的とする。①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。②排出量取引制度を疑似体験し、制度設計に必要な思考力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境経済とは何か	環境経済学の位置づけ
第2回	消費者と生産者の理論	ミクロ経済学の基礎的な概念の紹介
第3回	市場均衡と市場の万能性	市場の役割と市場の効率性の理解
第4回	公共財と外部性	市場の失敗と政府の介入根拠の理解
第5回	環境政策の種類	外部不経済への対処方法の理解
第6回	コースの定理	当事者間の直接交渉による解決方法の理解
第7回	排出量取引	排出量取引制度の制度設計とその効果の紹介
第8回	政策手段の比較	環境税と排出量取引を比較検討
第9回	不確実性下の政策選択	不確実性が存在する際の環境政策の効率性
第10回	排出量取引制度の制度設計	世界の排出量制度の比較および国内の議論を紹介
第11回	ゲームで学ぶ環境政策①	コースの定理および排出量取引の制度設計を理解
第12回	ゲームで学ぶ環境政策②	時間的要素（世代間）を入れた場合の排出量取引の制度設計を理解
第13回	地球温暖化問題①	地球温暖化問題に対する各国の取り組みの理解
第14回	地球温暖化問題②	ポスト京都議定書の各国の取り組みの理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。事前に、配布資料および関連する文献に目を通しておくこと。また、時間外の課題を提出期限内に行うこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメや資料を適宜配布する。

【参考書】

日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書

一方井誠治（2018）『コア・テキスト 環境経済学』新世社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）に加え、授業後に課す練習問題（30%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

小テスト以外の練習問題を増やし、考え方を確認できるようにします。

【その他の重要事項】

対面形式の授業を予定しているため、オンライン授業での対応は原則行いません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course introduces key concepts in environmental economic theory and policies to tackle environmental issues to students taking this course.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to 1) understand the key theoretical aspect of environmental issues and 2) propose economically efficient environmental policies.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, homework: 30%, in-class contribution: 10%.

ECN300HA（経済学 / Economics 300）

環境経済論Ⅱ**杉野 誠**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木2/Thu.2

備考（履修条件等）：環Ⅱ：経

その他属性：〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済発展に伴い、環境問題が多様化・深刻化している。本授業では、様々な環境問題に焦点をあて、どのような政策が必要であるか、経済学の視点から考える。また、実際の環境政策を概観・比較を行う。その際、経済学がどのように役立っているのかを明確にしながら、授業を進める。

この授業では、以下の2つを最終目的とする。

- ①環境問題の「本質」を理解し、様々な環境問題に応用できるようになる。
- ②環境政策を立案するために必要な思考力を身に付ける。

【到達目標】

経済学の基礎的な知識と環境問題に対する理解を深めることができる。

また、環境問題を解決するために必要な政策の思考力を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、イントロ	授業の全体像および環境経済論Ⅱの内容と環境経済論Ⅰの復習
第2回	気候変動問題①	地球温暖化の基礎知識
第3回	気候変動問題②	京都議定書とは何だったのか。
第4回	気候変動問題③	ポスト京都における各国の対策と日本：中期目標を中心に
第5回	気候変動問題④	パリ協定と今後の気候変動対策
第6回	廃棄物の経済学①	ゴミの有料化とは、どの程度の料金に設定するべきか
第7回	廃棄物の経済学②	有料化の方法とそれらの経済的インセンティブ
第8回	廃棄物の経済学③	自治体のゴミの有料化とレジ袋有料化
第9回	廃棄物の経済学④	放射性廃棄物をどのように処理するのか
第10回	都市の環境問題①	コースの定理と日本の公害病
第11回	都市の環境問題②	固定排出源における環境対策
第12回	都市の環境問題③	交通部門に対する環境規制
第13回	都市の環境問題④	道路混雑とロードプライシング
第14回	自主的な取り組み	日本経団連の自主行動計画と自主的取り組みの有効性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。配布資料および関連する文献を読むこと。また、グループディスカッションの内容を事前によりサーチし、準備すること。

【テキスト（教科書）】

日引・有村（2002）『入門 環境経済学』、中公新書。

【参考書】

有村・片山・松本（2017）『環境経済学のフロンティア』、日本評論社。

細田・横山（2007）『環境経済学』、有斐閣アルマ。

一方井（2018）『環境経済学』、新世社。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）に加え、グループディスカッション（40%）を行うほか、授業中の参加の程度・貢献度（10%）を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者同士のディスカッションを増やす要望があり、毎回実施できるように努めます。

【その他の重要事項】

対面形式での授業を予定しています。そのため、オンライン授業での対応を原則いたしません。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Environmental issues are becoming severe as well as diverse as economies grow. This course introduces three major environmental issues (climate change, waste and air pollution) and policies implemented to tackle these issues to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to 1) understand the nature of environmental issues and, 2) propose environmental policies need to tackle these issues.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts and relevant chapter from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, assignment/homework 20%, in class contribution: 10%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論 I

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業や自治体などの組織は、地球環境の保全、地域の経済環境の改善、組織内の労働環境改善のための戦略あるいは政策を策定し、また、それを実現するための組織を編成し、管理していく経営を行っている。このような経営を「環境経営」と定義づけ、本講義では、企業の環境経営を経営学的視点と会計学的視点から学習していくとともに、これらの視点の相互関係にも注目しながら、環境経営の全体像も理解していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業の環境経営における理論的な内容だけでなく、実践的取り組みにも触れながら、企業が環境問題や社会課題の解決を通じて持続的に経済的価値を維持・向上させていく方針（戦略）をどのように立て、それを実現するためにどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。

・本講義では、企業で実践されている環境経営のための戦略、組織、管理の特徴について、著書や論文、また企業の環境報告書やサステナビリティ報告書を活用しながら理解することを目指す。さらに、講義内容に関連する内容について取り上げた新聞・雑誌記事や映像資料なども多用しながら、両経営の実践的取り組みへの理解をさらに深める。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 環境経営とは何か	講義の内容・進め方と、企業における環境経営の目的や意義を説明する。
第2回	環境経営の現状	海外や国内の企業で行われている環境経営の現状を説明する。
第3回	環境経営の全体像	海外や国内の企業の実践例をもとに、環境経営の全体像を説明する。
第4回	経営戦略①	企業の経営戦略やその実践例をもとに、環境経営のための戦略の理論的特徴を説明する。
第5回	経営戦略②	CSRやSDGsなどへの関心の高まりにより、企業が今後策定すべき環境経営戦略を説明する。
第6回	経営組織①	企業の経営組織やその実践例をもとに、第4回で触れた経営戦略を実現していく経営組織の理論的特徴を説明する。

第7回	経営組織②	第5回で触れた経営戦略を実現していくために編成すべき経営組織（企業間関係や組織間関係）を説明する。
第8回	経営管理①	企業の経営管理の基礎構造を説明し、その後環境に関する国際規格（ISO14001）などを用いたマネジメントシステムを取り上げる。
第9回	経営管理②	社会的責任に関する国際規格（ISO26000）や国連グローバルコンパクトなどを用いたマネジメントシステム（サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第10回	環境経営とマーケティング	環境経営におけるマーケティングの理論と実践例について説明する。
第11回	環境経営と会計	環境経営を支援する会計システムを説明する。
第12回	ケーススタディ	企業の実践的取組みを取り上げ、これまでの講義内容をもとに検討する。またこの検討内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第13回	新たな環境経営	現在注目されている新たな環境経営（例えば、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、地域循環共生圏、地域再生、ソーシャル・ビジネスなど）を説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらふ機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらふ場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method for solving environmental and social issues in companies.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand the basis of environmental and social management system in companies.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

環境経営論Ⅱ

金藤 正直

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、環境経営論Ⅰの内容を踏まえて、国内の企業や地域で注目されている新たな環境経営の取組事例（地域循環共生圏、地方創生、地域経営、再生可能エネルギー、フードロス、サステナブルファッション、健康経営、人的資本経営、ソーシャル・ビジネスなど）を取り上げ、その考察をもとに新たなビジネスモデルを検討していくことを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営における方針（政策、施策、事業計画または戦略）、仕組み（組織）、運営（管理）という一連の流れとその取組内容を理論的また実践的に明らかにし、習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面、参加型（双方向型）で実施する。
 ・本講義では、講義内容に関連する著書や論文、報告書、新聞・雑誌記事、映像資料などを多用しながら、企業や地域で実践されている、あるいは求められている新たな環境経営のための政策・施策・事業計画または戦略、組織体制、マネジメントの特徴を理解することを目指す。
 ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムを通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション 新たな環境経営の視点	講義の内容・進め方と、海外や国内の企業や地域で実践されている新たな環境経営の取組事例を分析するための視点を説明する。
第2回	新たな環境経営と意義と方法①	企業の社会的責任（CSR）、共有価値（CSV）、包括的成長（IG）、持続可能な開発目標（SDGs）の概念を整理するとともに、これらの概念に基づいて、新たな環境経営の意味と意義を説明する。
第3回	新たな環境経営と意義と方法②	第2回で説明した各種概念に基づいて、企業間の環境経営の実現方法（アライアンス、サプライチェーン・マネジメント（SCM））を説明する。
第4回	フードロス・マネジメント	農林水産省、消費者庁、環境省で公表されているフードロス対策の現状を紹介しつつ、国内のフードロス削減への実践例（フードドライブ、バイオマス利用、サルベージ・パーティ、3010運動など）とその特徴を説明する。

第5回	サステナブルファッション	環境省の政策的特徴とともに、企業の調査結果や実践例をもとに、サステナブルファッションの実態を説明する。
第6回	新たな環境経営と意義と方法③	第3回で説明した各種概念に基づいて、組織間の環境経営の実現方法（産業クラスター・マネジメント（ICM）、エコシステム）を説明する。
第7回	再生可能エネルギー事業	経済産業省または資源エネルギー庁によるカーボンニュートラルなどの関連政策や事業計画をもとに、再生可能エネルギーの現状と事業化の意義を説明する。また、第5回や第6回の講義内容も加味しながら、海外や国内の企業や地域で実施されている先進事例とその特徴を説明する。
第8回	地域循環共生圏-地方創生も考慮に入れて-	内閣府・内閣官房の地方創生の取り組みを紹介しつつ、地域循環共生圏との関係も説明する。
第9回	地域経営	第7回と第8回の講義内容を加味しながら、地域の特徴的な事業とその評価方法を説明する。
第10回	ソーシャル・ビジネス	途上国で展開されているソーシャル・ビジネス（例えば、ボーダレスジャパンの取り組み）やBOP（Base of the Pyramid）の実践例やその課題を説明する。
第11回	健康経営	経済産業省や厚生労働省の政策的取り組みや現状調査の結果、また、企業の調査結果をもとに、健康経営の取組状況や意義を説明する。
第12回	人的資本経営	健康経営とともに、日本企業（大企業、中小企業）の動向や、先進事例とその特徴も説明する。
第13回	企業/地域の持続的成長のためのビジネスデザイン	第12回までの講義をもとに、企業や地域が持続可能性を高めるための新たなビジネスモデルを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、印刷物（配布資料）を用いて、企業経営や環境経営の内容を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、企業経営や環境経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（ゼミナール活動や企業分析など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）

②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらふ機器は特にありませんが、授業に関する内容や質問について口頭またはグーグルフォームで説明（回答）してもらふ場合があります。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to learn new methods for improving environmental and social values in companies and regions.

② Learning Objectives

Through this lecture, students are able to logically understand a new environmental and social management system in companies and regions.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論 I

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コ7：経、グサ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会において企業が直面する社会課題を取り上げます。企業の社会的責任（CSR）やサステナビリティ（SDGs）を巡る国際的な動向を整理し、企業と社会の関係性が時代とともにどのように変遷してきたのかを説明します。授業を通じて学生がサステナビリティ社会における企業の社会的責任を正しく理解する能力を涵養し、将来の職業選択にも役立つ知識を提供します。

【到達目標】

SDGs（持続可能な開発目標）、CSR（企業の社会的責任）、パリ協定（脱炭素）、責任投資原則、ESG投資など、気候変動を巡る世界的な政策動向と日本企業の対応について理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

SDGsの登場によってサステナビリティがグローバル社会のキーワードとなった今、社会課題の解決に向けて、企業には幅広い責任を果たしていくことが求められています。本講義では、SDGsやCSRに関する理論やケースを取り上げ、企業経営におけるサステナビリティの意義やビジネスがどのように変わっていくのかを解説します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 企業の本質とは何か	講義の全体像と進め方 企業と社会の関係の変遷
第2回	グローバル経済の進展とその影響	SDGsとパリ協定の登場によって社会経済システムはどのように変化するのか
第3回	SDGs（持続可能な開発目標性）と企業経営	SDGsが求める企業像とは何か 企業と社会の関係はどのように変化していくのか
第4回	カーボンニュートラル（パリ協定）の意義	パリ協定を基軸とする 脱炭素革命は経営構造をどのように変えていくのか
第5回	欧州のサステナビリティ戦略①	欧州におけるサステナビリティ戦略の変遷とケーススタディ
第6回	欧州のサステナビリティ戦略②	EUグリーンディールの内容と日本企業への影響
第7回	外部講師による特別講義①	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第8回	責任投資原則と企業評価	投資家による非財務情報の評価が投資行動と企業経営に及ぼす影響
第9回	サステナブルマネーの動向	サステナビリティを推進する諸原則（責任投資原則、責任銀行原則、持続可能な保険原則）について

第10回	人権・人的資本経営	企業価値を高める人権政策と人財育成のあり方
第11回	外部講師による特別講義②	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに掲示します）
第12回	サステナビリティを巡る政策動向	企業経営を取り巻く国内外のサステナビリティ政策の動向
第13回	企業不祥事はなぜ起こるのか	企業不祥事に関するケーススタディ
第14回	社会から選ばれるサステナブルストーリー	ビリーブドリブン消費者の台頭によってブランド戦略はどう変わるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内では1,000社程度の企業がサステナビリティ報告書を発行しています。この授業で習得した知識を活かして、興味のある企業のサステナビリティ報告書を読んでみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文真堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文真堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文真堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文真堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文真堂、2017年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：60%

特別講義レポート：20%（2社分）

平常点：20%（リアクションペーパー）

期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディと企業の実務担当者の講義を織り交ぜて、理論と実務の関係を分かりやすく説明します。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

＜専門領域＞

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

＜研究テーマ＞

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the social issues that companies face in today's society. the growing interest in SDGs (Sustainable Development Goals) and CSR (Corporate Social Responsibility) is due to the fact that people feel that society is not moving in the right direction.

This class aims to deepen students' understanding of the relationship between society and corporations from the perspective of sustainability. Students will also gain knowledge that will be useful in their future corporate choices.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

MAN300HA (経営学 / Management 300)

CSR論Ⅱ

長谷川 直哉

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コア：経、グサ

その他属性：〈実〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CSR論Ⅰで習得した知識を基に、SDGs（持続可能な開発目標）やBusiness Ethics（企業倫理）が時代と共にどのように変遷してきたのかを辿ります。持続可能な社会において求められる企業の役割、企業のパーパス（存在意義）や経営思想について理解を深めることめざします。

【到達目標】

SDGsが求める課題は、企業だけでは解決できません。多様な主体とのパートナーシップを通じた課題解決が求められる現代社会では、多面的な物の見方や解決策の策定が欠かせません。企業と社会の関係を巡る国内外の経済思想や企業倫理の変遷を学ぶことで、現代社会が直面している課題の解決に必要な基礎知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経営学・経済学・法政策等の視点から欧米諸国と日本のSDGs/CSRおよびBusiness Ethicsに関する基本理論や背景となる思想を解説します。また、具体的事例や実践的課題を取り上げ、現代社会において進行している現象を通じて、企業と社会の相互関係や経営者に求められる倫理観の形成について検討します。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の進め方
	社会構造の変化と企業が直面する課題	現代企業が直面する事業環境の変化について
第2回	近代産業の勃興と経済倫理 [1] 「経済活動の自由と自律」	アダム・スミス『道徳感情論』にみる経済と倫理の関係性について
第3回	近代産業の勃興と経済倫理 [2] 「最大多数の最大幸福をどう生み出すか」	J.ベンサム・J.ミル「功利主義思想」とM.ウェーバー「資本主義の精神と倫理」について
第4回	企業社会の変容とCSR・SDGsの登場	ポスト資本主義社会における企業の役割とは何か
第5回	日本社会の企業倫理と責任経営 [1]	報徳思想を背景とする企業倫理の醸成
第6回	日本社会の企業倫理と責任経営 [2]	戦後日本における企業責任の生成と展開
第7回	外部講師による特別講義 [1]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに揭示します）
第8回	新自由主義から第三の道へ	新自由主義への反動と第三の道（新しい公共）の生成
第9回	ESG経営の最新動向「環境編」	カーボンニュートラル政策の動向と日本企業の対応
第10回	ESG経営の最新動向「社会編」	企業価値を高める人権・人的資本経営とは何か

第11回	ESG経営の最新動向「ガバナンス編」	経営者による企業統治および情報開示の現状
第12回	外部講師による特別講義 [2]	企業のサステナビリティ担当者による講義（詳細が確定次第、学習支援システムに揭示します）
第13回	企業不祥事の実態	企業不祥事の発生メカニズムと対策
第14回	ネイチャポジティブ経営	自然資本と生物多様性を尊重した経営のあり方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関心のある企業のホームページや文献で創業の理念や創業から現代に至るビジネスモデルの変遷を調べてください。企業がどのような価値観を背景にSDGsに取り組んでいるか考えてみましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメを配布します。

【参考書】

長谷川直哉編著『サステナビリティ・トランスフォーメーションと経営構造改革』文眞堂、2023年

長谷川直哉編著『サステナビリティ白書』日本経営協会、2023年
Naoya.HASEGAWA (2020) “Sustainable Management of Japanese Entrepreneurs in Pre-War Period from the Perspective of SDGs and ESG”(English Edition), Palgrave Macmillan

長谷川直哉著『SDGsとパーパスで読み解く責任経営の系譜－時代を超えた企業家の使命』文眞堂、2021年

長谷川直哉編著『企業家活動に学ぶESG経営』文眞堂、2019年

長谷川直哉編著『統合思考とESG投資』文眞堂、2018年

長谷川直哉編著『価値共創時代の戦略的パートナーシップ』文眞堂、2017年

長谷川直哉編著『企業家活動でたどるサステナブル経営史』文眞堂、2016年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：60%

特別講義レポート：20%（2社分）

平常点：20%（リアクションペーパー）

期末レポートは講義内容の理解度と課題に対して自己の見解を論理的に展開しているかを評価します。特別講義レポートは講義内容の理解度を確認します。授業終了時にリアクションペーパーの提出を求めます。

【学生の意見等からの気づき】

ケーススタディを織り交ぜて、分かりやすい講義を行います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【担当教員の専門領域】

<専門領域>

サステナブル経営・企業倫理・ESG投資・ビジネスヒストリー

<研究テーマ>

取締役会の実効性分析

企業価値の向上に資する非財務情報の開示

【最近の主要業績】

「サステナビリティ経営の現在」『日本経済新聞「経済教室」(2021年9月28日)』2021年

「SDGsと企業責任①～⑩」『日本経済新聞「やさしい経済学」(2020年3月2日～12日)』2020年

「社会課題と企業経営－企業に求められる構想力と伝える力」『日経広告研究所報319』2021年

【実務経験のある教員による授業】

損害保険会社の資産運用部門において、約15年間投資業務を担当しました。1999年、ESG投資の先駆的な取り組みであるSRI（社会的責任投資）ファンドを組成し、ファンドマネジャーとして企業のESG（非財務）側面を評価する手法を開発しました。現在は東証上場企業の社外取締役・顧問として企業経営に参画しています。

【関連資格】

日本証券アナリスト協会認定アナリスト（CMA）

【Outline (in English)】

In this lecture, we will examine the aims of sustainability policy and changes in business strategy. We will consider what the role of corporations in a sustainable society is and what elements are necessary to sustainably increase corporate value.

This class aims to deepen students' understanding of SDGs and carbon neutrality in corporate management. Students will be able to gain a deeper knowledge of the future of Japanese companies.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading will be based on the reports of the two special lectures (30%) and the final report (70%).

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論 I

三原 さやか

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水4/Wed.4

その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【医療社会学概論】

現代社会を生きる私たちは、誕生から死亡までの人生のさまざまな局面で医療との出会いを経験しますが、その際に現代医療の抱えるさまざまな問題に直面して困惑を強いられることがあります。

本講義では、医師としての臨床経験を持つ担当講師とともに、医療社会学の基本概念を学び、医療の社会的側面について歴史的文脈を踏まえた理解を深めることを目指します。

はじめに、西洋医学の歴史的展開を概観し、疾病の意味合いや医師-患者関係がどのように変化してきたかを考察します。また、「医療化」や「専門職支配」など、医療社会学の主要な概念について、具体的な事例とも照らし合わせながら理解の定着を図ります。講義で学んだ概念を実際の議論に活用する目的で、少人数グループでのディスカッションの機会を設けています。

【到達目標】

本講義は、現代医療の様々な課題について、医療社会学の概念や理論を使って分析し、「病い」や「健康」をめぐる自分の考えを日常の言葉と学問の言葉の往還の中で言語化することを目標とします。新たな視点を得ることで「当たり前」や「正常」を疑い、主体的に調べ、議論する力を養うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業の最後に小課題を出します。提出されたコメントシートや課題からは、いくつかポイントを取り上げ、次の授業の冒頭で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方、健康と疾病の定義、生物医学
第2回	医師-患者関係	病人役割、医療の三要素、エビデンスとナラティブ
第3回	病院医学の誕生	古代ギリシャ医学、病院医学、聴診器と解剖学
第4回	実験室医学	医学における還元主義、予防接種、抗生物質神話
第5回	監視医学	共同体の医学、M. フーコーの生権力、正常とは何か
第6回	ディスカッション1	前半の内容に基づく小グループ討論
第7回	前半のまとめ、試験1	前半の理解度の確認とフィードバック
第8回	医療化と施設化	医療化、逸脱、スティグマ、施設化
第9回	医療における専門職支配	専門職と国家、支配と分業
第10回	医療におけるジェンダー	ジェンダーと疾患・痛み、専門職とジェンダー、感情労働
第11回	病いの語り	素人の知識、病いの説明モデル、当事者研究
第12回	多元的医療システム	多元的医療システム、代替医療、先端医療

第13回 ディスカッション2 後半の内容に基づくグループ討論

第14回 後半のまとめ、試験2 後半の理解度の確認とフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『よくわかる医療社会学』中川輝彦・黒田浩一郎編著、ミネルヴァ書房、2010年。

『医学の歴史』William Bynum 著、鈴木晃仁・鈴木実佳共訳、丸善出版、2015年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題（リアクションペーパーを兼ねて、授業の理解度を確認）（全12回）50%、試験（全2回）50%。

【学生の意見等からの気づき】

専任教員サバティカルに伴う代講につき、なし

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

In this course, students are expected to gain a foundational knowledge of medical sociology and the ability to apply it to issues in contemporary society.

【Course outline】

Specific topics include doctor-patient relationships, medicalization, and professional dominance in medicine. Each class consists of lectures and activities that apply theories to current social issues.

【Learning activities outside of classroom】

Preparatory study and review time for this class are approximately one hour each.

【Grading Criteria /Policy】

Participation (including small weekly assignments) 50%; Exams 50%

SOC200HA (社会学 / Sociology 200)

現代社会論Ⅱ

島袋 海理

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

その他属性：〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会における重要なトピックである、ジェンダー／セクシュアリティに関する問題を扱う。ジェンダー／セクシュアリティの視点は、現代社会における日常生活の出来事からマクロな社会問題まで、幅広い課題を考えるツールとなる。本授業では、ジェンダーのみならずセクシュアリティ（第4回）、また性的マイノリティ（第3-5回）についても紹介する。また、生物学（第6回）や教育社会学（第8-10回）、家族社会学（第13回）など、ジェンダー／セクシュアリティをめぐる問題が多様な学問領域を背景にして成立し、時には学問の垣根を越えて展開されてきたことを紹介する。さらに、ジェンダーの関わる問題は日常生活の様々な場面において現れることを示すために、（学校）教育（第8-9回）、大学（第10回）、労働（第11-12回）、結婚・出産（第13回）といった、多くの人々の人生に関わる問題について、ジェンダー／セクシュアリティの観点から考えていく。

【到達目標】

- ①現代社会をジェンダー／セクシュアリティの観点から捉えることができる
- ②現代社会におけるジェンダー／セクシュアリティ問題の射程の広さや議論・立場の多様さを理解する
- ③ジェンダー／セクシュアリティが関わる問題を自分事として考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式（対面またはオンライン）を採用する。
第1回目はオリエンテーションとして、授業の目標と内容、計画等を詳述する。

第2回目以降は、以下のように進める。

- (1)前回の授業のコメントシートの内容を取り上げ、前回の復習を行う（10-20分）
- (2)担当教員から、当該授業回のテーマについてレクチャーを行う（60-70分）
- (3)当該授業の内容に関する小課題を提示し、提出する（20分）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の概要、講義の進め方
第2回	ジェンダーの定義①	<分類>としてのジェンダー、フェミニズム【教科書はじめに・1章】
第3回	ジェンダーの定義②	インターセックス／性分化疾患、アイデンティティ【教科書2章】
第4回	ジェンダーとセクシュアリティ①	トランスジェンダー、ジェンダー・マイノリティ【教科書3章】
第5回	ジェンダーとセクシュアリティ②	同性愛者・両性愛者、セクシュアル・マイノリティ【教科書4章】
第6回	生物学とジェンダー／セクシュアリティ	性差と性役割、生物学のジェンダー的偏見【教科書5・6章】
第7回	中間試験	前半で扱った内容について問う試験

第8回	教育とジェンダー	進路の性差、学校文化とジェンダー【教科書7章】
第9回	教育とセクシュアリティ	青少年の性行動、性教育と家族・国家【教科書8章】
第10回	性暴力／ハラスメントと大学	被害者と加害者の視点、ハラスメント【教科書9・10章】
第11回	仕事とジェンダー	「女性優遇」、男女間の賃金格差【教科書11章】
第12回	仕事とセクシュアリティ	性別役割分業、マタニティ・ハラスメント【教科書12章】
第13回	結婚・出産とジェンダー／セクシュアリティ	母性愛神話、リプロダクティブ・ヘルス&ライツ【教科書13章】
第14回	期末試験	後半で扱った内容を中心に問う試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、次回授業のテーマが扱われている教科書の章を事前に講読し、授業テーマについて予習することが求められる（1時間）。本講義は教科書の予習を必須としているため、教科書の事前講読がない場合、授業についていけなくなる可能性がある。また、担当教員が指定するテーマやキーワードについて調べたり、近年起こった事件について調べてもらったりすることが求められる（1時間）。復習としては、授業で取り上げた内容についての振り返りが必要である（1時間）。さらに、授業で紹介した参考書を講読したり関連する新聞記事を読んだりすることを通じて、当該テーマについて考える時間が必要である（1時間）。

【テキスト（教科書）】

加藤秀一、2017、『はじめてのジェンダー論』有斐閣。

※本講義は予習必須である。受講生は第2回目以降の授業に臨むにあたって、事前に教科書の指定された範囲を講読する必要がある。講義では教科書の内容についても触れるが、教科書を講読したことを前提に発展的な内容を扱うため、予習をしなければ授業についていけなくなる可能性がある。

【参考書】

<新書>

大越愛子『フェミニズム入門』筑摩書房、1996年 [ISBN: 4480056629]

若桑みどり『お姫様とジェンダー：アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』筑摩書房、2003年 [ISBN: 9784480061157]

森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』筑摩書房、2017年 [ISBN: 9784480069436]

清水晶子『フェミニズムって何ですか?』文藝春秋、2022年 [ISBN: 9784166613618]

周司あきら・高井ゆと里『トランスジェンダー入門』集英社、2023 [ISBN: 9784087212747]

デボラ・キャメロン『はじめてのフェミニズム』筑摩書房、2023年 [ISBN: 9784480684622]

<入門書・教科書>

加藤秀一『知らないと恥ずかしいジェンダー入門』朝日新聞出版、2006年 [ISBN: 9784023303737]

千田有紀・中西祐子・青山薫『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013年 [ISBN: 9784641177161]

風間孝・河口和也・守如子・赤枝香奈子『教養のためのセクシュアリティ・スタディーズ』法律文化社、2018年 [ISBN: 9784589039705]

石田仁『はじめて学ぶLGBT：基礎からトレンドまで』ナツメ社、2019年 [ISBN: 9784816365829]

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム：はじめて学ぶクィア・スタディーズ>』花伝社、2022年 [ISBN: 9784763420022]

三橋順子『これからの時代を生き抜くためのジェンダー&セクシュアリティ論入門』辰巳出版、2023年 [ISBN: 9784777829484]

池田緑『ジェンダーの考え方：権力とポジショナリティから考える入門書』青弓社、2024年 [ISBN: 9784787235497]

上掲以外の参考文献については、適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー・小課題の内容：40%

*コメントペーパーは、毎回の授業内容に関する小課題が含まれる。

*①小課題の内容を理解した上で記述できているか、②授業で紹介した基本概念や語句を援用して説明できているか、③自分と身近な問題と関連して記述できているか、という3つの観点から評価する。
筆記試験：中間20%、期末40%

*概念や語句を問う問題と、論述問題で構成される。

*①授業で紹介した基本概念や語句の意味を理解しているか、②設問の意図を理解したうえで論述できているか、③ジェンダー／セクシュアリティの観点を援用して論述できているか、という3つの観点から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2回目以降の授業の冒頭にて、前回の授業で提出されたコメントシートへのフィードバックを行い、受講生との対話の機会を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインに接続可能なデバイス（パソコン、スマートフォン、タブレット端末等）：出欠をオンラインで確認するため（ただし、やむを得ない事情に応じて、紙による提出も認める）。

【その他の重要事項】

・本授業では、教科書の予習を求める。授業は教科書を読んでいることを前提に発展的な内容を取り扱うため、読まずに参加した場合、授業についていけなくなる可能性が高い。

・授業ではからかいやいじめ、差別や暴力、性的な描写や話題について扱うことがある。そうした際は事前に告知するが、授業の途中で居心地が悪くなったりいたたまれなくなった場合、また気分が悪くなった場合には、担当教員の許可なしに離席しても構わない。その他、配慮を求める場合は遠慮なく申し出て欲しい。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will address issues related to gender/sexuality, an important topic in contemporary society. By acquiring a perspective on gender/sexuality, students will acquire the tools to think about a wide range of issues in contemporary society, from everyday life events to macro social problems.

Learning Objectivities: (1) View contemporary society from the perspective of gender/sexuality, (2) understand the wide scope of gender/sexuality issues in contemporary society, and (3) consider issues related to gender/sexuality as one's own personal matter

Learning Activities outside of Classroom: Students are required to read the relevant textbook chapter before class. After class, they are expected to read suggested references and explore articles related to the class theme.

Grading Criteria/Policy: Comment Papers and Short Assignments (40%), Written Exams (60%): Midterm (20%) and Final (40%)

ADE300HA (建築学 / Architecture and building engineering 300)

地域形成論

小島 聡

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域の持続可能性に関する高度な学習への入門として、様々な視点から地域について検討する。特に、地域学のイメージ、地域に関する近現代史と現在の課題、ローカルキャリアとローカルプロジェクト、21世紀の都市コミュニティ、新たな実践としてのソーシャルイノベーションやソーシャルデザインについて取り上げる。この授業の目的は、学生が地域学の基礎について学びながら、自分のローカルキャリアを考えることである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・地域社会に関する高度な専門学習に必要な基礎知識を習得する。
- ・現代日本における多様な地域問題と解決策のケースを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において発言を求めながら、リアクションペーパーや学生からの情報提供なども活用することで、双方向のコミュニケーションを図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「地域」の解剖学～「地域」のとらえかた	講義のプロローグとして、地域を空間スケールと時間スケールから多角的に俯瞰する。
第2回	地域の解剖学～「地域」「地域社会」の構造	環境、経済、社会、文化、政治など、人間活動の総体としての「地域」「地域社会」を構造的にとらえる。
第3回	地域と記憶～原風景から始まるライフヒストリーとパブリックヒストリー	人々の生活史（個人的記憶）と地域史（社会的記憶）の関係性について検討し、オーラルヒストリーによる地域づくりについても言及する。
第4回	地域形成の近現代史 150年～明治の近代化から戦前期	19世紀後半から20世紀初頭の日本における地域形成史について検討する。
第5回	地域形成の近現代史 150年～敗戦から高度経済成長期	20世紀半ばの日本における地域形成史について検討する。
第6回	地域形成の近現代史 150年～20世紀後半から世紀転換期・21世紀前半	20世紀後半から21世紀前半の日本における地域形成史について検討する。特に「東京一極集中」とその行方について考える。
第7回	郊外と住宅からみた都市の軌跡	地域形成の近現代史の各論として、ニュータウンといわれた大規模団地や戸建て住宅などによる郊外のベッドタウンの形成（第一次郊外化）と、当時の地域社会の風景について検討する。

第8回 郊外の変貌と再生への模索

1980年代以降のロードサイドビジネスの登場と郊外の風景の変貌（第2次郊外化）、現代におけるオールタウン問題と団地再生などの郊外再生、アフターコロナにおけるポストベッドタウンの模索について検討する。

第9回 現代都市のキーワードとしてのコミュニティ

高齢社会、格差社会、多文化共生社会など、いくつかの視点から、21世紀の都市コミュニティ問題について多角的に検討する。ソーシャルキャピタルやサードプレイス、プレイスメイキング、コミュニティデザインなどの概念とともに、コミュニティカフェやこども食堂をはじめとする「居場所」づくりなどの地域実践について検討し、さらに衰退する商店街のコミュニティの拠点としての再生にも言及する。

第10回 都市コミュニティを耕す

地域の課題解決に関する実践について、ソーシャルイノベーション・ソーシャルデザインの視点から検討する。

第11回 ローカルプロジェクトとソーシャルイノベーション

持続可能な過疎地域・農山漁村に向けた1970年代から21世紀前半に至る内発的発展論の展開について検討する。

第12回 内発的発展と持続可能な過疎地域

先進事例から、過疎地域の挑戦の傾向を読み解く。

第13回 過疎地域の挑戦～「懐かしい未来」に向けて

講義のエピローグとして、「定住人口」「交流人口」「関係人口」など、地域との多様なかわり方を確認しながら、自らのローカルキャリアを問い直す。

第14回 ローカルキャリアを問い直す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、中間レポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（65%）＋積極的な参加姿勢（15%）＋中間レポート（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・日々、報道される地域に関する出来事は、現代社会の様々な課題と関係しているため、地域に関する学習を通して、時事問題に関するリテラシーを身につける機会になるようです。
- ・さらに、地域をめぐって考え、対話し、ワークする方法と機会を模索していきたいと思います。

【その他の重要事項】

- ・ローカル・サステイナビリティコースおよび人間文化コースのコースコア科目・基幹科目として、コース履修の導入的かつ基盤的な位置にあるため、2つのコース登録者または履登録予定者の履修を強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目、または人間文化コースの地域に関するコースコア科目とあわせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステイナビリティコースと人間文化コース以外にもサステイナブル経済・経営コースなどでも、地域に関するテーマと関連する部分が多いので、それらのコースの登録者や登録予定者にも履修を推奨します。
- ・登録コースにかかわらず、どこかの地域で生活する現代人の基礎教養としての履修を推奨します。

【関連深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide an introduction to the advanced studies about “Sustainable community”. Especially, we will examine the various themes, such as the image of local studies, “Local career” and “Local project”, the modern history and the present agenda of community, the urban community in the 21st century, “Social innovation” and “Social design” as new practice. The purpose of this course is for students to consider one’s career while learning about the foundation of local studies.

The goals of this course are to acquire basic knowledge required for advanced studies about local community, and to understand various regional issues and the cases of solution over them in modern Japan.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following: Term-end examination:65%, Active class participation:15%, Mid-term reports:20%

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論 I**藤田 研二郎**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の環境問題・環境政策の歴史を概観しながら、環境社会学の理論を紹介する。環境社会学では、「地域住民や市民がどう環境問題の解決にかかわるか」ということが、重要な論点の一つとなってきた。この論点に着目しつつ、本授業では、環境社会学の理論からみた環境問題の特徴と、解決のために必要な行動について学ぶ。

【到達目標】

日本の環境問題・環境政策の歴史を説明できるようになる。環境社会学の理論にもとづき、環境問題の特徴を指摘できるようになる。解決のために必要な行動を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、日本の環境問題・環境政策の歴史を、産業公害期（～1970年代）、都市・生活型公害期（1970年代～1980年代）、地球環境問題期（1990年代～）に区分したうえで、関連する環境社会学の理論を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、環境問題の定義とタイプ、環境社会学のアプローチ、住民・市民のかかわりについて学ぶ。
第2回	産業公害期①	戦後から1970年代までの産業公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	産業公害期②	水俣病問題を事例に、被害・加害構造論について学ぶ。
第4回	産業公害期③	新幹線公害問題を事例に、受益圏・受苦圏論について学ぶ。
第5回	都市・生活型公害期①	1970年代から80年代までの都市・生活型公害について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第6回	都市・生活型公害期②	自動車排気ガス規制と技術革新を事例に、生産の踏み車論とエコロジーの近代化論について学ぶ。
第7回	都市・生活型公害期③	自然資源管理を事例に、コモングの悲劇、社会的ジレンマについて学ぶ。
第8回	都市・生活型公害期④	森は海の恋人運動を事例に、集合行為、環境運動について学ぶ。
第9回	地球環境問題期①	1990年代以降の地球環境問題について、問題の特徴と対策の展開を学ぶ。

第10回	地球環境問題期②	市民風車の取組みを事例に、環境NGO・NPOの役割と課題を学ぶ。
第11回	地球環境問題期③	外来種問題を事例に、環境問題の構築主義について学ぶ。
第12回	地球環境問題期④	長良川河口堰問題を事例に、河川政策の展開について学ぶ。
第13回	地球環境問題期⑤	河川法改正を事例に、住民参加の意義、ローカルな知の役割について学ぶ。
第14回	地球環境問題期⑥／まとめ	自然再生事業を事例に、順応的ガバナンスについて学ぶ。 環境問題解決への住民・市民のかかわりという観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This class will introduce the theories of environmental sociology, reviewing the history of environmental problems and policies in Japan. This class will focus on how residents and citizens are engaged in the process of environmental problems, which is one of the most important topics in environmental sociology. Students will learn the characteristics of environmental problems and actions for solving them based on the theories of environmental sociology.

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the history of environmental problems and policies in Japan.
 - To point out the characteristics of environmental problems based on the theories of environmental sociology.
 - To propose actions for solving environmental problems.
- (Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅱ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

備考（履修条件等）：環コ7：口

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の環境問題解決では、政府や企業ばかりでない第3の領域「サードセクター」として、環境NGO・NPOやボランティアの役割が注目されている。本授業では、このサードセクターに着目し、社会運動、協同組合、NPOに関する理論や環境問題解決における役割を説明する。それらを通じて、私たち地域住民・市民の立場から環境問題解決にかかわる方法を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題解決におけるサードセクター、環境運動、協同組合、NGO・NPO、ボランティアの役割を説明できるようになる。地域住民・市民の立場から、環境問題解決にかかわる方法を提案できるようにになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、サードセクターの議論を環境運動、協同組合、NGO・NPOに大別したうえで、関連する環境問題の事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、サードセクターの主体と環境問題とのかわりについて学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	サードセクターの主体のかわりという観点から、戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史を学ぶ。
第3回	環境運動①	社会運動論の前提となる古典的理論、集合行為論、フリーライダー問題について学ぶ。
第4回	環境運動②	住民投票運動を事例に、資源動員論、フレーム分析について学ぶ。
第5回	環境運動③	政治的機会構造論と、小樽運河保存運動を事例に歴史的環境保全について学ぶ。
第6回	協同組合①	協同組合の概要と、生活協同組合（生協）の歴史について学ぶ。
第7回	協同組合②	農業協同組合（農協）の概要と歴史、産直と新規就農支援について学ぶ。
第8回	NGO・NPO①	NGO・NPOの概要と、市場の失敗、政府の失敗について学ぶ。
第9回	NGO・NPO②	NGO・NPOの法人格と、新自由主義の流れについて学ぶ。

第10回	NGO・NPO③	ボランティア、寄付の理論と実態、フォーコーの権力論について学ぶ。
第11回	NGO・NPO④	行政の下請け化と、環境NGO・NPOの制度化、日本の環境NGO・NPOの課題を学ぶ。
第12回	NGO・NPO⑤	NGO・NPOのアドボカシーについて、政府への財政的依存との関係と国際会議における活動を学ぶ。
第13回	NGO・NPO⑥	生物多様性条約COP10を事例に、環境NGO・NPOのアドボカシーの課題について学ぶ。
第14回	NGO・NPO⑦／まとめ	環境NPOへの参加を事例に、ソーシャル・キャピタル概念と効果について学ぶ。 環境問題解決におけるサードセクターの役割と課題という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学、NPO論の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。
鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。
坂本治也編、2017、『市民社会論』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）を、想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったため、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The third sector, including environmental NGOs and volunteers, which is not the government nor business sector is essential to solve environmental problems in contemporary society. This class will focus on the third sector and explain the theories of social movements, cooperatives, and non-profit organizations and their role in solving environmental problems. Students will learn how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens. (Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the role of the third sector, including environmental NGOs and volunteers in solving environmental problems in contemporary society.

- To propose how to be engaged in the process of environmental problems from the standpoint of residents and citizens.

(Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

環境社会論Ⅲ

藤田 研二郎

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代社会の環境問題を概観しながら、関連する環境社会学の研究動向を紹介する。とくに生物多様性と地球温暖化の2つをテーマとして、また環境問題解決での「多様な主体による連携」を中心的な論点とする。それらを通じて、今日的な環境問題解決のあり方を検討するとともに、問題解決に向けた課題を学ぶ。

【到達目標】

現代社会の環境問題の特徴を説明できるようになる。今日的な環境問題解決のあり方を提案できるようになる。問題解決に向けた課題を整理できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、現代社会の環境問題を生物多様性と地球温暖化に大別したうえで、関連する環境社会学の研究動向を事例とともに紹介していく。授業の終わりには、課題を含むリアクションペーパーを提出してもらう。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の概要を示し、生物多様性、地球温暖化の問題の特徴、多様な主体の連携による問題解決について学ぶ。
第2回	環境問題の歴史	戦後から現代までの環境問題・環境政策の歴史について、それぞれの時期の問題の特徴と対策の展開を学ぶ。
第3回	生物多様性①	生物多様性の概念と4つの危機、昆明・モントリオール枠組までの対策の展開について学ぶ。
第4回	生物多様性②	白神山地を事例に森林保全の展開と、自然共生サイトについて学ぶ。
第5回	生物多様性③	東京湾三番瀬、名古屋港藤前干潟などを事例に干潟保全の展開と、藻場保全活動について学ぶ。
第6回	生物多様性④	佐渡のトキ認証米を事例に、環境保全型農業の展開と環境アイコンの役割について学ぶ。
第7回	生物多様性⑤	環境保全米を事例に農業協同組合（農協）の事業と、「みどりの食料システム戦略」の展開を学ぶ。
第8回	生物多様性⑥	獣害対策を事例に、コミュニティ・ビジネスの視点と、内発的発展論について学ぶ。

第9回	地球温暖化①	温暖化対策とエネルギー政策との関係、原子力政策の歴史について学ぶ。
第10回	地球温暖化②	温暖化対策の展開と、再生可能エネルギーの促進、パリ協定以降の流れを学ぶ。
第11回	地球温暖化③	日本の太陽光発電、風力発電をめぐる地域トラブル、環境正義の視点について学ぶ。
第12回	地球温暖化④	環境経営とESG投資の展開、気候変動や自然資本に関する情報開示枠組の動向について学ぶ。
第13回	地球温暖化⑤	バイオ炭を事例に、カーボンクレジット、生物多様性クレジットの展開について学ぶ。
第14回	地球温暖化⑥／まとめ	今日的な環境問題解決における多様な主体の連携という観点から、本授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としては、環境問題・環境政策のニュースに関心をもって、日常的に情報収集を行うこと。また復習として、配布されたレジュメにもとづき前回の内容を整理し、各自の関心に応じて参考文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定せず、毎回PowerPointと配布するレジュメにもとづき授業する。

【参考書】

各回の参考文献は、授業のなかで紹介する。なお、環境社会学の入門的なテキストとして、例えば以下のものがある。

鳥越皓之・帯谷博明編、2017、『よくわかる環境社会学 第2版』ミネルヴァ書房。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）＋定期試験（70%）、を想定。

平常点はリアクションペーパー、課題の提出によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの質問・コメントや提出した課題について、フィードバックを求める声が多かったので、積極的にフィードバックしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために、学習支援システムを利用。

【その他の重要事項】

春学期「環境社会論Ⅰ」「環境社会論Ⅲ」、秋学期「環境社会論Ⅱ」の授業内容は相互に関連しており、それぞれ歴史・理論編、現代編、活動編という位置づけである。合わせて履修することでより理解が深まるよう計画しているが、個別に履修しても問題はない。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】
(Course Outline)

This class will review environmental problems in contemporary society and introduce related research trends in environmental sociology. In particular, biodiversity and global warming are the two main themes, and partnership among various actors in the process of environmental problems is one of the most important points of discussion. Students will learn contemporary ways and issues of solving environmental problems

(Learning Objectives)

Students should be able to do the followings:

- To explain the characteristics of environmental problems in contemporary society.
 - To propose contemporary ways of solving environmental problems.
 - To identify issues for solving environmental problems.
- (Learning Activities Outside of Classroom)

Students should pay attention to daily news about environmental problems and policies and collect information. Students should review the previous class based on the resumes and read references. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Regular Work (30%) + Final Examination (70%).

Regular work will be submitting reaction papers and assignments.

SOC300HA（社会学 / Sociology 300）

労働環境論 I

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、雇用や労働に関する基本的な知識の習得を目指します。企業等に就職した後、昇進や転職等を通じてキャリアを形成し、退職や定年等でキャリアを終えるまでのライフステージの変遷に沿って、時事的現象も紹介しながら、現代における雇用現場の変化や課題を学んでいきます。

【到達目標】

労働者・職業人として自らの意思でキャリアを形成していくための基本的な知識を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、採用から労働条件決定における基本的なルール、多様な働き方に関する制度や雇用・労働分野の現代的課題等、労働環境に関する様々なトピックを取り上げます。基礎的な法律や制度の解説のみならず、ニュース記事や時事的なトピックを取り上げることで、現代の労働環境において実際に起きている諸課題への理解を深めていきます。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論概要	本講義の概要と目的（何を学ぶのか、何故学ぶのか）について考える。
第2回	企業の募集・採用と就職活動	募集や採用に関する諸制度について概観するとともに、現代社会における学生の就職活動に関する問題について考える。
第3回	賃金に関する諸課題	賃金に関する日本の諸制度の概要と諸外国の賃金システムとの異同、近年の動向や変化等を学ぶ。
第4回	労働時間管理とワークライフバランス	労働時間管理の基礎を学ぶとともに、労働時間に関する諸外国との比較や日本の特色、近年の動向や変化等を学ぶ。
第5回	多様な働き方とキャリア形成①	諸外国との比較を踏まえた日本における多様な働き方に関する基本的な制度と、それらが企業においてどのように活用されているかを学ぶ。
第6回	多様な働き方とキャリア形成②	多様な働き方に関する現代のトレンドやキャリア観の変遷等について考える。
第7回	ジェンダー平等	女性活躍推進法やLGBTQ等、ジェンダーダイバーシティの基礎について学ぶ。
第8回	雇用における平等原則（年齢・国籍・障害等）	雇用における平等原則や雇用差別の禁止、各種の法令（障害者雇用促進法等）について学ぶ。

第9回	非典型雇用（派遣・パート・ギグワーカー等）	非典型雇用の現状や制度的な変遷等をたどり、問題点等を考える。
第10回	労働安全衛生とメンタルヘルス・ハラスメント	労働安全衛生の基礎知識を学ぶとともに、職場のメンタルヘルスやハラスメント等の問題を取り上げる。
第11回	労働組合の役割と意義	労働組合の役割や意義について学ぶ。
第12回	労働契約の終了（解雇・定年・再就職）	解雇規制や定年制、退職後再雇用等について、人口動態やキャリア観の変化に伴う課題を考える。
第13回	労働環境における現代的課題（DX・AI・人的資本投資等）	DX・AI・人的資本投資等といった、現代社会の労働環境における諸課題を考える。
第14回	まとめ：日本における労働環境の現在と未来	これまでの講義で取り扱ってきた日本の現代的な雇用システムを総括しつつ、今後の展望等を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から参考書や新聞記事等を読んで理解を深めること。②インターンシップやアルバイトなど、仕事や企業と接する機会を通じて、講義で学習した議論や理論をもとに、仕事と雇用をめぐる実態や課題を考え、授業での学習内容について理解を深めること。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

自主学習用の教材として、①浜村彰・唐津博・青野覚・奥田香子『ベーシック労働法第9版』（有斐閣アルマ、2023年）、②小川慎一・山田信行・今野美奈子・山下充『働くこと』を社会学する 産業・労働社会学』（有斐閣アルマ、2015）を挙げておきます。①は労働法の学習用に、②は日本の労働環境における諸課題の学習用に使用して下さい。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This lecture aims to acquire basic knowledge of employment and labor laws. The lecture will introduce the latest issues and changes in the employment field in the modern society, following the transition of life stages from entering a company and developing your career through promotions and job changes, to ending your career.

【Learning Objectives】

Students will acquire the basic knowledge for developing their own careers independently.

【Learning activities outside of classroom】

(1) Deepen students' understanding of the themes and issues studied in lectures by reading reference books, newspaper articles, etc. on a daily basis. (2) Deepen students' understanding of the contents studied in lectures by considering the actual conditions and issues surrounding work and employment through internships, part-time jobs, and other opportunities. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

SOC300HA (社会学 / Sociology 300)

労働環境論Ⅱ

櫻井 洋介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火2/Tue.2

その他属性：〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働環境論Ⅰで学んだ内容をベースとしつつ、特に、現代社会において企業に求められるサステナビリティ経営の観点から、雇用や労働に関する諸課題を深掘します。企業経営における「人的資本投資」や「人権尊重」の重要性、「労働CSR」の意義・役割等について学ぶとともに、企業の実践事例を通じてその理解を深め、サステナビリティの視点から労働環境の今日的課題をとらえるための知識の習得を目指します。

【到達目標】

サステナビリティ経営の観点から、現代の企業に求められる雇用や労働に関する取り組みの全体像を知識として習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とします。講義では、日本の雇用慣行やキャリア観の変遷、それに伴い企業に対して求められる取り組み等について取り上げていきます。必要に応じて、企業関係者等をゲストスピーカーとして招聘することも検討します。ゲストスピーカーが講演した回は、リアクションペーパーの提出を求めます。授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働環境論の概要	労働環境論Ⅰの内容を概括するとともに、本講義の目的やゴールを共有する。
第2回	日本の雇用慣行の特色と変化	職務非限定型の雇用（いわゆるメンバーシップ型雇用）や年功序列型賃金制度といった日本の雇用慣行が、現代社会においてどのように変化しつつあるかを学ぶ。
第3回	キャリア観の変遷と求められる人材像の変化	学生の就職観やキャリア観の変遷に伴い、労働市場がどのように変わってきたか、当該変化に対して企業がどのように対応してきたかについて学ぶ。
第4回	ポストコロナ時代の働き方	コロナ禍において、テレワークの導入等、ニューノーマルの働き方が浸透した一方で、一部には揺り戻しの動きもある中、コロナ前後で働き方がどのように変わったのかを学ぶ。
第5回	労働時間に関する現代的課題	長時間労働の規制強化の流れや柔軟な勤務制度の導入等、現代における労働時間の諸課題を学ぶ。
第6回	DE&I（ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン）経営	企業に求められるDE&Iとは何か、それぞれの定義やメリット、取組事例等を学ぶとともに、ジェンダー平等や性的マイノリティの問題について考える。

第7回	日本における障害者雇用制度と障害を持つ労働者の権利	障害者差別解消法や障害者雇用促進法において、企業に求められる合理的配慮等について学ぶ。
第8回	外国人労働者に関する問題	現在、見直しが進んでいる技能実習制度や特定技能制度等、外国人労働者の受入に伴う諸課題を学ぶ。
第9回	「ビジネスと人権」－企業に要請される人権尊重の経営	サステナビリティ経営の観点から企業に求められる人権尊重の責任について学ぶ。
第10回	グローバルサプライチェーン上の労働課題	サプライチェーン上に存在する人権・労働問題に対して、企業がどのように取り組みを進めているかを具体例を通じて学ぶ。
第11回	健康経営とウェルビーイング	健康経営の重要性やメリット等について具体例を交えて理解を深めるとともに、近年注目されているウェルビーイングの概念について学ぶ。
第12回	無形資産としての「人財」の重要性と人的資本経営	人材版伊藤レポートや人的資本可視化方針等の策定により人材価値の重要性が見直される中で、企業に問われる人材戦略や情報開示について学ぶ。
第13回	新しい技術の発展と労働環境への影響	AIによって奪われる仕事があると言われる一方で、DXの推進は少子高齢化へのソリューションとなり得るとされている等、新しい技術の導入が労働環境に与える影響や功罪について考える。
第14回	まとめ：サステナビリティ経営からみた労働環境	これまでの講義内容を概観し、今後の労働環境について学生とともに考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は、労働環境論Ⅰを受講済であることを前提に進めます。毎回、取り扱うテーマが異なるので、次回講義までに预习として目を通しておいいただきたい資料等は、講義の中で都度ご紹介いたします。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しません。配布資料等をもとに講義を進めます。

【参考書】

労働環境論Ⅰで紹介した参考書の他、①濱口桂一郎『ジョブ型雇用社会とは何か：正社員体制の矛盾と転機』（岩波書店、2021）、②櫻井洋介『人権尊重の経営 SDGs時代の新たなリスクへの対応』（日本経済新聞出版、2022）を挙げておきます。各テーマごとの参考文献や参考図書は、個別に講義の中でお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）により、講義内で学習した論点等についての理解度や問題認識の深さ等を評価するとともに、平常点（20%、出席を含む）を加味して総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、講義形式の授業を中心としますが、必要に応じて動画視聴等の機会を設けるとともに、ゲストスピーカーの招聘等も検討します。

【その他の重要事項】

本講義の担当教員は実務家教員であり、これまで金融機関や政府関連機関、コンサルティングファーム等、様々な組織での勤務経験を有しているだけでなく、キャリアの過程で留学や社会人大学院の入学等も経験しています。講義では、教員自身のこれまでの経験も還元させていただくとともに、企業の実務や実態に即した講義を実施させていただきます。

また、担当教員は現役のサステナビリティコンサルタントであり、「ビジネスと人権」や「労働CSR」、「サプライチェーン上の労働問題」等を専門としています。それらの経験を踏まえて、「サステナビリティ×労働」の視点から、具体的な企業事例を交えながら講義を行います。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Based on the content learned in Working Conditions I, the program aims to deepen various issues related to employment, especially from the perspective of sustainable management required of companies in modern society. Students learn about the importance of "human capital investment" and "respect for human rights" for corporate management and labor issues in CSR and deepen their understanding of these issues through practical examples from companies, aiming to acquire knowledge to understand today's labor environment issues from the perspective of sustainability.

【Learning Objectives】

To acquire knowledge of the overall employment and labor initiatives required of modern companies from the perspective of sustainability management.

【Learning activities outside of classroom】

The lecture will proceed on the assumption that students have already taken "Working Conditions I," so preparation and review for the lecture will be required. Since the topics covered in each class are different, materials that you should read through in preparation for the next class will be introduced in each class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The final report (80%) will be used to evaluate the level of understanding and depth of awareness of the issues studied in the lecture, as well as the overall evaluation by taking into account the usual performance score (20%, including attendance).

HIS300HA (史学 / History 300)

日本環境史論 I

芳賀 和樹

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世日本の人びとは、資源の開発を通じて自然をつくり変え、さまざまなサービスを獲得しようとしてきました。過剰な自然の改変が“ひずみ”を生み、災害などが頻発するようになると、今度は開発を抑制し、自然資源の持続的利用により人と自然の共存を目指すようになりました。本授業では、縦軸に時間の流れを置き、横軸に「人と自然の関係」、自然をめぐる「人と人の関係」、人の生業を通じた「自然と自然の関係」を置き、それらの関係がどのように変化したのかを講義します。本授業の目的は、「近世日本の人と自然の関係史」について基礎的な知識を習得し、その関係の変化について歴史的に考察する力を身につけることです。

【到達目標】

本授業では、「近世日本の人と自然の関係史」について、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世日本」という時間・空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに—近世日本の人と自然の関係史	「人と自然の関係史」において、「近世日本」がどのような時間・空間であったのかを考える。
第2回	近世日本の社会のしくみ—自然は誰のものか？	近世日本の社会のしくみについて、基礎的な歴史知識を習得する。耕地や山野河海の所有と利益について理解する。
第3回	開発による自然の改変（1）—鉱石を掘る	第3回～第5回では、17世紀前半の資源開発の様子と、それによる自然のつくり変えについて学習する。第3回では、金銀銅を産出した鉱山開発と、これによる自然の改変について理解する。
第4回	開発による自然の改変（2）—水を引き耕地を拓く	鉱山開発を通じて得られた土木技術を用い、幕府や藩が河川の治水に取り組んだことを学習する。治水により洪水を回避できた場所で、村人による耕地開発が進んだことを理解する。
第5回	開発による自然の改変（3）—木材を伐り出す	城や城下町の建設などで建築用材の需要が高まり、各地で森林の伐採が進んだことを学習する。

第6回	人の生業を通じた自然と自然の結びつき	地下の鉱物資源の開発を支えたのは、地上の森林資源であったことを学習する。耕地資源を維持したのは、森林資源であったことを学習する。
第7回	自然の連鎖的改変による“ひずみ”	開発によって森林が荒廃し、災害が頻発したことを学習する。開発の進展により、水と山をめぐる争いが増加したことを理解する。人の生活圏の拡大により、「鳥獣害」が問題となった点について考える。
第8回	開発の促進から抑制へ（1）—治山治水の思想	第8回と第9回では、災害の頻発を背景にして、17世紀後半に、開発の促進から抑制への転換が起こったことを学習する。第8回では、経験に基づく治山治水の思想について理解する。
第9回	開発の促進から抑制へ（2）—開墾の抑制と山地保全	幕府が耕地の開発、草木の掘り採りを抑制し、植林を命じた意味を考える。17世紀後半以降、農業政策の方針が、耕地の拡大から生産性向上に転換したことを理解する。
第10回	水と山をめぐる人と人の争いと合意形成	第7回に関連して、水と山をめぐる人と人の争いの実際を学習する。争論の過程を通じて、人と人がどのように合意を形成したのかについて考える。
第11回	村の暮らしと動物—「鳥獣害」の防除と水田生態系	第7回に関連して、当時の「鳥獣害」の防除方法について学習する。水田という人工的な環境において、豊かな生態系が作り出された意味を考える。
第12回	人と自然の共存（1）—森林資源の持続的利用	第12回と第13回では、自然資源の持続的利用による人と自然の共存について考える。第12回では、17世紀後半から19世紀にかけて、森林資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第13回	人と自然の共存（2）—水産資源の持続的利用	17世紀後半から19世紀にかけて、水産資源の持続的利用が目指されたことを学習する。
第14回	まとめ	授業を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

高橋美貴『「資源繁殖の時代」と日本の漁業』山川出版社、2007年
平野哲也『近世』（木村茂光編『日本農業史』吉川弘文館、2010年、143-253ページに所収）

徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』東京堂出版、2012年

芳賀和樹「日本近世社会の発展から近代社会へ」（高橋美由紀編『現代社会を考えるための経済史』創成社、2023年、32-156ページに所収）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末レポート（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末レポートは課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】**【授業の概要 (Course outline)】**

In early modern Japan, people sought to transform nature and obtain various services through the development of natural resources. However, excessive modification of nature created "distortions" that led to frequent disasters, and people began to curb development and aim for coexistence between people and nature through sustainable use of natural resources. In this course, the flow of time is placed on the vertical axis, and "the relationship between people and nature," "the relationship between people and people," and "the relationship between nature and nature through people's livelihood" are placed on the horizontal axis, and how these relationships have changed is lectured. The purpose of this class is to acquire a basic knowledge of "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan" and to acquire the ability to historically examine the changes in this relationship.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, taking up "the history of the relationship between people and nature in early modern Japan," the objectives are 1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and 2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final report (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final report will be graded according to the quality of the content of the assignment.

HIS300HA（史学 / History 300）

日本環境史論Ⅱ

芳賀 和樹

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月3/Mon.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世の日本列島では、さまざまな災害が発生しました。こうした自然の脅威に対し、人びとは、ただ手をこまねいていたわけではありません。経験から、森林が土砂流出や渇水・洪水、飛砂、津波等の被害を防止する機能をもつことを発見し、その機能の発揮を期待して各地で“暮らしを守る森林”を保護・育成したのです。この“暮らしを守る森林”は、近代における保安林制度成立の基礎となり、現在まで受け継がれてきました。本授業では、空間として日本列島の北から南までを広範に取りあげ、近世から近代への時間の流れのなかで、“暮らしを守る森林”がどのように保護・育成されてきたのかを講義します。本授業の目的は、災害をキーワードにして、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について考察することです。

【到達目標】

本授業では、災害をキーワードに、近世・近代日本の「人と自然の関係史」について学習し、①歴史用語の意味や使い方、歴史資料の読み解き方を、具体的な事例に基づいて説明できるようにすること、②「近世・近代日本」という時間と空間を意識しつつも、時間の流れによる変化、全国的な動向だけでなく地域性にも注目し、豊かな歴史像を構築できるようにすること、を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行います。各回の授業は、主として配付資料により、シラバス通りに実施します。ワークシートの提出等により、学習状況を確認しながら進めます。提出されたワークシートについては、いくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに一災害からみた人と自然の関係史	今、災害をキーワードにして、「人と自然の関係史」を学習する意義について考える。
第2回	近世日本の“暮らしを守る森林”	近世日本の人びとが、経験に基づき、“暮らしを守る森林”を保護・育成したことを学習する。
第3回	山を治める	草木の掘り採りが森林を荒廃させ、河川への土砂流出の原因となったことを理解する。土砂災害に対し、植林などが進められたことを学習する。
第4回	水源を育む	渇水・洪水を受けて、水源涵養林が保護・育成されたことを学習する。
第5回	強風に備える	強風を防ぐため、平野部の屋敷の周囲で防風林（屋敷林）が植栽されたことを学習する。

第6回	飛砂に備える	内陸部の森林荒廃による土砂流出が、海岸部での飛砂の被害を助長したことを理解する。主に日本海側で、飛砂の被害を防ぐため、海岸砂防林が植栽されたことを学習する。
第7回	潮風と高潮に備える	主に太平洋側で、潮風や高潮の被害を防ぐため、防潮林が植栽されたことを学習する。
第8回	地震と津波からの復興	地震とそれにとまなう津波の被害からの復興について学習する。被災経験に基づき、堤防の建設と海岸林の植栽が進められたことを理解する。
第9回	飢饉への対応	凶作による飢饉が起こったことを理解する。飢饉の際、森林から得られる食料が人びとの命を繋いだことを学習する。「御救山」と呼ばれる制度が、飢饉からの復興に果たした意味を考える。明暦年間の大火後における、都市江戸の復興過程と防火林の植栽について学習する。
第10回	火災からの復興	第11回～第13回では、近代日本における国土保安の思想と実践について学習する。第11回では、森林行政の展開と、国土保安の思想について考える。
第11回	近代日本の国土保安（1）一国土保安の思想	明治政府が、近世の“暮らしを守る森林”の歴史について調査・収集したことを考える。
第12回	近代日本の国土保安（2）一旧規旧慣の再発見	森林に関する日本初の体系的な法令「森林法」が制定され、そのなかで近世の“暮らしを守る森林”を基礎とする「保安林制度」が定められたことを学習する。
第13回	近代日本の国土保安（3）一保安林制度の成立	授業を総括する。
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料やテーマに関連する参考書などを確認し、準備学習と復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業資料を配付します。

【参考書】

北原糸子編『日本災害史』吉川弘文館、2006年
芳賀和樹「総説“暮らしを守る森林”―江戸時代からのメッセージ―」（徳川林政史研究所編『徳川の歴史再発見 森林の江戸学』Ⅱ、東京堂出版、2015年、1-48ページに所収）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業での学習状況（50%）、期末レポート（50%）により行います。授業での学習状況を評価するため、毎回、指定したワークシートを提出してください。期末レポートは課題に対する内容の充実度に応じて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。今年度も、授業の冒頭にて、前回の授業に関する質問や考察などに対するフィードバックの時間を設けたいと思います。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The Japanese archipelago in the early modern period has experienced a variety of disasters. People have not simply stood idly by and let nature's threats be ignored. Through experience, they discovered that forests have the ability to prevent damage from landslides, droughts, floods, flying sand, tsunamis, and other disasters, and they protected and nurtured "forests that protect people's lives" in various regions in the hope that they would fulfill this function. These "forests to protect people's lives" became the basis for the establishment of the safety forest system in the modern period, which has been handed down to the present. This course will cover a wide area from the north to the south of the Japanese archipelago, and will explain how "forests that protect people's lives" have been protected and nurtured in the passage of time from the early modern period to the modern period. The purpose of this course is to examine the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern period Japan, using disasters as a key word.

【到達目標 (Learning Objectives)】

In this course, students will learn about the "history of the relationship between people and nature" in early modern and modern Japan, with disaster as the key word. The objectives of this course are (1) to be able to explain the meaning and usage of historical terms and how to read and understand historical materials based on specific examples, and (2) to be able to construct a rich historical picture by focusing on changes over time and regional as well as national trends while being aware of time and space as "early modern and modern Japan."

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students are expected to prepare and review using handouts, reference books related to the theme, etc. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be based on class work (50%) and a final report (50%). In order to evaluate your learning in class, please submit the designated worksheet each time. The final report will be graded according to the quality of the content of the assignment.

CUA200HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 200）

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金1/Fri.1

備考（履修条件等）：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I は、人間と環境の関係についての文化的側面を探究する学問である環境人類学の基礎を学ぶ講義科目です。文化人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景のもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、文化人類学的な視点を用いて身近な環境問題における文化的側面についての理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、文化人類学的な視点について基礎的な知識を身につけること、また身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係の文化的側面についての知識とクリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながらオンデマンド形式で行います。また、クリティカルシンキングを育てることを目的とし、ディスカッションコメントを課題とします。この課題では、講義内で出題する講義内容に関連する「お題」に対して、学生が各自ディスカッションコメントとして回答を授業支援システムにて提出します。この課題を通して学生は「お題」に対する自らの考えを言語化するスキルを向上するだけでなく、他学生の回答を通して多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的や進め方、課題、成績評価の方法について説明します。
第2回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第3回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・スチュワードの研究を紹介します。
第4回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第5回	生態人類学とは？	ロイ・ラバポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第6回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第7回	複合社会	文化的変容が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第8回	中間試験	試験・まとめと解説
第9回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第10回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。

第11回	人口と環境	人口の増減が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第12回	生物の多様性	生物多様性が人間と環境の关系到与える影響について講義します。
第13回	消費者文化	大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

バトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションコメント（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

文化人類学は初めて聞く学問で難しそうだったという学生も少なくないですが、履修したら異文化だけでなく自分の身の回りの「当たり前」について考えることができて面白かったというコメントも多いです。

講義で使用するスライドを「ハンドアウト」として授業支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモを取り、自分なりの授業ノートを完成させてください。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

ディスカッションコメントの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を知ることができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、ディスカッションコメントの提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn about environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students obtain basic knowledge of environmental anthropology and develop critical thinking skills by asking questions that require them to apply course materials and lectures for their thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams and post discussion commentaries on Hoppii. A study time for a class, on average, is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and discussion commentaries (30%).

CUA300HA（文化人類学・民俗学 / Cultural anthropology 300）

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：G,文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱは、「サステイナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステイナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステイナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または授業支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第2回	サステイナビリティとは？（1）	サステイナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します。
第3回	サステイナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します。
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します。
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します。
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します。
第7回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します。
第8回	中間試験	中間試験と前半の振り返り。

第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します。
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第11回	災害	災害とサステイナビリティの関係について講義・議論します。
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステイナビリティの意味やあり方について講義・議論します。
第13回	アンソロポシーン	アンソロポシーンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します。
第14回	期末試験	期末試験と後半の振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後もできるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て授業支援システムを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others. Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

TRS200HA（観光学 / Tourism Studies 200）

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア、口、文

その他属性：〈優〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとり捉えるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために1992年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も2005年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。
・「景観」は見た目だけではないことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる人が多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第2回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第3回	ユネスコの「世界遺産」概説 その2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）
第4回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容

第5回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第6回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第7回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第8回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第1号のまちの市民活動の歴史、特色
第9回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第10回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」）
第11回	精神文化と一体の景観（2）	沖縄の御嶽、富士山
第12回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第13回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・麁の浦
第14回	総集編	初回～13回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第I部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学期末筆記試験60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても満点でない限りは単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサスティナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サスティナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

- ・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 60%, each quiz 40%

TRS300HA (観光学 / Tourism Studies 300)

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講 semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア、口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」／「五感」が形づくる表象・風景：

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する自然に即した生活文化の遺産
第2回	文化的景観	文化的景観
第3回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第4回	有機的に進化する景観（2）—うづみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第5回	有機的に進化する景観（3）—うづみの島・竹富島（後編1）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第6回	有機的に進化する景観（4）—うづみの島・竹富島（後編2）	鳥の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第7回	伝統継承の階層的発想、無形文化尊重の潮流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第9回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例

第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景100選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景100選」から（2）	伝統的な生業に関わる音風景その他
第14回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第Ⅰ部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（教室筆記）60％、毎回の小テスト40％。小テストを1回も受けていない場合は、学期末試験を受けても単位取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像や動画が豊富で親しみやすく、紹介された場所に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses" For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

- ・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"
- ・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").
- ・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

mid-term exam & final exam 65%, each quiz 35%

BLS200HA (生物科学 / Biological science 200)

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。 細胞の分化と分裂、組織。 ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。 呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。 心臓について。 血管について。 循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。 口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis.

Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論 I

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

その他属性：〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれをとりまく自然環境（地形や気候、植生、水循環ほか）は、地域ごとに個性と必然性を有し、変化を繰り返して現在に至っている。「水や空気のように」あたりまえの存在では決していない。本授業では、日本列島の現在の自然環境を、人間社会（暮らしや産業、文化ほか）との関わりをなかで時空間を行き来しつつ見つめなおす。

【到達目標】

自然環境の地域的差異・メカニズム・歴史の変遷を説明できる。
人間社会が自然環境に左右される側面を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

自然地理学のアプローチを通じ、強く関連しあう自然界の諸要素について理解を深める。講義形式。身近な自然環境の具体像を含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然環境と人間社会	自然地理学、環境決定論、環境可能論
第2回	大気大循環	風の時空間スケール、地球のエネルギー収支、3つの循環、偏西風
第3回	海洋大循環	表層循環、深層循環
第4回	気候の要素・因子・区分	緯度、海流、地形、ケッペンの区分、アリソフの区分
第5回	日本列島の気候（1）	気団、海流、四季
第6回	日本列島の気候（2）	偏西風蛇行、エルニーニョ・南方振動、都市気候
第7回	編年法・古環境復元法	第四紀、年輪、考古、放射性炭素年代、火山灰、珪藻、花粉
第8回	気候変動と海水準変動（1）	気候と生活、氷期と間氷期、酸素同位体比、海水準変動
第9回	気候変動と海水準変動（2）	気候変動の要因、昨今の温暖化
第10回	プレートテクトニクス	地球のしくみ、プレートテクトニクス、標高分布、変動帯と安定地塊
第11回	日本列島の地形環境	島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の現在の地形形成環境、日本列島の地形と地質
第12回	日本列島の地震発生環境	プレート境界の地震、活断層の地震
第13回	土壌・水文	さまざまな土壌、風化土壌と堆積土壌、地球上の水、水循環・水収支・滞留時間、地下水

第14回 植生・動物相

暖かさの指数、日本列島の植生、自然植生とその衰退、植生遷移、日本列島の動物相、気候変動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The natural environment (topography, climate, vegetation, water circulation, and so on) around human society varies in each place worldwide. Their origins are reasonable in terms of science, and they have reached the present status through various global, regional, and local changes in the history of the earth. We examine spatial variation, mechanism, and history of the present-day natural environment in the Japanese island, with in mind the relationship between the natural environment and human society (life, industry, culture, and so on).

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of the natural environment, and (2) to explain influence of the natural environment on human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論Ⅱ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月5/Mon.5

備考（履修条件等）：環コ7：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生活の舞台である大地。「動かざること大地の如し」ともいわれるが、実際には河川氾濫や地殻変動などの変化プロセスを通じて形成されてきた。本授業では、いかなる社会もその土地の個性に根ざして成り立っていることを意識しながら、「湿潤変動帯」日本列島の地形的個性を見つめなおし、人間社会との関わり合いを再認識する。

【到達目標】

地形の成り立ちと形成過程を説明できる。

土地条件や土地利用といった視点から人間社会の課題を具体的に提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる自然地理学的知見を概観したうえで、地形学のアプローチから理解を深める。講義形式。野外調査データを含むスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	土地と人間社会	自然環境と人間社会、土地条件、土地利用、東京の自然史
第2回	「湿潤変動帯」日本列島（1）	地球のエネルギー収支、大気大循環、海洋大循環、気候因子、日本列島の気候環境
第3回	「湿潤変動帯」日本列島（2）	プレートテクトニクス、島弧海溝系、地形のスケールと種類、地形形成営力、日本列島の現在の地形形成環境
第4回	地図	地図の歴史、測地系、地図投影法、一般図と主題図、縮尺と事象、空中写真、時系列比較
第5回	地理院地図	数値標高モデル（DEM）、地理情報システム（GIS）、GNSS、地理院地図、今昔マップ
第6回	河川地形の成り立ちと土地利用（1）	扇状地、天井川、土地利用
第7回	河川地形の成り立ちと土地利用（2）	氾濫原、三角州、土地利用
第8回	海岸地形の成り立ちと土地利用	砂浜海岸、岩石海岸、サンゴ礁海岸、土地利用、海底地形
第9回	変動地形・火山地形の成り立ち	断層変位地形、離水海岸地形、マグマの組成・噴火様式・火山体、山体崩壊
第10回	段丘地形の成り立ちと土地利用	河成段丘、海成段丘、気候変動、地殻変動、土地利用
第11回	段丘面と地殻変動	段丘面の編年、段丘面に基づく隆起量の見積もり

第12回	山地の成り立ち	山地の形成、風化と侵食、地形輪廻、氷河地形
第13回	関東平野の地形発達史と古地理	段丘面の分布と成り立ち、沖積面の分布と成り立ち
第14回	人間社会が土地に及ぼす影響	江戸・東京の地形と土地利用、埋立て・干拓、造成、鉄穴流し

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The land is our stage of life, on which human society stands. It is true that the land does not seem to change, but the land has changed repeatedly and reached the present styles through various geomorphic processes such as river flood and crustal deformation in the recent geologic time. We examine the geomorphic environment in the Japanese islands, one of the tectonically active and intensely denuded regions in the world, in order to recognize how land conditions are related to human society.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain spatial variation, mechanism, and history of landforms, and (2) to explain issues of human society from the perspective of land conditions and land use. Before /after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

GEO200HA（地理学 / Geography 200）

自然環境論Ⅲ

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コ7：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本列島の自然環境を大きく特徴づける「変動地形」。変動地形は地震と密接に関わって成立してきた。変動地形の研究は、日本列島の自然環境の理解のみならず、地震が発生する場所や地震史の理解、長期予測において不可欠である。本授業では変動地形の成り立ちを理解し、日本列島の自然環境および地震発生環境の地域的個性、ひいては人間社会のあり方を見つめなおす。

【到達目標】

変動地形と古地震の調査法を説明できる。

日本列島の地震発生環境の地域的個性を具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

背景となる地形学的知見を概観したうえで、変動地形学・古地震学のアプローチから理解を深める。講義形式。国内外における地殻変動の具体像を示すスライドも活用する。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本列島の地震発生環境	島弧海溝系、プレート境界、活断層、活火山
第2回	変動地形と古地震の調査法	地形学・地質学、史料地震学、地震考古学、地震学・測地学
第3回	地震発生繰り返しモデル（1）	地震の歴史を復元する取り組み、変位量分布の規則性と固有地震モデル
第4回	地震発生繰り返しモデル（2）	時間－変位ダイアグラム、時間予測モデル、変位予測モデル、長期評価
第5回	活断層の認定	地震規模と地表変位、活断層地形判読
第6回	相模トラフの地震	1923年大正関東地震、1703年元禄関東地震ほか
第7回	南海トラフの地震	1944・1946年昭和、1854年安政、1707年宝永ほか
第8回	琉球海溝の地震	地震発生可能性、1771年明和ほか
第9回	日本海溝の地震	2011年東北地方太平洋沖地震、869年貞観地震ほか
第10回	千島海溝の地震	17世紀型超巨大地震ほか
第11回	地震と活断層（1）	活動期と静穏期、1995年兵庫県南部地震と六甲・淡路島断層帯ほか
第12回	地震と活断層（2）	2016年熊本地震と布田川－日奈久断層帯ほか
第13回	日本列島の活断層（1）	糸魚川－静岡構造線断層帯、東北日本の活断層、歴史地震

第14回 日本列島の活断層 西南日本の活断層、歴史地震（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と思考力に加え、基礎力や応用力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【Outline (in English)】

The existence of tectonic landforms is one of the most significant features on the natural environment of the Japanese islands. These tectonic landforms have mainly developed related to recurrent large earthquakes. We examine spatial variation, mechanism, and history of tectonic landforms as well as the seismogenic environment in the Japanese islands, in order to understand the natural environment of the Japanese islands and to improve our social resilience.

Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain research methods in tectonic geomorphology and paleoseismology, and (2) to explain the seismogenic environment in the Japanese islands. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam (70%).

INE200HA（総合工学 / Integrated engineering 200）

エネルギー論 I

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーは私たちの生活や社会、経済と密接にリンクしているとともに、近年の環境への配慮の重要性の高まりを背景に、エネルギー開発・利用のあり方がより一層注目されている。本講義においては、エネルギーの資源の特徴や流れ、エネルギー関連の基礎原理、発電形態を学ぶとともに、我が国および諸外国のエネルギーの現状について知る。

【到達目標】

1. エネルギーと人間生活、社会との結びつきを説明できる。
2. 各種エネルギー資源の特徴とその利用方法、原理について説明できる。
3. エネルギーの利用状況と国際的な動向を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。また、レポート課題のフィードバックについては授業最終回に時間を設けたり、動画配信などにより実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	エネルギーとは	エネルギーと環境、エネルギーの姿
第2回	エネルギーの量を表すもの、単位	熱量、仕事、パワー、電力量などの意味と表現
第3回	電力の需要と供給	電力事業の歴史、発電・送電・配電のネットワークと電力消費
第4回	電力システムの安定	電力需給のバランスとコントロール、電力供給の事故
第5回	電力供給の源	三相発電機と送電線
第6回	電力供給のさらなる源	熱力学の基礎、サイクルとは何か
第7回	運動のエネルギー	ピストン（サイクルの一例）における仕事
第8回	エントロピー	エントロピーとはどのようなものか
第9回	熱エネルギーの移動と出入り	エントロピーと熱との関係、カルノーサイクル、エネルギー効率
第10回	熱から電力への変換	熱と水の関係、発電で用いられるサイクル
第11回	火力発電所の仕組み	火力発電の種類、火力発電所の構造
第12回	原子力とは	原子の構造、核分裂、核燃料
第13回	原子力発電所の仕組み	原子炉の種類、原子力発電所の構造
第14回	核燃料サイクル、放射性廃棄物	プルサーマル、高速増殖炉、使用済核燃料の処分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義での資料などを用いて予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1～3回：エネルギー・資源の用語と単位、第4回：ジュールの実験、第5～9回：前回の講義内容の見直し、第10回：水の性質、第11～14回：火力発電と原子力発電
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点80%：各種エネルギーの特性に関するレポート課題により、到達目標1～3の達成度を評価する。

授業への参加度による平常点20%：授業での学習状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

エネルギー分野は広範囲の内容を含み、楽しく学べます。わからないところは質問してください。メールなどで質問しても構いません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations, and on the energy demand-supply relationship. Special attention is paid to the electricity power generations using the heat produced by fossil and nuclear fuels.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

A. to learn about the energy supply and consumption in our society,

B. to understand the characteristics of various resources and the energy conversion systems from the view points of thermodynamics, and

C. to obtain the knowledge on the international and domestic trends of energy development and trading.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average.

(Grading Criteria / Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

BOM200HA (境界医学 / Boundary medicine 200)

環境健康論Ⅰ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代西洋医学の発展に伴い、人類は多くの恩恵を受けてきた。その一つに、寿命の延長がある。我が国は世界有数の長寿国であるが、健康寿命をいかに延ばすかが今後の重要な課題とされている。高齢化社会が進むにつれ、健康寿命の延長に向けた取り組みがますます求められる。健康に過ごすためには、適度な運動、自然素材を取り入れた食事、十分な睡眠など、自らが意識し実践できることが数多くある。本講義では、日々何気なく過ごしている生活習慣に焦点を当て、それが健康に与える影響について考察する。特に、がんに関する多目的コホート研究などの資料をもとに、生活習慣の重要性について深く掘り下げていく。

【到達目標】

- 1.「持続可能な環境重視の社会」を構築するために、環境と健康の対応関係を理解できる。
2. ホメオスタシスと病気の関連性について述べることができる。
3. 日本人の死因について述べるができる。
4. がん（悪性腫瘍）に関わる要因について説明する。
5. 組織損傷の治癒過程について説明できる。
6. 免疫の働きと役割について説明できる。
7. 腸内細菌と免疫系の関係を述べるができる。
8. 食べることの重要性を述べるができる。
9. 治癒を促進する食品が説明できる。
10. 摂取と排出のバランスが身体に及ぼす影響について説明できる。
11. 治癒を妨げるものについて説明できる。
12. ところが治癒に果たす役割などについて説明できる。
13. 人生100年時代を見据えて自らの健康感を述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面授業を基本として実施する。
- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス:講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	ホメオスタシスと病気	人間に備わっているホメオスタシスの意義について説明し、病気との関連性を検討する。厚生労働省による「人口動態統計の概要」について説明する。

第3回	がんの基礎知識Ⅰ	生活習慣が「がん」の発生に及ぼす影響について説明する。特に飲酒や喫煙が影響する「がん」について科学的根拠に基づき解説する。
第4回	がんの基礎知識Ⅱ	食品や食物が「がん」の発生に及ぼす影響について説明する。運動習慣と「がん」予防について、科学的根拠に基づき解説する。
第5回	免疫系と自律神経系	本来生まれながら人間に備わっている免疫について、その種類、役割などを説明する。また免疫系と自律神経系との関わりを腸内細菌の働きと合わせて考察する。
第6回	組織損傷の治癒過程	組織損傷の治癒過程について、炎症が果たす役割を説明する。組織修復にかかわる一連の流れを説明し、修復を促進する要因や妨げる要因について解説する。
第7回	食べることの重要性	人は食物を材料としてエネルギーを作り出し、それによって生命活動を維持している。食べることの重要性について、その本質に焦点をあて説明する。
第8回	代謝性疾患と脂質異常症	脂質異常症について、発症のメカニズムと関連するLDLコレステロール、HDLコレステロールについて説明する。
第9回	摂取と排出のバランス	動的平衡について、概念と重要性を説明する。体に取り入れる全ての物質（摂取）と体から出される全ての物質（排出）のバランスと病気との関連性について説明する。
第10回	治癒を促進する食品類	食生活が健康にとって如何に重要であるかを説明する。5大栄養素（脂肪、炭水化物、たんぱく質、ビタミン、ミネラル）＋食物繊維がそれぞれ治癒にどのように影響するか説明する。
第11回	自己治癒力を妨げる要因	自己治癒力を妨げるものに、エネルギー不足、血液循環の低下、有害物質の影響、老化などがある。これらの要因と免疫機構の関連性について解説する。
第12回	運動が果たす健康維持の役割	運動が健康に及ぼす影響を説明し、効果的な運動の種類や方法について説明する。
第13回	ところが治癒に果たす役割	精神的および感情的な出来事と治癒反応との間に相関関係があることを示し、これまでに起こった事例をあげ、ところが治癒系に与える影響について解説する。
第14回	人生100年時代に向けて	近年、公衆衛生の発展、生活習慣の改善、医療の発展などから、平均寿命の延長が認められる。人生100年時代に向けてどのような意識を持って日常生活行うべきか、医学を超えた視点で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は、講義日の前日20時までに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する

【参考書】

健康・体力づくりハンドブック 名取 礼二 監修 大修館書店
人はなぜ治るのか アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社
癒す心、治る力 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 角川文庫
補完代替医療入門 上野圭一著 岩波アクティブ新書
標準東洋医学 仙頭正四郎 金原出版

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日15時～16時40分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Japan is well-known for the best longevity in the world. However, as oppose to the reputation from the world, it is unfortunate that there are not many Japanese people who can actively enjoy till their end-stage of life. It has been known that the healthy life can be obtained by quality life activities such as moderate exercise or physical activity, quality sleep and rest, and well-balanced diet. This course will provide the knowledge and skills necessary to prevent from illness and acquire such a healthy life. Upon the completion of this course, students will be able to learn and enjoy such a lifestyle.

【Learning Objectives】

Students will be able to understand the relationship between the environment and health in order to build a sustainable environmental society.

To be able to explain the relationship between homeostasis and disease.

To be able to explain the factors related to cancer in humans.

To be able to explain the healing process.

To be able to explain the function and role of immunity.

To be able to explain the foods that promote healing.

To be able to explain the role of the mind in healing.

To be able to describe one's own sense of well-being.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

The final exam at the end of the semester will be 100%.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

BOM200HA (境界医学 / Boundary medicine 200)

環境健康論Ⅱ

朝比奈 茂

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

補完代替医療とは、一言で説明すると「現代西洋医学の領域外に属する医学・医療体系の総称」である。近年、NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）では、環境全体を視野に入れたエコロジカルな健康観を基礎とし、生命の特徴である多様性、個性、一回性を重視する補完代替医療の分野に多大な研究費を投じている。また、アメリカやヨーロッパ諸国を中心に、世界各国の伝統医療が見直され、多くの人が日常生活に取り入れ、その効果を実感している。

本講義では、世界に約600種類存在するとされている補完代替医療のうち、代表的な伝統医療をいくつか取り上げ、その特徴や利点、さらには課題について考察する。また、必要に応じて現代西洋医学と補完代替医療をどのように融合し、あるいは使い分けるべきかを考察し、環境と健康問題に対して多角的な視点を持って取り組む姿勢を養うことを目的とする。必要に応じて現代西洋医学との融合、または使い分けできる思考、姿勢を身につけることで、幅広い視点から環境と健康問題に取り組む可能性を迫る。

【到達目標】

1. 補完代替医療の健康観について説明できる。
2. 世界の伝統医療についてその特徴を説明できる。
3. 代表的な補完代替医療を列挙でき、その内容を概説できる。
4. 代表的な補完代替医療の特徴、長所および短所を説明できる。
5. 現代西洋医学と補完代替医療を比較し、それぞれの特徴を説明できる。
6. 東洋医学の根幹である「気」の概念を理解できる。
7. 陰陽論、五行学説について概説できる。
8. 鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明できる。
9. ホメオパシーの特徴、長所および短所を説明できる。
10. エネルギー療法について実践例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面授業を基本として実施する。
- ・授業に使用するレジュメは全て学習支援システムを通じて配布し、レジュメに沿って授業を進める。
- ・毎回の授業のはじめに前回の授業内容を振り返ることで内容を深める。
- ・授業のテーマに沿って周囲の学生と意見交換を行うことで自分の意見を確認する。
- ・質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス：講義の概要、ねらい、進め方の紹介	半年間の講義の概要、到達目標などを説明する。
第2回	補完代替医療の健康観Ⅰ	NCCIH（アメリカ国立補完統合衛生センター）の研究、取組、世界の現状などを紹介する。
第3回	補完代替医療の健康観Ⅱ	ドイツのがん治療の現状をDVDを視聴しながら解説する。

第4回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅰ	中国伝統医療である東洋医学について、発祥と発展、健康観や哲学などを解説する。また現代西洋医学との相違を提示し、検討する。
第5回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅱ	東洋医学の基本概念である陰陽五行論、経穴と経絡、気血水（津液）について説明する。
第6回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅲ	東洋医学分野の内系医学に属する鍼・灸療法の特徴、効果、用い方について説明し、実際に鍼・灸治療を行いその効果を体験する。
第7回	補完代替医療システム ：中国伝統医学Ⅳ	東洋医学分野の寒傷系医学に属する湯液療法の特徴、効果、用い方について説明する。具体例として7種類の生薬を使用する葛根湯を実際に調合、煎じてそれを服用する実習を行う。
第8回	補完代替医療システム ：ホメオパシー	欧米やインド、南米などに広く普及している、ホメオパシーについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第9回	補完代替医療システム ：インド伝統医学（ヨーガ）	インド地域を中心として発達した5000年の歴史があるヨーガについて、発祥と発展、健康観や哲学などをのべる。またそれらの長所と短所を説明する。
第10回	精神・身体相互介入による医療 ：瞑想法、呼吸法	精神および身体相互介入による医療に位置付けられている瞑想について、科学的な視点から捉えるとともに、日本の「禅」との関連性を解説する。
第11回	生物学的療法 ：マクロビオティック、ハーブなど	世界の多くの著名人、有名人などが行っていると言われている、「マクロビオティック」について、健康観や哲学、長所や短所などを概説し、実際にその調理方法を解説する。
第12回	手技および身体を介する療法 ：按摩・指圧・マッサージ	按摩・指圧・マッサージについて、その発祥と発展、施術の法則と方法、特徴的な手技、長所と短所などを説明する。
第13回	手技および身体を介する療法 ：カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジー	カイロプラクティック、オステオパシー、リフレクソロジーについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。
第14回	エネルギー療法 ：ヒーリングタッチ	ヒーリングタッチについて、その発祥と発展、健康観や哲学、長所と短所などを説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料を参考に必ず予習・復習をすること。
レジュメ及び資料は、講義日の前日20時までに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。必要に応じて配布する。

【参考書】

『補完代替医療入門』 上野圭一著 岩波アクティブ新書
『ホメオパシー医学への招待』 松本文二著 フレグランスジャーナル社
『標準東洋医学』 仙頭正四郎 金原出版
『近代中国の伝統医学』 ラルフ・C・クロイツァー著 創元社
『傷寒論を読もう』 高山宏世著 東洋学術出版社
『アーユルヴェーダとヨーガ』 上馬場和夫著 金芳堂

『ヨーガ根本教典』佐保田鶴治 平河出版社

『人はなぜ治るのか』 アンドルー・ワイル著 上野圭一訳 日本文化社

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。

常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週木曜日 15時～16時40分の100分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

E-mail : asahina@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The body can heal itself. Natural healing is not a miracle but a fact of biology - the result of the innate healing system in the human body. The opportunity to experience this spontaneous healing can be increased by giving proper exercise and adequate rest to the body. In this lecture, from the perspective of oriental medicine, students learn about the natural healing system.

【Learning Objectives】

Explain the health perspective of complementary and alternative medicine.

List representative complementary and alternative medicine and outline their contents.

Compare modern Western medicine and complementary and alternative medicine, and explain the characteristics of each.

Understand the concept of "KI," the foundation of Oriental medicine.

To be able to explain the characteristics, effects and usage of acupuncture and moxibustion therapy.

To be able to explain the characteristics, advantages and disadvantages of homeopathy.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

The final exam at the end of the semester will be 100%.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

PLN200HA（地球惑星科学 / Earth and planetary science 200）

気候変動論 I**松本 倫明**

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：G,サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことがらを深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。毎回実施するミニテストからいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要（1）	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要（2）	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要（3）	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要（4）	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回	温室効果	温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。
第12回	放射平衡	大気の大気層モデルによって温室効果の理解を深める。
第13回	炭素循環	二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。
第14回	まとめ	授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中やHoppiiを用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学 I

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木5/Thu.5

備考（履修条件等）：環ア：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下に示した環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・大気汚染（ばいじん、硫酸酸化物、窒素酸化物、アスベスト）
- ・上下水道の構造と処理のプロセス
- ・水質汚濁（富栄養化のメカニズム、工場排水の処理）
- ・土壌汚染（原因、対策技術）
- ・廃棄物（法律上の定義と現状）
- ・リサイクル（意義と現状）
- ・基準の決め方（リスク論と基準の決定方法）
- ・環境アセスメント（法制度、具体例）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション（序章）	環境問題とはどのようなものか、どうすればよいのか、環境科学の役割
第2回	大気汚染・その1（第1章）	大気汚染の歴史、ばいじん、硫酸酸化物
第3回	大気汚染・その2（第1章）	窒素酸化物、自動車排ガス、アスベスト
第4回	上水道（第2章）	浄水場のしくみ、水質の維持と費用
第5回	下水道と浄化槽（第2章）	下水道の構造、下水処理場のしくみ、浄化槽
第6回	水質汚濁（第3章）	水質の指標、有機汚濁、富栄養化
第7回	工場排水と土壌汚染（第3章）	工場排水の処理、土壌汚染の特徴と対策、地下水汚染
第8回	悪臭（第4章）	感覚公害、悪臭の測定法、悪臭対策技術
第9回	騒音（第4章）	音とは、騒音の測定法、騒音対策
第10回	廃棄物・その1（第5章）	廃棄物の定義、一般廃棄物
第11回	廃棄物・その2（第5章）	産業廃棄物

第12回	リサイクル・（第5章）	リサイクルの種類、リサイクル関連法
第13回	有害物質とリスク、基準の決め方（第6章）	有害の意味、リスクの意味と大小、基準値の決め方
第14回	環境アセスメント（第12章）	法制度、手続き、事例

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画のテーマ欄にカッコ内でテキストの該当する章を示しました。この部分をあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンバクト

【参考書】

藤倉良（2015）環境学は総合格闘技？ 人間環境論集，第16巻，第1号，pp.71-85

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、授業の最終回に行う期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提として講義しますが、高校程度の化学の知識が必要な場合もあります。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壌汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this lecture, students will acquire the basic engineering knowledge of mechanisms and countermeasures of local environmental problems such as air pollution, water pollution, waste, soil contamination, noise, odor, harmful substances (this is learning objectives). Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken upon submission of the quiz. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅱ**藤倉 良**

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ア〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればよいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

以下の環境問題の発生メカニズムと対策技術の基礎を理解することを目標とします。

- ・人口増加のパターンと要因
- ・オゾンホールが南極上空にできるメカニズム
- ・気候変動のメカニズムと緩和策、適応策
- ・気候変動をめぐる社会と政策
- ・プラスチックごみ対策
- ・環境国際協力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	国際環境政策の難しさ、条約と議定書
第2回	人口	人口増加のメカニズム、都市人口
第3回	オゾン層・1（第7章）	紫外線、フロンガス
第4回	オゾン層・2（第7章）	オゾン層破壊のメカニズム、オゾン層保護対策
第5回	気候変動・1（第8章）	I P C C、気候変動の科学
第6回	気候変動・2（第8章）	二酸化炭素の循環、気候予測、温暖化の影響
第7回	気候変動・3（第8章）	国際交渉の歴史、パリ協定
第8回	気候変動・4（第8章）	エネルギー資源
第9回	気候変動・5（第8章）	緩和策
第10回	気候変動・6（第8章）	適応策
第11回	気候変動・7（第8章）	気候安全保障
第12回	プラスチックごみ問題	プラスチックの性質、日本の政策
第13回	環境国際協力	開発途上国の現状、環境プロジェクトとセーフガード・ポリシー
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習してください。授業計画、テーマにカッコ内でテキストの該当する章を示しました。これをあらかじめ読んでから受講してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤倉良・藤倉まなみ 『文系のための環境科学入門』 有斐閣コンパクト

【参考書】

講義中に指定します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業後の小テストによる出席(30%)と授業内に実施する期末試験(70%)で行います。

【学生の意見等からの気づき】

中学卒業程度の理科の知識を前提に講義しますが、高校卒業以上の物理の知識が必要となる講義もあります。その場合にも、極力、平易な解説を試みます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）で土壤汚染対策や悪臭対策、国際環境協力等を担当した他、環境基本法の立法にも関与してきました。その当時の経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

Environmental problems are physical, chemical, and biological effects and reactions on natural ecosystems caused by human activities. To understand "what is happening" and "what should be done", scientific knowledge is essential. In this course, students will learn the basic science behind the mechanisms and countermeasures of environmental problems such as climate change, ozone depletion, and acid rain. Your study time will be more than four hours for one class. A simple quiz will be given each time and attendance will be taken after the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

ENV300HA（環境保全学 / Environmental conservation 300）

環境科学Ⅲ

藤倉 良

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

備考（履修条件等）：環Ⅱ：サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈カ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題とは人間活動が自然生態系に及ぼす物理的、化学的、生物的作用とその反作用です。「何がおきているのか」を理解し、「どうすればいいのか」を考えるためには、科学知識が欠かせません。環境科学Ⅰでは比較的狭い地域に発生する問題について、環境科学Ⅱでは地球規模や国境を超える問題について、環境科学Ⅲでは資源の問題について論じ、受講生諸君が環境問題の発生メカニズムと対処法に関する科学の基礎を習得することを目指します。Ⅰ、Ⅱ、Ⅲのいずれかだけを履修してもかまいません。

【到達目標】

資源の歴史的意味に始まり、以下に示すさまざまな資源の性質や利用などについて学習することで、資源の科学的性質や利用の見通しについての基礎知識を習得します。

- ・資源の意味
- ・淡水
- ・エネルギー
- ・土壌とリン、窒素
- ・遺伝資源
- ・金属資源

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト（下記参照）とパワーポイントを用いて講義を行います。講義資料は前日までにアップロードしますので、事前にダウンロードしてください。

毎回の授業後に簡単な小テストを行い、翌週の授業のはじめにそのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	資源論の社会科学	資源とは何か、「資源」の概念の歴史、資源の呪い
第2回	淡水（1）	水の循環、淡水資源
第3回	淡水（2）	ダム開発、国際河川
第4回	エネルギー（1）	エネルギーとは何か、様々なエネルギー
第5回	エネルギー（2）	埋蔵量、石油と天然ガス
第6回	エネルギー（3）	石炭、水力
第7回	エネルギー（4）	原子力、新エネルギー
第8回	土壌（1）	土壌の構造、土壌の機能
第9回	土壌（2）	世界銀行の対日援助：日本の農業開発事例
第10回	リンと窒素	循環、機能、存在
第11回	生物多様性	生物多様性保全の意義、名古屋議定書
第12回	遺伝資源	食料、医薬品
第13回	金属資源	銅、鉄、アルミニウム、鉛、レアメタル
第14回	まとめ	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回Hoppiiで配布するレジュメを使って復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

藤倉良 (2015) 増大するアジア地域の電力、水の需要と大型ダムプロジェクト、人間環境論集、第15巻第2号、pp.157-170

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テストの提出をもって出席とします。評価は小テスト30%、授業内に実施する期末試験70%です。

【学生の意見等からの気づき】

図を多く使用して、わかりやすい講義を行うこととします。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は環境庁（現環境省）在職時に生物多様性条約の策定過程に関わりました。その経験等を踏まえて講義を進めます。

【Outline (in English)】

This course includes an explanation of the importance of resources, freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, base metals and rare earths. Students will acquire basic knowledge about the importance of resources, the scientific nature of resources, and the prospects for their use. Major topics include freshwater, energy, soil, phosphorus, nitrogen, genetic resources, and minerals. Your study time will be more than four hours for a class. A simple quiz will be given each time, and attendance will be taken when the quiz is submitted. Grading will be based on a quiz (30%) and a final exam (70%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅰ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木1/Thu.1

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。
たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。授業において感想文などの提出を求めた場合には授業内でコメントをするなどのフィードバックを適宜行う。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第2回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第3回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第4回	ライフスタイルと生活習慣病③	活性酸素と水素 生活習慣病各論
第5回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第6回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第7回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第8回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について

第9回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第10回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題
第11回	少子・高齢社会における健康問題②	介護問題、高齢者虐待
第12回	児童虐待	児童虐待の現状と対策
第13回	感染症	性感染症・食中毒
第14回	まとめ	まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生100年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に付けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に付けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康

第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務 安楽死・尊厳死
第11回	生命倫理②	医療訴訟 遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第12回	生命倫理③	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第13回	生命倫理④	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA (社会医学 / Society medicine 300)

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルヘルスカを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようにする。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンライン、オンデマンドによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜Hoppiで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスカ ①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスカ ②	産業保健におけるメンタルヘルスカ 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスカ ③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ
第8回	精神障害④	摂食障害について
第9回	精神障害⑤	不安障害
第10回	精神障害⑥	統合失調症
第11回	精神障害⑦	発達障害と就労問題
第12回	精神障害の栄養療法 ①	精神障害に対する栄養療法の実際について（有効な疾患）
第13回	精神障害の栄養療法 ②	精神障害に対する栄養療法の実際について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスカに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

INE300HA (総合工学 / Integrated engineering 300)

エネルギー論Ⅱ

北川 徹哉

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火1/Tue.1

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

元来、エネルギーは自然を源として自然に帰ってゆくという再生循環の輪の中にあった。再生可能エネルギーという言葉が脚光を浴びるようになったのは、環境問題がクローズアップされ始めた近年のことである。本講義ではエネルギーを環境問題の視点から眺めつつ、開発と導入が進みつつある再生可能エネルギーの仕組みや特徴について、我が国と諸外国での導入状況を比較しながら理解してゆく。

【到達目標】

1. エネルギーと環境問題との結びつきを説明できる。
2. 各種再生可能エネルギーの仕組みを説明できる。
3. 再生可能エネルギーの効率、事業性、課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行われる。質問は随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境問題とエネルギー	再生可能エネルギーによる電力供給
第2回	再生可能エネルギーの定義と分類	再生可能エネルギーとは、再生可能エネルギーの種類
第3回	水資源	水資源の循環、河川の性質
第4回	水力発電	水力発電の種類と仕組み、落差、中小水力発電
第5回	海水の動きを利用する発電	波力、潮力、潮流・海流による発電
第6回	風と風車	風車のタイプと性能、風がもつエネルギー、発電用風車の仕組み
第7回	風力発電	風況、パワーカーブ、発電量予測、風車と音
第8回	太陽光の特性、太陽光発電に適した物質	太陽光がもつエネルギー、太陽電池セルとシリコン
第9回	太陽光発電の発電量	太陽光発電の仕組みと種類、フィード・イン・タリフ
第10回	太陽光の熱、太陽熱発電	太陽熱の熱利用、太陽熱発電の種類と仕組み
第11回	バイオマス	バイオマスの種類と分類、バイオマスの賦存量
第12回	バイオマスエネルギー	バイオマスエネルギーの利用技術と課題、バイオマスエネルギーの利用事例
第13回	自然の温度を利用したエネルギー	地熱資源と地熱発電、海洋温度差発電
第14回	エコカーなど	(B)EVとFC(E)Vなどのエコカーのバラエティ、燃料電池の仕組みと種類、家庭用燃料電池、水素インフラ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の資料などを使用して予習・復習をすること。

次の内容を事前に学習して授業に臨むと良い。第1回：再生可能エネルギーの発電、第2回：再生可能エネルギーの種類、第3～5回：水の高さ・速さとエネルギーの関係、第6～7回：風力発電の時事問題、第8～10回：太陽光・太陽熱利用の時事問題、第11～12回：バイオマス利用の時事問題、第13回：地球内部と海洋の構造、第14回：エコカーの時事問題
本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートによる平常点80%：各種エネルギーの特性に関するレポート課題により、到達目標1～3の達成度を評価する。

授業への参加度による平常点20%：授業での学習状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

再生可能エネルギーには話題が豊富です。また、再生可能エネルギーのほとんどは、実は昔からあったということを実感して欲しいと思います。わからないことがあれば、メールでも構いませんので質問しましょう。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The topics in this course contain the fundamentals on resources and their conversions to energy used for power generations. Special attention is paid to the electricity generations using renewable resources such as hydropower, wind power, solar power, biomass fuel and geothermal power.

(Learning Objectives)

The goals of this course are

- A. to learn about the relationship between the energy consumption and the environmental problems,
- B. to understand the characteristics of the renewable energy systems and
- C. to obtain the knowledge on the efficiency of the renewable energy systems as well as on the problems of the renewable resources.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to look over the forthcoming class content and to understand the content after each class. Your study time will be more than four hours for a class on average. (Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on the report for an assignment (100%).

PHY200HA (物理学 / Physics 200)

サイエンスカフェⅣ

渡邊 誠

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金4/Fri.4

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：物質とエネルギーの理解から環境問題などの考察へ
 本科目は文系の皆さんに物理学という分野の内容について慣れ親しんでもらうための科目である。日常のありふれた現象を眺めることにより、物理学は、(1)我々の生活に密接に関連していること、そして(2)環境問題に直結しその本質的なところを理解するためには必須の内容であること、(3)社会課題を考察するためのベースとなっていること、などを「直感的に」学んでいく。物理嫌いの人や高校で物理を履修してこなかった人の受講を大歓迎する。もちろん物理を学んできた人も同様である。高校で習うような（難しい？）式を扱うことはほとんどしない。環境問題を考えるには「地球」というシステムとそこで行われている人間活動「人為」の特徴を「自然法則」に照らして理解する必要がある。この授業の目的はそれらの3つの内容を理解するための基礎的事項を学習することにある。

【到達目標】

物質とエネルギーに関する内容について学習する。物理学的な知識の修得は環境問題をはじめとして様々な社会的課題を考察するために必須であることが理解できるようになることをめざしている。具体的な目標としては次に示すとおりである。

- ・物理学の基礎事項を修得する。
 - ・様々な自然科学的な単位について説明できる。
 - ・エントロピーの概念について説明できる。
 - ・物理学と環境問題などとの関係性について説明できる。
- なお授業内容に関係する分野は、運動と力・エネルギー、物質と熱現象、気体、波動、電流と回路、電界と磁界、原子と原子核などであり、高校物理の内容をほぼ網羅するものとなっている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

人間環境学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式で授業を進めていく予定である。連絡事項等は学習支援システム上に表示する。視覚的教材をできるだけ多く取り入れながら授業を進めていく。授業資料を毎回事前に学習支援システムに掲載するので、資料を参照しながら受講してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本科目の内容について。なぜ物理は環境問題を考察するための基礎となるのか？
第2回	物体の運動とエネルギー (力学の法則、エネルギーの概念と様々な単位、エネルギーの保存と散逸など)	物体の運動、力学について。エネルギー保存則とは何か？ジュール(J)、ワット(W)などの基本的単位の超入門。
第3回	熱とエネルギーを理解しよう (エネルギーの種類と変換、地球に降り注ぐ太陽エネルギーの大きさを測る)	異なった形態のエネルギーと変換について。温度とは？比熱とは？calとJについて。太陽定数の大きさと地球-宇宙の間のエネルギー収支を知ろう。

第4回	熱とエネルギーを理解しよう (気体の性質、エンジンなどの熱機関の原理を理解する)	気体の圧力、体積、温度などの関係(ボイル・シャルルの法則)を理解する。気象現象の考察。熱機関(熱から仕事への変換)と熱効率について。
第5回	熱とエネルギーを理解しよう (熱の伝わり方を見る、金属棒を伝わる熱+空気の流れにより伝わる熱+電気ストーブによる加熱)	伝熱の3形態「熱伝導」「対流」「熱放射」を理解する。地球システムと熱との関係は？人間活動と熱との関係は？ヒートアイランド現象とどのように関係しているのか？
第6回	物質の三態と状態変化を理解しよう (氷の融解・水の蒸発と潜熱、地球上に存在する水の役割について)	物質の三態(液体、固体、気体)と相転移を理解する。状態変化に伴って出入りする潜熱の測定。地球上における水の大循環の役割は？生命体維持における水の役割は？
第7回	物質の三態と状態変化を理解しよう (水の密度と膨張率+氷の密度と浮力、氷の融解現象について)	水の温度と体積との関係を理解する。水に浮かんだ氷の融解に伴う水位の変化を調べる。海水温の上昇と海面水位の上昇との関係は？氷山が融解すると海面水位は上昇するのか？
第8回	波の性質を知ろう (横波と縦波を観察する、自然の中に現れる様々な波を調べる)	横波と縦波、周期と振動数(周波数)、波長と振幅、波の重ね合わせなどの基礎事項を理解する。音や光の性質などの考察。地震波などの理解。
第9回	電気回路の性質を知ろう (電流、電圧、抵抗の超入門、抵抗線を通れる電流による熱発生(ジュール熱)について)	電気回路とオームの法則、キルヒホッフの法則などの理解。電力系統網における送電ロスとは何か？
第10回	磁石を使って電気を流そう&電池を使って磁石をつろう (電界と磁界について、発電機とモーターの原理を知る)	発電機とモーターのしくみを理解する。電磁誘導と発電の原理を理解する。電磁波とは何か？可視光線、赤外線、紫外線、電波、X線などは電磁波の仲間。
第11回	原子・分子を理解しよう (原子の構造とエネルギー、核分裂と原子力発電のしくみについての超入門)	原子核と電子、中性子と陽子、放射線と放射能、Bq(ベクレル)とSv(シーベルト)などについて。原子力発電、ウラン、プルトニウムなどに関する入門的解説。
第12回	物質・エネルギーの保存則と拡散則を知ろう (水と湯の間の熱移動+水中に落とされたインク拡散などの現象からエントロピーの概念へ)	熱は高温側から低温側へ、インクは部分から全体へ拡散する。物質とエネルギーの「量の保存」と「質の劣化」の直感的理解。
第13回	物質とエネルギーの保存則と拡散則を知ろう (エントロピー論)	なぜLED電球は白熱電球に比べて省エネなのか？エネルギー変換にはロス(損失)が生じる。エネルギーの最後の行き場は「熱」。人間活動をエントロピーから解釈する。
第14回	総括	講義内容を概観し、環境問題および社会の持続可能性について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。学習支援システムに授業資料を掲載します。

【参考書】

開講時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本科目では期末試験を行う予定です。また授業内においてレポートを提出してもらうことがあります。成績は期末試験の結果80%、提出されたレポートの充実度20%によって判定します。

【学生の意見等からの気づき】

授業をゆっくと進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

くれぐれも「自分は理系でないからこの科目を履修しない」という考え方をもちないでください。この科目には環境問題を学ぶ上で必要な内容がたくさんあります。文系の皆さんにこそ履修してほしいと考えています。

この科目は「環境モデル論Ⅰ」「環境モデル論Ⅱ」に関する基礎としても位置づけられています。環境問題の学習をより発展させていくためにもそれらを履修することをお薦めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) Theme: Physical fundamentals for energy and materials In this course we learn fundamentals of physics. Features concerning energy and materials will be clarified with relation to environmental problems on the earth. The following themes will mainly be examined: the law of motion, the concept of energy, the units of energy and power, energy conversion, energy balance on the earth, heat and its capacity, the three states of substances, molecular dynamics for gases and liquids, thermal engine and the heat efficiency, thermal expansion of liquids and solids, the mechanism of thermal transference (conduction, convection, and radiation), phase transition among three states (melting, boiling, and sublimation), fundamentals of wave phenomena, electric circuit, magnetism and electricity, the structure of atomic nuclear and energy, the fission and radioactivity, the first and the second law of thermodynamics, etc. They are instances lectured in this course. (Learning Objectives) At the end of this class, we are expected to have the knowledge of fundamentals of physics. The concept of energy and materials is expected to be acquired in class. We will explain the meaning of units appearing in nature. The concept of entropy is necessary to be understood. Students will learn the mechanism of environmental problems from the viewpoint of physics. (Learning activities outside of classroom) We will be expected to spend two hours to prepare research report before each class. After it we need two hours to understand the content. The sum is four hours for each class. (Grading Criteria /Policy) The grade of the class is decided with the term-end examination 80%and reports presented in class 20%.

EDU100MA (教育学 / Education 100)

発達・教育キャリア入門A 基幹科目

遠藤 野ゆり

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

備考（履修条件等）：＜2025年度以降入学者＞

授業コード：C5018

科目名：発達・教育キャリア入門A

＜2024年度以前入学者＞

授業コード：C5018

科目名：発達・教育キャリア入門A

※入学年度によらず同科目名称

その他属性：〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発達・教育に関する基礎的な知識の習得と、それらの問題をどのような観点で切り取るかという視点の獲得とを目指します。私たちは多くの場合「自分の考え方は当然のことだ」「みんなそう考えている」「あたりまえだ」と思いこんでいます。つまり、自分の「あたりまえ」の枠組みの中しかものごとを捉えられません。けれどそのままでは、自分の考えを押しつける浅い教育論しか展開できなくなります。自分の枠組みがどのようなものなのかを知り乗り越えていく方法を考えます。

【到達目標】

発達・教育に関する10のトピックをめぐる基礎的な知識を身につける。

自分がいかに普段「あたりまえの枠組み」の中で考えているかを理解し、そのルーツを探る。

自分の「あたりまえの枠組み」を超えるための視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は原則を対面としつつ、対面での授業に参加できない学生には、6回まで、オンラインでの参加を認めます。

本授業では10の教育問題（トピック）を取り上げます。各自教科書の第1節にある基礎的な知識を予習したうえで授業に臨んでください。毎時間、基礎知識の習得率を図る小テストを実施します。授業では、あたりまえの枠組みを乗り越える視点を提示し、予習してきた知識の捉え直しを行います。

講義形式をとりつつ授業内でのグループワークが毎回あります。課題等については、授業内で一部の意見を取り上げて紹介するほか、寄せられた質問やコメントについては授業資料に回答を明記して配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、課題の設定、テキスト、オンライン受講の方法等について説明する。授業実施の詳細（オンラインへのアクセスの仕方など）はHoppiiに記載する。
2	枠組みとしてのあたりまえ テキスト序章	「あたりまえ」を疑うとはどういうことか。「みんな」という言葉で表わされることの内実を考える。
3	家族の形 テキスト第1章	正しいデータに照らして家族の問題を捉える。

4	家庭教育 テキスト第2章	教育が家庭でなされるようになった歴史的経緯を理解し、家計と学力など家庭教育を制約する要因について学ぶ。
5	児童虐待 テキスト第3章	虐待された経験は子どもにどのような影響を与えるのかを学ぶ。虐待された子どもへの心理的影響や、発生要因、親の抱える孤独について考える。虐待する親の思いを学ぶ。「虐待する親はひどい」という常識的見方を超えて、虐待の発生過程を学ぶ。
6	つながり孤独 テキスト第4章	若者のSNSの問題を考え、人間関係とは何かを捉えなおす
7	いじめ テキスト第5章	悪いこととわかっていてもなぜいじめは生じるのか、雰囲気による他者理解の観点から考える。
8	恋愛 テキスト第6章	恋愛について、近年の傾向を学び、成長における意味を考える。
9	カウンセリング テキスト第7章	相手の話を聞き内なる声を聞くという営みの奥深さを知る。
10	不登校 テキスト第8章	語ることで自分自身のあり方を作り上げていくという成長を考える。
11	発達障害 テキスト第9章	人によって見えている世界は全く違う、ということを知る。
12	キャリア教育 テキスト第10章	おとなになることとは与えられる側から与える側になること。可能性の中から選択すること、その選択に責任をとることという観点からキャリア形成の必要性を考える。
13	「あたりまえ」を支えるもの テキスト終章	多様な観点から「あたりまえ」を疑ったとしても私たちの世界が確かさを失わないということについて学ぶ
14	授業全体のふりかえり・評価	本講義を通して何を考えてきたのかを再検討し、学んだ内容の確認、今後の課題の設定を行う。また習得状況の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストはすべて1章が3節構成になっています。各章の第1節にはその単元を学ぶ上での基礎知識がすべて書かれています。授業の時間上、基礎知識は予習課題とし、毎週テストを実施します。予習して臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠藤野ゆり・大塚類（2020）『さらにあたりまえを疑え！ 臨床教育学2』新曜社

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題50%、期末レポート50%（受講生の状況に合わせて変更する可能性があります。変更は必ず事前に学習支援システムを通じて受講生にお知らせします。）

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで参加した場合に音声聞き取りにくいとのことでしたので、マイクの使用など、音声システムを工夫するようにします。ただし、対面授業を原則としており、オンラインで受講した場合の音質等には一定の限界があることを了解してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業内でログインしてもらいクリックアンケートなどを実施することがあります。できるだけ、スマートフォンやPCなどの機器を持参してください（事前に連絡します）
原則対面の授業ですが、半分まで、オンラインでも受講可能とします。その場合にオンライン環境は学生さん自身で整えてください。また、講義室のオンライン環境には限界があり、対面のような音質は確保できないことをあらかじめご了承ください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて内容の調整をすることがあります。

【Outline (in English)】

Outline and objectives : We aim to acquire fundamental knowledge on the issue of developmental and educational field and to acquire a viewpoint on how to cut out those problems. In many cases, we think that "my way of thinking is natural", "everyone thinks so", "it is natural". In other words, we can catch things only within our "obvious" framework. However, as it is, only the shallow educational theory which imposes his thought can be developed. I will think about ways to know and overcome what your framework is like.

Goal: The goal is to acquire basic knowledge about 10 topics related to development and education and, also, to understand how they usually think within the "natural framework" and explore their roots.

Methods: This class will cover 10 educational issues (topics). Students are required to prepare for the basic knowledge in Section 1 of each textbook before attending the class. Every class a quiz to measure the acquisition rate of basic knowledge is held. In the class, a viewpoint that overcomes the natural framework and reconsider the knowledge that we have prepared is showed.

Work to be done outside of class (preparation, etc.) :all textbook chapters are composed of three chapters. Section 1 of each chapter contains all the basic knowledge for learning that unit. Due to class time, basic knowledge is a preparatory task and a weekly test is conducted. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria: 50%=quiz in each class, 50 %=term-end exam. (The grading criteria way may be changed according to the student's request)

ECN100MA (経済学 / Economics 100)

キャリアと経済学

小前 和智

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスキャリアデザインとの関連づけを意識ながら、経済学の基礎を学ぶ。キャリアは個人というミクロな主体の選択により形成される。ミクロ経済学はそうした個人の選択や意思決定を扱う学問の1つである。経済学の理論とその仮定を理解することは、ビジネスキャリアデザインを考えるうえで多くのヒントをくれる。マクロ経済学は、国あるいは世界の経済を扱う学問である。国や世界の経済を考えるのに重要な変数を学ぶとともに、マクロ経済がキャリア及ぼす影響（キャリアが個人の選択だけでは形成されない面）についても授業のなかで紹介する。全体を通して、経済学の考え方の実践的な活用をイメージできるよう、具体的な例を多く交えて授業を進める。

【到達目標】

経済学の基本的な考え方を理解することで、実社会の現象を理解する術を身につける。具体的には以下の項目への到達を目標とする。

- (1) 経済学の基本的な考え方を理解する
- (2) 実社会で起こる現象の一部を経済学的に考えることができる
- (3) 経済学の実践的な活用のイメージができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントのスライドを用いた授業を行う。学習支援システムで資料を配布するので、配布された資料を各自ダウンロードのうえ参加すること。授業内で実施したミニテストの解説は授業内で適宜行っていく。その他、授業に関する連絡や授業計画等の変更がある場合には、学習支援システムで連絡する。ミニテストの解答・解説やコメント等は、ミニテストの次の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業のガイダンス、経済学概説	授業の概要を示し、その後ミクロ経済学とマクロ経済学について概説する。経済学を学ぶことによって、実社会をどのように捉えられるようになるのかイメージを持つ
第2回	ミクロ経済学（1）経済学の考え方	経済学の前提としての競争市場について解説し、重要な用語や概念についても説明する
第3回	ミクロ経済学（2）需要、供給、価格①	需要曲線と供給曲線について説明する。さらに、それらの交点が示す均衡価格や需要・供給曲線がシフトすることで価格が変化することについて学ぶ
第4回	ミクロ経済学（3）需要、供給、価格②	弾力性の概念を導入し、価格弾力性の大小の意味について考える。その後、第3回授業と同様に需要・供給曲線のシフトによる価格変化について学ぶ
第5回	ミクロ経済学（4）市場と効率性	余剰の概念を導入する。さらに、経済学における効率性の概念を学ぶ

第6回	ミクロ経済学（5）不完全市場	第2回から第5回にかけては完全競争という市場環境を前提としてきた。本授業では、不完全競争、不完全情報、外部性など、これまで想定とは異なる市場環境下において生じる現象や、それに対する政府の役割を学ぶ
第7回	ミクロ経済（6）政府の役割	授業の前半では公共部門の役割について学ぶ。後半ではミクロ経済学のとめを行う
第8回	マクロ経済学（1）マクロ経済を考えるうえでの構成要素	GDP、労働市場、生産物市場、資本市場、景気循環、失業などについて学ぶ
第9回	マクロ経済学（2）国民経済計算	国民経済計算を説明する。一国の会計である国民経済計算を通してフロー、ストック、付加価値、三面等価などの概念を学ぶ
第10回	マクロ経済学（3）経済成長	経済成長とは何か、経済学は経済成長をどう説明しているか学ぶ
第11回	マクロ経済学（4）消費と貯蓄	消費がどのような要因によって決定されるかを学ぶ。また、消費と表裏一体として捉えられる貯蓄についても学ぶ
第12回	マクロ経済学（5）失業とインフレーション	景気循環、失業とインフレーションなどについて学ぶ
第13回	マクロ経済学（6）乗数効果、IS-LMモデル	乗数効果について学び、最後にIS-LMモデルについて簡単に紹介する。授業の後半ではマクロ経済学のとめを行う
第14回	授業のとめ	授業のとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する

【参考書】

ジェゼフ・E・スティグリッツ、カール・E・ウォルシュ『スティグリッツ入門経済学（第4版）』東洋経済新報社（購入しなくてよい）
その他、授業内で適宜案内する

【成績評価の方法と基準】

評価は、ミニテスト（授業内で簡単なクイズを数回実施予定）と期末テストで行う

ミニテスト（50%）、期末テスト（50%）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

わからないことはいつでも質問可能であり、積極的な授業への参加を期待する

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

In this class, you will learn the basics of economics while keeping in mind its connection to business career design. Careers are formed by the choices made by individuals, who are micro-subjects. Microeconomics is one of the academic fields that deals with such individual choices and decision-making. Understanding economic theory and its assumptions will provide many hints when considering business career design. Macroeconomics is an academic field that deals with national and global economies. In addition to learning about variables that are important when considering national and global economies, the class will also introduce the impact of macroeconomics on careers. Throughout the class, the class will include as many concrete examples as possible, showing how acquiring economic thinking can be applied.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be done through mini-tests (simple quizzes will be held several times in class) and final exams.

Small tests (50%), Final exam (50%)

SOC200MA (社会学 / Sociology 200)

キャリアとコミュニティ論

森屋 雅幸

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木4/Thu.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域のコミュニティは、あらゆる世代の多様な市民が活躍する場となり、生きがいをもって生活を送るという点で、人の生き方（ライフキャリア）と密接に関わっている。近年、こうした観点から都市部や地方における地域づくりの目標に地域のコミュニティの再生が掲げられ、さまざまな取り組みが自治体や市民によって取り組まれている。本授業では、おもに地域の文化との関わりをテーマとして、地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを、政策や各地の事例を通して理解することを目的とする。

【到達目標】

地域のコミュニティと市民のライフキャリアのつながりを地域の文化の関わりから理解し、このつながりが現代の地域づくりにどのようなインパクトを与えているのか考察し、説明することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式の授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックするなど、受講者との双方向の授業を意識して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
第2回	ライフキャリアと地域のコミュニティ	市民のライフキャリアと地域のコミュニティの関わりについて説明する。
第3回	コミュニティデザインの歴史	日本におけるコミュニティ政策の歴史と、そこに地域の文化がいかに介在してきたのか講義する。
第4回	市民活動とコミュニティ I	日本における市民活動と地域文化の関わりについて、文化財保存運動をテーマに講義する。
第5回	市民活動とコミュニティ II	日本における市民活動の萌芽と地域文化の関わりについて講義する。
第6回	地域博物館におけるコミュニティの活動 I	市民参加の観点から活動をする地域博物館を事例に講義する。
第7回	地域博物館におけるコミュニティの活動 II	地域を丸ごと博物館として、市民主体で活動するエコミュージアムについて講義する。
第8回	地域博物館におけるコミュニティの活動 III	科学館における天文と市民をつなぐ活動を紹介する。
第9回	地域文化財とコミュニティ I	お祭りなどの無形民俗文化財がコミュニティとライフキャリアとどのように結びついているのか講義する。
第10回	地域文化財とコミュニティ II	地域の文化財建造物を拠点に活動する市民の取り組みを紹介する。

第11回	地域文化財とコミュニティ III	地域の文化財建造物を保護するNPOの活動を紹介する。
第12回	地域文化財とコミュニティ IV	町並み保存と無形文化財の継承活動を市民主体で実践する事例を紹介する。
第13回	地域文化活動と地域の居場所	現代の社会で求められる「居場所」と地域文化活動の関わりについて講義する。
第14回	試験・まとめと解説	本授業のまとめ・解説をするとともに、到達目標を達成できたか確認する筆記試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業で取り上げた事例について、自主的に参考書に示した文献やインターネット等で調べて、準備学習・復習に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義資料を必要に応じて配布する。

【参考書】

松本茂章編『ヘリテージマネジメント—地域を変える文化遺産の活かし方—』（学芸出版社、2022年）

馬場憲一『地域文化政策の新視点—文化遺産保護から伝統文化の継承へ—』（雄山閣、1998年）

金山喜昭『公立博物館をNPOに任せたら—市民、自治体、地域の連携—』（同成社、2012年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー・授業への貢献（40%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Local communities are closely related to life careers in that they provide a place for diverse citizens of all ages to play an active role and live a life worth living. In recent years, the revitalization of local communities has become a goal of regional development in urban and rural areas, and a variety of initiatives are being undertaken by local governments and citizens. In this class, the main theme is the relationship with local culture, and the objective is to understand the connection between local communities and the life careers of citizens through policies and case studies from around Japan.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

ファシリテーション論 基幹科目

徳田 太郎

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火4/Tue.4 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

持続可能な社会の担い手に求められるスキルとマインドの一つとして「ファシリテーション」を挙げることができる。ファシリテーションとは、参加型の場をつくることで、多様な人々による共創や協働を支援・促進する働きかけである。本授業においては、現代社会の課題解決におけるファシリテーションの意義、効果的なファシリテーションを行うための基礎的な知識や技術、およびファシリテーターとして行動するための心構えを、講義と演習を通じて理解・習得する。

【到達目標】

・参加者主体の話しあいや課題解決の方法論と、そのような場におけるファシリテーションの意義や役割を説明することができるようになる。

・社会における連携や協働の実現の鍵となる「当事者としての主体性」や「相互作用による創造性」を育むための働きかけができるようになる。

・演習での体験を通じ、メンバーの個性を活かし、ともに協力しあうチームを育てていくためのリーダーシップを発揮できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・第1回：オリエンテーションとして、授業の内容と進め方を確認する。

・第2回～第4回：講義と質疑応答を中心に、ファシリテーションに関する基本的な考え方を学習する。

・第5回～第12回：話しあいにおけるファシリテーションの技術を、各回それぞれ異なる技術に焦点を当てつつ、演習と解説を中心に習得する。

・第13回：それまでに学んだスキルとところを活かして、実際に参加型の場を企画・運営し、相互にフィードバックを行う。

・第14回：まとめの講義と、授業内試験（レポート）を行う。

＊第1回～第13回は、各授業時間の最後の10分程度を「振り返りシート」の作成に充てる（毎回提出のこと）。振り返りシートについては、次の回にいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。また演習におけるファシリテーターとしての（また参加者としての）言動については、その都度フィードバックを行う。

＊大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容と進め方を確認する（講義）
2	ファシリテーションとは何か	ファシリテーションの全体像を学ぶ（講義・演習）
3	ワークショップとは何か	ワークショップの全体像を学ぶ（講義・演習）
4	話しあいとは何か	話しあいにはモードがあることを学ぶ（講義・演習）
5	話しあいの場をつくる技術①空間のデザイン	物理的な「場」の影響を学ぶ（講義・演習）

6	話しあいの場をつくる技術②オリエンテーション	「方向づけ」の方法を学ぶ（講義・演習）
7	話しあいの場をつくる技術③チェックイン	「雰囲気づくり」を学ぶ（講義・演習）
8	話しあいの場をホールドする技術①発問	話しあいの「活性化」を学ぶ（講義・演習）
9	話しあいの場をホールドする技術②可視化	話しあいの「構造化」を学ぶ（講義・演習）
10	話しあいの場をホールドする技術③アイデアの発散～集約	アイデアの発散～集約の技術を学ぶ（講義・演習）
11	話しあいの場をホールドする技術④意見の吟味	対立解消・合意形成の技術を学ぶ（講義・演習）
12	プログラムを組み立てる技術	参加型の場を企画する方法を学ぶ（講義・演習）
13	ファシリテーション実践	参加型の場（ワークショップ）の運営を体験する（演習）
14	まとめ	まとめ（講義）および授業内試験（レポート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・第2回～第4回：予習として、テキストをよく読み、疑問点・質問事項を明確にすること。復習として、テキストやノートを読み返し、学んだことを整理すること。（予習・復習各120分程度）

・第5回～第12回：予習として、各回の授業で指示するテーマにつき、テキストをもとに、「どのようなときに」「どのような働きかけを」「どのような点に留意して」行うと効果的かを説明できるよう準備すること。復習として、学んだことをどのように実践・活用・応用できるかを考え、ノートにまとめること。（予習・復習各120分程度）

・第13回：予習として、講義内容全体を振り返り、しっかりと準備をして演習に臨むこと。復習として、演習を通して学んだことや不十分なところを整理し理解しておくこと。（予習・復習各120分程度）

【テキスト（教科書）】

徳田太郎・鈴木まり子『ソーシャル・ファシリテーション：「ともに社会をつくる関係」を育む技法（改訂版）』（2024年4月、北樹出版、ISBN：978-4-7793-0747-8）。授業は、テキストを予習していることを前提に進める。

【参考書】

・中野民夫・森雅浩・鈴木まり子・富岡武・大枝奈美『ファシリテーション：実践から学ぶスキルとところ』（岩波書店、2009年）
・堀公俊『ファシリテーション・ベーシック：組織のパワーを引き出す技法』（日本経済新聞出版社、2016年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標に記した3点について、小課題（各回の振り返りシート）の質と量（約60%）、レポート課題（授業内試験）（約20%）、発言や質問・演習など授業への参加度（約20%）から、総合的に評価する。期末の筆記試験は行わない。

【学生の意見等からの気づき】

「振り返りシートをもとにした講義展開」が好評であったため、引き続き各回の授業は「約3分の1が前回学習内容の深耕、約3分の2が新規学習内容の解説・体験」という漸進的な進め方を採用する。また、毎回くじ引きでグループを構成し、異なるメンバーで話しあいを行う方法も好評であったため、今年度も同様のグループ構成を採用する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出に、学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

グループでの話しあいを中心にした体験型の授業です。履修希望者が多い場合は、受講者数を限定する可能性があります。その際、第1回授業の出席者を優先しますので、履修希望者は、必ず第1回授業に出席してください（第1回授業はオンラインで実施します）。

【実務経験のある教員による授業】

2003年にファシリテーターとして独立、以降、市民活動や地域づくり、医療・福祉、教育・文化などの領域を中心に、全国各地で会議やワークショップ等のファシリテーターとして実務経験を積む。それに関連して、実際の現場での事例をもとに、具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Facilitation is one of the skills and mindsets required of the leaders of a sustainable society. It is an approach that supports and promotes co-creation and collaboration among diverse people by creating a participatory space. In this course, you will understand and acquire the significance of facilitation in solving the problems of modern society, the basic knowledge and skills for effective facilitation, and the mindset for acting as a facilitator through lectures and exercises.

(Learning Objectives)

1. You will be able to explain the methodology of participant-centered discussion and problem solving, and the significance and role of facilitation in such settings.
2. You will be able to work toward fostering "subjectivity as a party" and "creativity through interaction," which are the keys to the realization of cooperation and collaboration in society.
3. Through the experience of the exercises, you will be able to demonstrate leadership in fostering a team that utilizes the individuality of its members and cooperates together.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

short reports: 60%, term-end report: 20%, in class contribution: 20%.

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

若者と自立支援

大山 宏

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：土2/Sat.2 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。

この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例等を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのか検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。

ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。

また、授業の最後に毎回リアクションペーパーの課題を出すこととする。

提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。

この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認をしておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第2回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第3回	「就業」と生きづらさ	「就業」を基盤とした自立についての検討
第4回	若者の生きづらさ	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第5回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第6回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第7回	重層的な支援の構造	互いに支援し合える構造の重要性について
第8回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第9回	若者と社会	「社会」の検討と若者支援との関係性
第10回	社会への参画	若者と社会の関係性について

第11回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第12回	若者支援の範囲	若者支援の領域で対応すべき課題の多様さについて
第13回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第14回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファアロング/フレッド・カートメル・大月書店
など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40％
レポート：60％

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらったリアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメは授業前に学習支援システムにアップロードするので、それを見られるようにすること。

また、レポート提出等にも学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%, in class contribution: 40%

CAR100MA（キャリア教育 / Career education 100）

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

なかむら アサミ

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、さまざまな生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることには有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々と教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネスなど様々な分野で活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深め、以後の学部での学びに活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出していきます。課題等の配布・提出は「学習支援システム」で行います。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。振り返りでは業界や職業知識の解説を適宜行い、理解の深耕、ゲストの仕事観の違いなどを説明します。ゲスト講師の回以外の授業では参加受講者同士で、簡単なワークを行うと認識しておいてください。授業は、対面を中心としながら、オンラインで講義する日もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第2回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第3回	下調べの方法	キャリアに関する下調べのしかたを説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第4回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第5回	聴く力、下調べ、インタビュー術の実践	これまでの学びを、デモ講義を通して実践し、次回以降のゲスト講師授業準備等に活かす
第6回	ゲスト講師①	NPO分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第7回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第8回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第9回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。

第10回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う
第11回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。 またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第12回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第13回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第14回	ゲスト講師⑤⑥の振り返りとまとめ	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ→インタビュー→解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。授業での投影資料は終了後に配布します。

【参考書】

特になし。必要な場合は適宜知らせる。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終講義日に提出するレポート（50%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のリアクションペーパーを通じてみなさんの要望を反映します。昨年は質疑応答の仕方を工夫したことで議論が活発になりました。「意見を伝える」習慣を授業でも身につけていただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PCの持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

履修希望者はなるべく初回から出席すること。特に2回～4回目までは授業の基本的な進め方について説明及び実習を行うので、2回～4回までに欠席した場合は、単位の取得は不利となる

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

PSY200MA (心理学 / Psychology 200)

コミュニティ心理学

安田 節之

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木3/Thu.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニティ心理学（community psychology）の理論と方法を学び、個人やコミュニティのウェルビーイングの促進について考える。

【到達目標】

- ①現代社会を生きるうえでのライフキャリアについて、コミュニティ心理学の視点から捉えることができる。
 ②個人やコミュニティのウェルビーイング促進のために必要な支援プログラムについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、現代社会でよく生きる、即ちウェルビーイング（well-being）を高めることの意義やそれ下支えする社会のあり方についてコミュニティ心理学の理論と方法に基づいて考える。生活観やライフスタイルが人それぞれ違うなか、自分自身にフィットする人間・社会環境やコミュニティを踏まえたライフキャリアのあり方を学ぶ。まずウェルビーイングの考え方を確認し、よく生きるとは何か、どう定義・測定されるのか、さらにウェルビーイングの規定要因は何かなどについて理論や実証研究の知見をもとに考える。そのうえで、コミュニティ心理学における鍵概念とされるエンパワメント（empowerment）や心理的コミュニティ感覚（psychological sense of community）の役割や効果をライフキャリアの質向上の観点から掘り下げていく。さらに予防科学（prevention science）の考え方をもち、様々な生活場面や社会的環境におけるストレスやリスクを予防・回避することの重要性について学ぶ。またグループ演習として、ライフキャリア支援のあり方について考え、組織やコミュニティといったメゾ・マクロレベルでの実施を想定した介入プログラムを設計する。授業全体を通して、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、更なる議論に活かすことにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要、成績評価等に関する説明を行う。
第2回	ウェルビーイング①	よく生きる、在る（being well）とはどのようなことを指しているのか。理論的背景を確認する。
第3回	ウェルビーイング②	ウェルビーイングの測定方法や規定要因について学ぶ。
第4回	ウェルビーイング③	ウェルビーイングの効果について研究結果・事例をもとに学ぶ。
第5回	コミュニティ心理学に基づくライフキャリアの学びとは何か	コミュニティ心理学の理論と方法に基づき、現代社会でよく生きることを考える。
第6回	コミュニティ心理学の価値観	ライフキャリアの質向上に関連するコミュニティ心理学の概念や価値観について学ぶ。
第7回	コミュニティ感覚	コミュニティ感覚の定義や理論的背景を確認し、コミュニティを心理学的に掘り下げるとはどういうことかを学ぶ。

第8回	エンパワメント	エンパワメントの定義および役割を考える。事例として高齢者の社会参加を挙げる。
第9回	多様性・ダイバーシティ	組織や地域コミュニティにおける多様性・ダイバーシティについて考える。
第10回	予防科学①	予防とは何かについて、構造および効果の側面から考える。
第11回	予防科学②	コミュニティ心理学における予防研究について知り、予防的介入の実践方法について考える。
第12回	ライフキャリアの質向上①	ライフキャリア支援の考え方と方法について学ぶ。
第13回	ライフキャリアの質向上②	ライフキャリア支援プログラムのあり方を事例を通して考える。
第14回	まとめ	授業での学びの総括および課題の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

※授業内のディスカッションのため、配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習(3時間)・復習時間(1時間)を標準とします。特に事前学習（配布資料の通読）に時間を費やしてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、配布プリント、関連資料、演習用ワークシートを使用する。

【参考書】

「コミュニティ心理学：実践研究のための方法論（ワードマップ）」（日本コミュニティ心理学会研究委員会，2019，新曜社）
 「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之，2011，新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末試験(50%)、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）(30%)、授業への積極的な貢献度(出席状況を含む)(20%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

継続的に分かり易い授業を行う。大教室内でのグループワークにおけるより効率的な運営方法を検討する。

【Outline (in English)】

Theories and methods of community psychology (CP) will be discussed in this class. Specifically, we focus attentions on how well-being of individuals and communities is enhanced by such ideas as empowerment, sense of community, and prevention/promotion that are discussed in the literature of CP.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

多文化教育Ⅰ

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、受講者の多文化理解力、多文化協働力を高めることを目的とします。受講者は、在留外国人を取り巻く課題を理解し、共生のために何が必要なのかを考えを深めます。本科目を通じて、言語文化的に多様な背景をもつ人々と協働し、学び合うことがなぜ大切なのか理解し、自らイニシアティブをとって、文化紹介、国際交流、学習支援を実践することができるようになります。

【到達目標】

本科目を通じて、学生は以下のことができるようになります。

- ・自分の異文化体験を批判的に省察し、言語化することができるようになる
- ・在日外国人が抱える問題を理解し、どのような解決方法があるのかアイデアを出せるようになる
- ・多文化協働力を高められる
- ・交流活動を企画し、実践することができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本授業は履修学生をグループに分け、毎回の授業で課題を提示し、グループ内でディスカッションを行い、全体に共有します。

【課題等に対するフィードバック方法】

・リアクションペーパー等におけるよいコメントは授業内で紹介し、さらなるディスカッションに活かします。

・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり /Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(4/10)	オリエンテーション	授業内容提示、履修の有無判断
第2回(4/17)	留学・英語神話	大学のグローバル化、留学、英語学習について考える。
第3回(4/24)	日本で学ぶ留学生の視点	留学生の来日動機、来日して抱える問題点について学ぶ。
第4回(5/8)	異文化適応	様々な異文化適応の理論を学ぶ。学内の留学生交流を始める。
第5回(5/15)	「やさしい日本語」は必要か	「やさしい日本語」が提唱されるようになった背景、社会的な意義、具体的な使い方を学ぶ。
第6回(5/22)	外国人労働者をめぐる問題	外国人労働者の在留資格、受け入れの実態、受け入れ制度の問題点について学ぶ。
第7回(5/29)	ステレオタイプについて考える	ステレオタイプのメカニズムを理解し、自分のステレオタイプについて掘り下げる。
第8回(6/5)	「ハーフ」	「ハーフ」という呼び方について考える。当事者の多様な経験を理解する。

第9回(6/12) 「日本人論」

・過去の「日本人論」を知るとともに、現代のメディアによる「日本人」「●●人」の描き方を考える。

・プロジェクトのトピックをグループで選ぶ。

第10回(6/19) ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッション

・ヘイトスピーチ、マジョリティー特権、マイクロアグレッションについて考える。

・プロジェクトの企画書を作成する。

第11回(6/26) 文化紹介プロジェクトの準備

グループに分かれてプロジェクトの準備

第12回(7/3) プロジェクトの発表1

発表とディスカッション（グループ1～3）

第13回(7/10) プロジェクトの発表2

発表とディスカッション（グループ4～6）

第14回(7/17) 教場試験

最終レポートを作成、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。

学生は授業で指示されたテキストをあらかじめ読んでください。また、課外活動として、留学生との国際交流を行ないます（毎週1時間程度）。

【テキスト（教科書）】

自作テキスト配布

【参考書】

参加者の理解状況に応じて参考書の情報を知らせます。

【成績評価の方法と基準】

- ・積極的な授業の参加度 25%
- ・課題 35%
- ・最終発表 20%
- ・最終レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

最終課題の準備時間がもう少し少しかったという声があったので、次回からもう少し時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに2回目の授業までに登録してください（クラスコードは初回の授業で伝えます）。

【その他の重要事項】

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。1回目、2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、この科目と秋学期の「多文化教育Ⅱ」をペアで履修することが単位取得の条件となります。

・履修者数が多い場合は、履修理由希望書によって選抜します。

【その他】

毎回の授業でのグループディスカッションへの参加が求められます。遅刻・早退、欠席の可能性が高い学生、課題に取り組む時間が取りにくい学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目を履修するには3月下旬の体験型選択必修科目ガイダンスに出席し、選抜に合格する必要があります。必ず掲示で詳細を確認してください。

【Outline (in English)】

The course seeks to enhance students' multicultural awareness and understanding of linguistically and culturally diverse groups of people living in Japan. It also aims to develop students' multicultural collaboration skills.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to 1) critically reflect upon their own multicultural experiences; 2) understand the social issues impacting foreign residents; 3) enhance multicultural communication skills; and 4) conduct cultural exchanges.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 20%

Final Paper: 20%

・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

BSP200MA（初年次教育、学部導入教育及びリテラシー教育 / Basic study practice 200）

多文化教育Ⅱ

展開科目

村田 晶子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は春学期に学んだことを踏まえて、国際協働学習、そして、多文化共生をテーマとしたボランティア活動に参加します。これにより、文化的多様性の理解を深め、多文化協働力、社会貢献意識を高めます。

【到達目標】

本科目でボランティア活動に参加することを通じて、学生は多様な背景をもつ人々と協働するためのスキルや資質を高めることができます（例：傾聴力、発信力、文化分析力、偏見やステレオタイプに気づく力、関係性の構築力、対立への対応力、自己省察力、柔軟な態度、自己管理能力、積極的に働きかける力等）。そして、多文化共生社会に貢献するために何が 필요한かを理解し、自ら行動することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

＊体験学習期間は参加者の活動→振り返り→次への応用というサイクルが中心になります。

【課題等に対するフィードバック方法】

・よい振り返りのコメントは全員に紹介し、ボランティア活動に活かします。

・課題等の提出・フィードバックはGoogle Classroomを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回(9/18)	オリエンテーション ボランティアプロジェクトの説明	授業内容提示、履修の有無判断、ボランティアプロジェクトの選択
第2回(9/25)	プロジェクトごとに活動計画を立てる	活動計画書の作成
第3回(10/2)	海外大学とのオンライン国際協働学習の開始	海外班はオンライン合同オリエンテーションに参加
第4回(10/9)	チュートリアル 1	小グループに分かれてボランティア活動の振り返りを行う
第5回(10/16)	チュートリアル 2	小グループに分かれてボランティア活動のふりかえりと、計画の調整を行う。
第6回(10/23)	チュートリアル 3	小グループに分かれてボランティア活動の課題を検討し、改善のための目標を設定する。
第7回(10/30)	中間テスト	ボランティアの動画を分析し、レポートを提出
第8回(11/6)	チュートリアル 4	小グループに分かれてボランティア活動の最終成果物のテーマを決める。
第9回(11/13)	海外大学発表会①	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション①
第10回(11/20)	海外大学発表会②	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション②
第11回(11/27)	海外大学発表会③	海外大学とのオンライン合同発表会とディスカッション③

第12回(12/4)	ボランティアのまとめと発表準備	各グループにわかれて成果発表会の準備を行う
第13回(12/11)	成果発表会1	グループの活動報告（海外班）
第14回(12/18)	成果発表会2	グループの活動報告（それ以外の班）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は2単位ですので、大学設置基準に鑑みた場合1回につき4時間以上の授業時間外の学習が必要となります。

授業時間外で、学内の留学生との国際交流、そして各自が選んだボランティア活動をします。

【テキスト（教科書）】

自主作成教材を配布

【参考書】

村田晶子（編）（2022）『オンライン国際交流と協働学習：多文化共生のために』くろしお出版

村田晶子・中山京子・藤原孝章・森茂岳雄（編）（2019）『チャレンジ多文化体験・多文化共修ワークブック』ナカニシヤ出版

【成績評価の方法と基準】

・積極的な授業の参加度 25%

・課題 35%

・最終発表 15%

・最終成果物 25%

【学生の意見等からの気づき】

SDGsをテーマとした留学生とのディスカッションが大変だったと感じた学生がいた。来年度は、社会問題のディスカッションをやさしい日本語でどのように行ったらよいのか、事前練習をもっと入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

・授業の連絡、ハンドアウトの配布、宿題の提出は全て法政大学用のGoogle Classroomを用いるため、履修者は必ずGoogle Classroomに第1週目の授業までに登録してください。

・ハンドアウトが見られるように教室にPCか通信端末を持ってきてください。

【その他の重要事項】

・本授業を体験型選択必修科目として履修する場合、2024年度の春学期「多文化教育Ⅰ」に引き続きペアで履修し単位を取得することが条件となります。それ以外で履修できる学生は2024年4月の段階で秋学期の履修を許可している学生のみです。

・第1回のオリエンテーション、第2回のグループ分けに必ず参加すること。第1回目、第2回目の欠席者の履修は原則許可しません。どうしても欠席しなければならない場合には必ず事前に教員に連絡してください。

【その他】

ボランティア活動は相手あつての活動です。遅刻やキャンセルは相手に失礼です。きちんと活動に取り組む時間が取れない学生は履修をご遠慮ください。

【キャリアデザイン学部より】

本科目は「多文化教育Ⅰ」を習得（S～C-）した場合のみ履修可能です。

【Outline (in English)】

The course aims to enhance students' multicultural collaboration skills and their awareness of social contributions through international exchange and volunteer activities.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to apply their collaborative skills to promote social diversity and inclusion.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students will be given weekly assignments that they will be expected to complete by the due dates set by the instructor. Your study time will be about four hours for each class meeting.

【Grading Policy】

Grading will be decided on the basis of the following:

In-class Contribution: 25%

Assignments: 35%

Final Presentation: 15%

Final Papers: 25%

・ Students who want to take the course must attend the first and second class sessions. Those who fail to do so cannot take the course.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L A

2017年度以降入学者

サブタイトル：福祉の経済思想家たち

小峯 敦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。前期LAでは「福祉という観点から経済思想を振り返る」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には貧困や格差など、福祉に直結する経済問題が溢れています。意外にも、経済学者は単にカネの亡者や利己的な人間像ではなく、社会全体の幸福（＝福祉）について多くの見解を示してきたのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、格差や貧困、個人と国家などがどのように考えられてきたか／考えるべきかを学ぶたいと思います。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「福祉という観点から経済思想を振り返る」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（LGBTQ、アメリカ大統領選、イギリスのEU離脱など）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から現代の経済問題を扱う	なぜ経済問題の把握に、経済学の歴史が必要か（参考書・第1章、教科書第1章）
3	経済の発見～古代から中世へ	プラトン、アリストテレス、トマス・アクイナス、利子と利潤（参考書・第2章）
4	近代とは何か～民主主義から資本主義へ	社会契約説の三巨人、ホッブズ、ロック、ルソー（参考書・第3章）
5	経済学の生誕～スミスの登場	共感、利己心、そしてアダム・スミス、見えざる手（教科書・第3章）
6	安全で幸福な社会、経済論争～ベンサム	功利主義、安全、食糧安保、関税（教科書・第4章～第5章）

7	社会改良と経済学～ミルの苦悩と挑戦	古典派経済学の完成と現実、ジェンダー、植民地（教科書・第6章）
8	社会主義の勃興～マルクスとエンゲルス	経済学批判、唯物史観、疎外、剰余価値（教科書・第7章）
9	マーシャル～労働者階級の向上	生活基準、安楽基準、経済騎士道（教科書第11章）
10	ビグーとホブソン～正統と異端の福祉思想	厚生経済学、人間の福祉（教科書第12章・第13章）
11	ウェッブ夫妻、ホブハウス～	自由党／自由主義の改革、国民最低限保障（教科書第14章）
12	ケインズとベヴァーリッジ～現代福祉国家へ	福祉国家の合意、完全雇用と社会保障（教科書第17章）
13	2人のノーベル経済学賞～ミュルダールとハイエク	北欧型福祉国家と、アメリカ型国家（教科書第21章～第22章）
14	この授業のまとめ	振り返り；チェックテスト 理解度小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【第三版】』ナカニシヤ出版。

ISBN 978-4-7795-1831-7

（以下は増補改訂版の情報）

<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
【参考書】

・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。

<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

・小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』晃洋書房。

<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>
【成績評価の方法と基準】

（1）平常点：40%

（2）理解度小テスト：60%

（1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。

（2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。

（3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を目指す学生や教職課程の学生にも有用です。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "Economic Thought from the Perspective of Welfare." From the past to the present, the world is full of economic problems directly linked to welfare, such as poverty and inequality. Surprisingly, economists have not just been money-hungry or selfish but have also expressed many views on society's happiness (i.e., welfare). In this class, we will learn how inequality, poverty, individuals, and the state have been thought about/should be thought about from the perspective of economics and the standpoint of economics.

ECN200LA (経済学 / Economics 200)

経済学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦争と平和の経済思想

小峯 敦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Lでは「経済学的思考とは何か」という一点に集中し、歴史的・思想的・理論的・政策的という多角的な視点からこの問題に接近します。後期LBでは「戦争と平和の経済思想」を取り上げます。過去から現在にかけて、世の中には戦争・紛争が溢れています。同時に、その原因や解決策を模索する学問的営みも多いのです。この授業では、経済学の立場や経済の観点から、この問題をどのように考えられてきたか／考えるべきかを学びます。

【到達目標】

「経済学的思考とは何か」という問題に、自分なりの回答を導き出せることを、この授業の究極的な目標とします。その題材として、本授業では、「戦争と平和」に関して、過去や現在の経済学者・経済思想家がどのような前提・発想・解決策を提示していたのか、ある程度の理解を深めることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の章立てに沿って進みます。適宜、映像教材を用いて理解を深めたいと思います。基本的には過去から現在へと説明が進みますが、学生の注意を喚起するために、現在の話題（露ウ戦争、パレスチナ紛争）を含めて説明を補うつもりです。典型的な質問に対しては、次回冒頭で回答する場合があります。学生の希望があれば、グループ討議や発表タイムを混ぜても良いです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～経済学的思考とは何か	授業のルール説明、教科書や参考書の紹介
2	全体の概観～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・序章）
3	近代国家と戦争	重商主義、主権国家、経済学の生成（教科書・第1章）
4	アダム・スミスにおける国防と経済	『国富論』、商業の発展、自由の確立（教科書・第2章）
5	古典派経済学と戦争～リカード、マルサス、ミル	平和的な分業（比較生産費説）、植民地経営（人口問題）、黒人問題
6	エッジワースの契約モデルと戦争	限界革命による経済学の左心、価格交渉（教科書・第3章）
7	ヴェブレンの平和連盟構想	アメリカ異端派の現状分析、国際連盟の誕生（教科書・第4章）
8	戦後構想における経済助言者の役割（1）	ケインズ～ベヴァリッジ体制とは何か、伝記的アプローチ（教科書・第5章）
9	戦後構想における経済助言者の役割（2）	福祉国家の誕生、連邦主義、国際連合の誕生（教科書・第5章）

10	ミューダールにおける戦争と平和（1）	福祉国家から福祉社会へ、累積的因果関係、南北問題（教科書・第6章）
11	ミューダールにおける戦争と平和（2）	スウェーデンモデルとは何か、国際平和研究所（教科書・第6章）
12	冷戦期以降の戦争と経済思想	シューマッハー、ガルブレイス、ボールディング（教科書・第7章）
13	帝国主義・総力戦と日本の経済学者	石橋湛山、新渡戸稲造（教科書・第8章）
14	全体のまとめ～経済学の歴史から戦争と平和を扱う	経済学の浸透は国際紛争の軽減に貢献しうるか（教科書・終章）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
・簡単なリアクションペーパーを授業内に（または授業の課題として、学習支援システムを通じて）提出します。

【テキスト（教科書）】

小峯敦編（2020）『戦争と平和の経済思想』見洋書房。
<https://www.koyoshobo.co.jp/book/b506947.html>

【参考書】

・小峯敦編（2024）『福祉の経済思想家たち【三版】』ナカニシヤ出版。
<https://www.nakanishiya.co.jp/book/b134734.html>
・小峯敦（2021）『経済学史』ミネルヴァ書房。
<https://www.minervashobo.co.jp/book/b573123.html>

【成績評価の方法と基準】

- （1）平常点：40%
- （2）理解度小テスト：60%
- （1）平常点は、リアクションペーパーの内容および提出回数、提供スライドや教科書を参照して確認できる課題の提出回数、その他授業への参加度合い等によって定めます。
- （2）理解度小テスト（第14回を予定）は、マークセンス（択一式）8割、記述式2割を標準として、簡単なチェックテストとなります。自筆メモ（A4オモテ・ウラ1枚）が持ち込み可能です。
- （3）レポート、および定期試験は行いません。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの解析を行い（テキストマイニングによって、匿名処理し、単語の出現頻度や共起関係を図表にする）、学生の理解度把握に努めます。また、優れたコメント、代表的な質問などについて、機会をもうけて授業中に匿名で公表し、他の学生がどのような意見・質問・コメントを持っているのか、披露することもあります。

【学生が準備すべき機器他】

資料をダウンロードできる機器があれば良いでしょう。また、レポート作成にはパソコンの使用が便利です。

【その他の重要事項】

「経済学的思考とは何か」という問題を考えるため、社会科学系だけでなく、人文系・自然科学系を学ぶ多くの学生に受講してほしいと思います。思想・歴史・理論・政策と幅広く網羅するために、公務員試験を受ける学生や教職課程の学生にも有用なはずです。教科書・参考書が重なるため、経済学LA・経済学LBをセットで受講すると便利であり、さらに理解が広がります。

【Outline (in English)】

In Economics L, we will concentrate on a single point, "What is economic thought?". We will also approach this question from multiple perspectives: historical, ideological, theoretical, and policy. In the second semester, we will take up "War and Peace in the History of Economic Thought". From the past to the present, the world is full of wars and conflicts. At the same time, there are many academic endeavors that search for their causes and solutions. In this class, students will learn how this issue has been/should be considered from the standpoint of economics and the economy.

POL200LA (政治学 / Politics 200)

政治学 L B

2017年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察する。

ボブ・ディランとUS政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW I 以降のUSの政治と社会についての基本的知識を得ること。

音楽を通して政治について考えるようになること。

ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

交通事情や天候その他の理由でオンライン（Zoom）のみの授業になる時があります。

ただし初回はオンラインのみで授業を行います。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし /No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし /No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォーク	ローマックス親子とレッド・ベリー
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ピート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラージュの政治学
# 7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965年	USのニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ピート・ジェネレーション	文学による政治の変容
# 10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
# 11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」
# 12	Slow Train Coming	Bob Dylan の改宗とUSの政治と社会

13 Things Have 終末論とUSの政治と社会

Changed.

#14 Outro.

秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013年）

北中正和『ボブ・ディラン』（新潮新書、2023年）

他の文献・音源・映像は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートで評価。

小レポート 20%、期末レポート 80%

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別にZOOMによるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器。

映像・音楽を視聴できる機器。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に2時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019年）を参照してください。

【Outline (in English)】

Theme: Bob Dylan and Politics

【Course outline】

This course deals with the political world of Bob Dylan.

【Learning Objectives】

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

